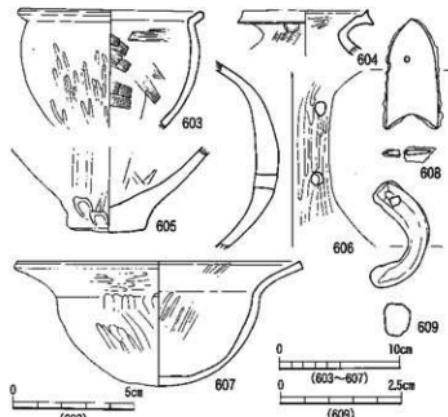


遺物：590～595は甕である。590は、頸部で明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態A類をもち、口唇部形態は舌状の口唇部形態C類をもつ。最大径を胴部上位でもち、底部にかけて急激に窄まる形態を呈し、鉢との中间的な土器といえる。591・592は緩やかに「く」字状に屈曲する口縁部形態B類をもつ。593は短い口縁部に明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態A類をもつ。また、頸部下に斜位の刻目文を施す貼付突帯を有する。595は胴部である。やや人形の台形状の貼付突帯文を有する。596・599は壺である。596は頸部に連続刺突文を施す三角状貼付突帯文を有する。597～598・600は鉢である。600は頸部で一度屈曲する胴部形態B類の口縁部をもつ鉢I B類で、内外面にミガキを施す。597は頸部で一度屈曲した後に緩やかに外反する口縁部をもつ鉢I B類である。601は緑色頁岩製の磨製石鏃である。本遺跡出土磨製石鏃の約半数が切っ先部分の欠損が確認されているが、他の例同様この603も切っ先部分が欠損している。602は凝灰岩製の圓石である。表裏面2面の中央部に著しい敲打痕の密集が確認される。

56号竪穴住居跡（S A56・第99図・第101図—603～609）

遺構：B-2群東側、J23グリッドの東側、S A54に切られる形で検出された。大部分がS A54に搅乱されているため不明な点が多いが、北辺が残存長3mを測り、3m以上の規模だと推測できる。また、北辺は弧状に曲がり、平面形態は方形や長方形ではない、不整橢円形や不整形などの不整形が考えられる。遺物は北壁際に604を除く5点が集中して出土した。

遺物：603は鉢である。頸部で明瞭に「く」字状に屈曲する胴部形態B類をもつ。604・605は壺である。604は口唇部を拡張して二重口縁壺のような形態を呈する。606は器台である。607と重なって出土した。2段の円形透かしが施してある。両端が欠損しており全形が不明であるが、上下対象のようである。607は鉢である。緩やかにS字状を呈する胴部形で、平底の底部をもつ。608は鐵鏃である。平面形態は三角形鏃[凹]基式である。鏃身部に1孔がある。これは通常中心線を対照に2孔穿たれるものであるが、608は1孔の反対側に穿孔は軟X線写真撮影等も行ったが確認できなかった。平面形態においての類似例は、熊本県嘉島町の二子塚遺跡（弥生時代後期中～終末期）・兵庫県養久山遺跡32号墓（弥生時代中期末）出土の鐵鏃等が挙げられる。609は土製勾玉である。一端に穿孔が施しており、断面方形に近い形を呈する。各面との境は面取りを行っており、全体的に研磨を施している。



第101図 56号竪穴住居跡（S A56）出土遺物図
(1/4・1/2・1/1)

89号竪穴住居跡 (S A89・第99図)

遺構：B-2群西部、J23グリッドの北東部、SC18を切り、SC19に切られる形で検出された。遺構の南西側大部分は後世の造成によって削平されているが、東辺から考えて、約3m以上の規模が推測される。平面形態は不明であるが、残存形態から考えて、方形もしくは長方形の各辺が外側に膨らんだ形態であると推測される。遺物は出土しなかった。

2号土坑 (SC2・第99図)

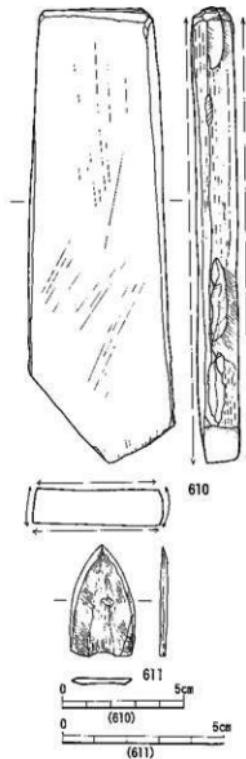
遺構：B-2群西側、23ラインとJラインの交点付近、SC17とSC18を切る形で検出された。長軸約2m・短軸約1.3mの隅丸方形を呈する。SC17・18や周開の竪穴住居跡と若干主軸を連れており別系譜の遺構であろうが、SC19と似た主軸をもち、また、SC1(第104図)などとは主軸・規模に類似点が多く、同じ系譜だと考えられる。遺物は出土しなかった。

9号土坑 (SC9・第99図・第102図-610~611)

遺構：B-2群西側、J23グリッド西部、SA51・52を切る形で検出された。北西隅部のみの検出で、遺構の規模・形狀は不明である。しかし、北西隅が直角になっており、方形もしくは長方形の形状と考えられる。遺物は北壁周辺から比較的密集した形で出土し、竪穴住居跡の可能性がある。

遺物：610は砥石である。やや大きめの板状砥石のIB類である。底面は、面積の広い表裏面2面のみならず、両側面にもあり、4面全てで確認される。底面の研磨痕は、光沢のc種研磨痕が主であるが、所々に縦と斜方向の線状のa種研磨痕が確認される。611は磨製石鎌である。欠損部分はなく完形である。両側縁を研磨し、鋭い刃部を作出している。

このほか、固化していないが、壺3個体分・壺3個体分・鉢1個体分・器台1個体分の破片が出土した。



17号土坑 (SC17・第99図)

遺構：B-2群西側、J23グリッド北西部、SC18を切り、SC2に切られる形で検出された。長軸1.55m・短軸1.35mの方形に近い長方形を呈する。深さは検出面から約20cmである。SC18と規模は違うが、主軸がほぼ同じであり、近い時期に構築されたと考えられる。遺物は固化していないが壺の口縁部片1点・壺の口縁部片1点・高壺の口縁部片1点が出土した。

第102図 9号土坑 (SC9) 出土遺物図
(1/2・2/3)

18号土坑（S C 18・第99図）

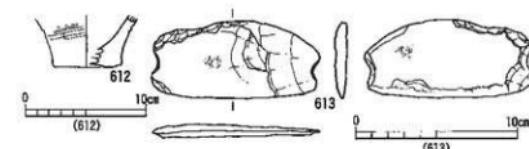
遺構：B-2群西侧、J 23グリッド北西部、S A89と切り合い、S C 17とS C 2に切られる形で検出された。220×240cmの隅丸方形を呈する。規模は異なるがS C 17と主軸をほぼ同じくし、関連を考えられる。遺物は壺の底部が1点出土した。

19号土坑（S C 19・第99図）

遺構：B-2群の西側、I 23グリッド北東部、S A87を切る形で検出された。形状・規模ともに不明であるが、一部検出された北辺が直線的でS C 2と平行することから、一辺120cm以上の方形のような形状を呈すると考えられる。遺物は出土しなかった。

57号竪穴住居跡（S A57・第104図・第103図-612～613）

遺構：B-2群最西部、I 22グリッドの東部、S A58に切られる形で検出された。平面形態は、西側が半分程後世の造成によって削平されているが、北辺と東辺がほぼ直交していることから、方形もしくは長方形に近いものであったと考えられる。遺物は遺構全体から出土したが、細片が多くた。



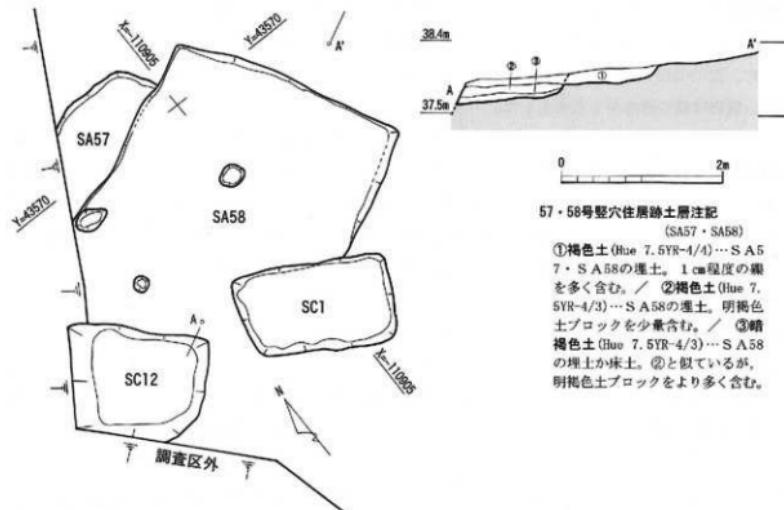
第103図 57号竪穴住居跡（S A57）
出土遺物図（1/4・1/3）

遺物：612は壺の口縁部で、端部の張り出さない平底の底部形態E類である。613は頁岩製の石庖丁である。抉りをもち、背部は弧状、刃部は直線状のII A類「抉り・弧背直刃型」である。

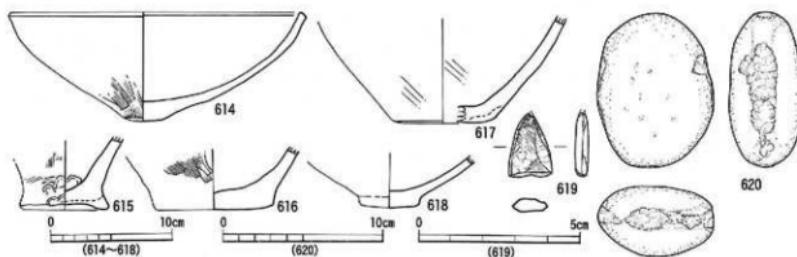
58号竪穴住居跡（S A58・第104図・第105図-614～620）

遺構：B-2群最西部、J 22グリッドの西部、S A57を切る形で検出された。平面形態は、西側が傾斜によって消失しているが、東辺と北辺・南片がほぼ直交していることから一辺約3m前後の方形もしくは長方形を呈すると考えられる。傾斜上面にあるため、遺構全体の上面が削平され、深さ10cm程しか残っていない。しかし、遺構面がよく残っている北側では比較的多くの遺物が出土した。

遺物：614は鉢である。レンズ状の底部に内湾しながら立ち上がる胴部をもつ鉢 I C類である。615は壺の底部である。指ナデによって端部が張り出した上底の底部形態B類である。616・617は壺の底部である。616はわずかに端部の張り出した、617は張り出しのない平底の底部形態B類である。618は円盤状平底をもつ壺か鉢の底部である。619は頁岩製の磨製石鎌である。木遺跡出土磨製石鎌のほとんどが全長3～4cm主体であることに対して1.9cmと小さい。さらに平面形態も他と若干異なり、平基の三角形で打製石鎌のようなプロポーションである。620は砂岩製の敲石である。両側縁に敲打痕が認められる。



第104図 57・58号竖穴住居跡 (SA57・58)・1・12号土坑 (SC1・12) 図 (1/60)



第105図 58号竖穴住居跡 (SA58) 出土遺物図 (1/4・2/3・1/3)

1号土坑 (SC1・第104図)

遺構：B-2群西側、I22グリッドの南東部、SA58を切る形で検出された。長軸約1.9m・短軸約1.1m・深さ約0.5mの隅丸方形を呈する。SC2とは主軸・規模に類似点が多く、同じ系譜と考えられる。遺物は出土しなかった。

12号土坑 (SC12・第104図)

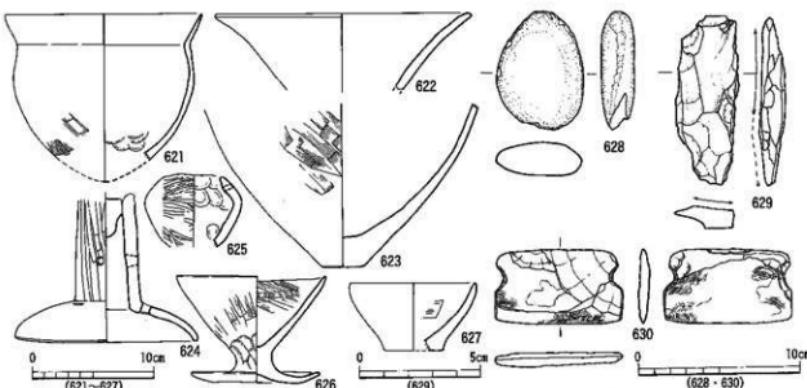
遺構：B-2群西端、I22グリッドの南東部で検出された。一部北東側が調査区域外にあたるため全形が把握できなかったが、およそ長軸1.7m・短軸1.3m・深さ0.8mの隅丸方形を呈する。遺物は出土しなかった。

③B-3群…B群の中でも最西部、X軸は21~22・Y軸はJ~Kライン内に位置する。S A22・23・24の竪穴住居跡3軒とS C 8・20の土坑2基から成る。

22号竪穴住居跡 (S A22・第108図・第106図-621~630)

遺構：B-3群南部、J21グリッドの東部、中央部をS C 8に切られる形で検出された。傾斜面によつて南東側が消失しており遺構全体の形状が不明である。一部残存している直交する北辺と東辺から考えると、一辺5m以上の方形をなし、本遺跡中では大型の部類に入る。

遺物：621は壺である。舌状に薄く尖る口唇部形態C類、頸部が明瞭に屈曲する口縁部形態A類、球形胴で上部に最大径をもつ胴部形態A類、丸底の底部をもつ。622~623は壺である。622は大きく開く口縁部形態B類、623は平底の底部をもつ。624は高坏の脚部であり、内湾しながら立ち上がる裾部とエンタシス状に近い直立気味の脚柱部をもつ。625は手握土器の破片である。626は鉢であるが、鉢I C類に皿状の底部が付属する特殊な形態である。628は砂岩製の敲石であり、周縁に著しい敲打痕が認められる。629は頁岩製の砥石であり、II類の不定剥片砥石の範疇に入る。本来はI B類の板状砥石であったと考えられる。630は頁岩製石庖丁である。抉りをもつ直背直刃のII C類である。

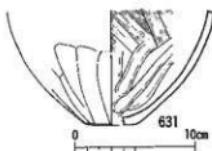


第106図 22号竪穴住居跡 (S A22) 出土遺物図 (1/4・1/2・1/3)

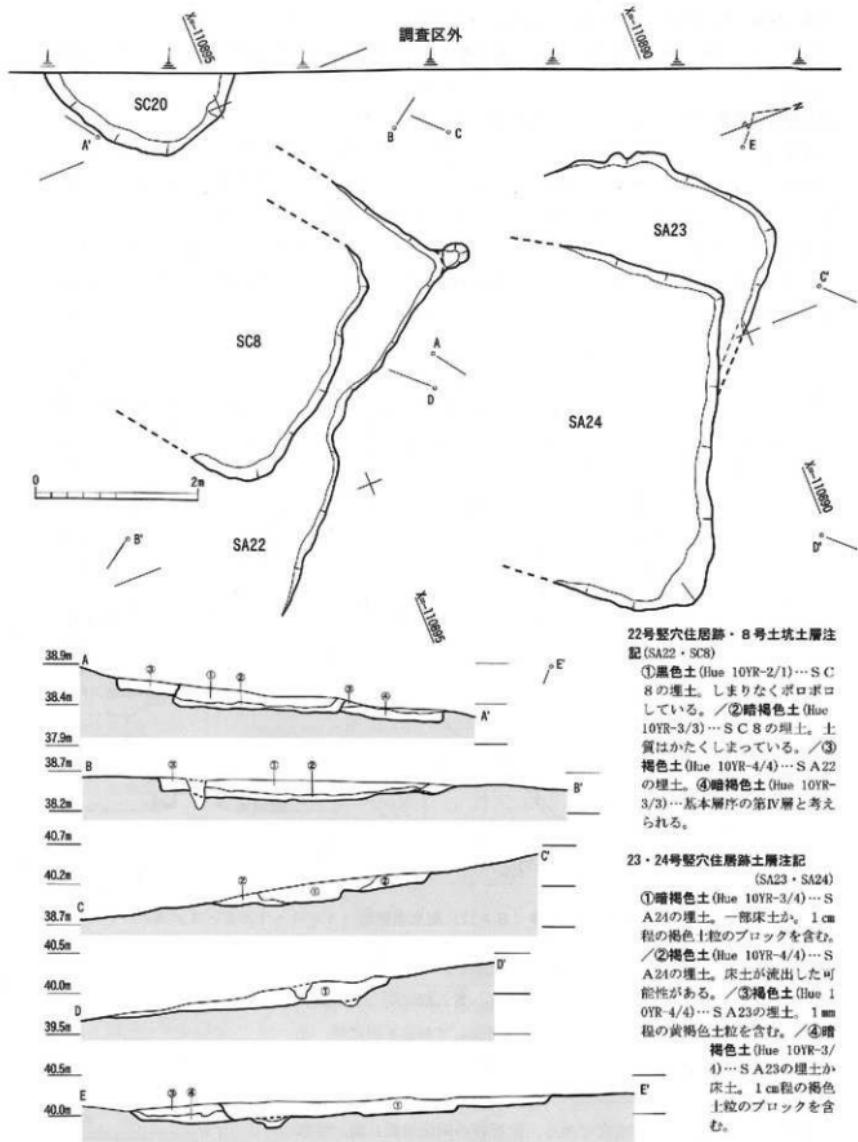
23号竪穴住居跡 (S A23・第108図・第107図-631)

遺構：B-3群北部、J21グリッドの北部、S A24に切られる形で検出された。平面形態は、遺構の大部分が消失しており不明だが、北辺と東辺の残存状況から、一辺3m以上の方形もしくは長方形と考えられる。

遺物：631は壺の胴部～底部である。球形胴の胴部形態B類、平底の底部形態B類をもち、外面はT・具ナデ、内面は指ナデとハケ目で調整を行っている。



第107図 23号竪穴住居跡 (S A23) 出土遺物図 (1/4)

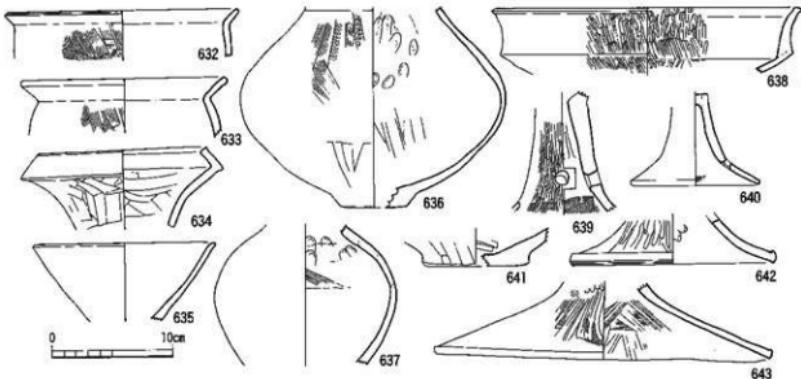


第108図 22・23・24号堅穴住居跡 (S A22・23・24) 8・20号土坑跡 (S C8・20) 図 (1/60)

24号堅穴住居跡 (S A24・第108図・第109図-632~643)

遺構：B-3群北部、J21グリッドとK21グリッドの北側境界付近、S A23を切る形で検出された。傾斜面によって南側が消失しているが、北側は比較的の残存状況がよい。平面形態は一辺約4.1mの方形もしくは長方形を呈する。

遺物：632~633は甕である。632は短い口縁部が緩やかに「く」字状に屈曲する口縁部形態B類、633は明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態A類をもつ。634は二次口縁部に櫛描波状文を施す口縁部形態A類である。636は寸胴形の偏球脚をもち、平底の底部形態B類をもつ。638~640は高坏である。638は壊部で、一度屈曲した後に直立気味に立ち上がる壊部形態A類をもつ。639は細長い脚柱部とラッパ状に開く裾部をもつ脚部形態A類で、640は短い脚柱部とラッパ状に開く脚部形態B類をもつ。642・643は器台である。



第109図 24号堅穴住居跡 (S A24) 出土遺物図 (1/4)

8号土坑 (S C 8・第108図)

遺構：B-3群南側、J21グリッド中央部、S A22を切る形で検出された。傾斜面によって南東側が消失しており遺構全体の形状が不明であるが、およそ長軸約3.2m・短軸約2m以上の方形か長方形を呈すると考えられる。遺物は中心部と考えられる周辺から集中して出土した。上坑と判断して調査にあたったが、堅穴住居跡の可能性もある。

遺物：岡化は行っていないが、甕3個体分、壺2個体分、高坏1個体分の破片が出土した。

20号土坑 (S C 20・第108図)

遺構：B-3群南側、J21グリッド中央部で検出された。遺構の半分は調査区域外であり、1/2の検出であった。正確な平面形態は不明であるが、およそ長軸約2.3m・短軸約1mの橢円形と推測される。遺物は出土しなかった。

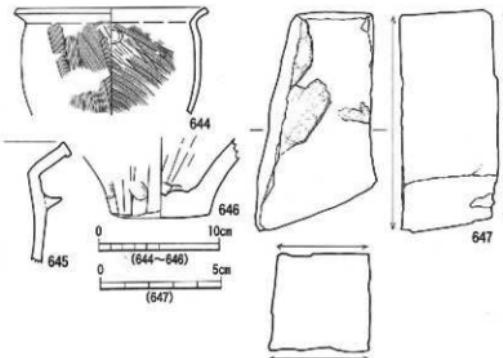
(3) C群

A群・B群から離れて存在する堅穴住居跡。SA27の1軒のみである。群を成さないが、どちらの群にも属さないので一群として扱う。

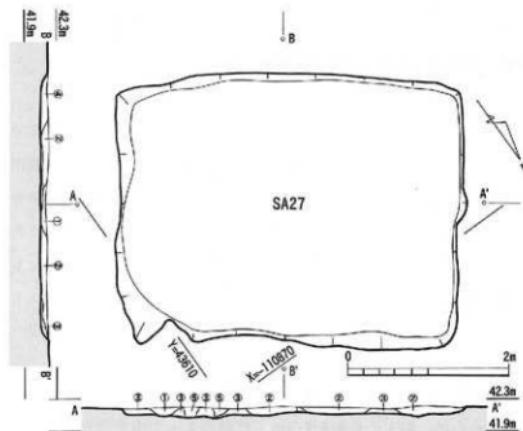
27号堅穴住居跡 (SA27・第111図・第110図-644~647)

遺構：B-3群北部、19ラインとNラインの交点付近で検出された。上部が削平され、平面形態は、長軸約4.3m・短軸約3.3mの長方形である。床面付近のみの検出であったが、遺物は床面付近全体から多く出土した。

遺物：644～645は甕である。644は平坦状の口唇部形態B類、短く明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態A類、長形胴で上部に最大径がある胴部形態A類をもつ甕I類である。645は平坦状の口唇部形態B類、短く明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態A類をもち、胴部上部に三角状の貼付突帯を有する甕I類である。646は壺の底部で、平底で外反しながら立ち上がる。647は凝灰岩製の砥石で表裏面2面の砥面に光沢のある研磨痕をもつ。



第110図 27号堅穴住居跡 (SA27) 出土遺物図 (1/4・1/2)



27号堅穴住居跡土層注記 (SA27)

- ①暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) … 住居跡埋土。径1cm以下の褐色ブロックや径3mm以下の炭化粒を含む。／ ②暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) … 住居跡埋土。径1mm程度の褐色土ブロックを多量に含む。／ ③暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) … 住居跡床埋土。径1mm程度の褐色土ブロックをわずかに含み、色調は若干暗い。／ ④褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) … 住居跡床埋土。径1mm程度の褐色と黒色土ブロックをわずかに含む。／ ⑤黒褐色土 (Hue 7.5YR-5/2) … 後壁の塗乱土。

第111図 27号堅穴住居跡 (SA27) 出土遺物図 (1/60)

(2) C区の調査 (第34図・第112図)

C区は南プロック北西隅部に位置し、X軸は13~16ライン、Y軸はM~Oライン内の400m²の調査区である。

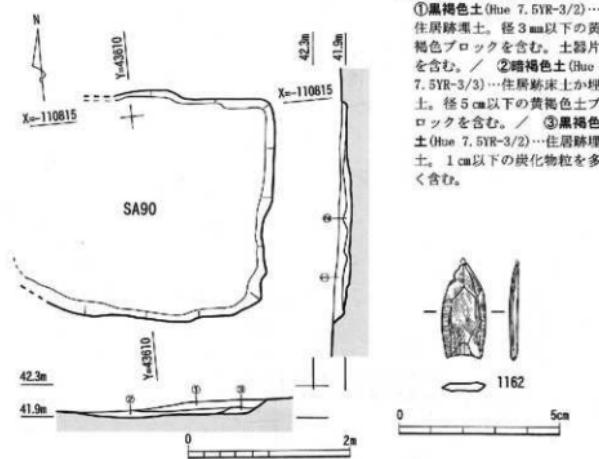
調査は1次調査の最後(平成12年度)に実施した。調査前の状況は、A区同様果樹園であり、A区のO17グリッドを頂部とする緩やかな傾斜地であり、北側に向かって緩やかに下る。調査は始めに果樹園の耕作土及び造成土の除去を行ったが、A区に比べて造成土が約1.5mと厚く堆積しており、重機にて作業を行った。耕作土と造成土の除去の結果、調査区全面に第IV層以下が残っていた。

検出された遺構は竪穴住居跡1軒(SA90)であり、出土した遺物から竪穴住居跡は弥生時代に帰属すると考えられる。

竪穴住居跡の遺構計測値は第2表に掲載している。

90号竪穴住居跡 (SA90・第112図)

遺構：C区北東隅、M13グリッドとN13グリッドの境界付近で検出された。傾斜面によって西側が消失しているが、東側は比較的の残存状況がよい。平面形態は東辺(現存長276cm)と北辺(現存長226cm以上)・南片(現存長317cm以上)がほぼ直交していることから一辺約3m前後の長方形と考えられる。検出された遺構の深さは約20cmであり、遺物は磨製石器1点(1162)と弥生土器の細片が数点出土したのみである。



第112図 90号竪穴住居跡 (SA90) 図 (1/60) 及び出土遺物図 (2/3)

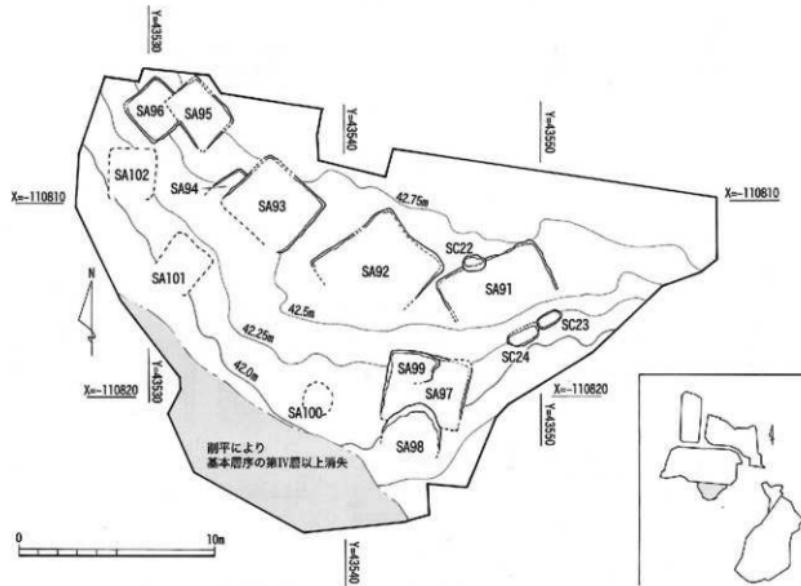
(3) B区の調査 (第113図～第135図)

B区は北ブロック南端に位置し、F13・G13区を中心とする450m²の調査区である。隣接するD区とは北辺で接地する。1次調査において調査した。調査時の調査区地形は、平面が半円形で、北端中央部 (G13グリッド点付近) を最高点とするなだらかな傾斜面を形成していた。検出された遺構は、竪穴住居跡12軒 (SA91～SA102) と土坑3基 (SC22～SC24) で、出土した遺物からいずれも弥生時代に帰属するものと考えられる。

以下に検出された遺構と遺物について若干の説明をくわえる。なお、竪穴住居跡の計測値は第2表に、遺物の観察表・計測表は第4表～第32表に掲載している。

■竪穴住居跡 (SA91～SA102)

B区全体で12軒検出された。住居跡は主軸と斜面が直交するように配置され、大きく上段グループ (SA91～96) と下段グループ (SA97～102) に分けることができる。住居は、一辺5mクラス (SA91・92) から2.5mクラス (SA95・96) までと規模にはばらつきがあるが、円形のSA98を除いて全て方形プランを呈し形態が共通する。ほとんどの住居跡同士が重複しないが、土器型式に大きな差は認められず、同時期もしくは近い時期の住居跡群と考えることができる。また、隣接するD区南端の住居跡群 (SA103～115) と連続する一つの住居跡群を形成する。

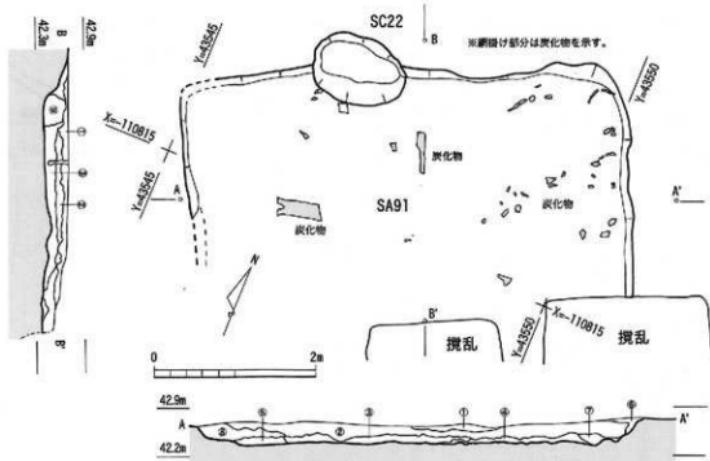


第113図 B区地形図及び遺構配置図 (1/250)

91号竪穴住居跡 (SA91・第114図・第115図-648~660)

遺構：B区東側から検出された。土坑に切られているが、単独で存在する。SA92とSA93とは上段グループで等間隔に配置され、規模も5mクラスと共通点が多くあり、同時期住居跡の可能性がある。住居跡北側から中央部にかけて放射状に散乱する炭化物の集中が確認された。炭化物は、中には長さ60cmあまりの板状のものもあり、数量と大きさから考えて焼失住居の可能性がある。

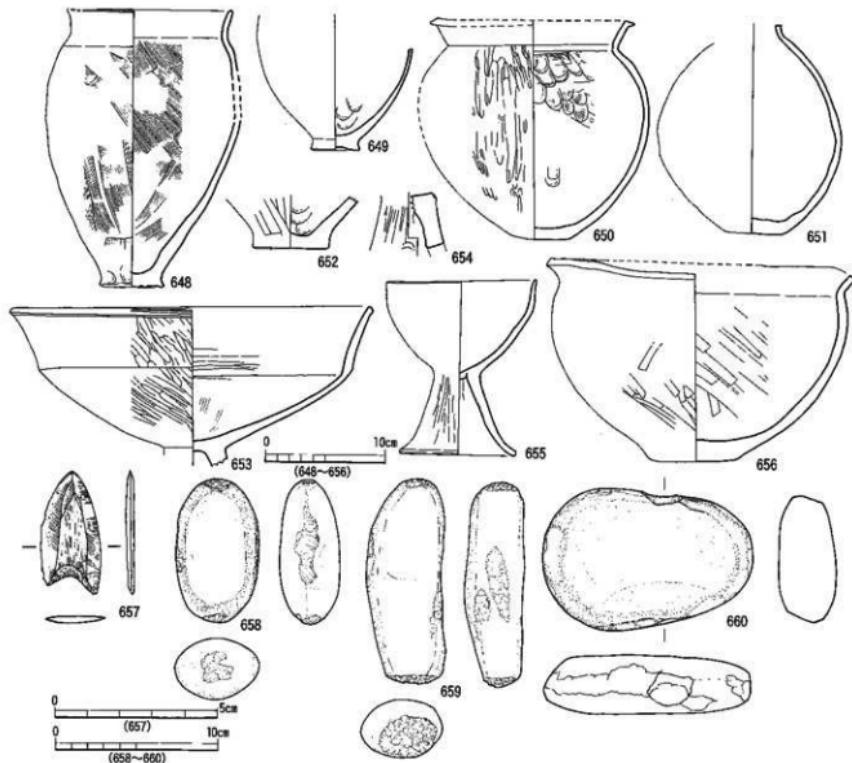
遺物：648~649は甕である。648は甕II類の底部に甕III類の口縁部を、649は甕II類の底部をもつ。650~652は壺である。653~655は高杯である。653は高杯II類の坏部をもつ。656は鉢I類である。657は磨製石器である。658・659は蔽石である。長辺の両端部に敲打痕が、側縁中央部に磨痕が認められる。敲きと磨りの両方をおこなっていたようである。660は横長縦の側縁中央部を打ち欠いた石錐である。



91号竪穴住居跡土層注記 (SA91)

- ①褐色土 (Hue 10YR-4/6)…住居跡埋土。土質はやわらかく粘性がある。下部には炭化物を多く含む。／ ②灰黄褐色土 (Hue 10YR-3/2)…住居跡埋土。基本層序の第IV層の暗褐色土と第V層の黄褐色土ブロックを多く含む。／ ③黒褐色土 (Hue 7.5YR-2/2)…住居跡埋土。炭化材を含み、焼土らしき暗赤褐色土塊を多く含む。／ ④暗褐色土 (Hue 10YR-3/3)…住居跡埋土。10cm程の炭化材を多量に含む。／ ⑤黒褐色土 (Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。④層同様、10cm程の炭化材を多量に含む。／ ⑥黒褐色土 (Hue 10YR-2/2)…土質は柔らかく、後世の擾乱土と考えられる。／ ⑦黒褐色土 (Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。⑥層と似ているが、炭化材を多量に含む。／ ⑧褐色土 (Hue 7.5YR-4/4)…住居跡埋土。⑦層と似ているが、ブロック土を含まない。／ ⑨褐色土 (Hue 7.5YR-4/4)…炭化物を含む。赤化しており、焼土と考えられる。

第114図 91号竪穴住居跡 (SA91) 図 (1/60)



第115図 91号竪穴住居跡 (SA 91) 出土遺物図 (1/4・2/3・1/3)

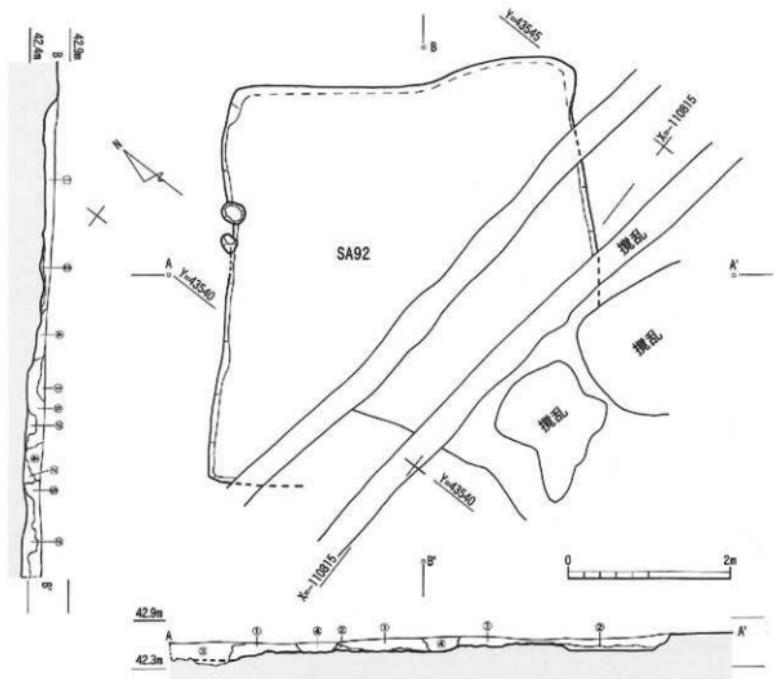
92号竪穴住居跡 (SA 92・第116図)

遺構：B区中央部から検出された。後世の擾乱により北隅が消失していたが、他住居跡との切り合ひがなく、平面形はほぼ完形であった。しかし、上面は削平により消失しており床面付近のみの検出であった。平面形態は1辺約4.5mの方形を呈する。

遺物：上部削平のため細片のみの出土であり、遺構に伴うと判断できる遺物は出土しなかった。

93号竪穴住居跡 (SA 93・第117図・第118図・第119図—661～669)

遺構：B区西北部から検出された。斜面により南西側が消失しているが、ほぼ完形である。平面形態は1辺約4mの方形を呈する。北東隅に径80cm程の焼土と炭化物が、その隣に高壙(664)が検出された。また、南辺付近から砥石(669)と甕(662)が重なるように出土した。



92号竪穴住居跡土層注記 (SA92)

①暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) …住居跡埋土。土器片と炭化物を含む。／ ②褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) …住居跡の床土。土器片や炭化物を含まない。／ ③褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) …土質は疏く、後世の擾乱土と考えられる。／ ④褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) …後世の擾乱土。／ ⑤暗オリーブ褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) …住居跡埋土。①層に似ているが、色調が少し異なる。

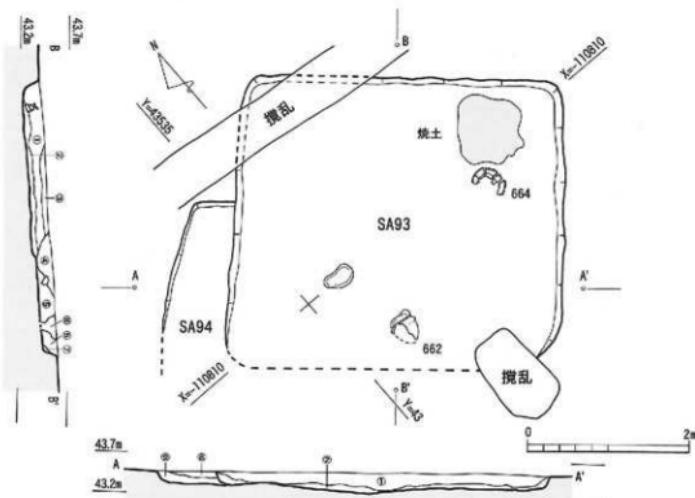
第116図 92号竪穴住居跡 (SA92) 図 (1/60)

遺物 : 661・663は壺である。661の口縁部は壺II類と壺III類の中間形態である。662は壺の胴部から底部である。664は高杯II類の杯部である。665・666は鉢II類である。667・668は砥石である。667は定形剥片を利用した砥石I B類であるが、表面が剥離している。669は自然砾を利用した砥石II類である。全面に底面が確認されるだけでなく、一部敲打痕が残り、台石としての機能ももっていたと考えられる。668は半分が欠損しているが、側縁の抉りと穿孔の両方をもつ弧背弧刃タイプの石庖丁である。

94号竪穴住居跡 (SA94・第117図)

遺構 : SA93に切られた形で、B区北西部から北隅方向のみ (約1.6m²) 検出された。一部のみの検出であるが、北隅の形状から考えて、平面形態は方形か長方形であったと考えられる。

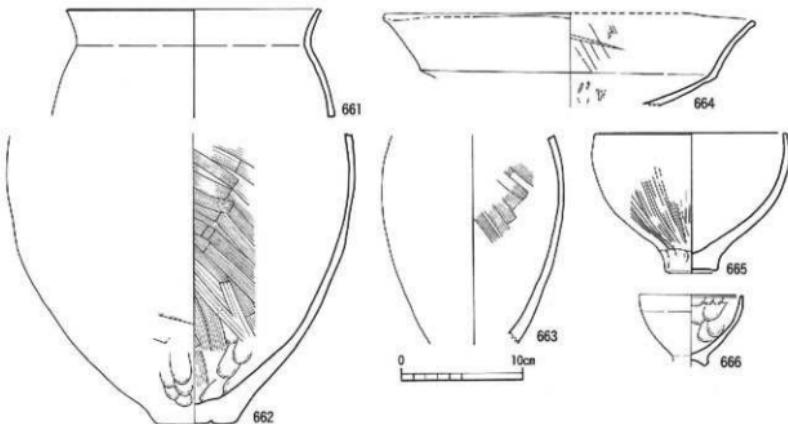
遺物 : 流入土から細片の土器片のみ出土した。



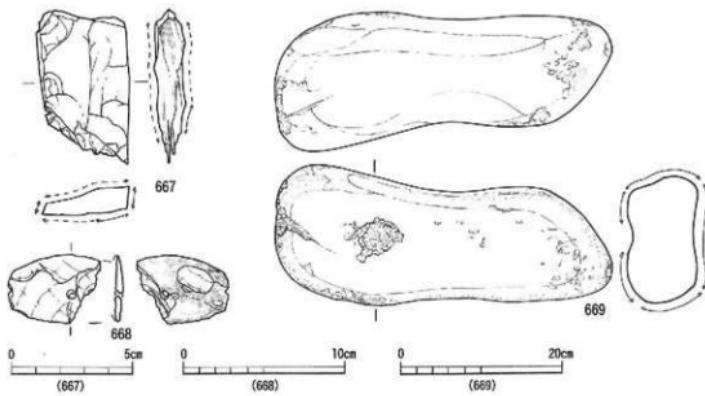
93・94号竪穴住居跡土層注記 (SA93・94)

- ①暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/4) … S A93の住居跡埋土。1～3mm程の炭化物を多く含む。土器片を多く含む。／ ②褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) … S A93の住居跡埋土か床土。土器片をわずかに含む。／ ③黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2) … S A93住居跡埋土。土器片をわずかに含む。／ ④黒褐色土 (Hue 10YR-2/2) … 後世の擾乱土。／ ⑤暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/4) … S A93の住居跡埋土。炭化細粒や土器片を含む。⑥層と似ているが、黒色土のブロックを多く含む。／ ⑦暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) … S A93の住居跡埋土か床土。⑧層と似ている。土器片をわずかに含む。／ ⑨黒褐色土 (Hue 7.5YR-1/2) … S A94の住居跡埋土。含有物をあまり含まない。／ ⑩黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2) … S A94の住居跡埋土。土質は⑨層に似ている。／ ⑪暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/4) … S A94の住居跡埋土。炭化物をわずかに含む。

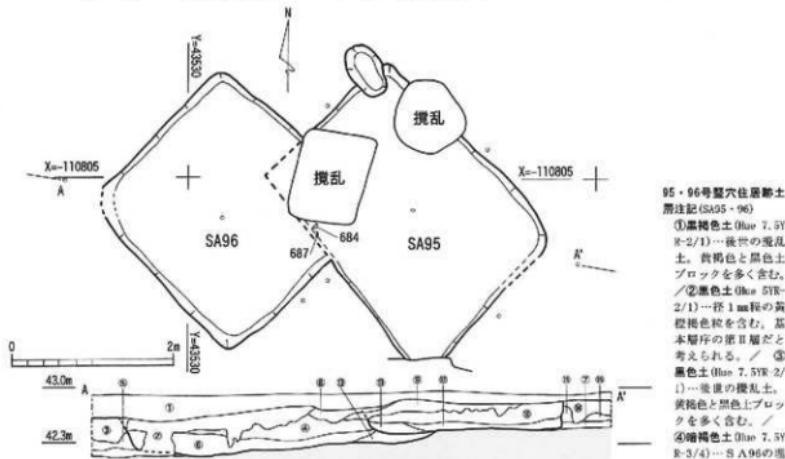
第117図 93・94号竪穴住居跡 (S A93・94) 図 (1/60)



第118図 93号竪穴住居跡 (S A93) 出土遺物図① (1/4)



第119図 93号竪穴住居跡 (SA93) 出土遺物図② (1/2・1/3・1/6)



7.5TR-B/6)…基本層序の第V層と考えられる。／基層褐色土(hue 7.5YR 3/4)…SA96の堆土。土器片・石器を含む。網織状片も含む。／⑦褐色土(hue 7.5YR 3/4)…基本層序の第V層と第VI層の隙間に挟まれた層だと考えられる。／⑧黒褐色土(hue 7.5YR 2/2)…後世の飛丸上。黒褐色と黑色土ブロックが多く含む。／⑨褐色土(hue 7.5YR 2/1)…後世の擾乱土。黄褐色と黑色土ブロックが多く含む。／⑩褐色土(hue 7.5YR 3/4)…SA96の堆土。土器片を含む。／⑪黄褐色土(hue 7.5YR 3/4)…SA96の堆土。土器片を含む。／⑫褐色土(hue 7.5YR 3/3)…SA95の堆土。完形に近い赤土土器片を含む。／⑬褐色土(hue 7.5YR 4/4)…SA96の堆土(初期流入土)。土器片は含まれない。／⑭褐色土(hue 7.5YR 3/6)…SA95の堆土。土器片は含まれない。／⑮褐色土(hue 7.5YR 4/4)…1cm厚の黄褐色土ブロックを含む。／⑯黄褐色土(hue 7.5YR 5/6)…基本層序の第V層と考えられる。

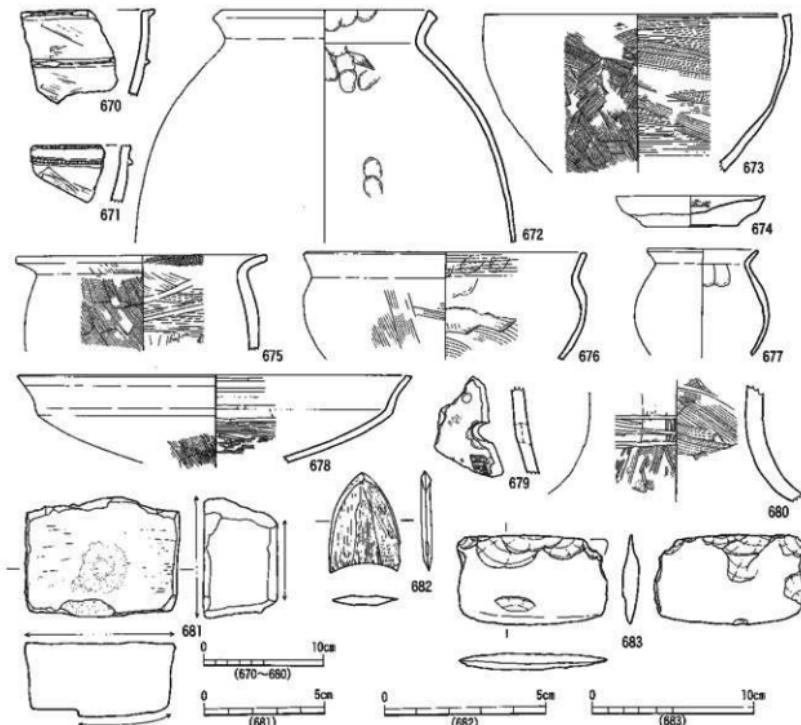
第120図 95・96号竪穴住居跡 (SA95・96) 図 (1/60)

95号竪穴住居跡 (SA95・第120図・第121図-670~683)

遺構：B区北西隅、SA96を切る形で検出された。後世の擾乱に切られていたが、ほぼ完形で、226cm×309cmの長方形を呈する。B区では上段グループに属するが、SA96同様1辺2.5~3mとほかの3

軒（S A91～93）と比べて平面規模が小さい。住居中央部では径35cm程の焼土の集中がみられ、その東側周辺と北側隅に遺物が集中する。特に砥石（681）と石庖丁（683）は焼土から20cm程度の近い場所から出土した。

遺物：670・671は口縁部下に1条の貼付突帯をもつ下城系の甕の口縁部である。672は「く」字状に曲がった口縁をもつ甕である。673は鉢（II B類）である。674は実測図だけでは中世の土師器皿にも見えるが、弥生土器の皿の一種と考えられる。675・676は甕である。677は小型甕である。678は高坏の坏部である。外反しながら立ち上がる坏部形態B類の特徴をもちながら、屈曲が若干あまい。680は器台の柱部である。穿孔は見られないが、縦方向のハケ目の後に雜であるが横走する回線文を施す瀬戸内系の器台である。681は直方体の定形砥石で、表面積の広い2面に砥面がある。また砥面の1面の中央部には敲打痕が認められ、敲石もしくは台石としても使用されていたと考えられる。682は両端に抉りをもつ直背直刃タイプII C類の石庖丁である。

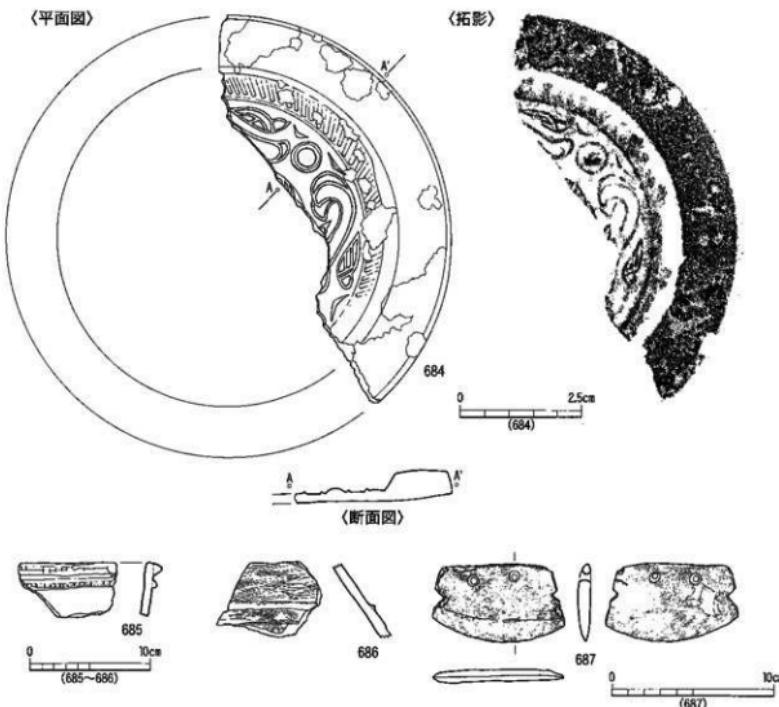


第121図 95号竪穴住居跡（S A95）出土遺物図（1/4・1/2・2/3・1/3）

96号竪穴住居跡（S A96・第120図・第122図-684～687）

遺構：B区北西隅に位置し、S A95に南東隅を切られる形で検出された。規模は248cm×265cmの方形に近い形を呈する。切り合い関係により S A96→S A95の前後関係が成り立つが、S A95とは主軸をほぼ等しくし、この2軒が非常に近しい関係があることが推測される。遺物は北隅を中心に出土したが、土器の細片が多くいた。出土した遺物の中で注目すべきは、銅鏡片（684）と石庖丁（687）である。この2点は住居跡検出前のトレンチ掘り下げ時に出土したものであるが、遺物の集中部と離れた東側の⑥層中から並ぶように出土した。上器類の残存状態が芳しくない住居跡で、完形の石庖丁と銅鏡片が出土したことは今後検討の余地を残す。

遺物：684は銅鏡片である。詳しくは次段に述べる。685は甕の口縁部である。口唇部1条と口唇部下1条の貼付突帯に縦位の刻文をもつ城系土器である。埋土の④層出土で、遺構に伴わないと考えられる。686は壺の肩部であり、1条の縦位の刻文をもつ貼付突帯を施す。687は両端抉りと2か所の穿孔をもつ直背曲刃タイプのⅢB類の石庖丁である。



第122図 96号竪穴住居跡（S A96）出土遺物図（1/1・1/4・1/3）

■銅鏡片（第122図-684）

B区北側96号竪穴住居跡（S A96）床直上から右庖丁1点（第122図-687）と並ぶように銅鏡片1点が出上した。状態は、径1~10mmの斑点状の縁鉄がいくつも確認されるが、比較的良好である。鋸上がありは良く、色調は少し線がかった黒色（Huo 5GY 2/1）である。完形の1/3程度残存しており、現存する大きさは長さ8.6cm・幅3.3cm・厚さ0.5cmで（いずれも最大値）、重量は59.6gである。推定復元径は9.2cmである。鏡の文様帶部分は、厚さ0.15~0.2cmで、細線表現による逆S字状の龍を描いた雲氣文と小鳥と考えられる文様が、径0.7cmの円座乳を挟む形で同心円状に描かれている。文様帶の周縁は、幅1.1cm・厚さ0.5cmで、断面が平坦形を呈し無文である。この文様帶から考えて、前漢鏡の一種である鳴龍文（きりゅうもん）鏡と考えられる。また、割れた断面と文様帶の齒文の一部分には若干の磨耗が確認できる。のことから、割れた後にも鏡を保持し続けていたことが推察でき、破鏡の一種と考えられる。

97号竪穴住居跡（S A97・第123図・第124図・第125図-688~699）

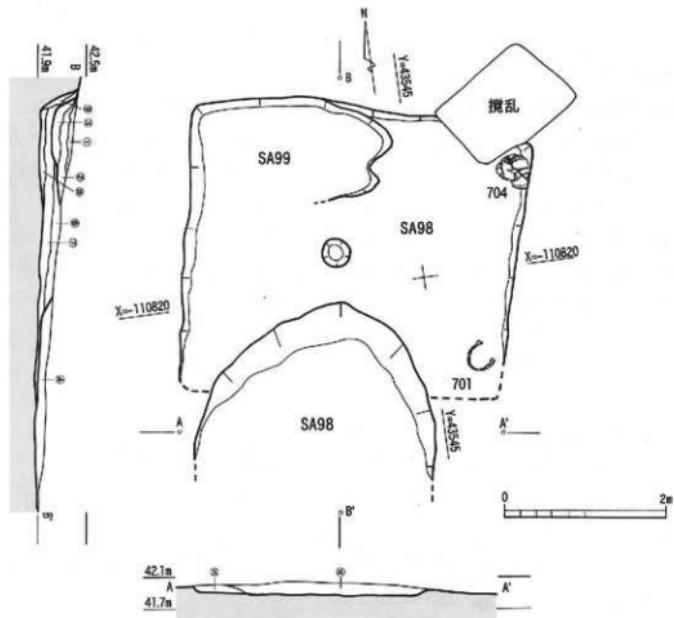
遺構：B区南東側に位置し、S A98・後世の擾乱に切られる形で検出された。斜面上に立地しているので南端部分が消失しているが、1辺3.5~4mの方形に近い平面形を呈する。中央部に径30cmのピットが1基存在し柱穴とも推察できるが、他にピットがないこと、調査段階で住居跡に伴うピットかどうかが判断できなかったことから柱穴であるとの判断には至らなかった。遺物は調査区西側を中心出土したが、完形に近い壺（688）と鉢（694）は他の遺物と若干離れた住居跡の北東と南東のコーナー部から出土している。

遺物：688~690は壺である。688は壺II類と壺III類の中間タイプで、689は緩く「く」字状に曲がる口縁部とやや上げ底で張り出す底部の壺II類である。690は明瞭に「く」字状に曲がる口縁部と凹面にくぼむ口唇部より壺I類と考えられる。691は横描波状文をもつ壺の口縁部である。692・693・695は小型壺である。694は平底の底部を持つ鉢II A類である。696は高壺の脚部であり、脚部形態A類かB類である。697・698は鉢である。697はC類の底部をもつ鉢II B類、698は鉢I C類である。699は埋土中出土の石庖丁で、両端に抉りをもつ直背直刃タイプのII C類である。

98号竪穴住居跡（S A98・第123図・第126図-700~704）

遺構：B区南東側に位置し、S A97の南辺を切る形で検出された。S A97同様傾斜面に立地しているので南端部分が消失しており、住居跡平面形態の全容は、検出状況から判断して縦長の長楕円形だと考えられる。しかし、下那珂遺跡の当期の竪穴住居を概観した場合、平面形態のほとんどが方形・長方形であり、円形・楕円形は皆無である。また、遺物の出土状況をみても、数個の完形に近い土器が1カ所に集められ、あたかも廃棄されたかのような印象をうける。これらのことより、S A98は竪穴住居跡ではなく廃棄土坑などの土坑である可能性をも示唆しておく。

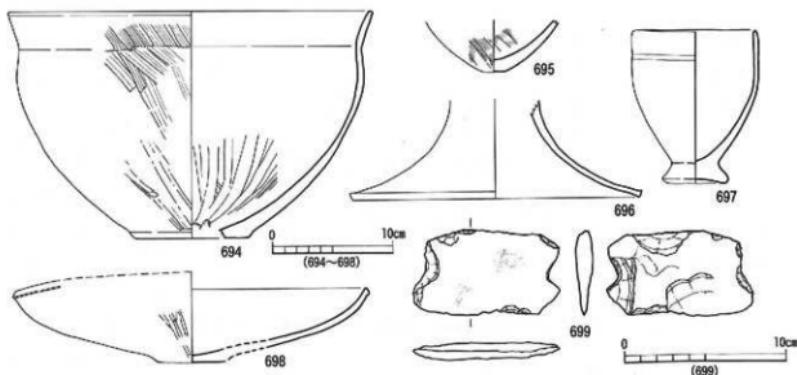
遺物：700・701・704は壺である。700は緩やかにS字を描きながら上方に薄く延びる口縁部形態C類をもつ。701は底部形態B類の特徴より壺II類とも考えられるが、円盤状に比厚したプロポーションは壺III類に相当するとも考えられる。704は、700同様の緩やかにS字に曲がる口縁部と、尖底状平底の底部から壺III類に相当する。702は高台脚付き鉢である。703は高壺の脚部である。壺の中位で明瞭な屈曲をもたず緩やかなS字を描く壺部形態C類をもつ。また壺上半部に細線による分割文様が施されている。



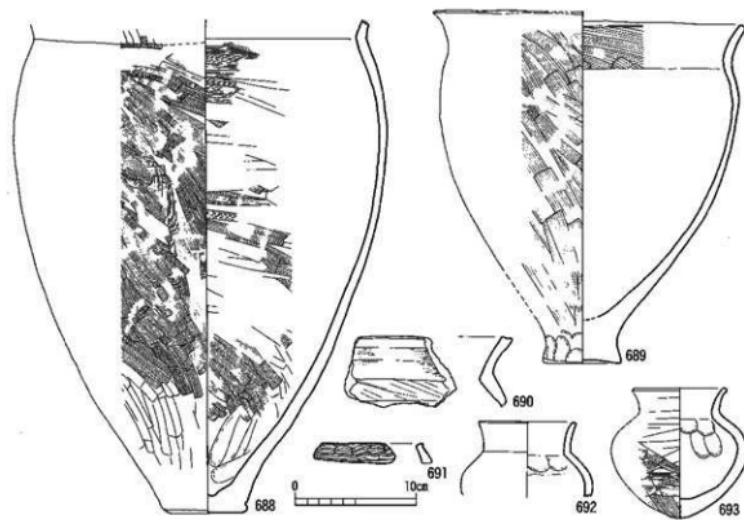
97・98号竪穴住居跡土層注記 (SA97・SA98)

- ①黒褐色土 (Hue 7.5YR-2/2) … 土坑の埋土。／ ②黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2) … 土坑の埋土。径 1 ~ 3 mm 程の褐色と橙色土粒を含む。5 mm 以下の炭化物細粒を含む。／ ③褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) … 土坑の埋土。径 1 ~ 3 mm 程の褐色と橙色土粒を含む。5 mm 以下の炭化物細粒を含む。／ ④黒褐色土 (Hue 7.5YR-2/2) … S A98 の埋土。径 1 ~ 3 mm 程の褐色と橙色土粒を含む。／ ⑤明褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) … S A98 の埋土 (初期淀入土)。黄褐色鉱石と粘質土が細互層状に堆積している。／ ⑥暗褐色土 (Hue 7.5YR-5/6) … S A97 の埋土。2 ~ 3 mm 程の炭化物細粒を多量に含む。／ ⑦黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2) … S A97 の埋土。2 ~ 3 mm 程の炭化物細粒を多量に含む。／ ⑧褐色土 (Hue 7.5YR-4/4) … S A97 の床土。炭化粒と焼土をわずかに含む。／ ⑨明褐色土 (Hue 7.5YR-5/6) … ⑤層と似ている。S A97 の埋土 (初期淀入土)。黄褐色鉱石と粘質土が細互層状に堆積している。

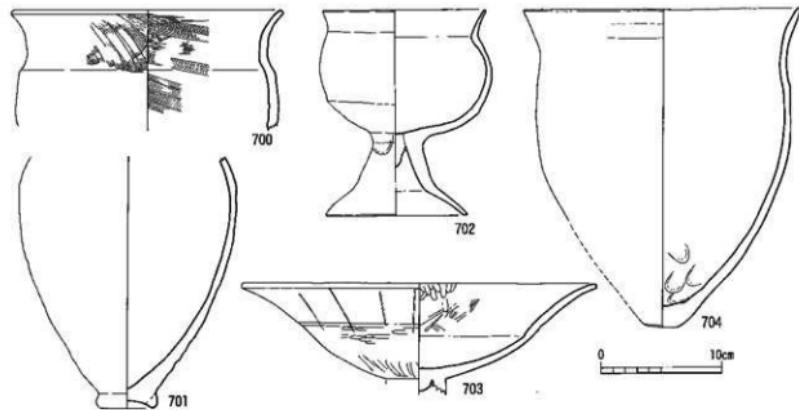
第123図 97・98・99号竪穴住居跡 (S A97・98・99) 図 (1/60)



第124図 97号竪穴住居跡 (S A97) 出土遺物図① (1/4・1/3)



第125図 97号竪穴住居跡 (SA 97) 出土遺物図② (1／4)

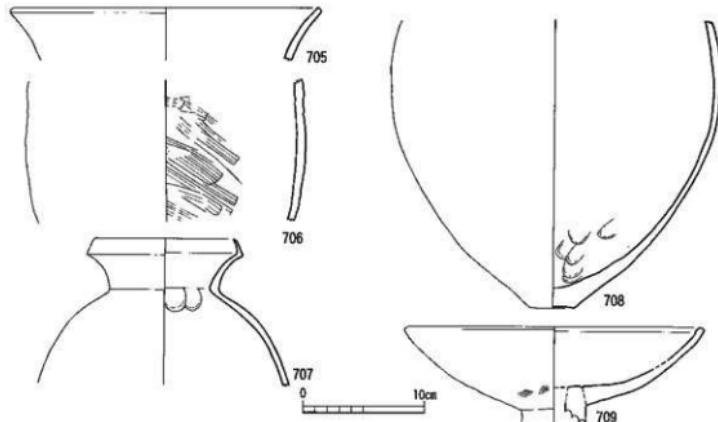


第126図 98号竪穴住居跡 (SA 98) 出土遺物図 (1／4)

99号堅穴住居跡 (S A99・第123図・第127図-705~709)

遺構：B区南東側に位置し、S A98を切る形で検出された。平面形態は不定形で、規模も不明であり、住居跡との断定も難しい。遺物は2か所に集中して出土し、廃棄されたような印象をうける。このことよりS A99は、S A98同様土坑の可能性がある。

遺物：705・706は壺である。いずれも外面に平行タタキを施し、705は口縁部形態C類をもつ。このことから705・706は甕III類と考えられる。707・708は壺である。707は二重口縁をもつタイプで、口縁部に押引き状の櫛描波状文を施す。709は屈曲点をもたない内部形態C類をもつ、高壺III類と考えられる。

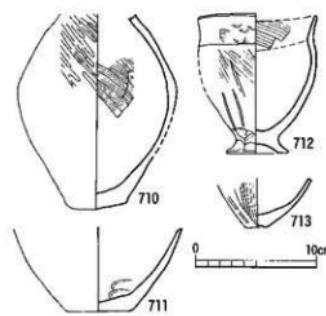


第127図 99号堅穴住居跡 (S A99) 出土遺物図 (1/4)

100号堅穴住居跡 (S A100・第128図-710~713)

遺構：S A101・102同様、調査時の不手際で個別遺構図が存在しないため、部分的な記録のみである。B区南側、S A92の南側で検出された。主軸は傾斜に直交する形でほぼ南北方向である。平面形態は、南側が傾斜のため消失しているが、円形か梢円形と考えられる。S A98において土坑の可能性を示唆したように、S A100も土坑の可能性が大いに考えられる。

遺物：710・711・713は壺である。710は小型ながら長胴壺の類で、篠利のような形を呈する。712は脚台状底部をもつ鉢II B類である。



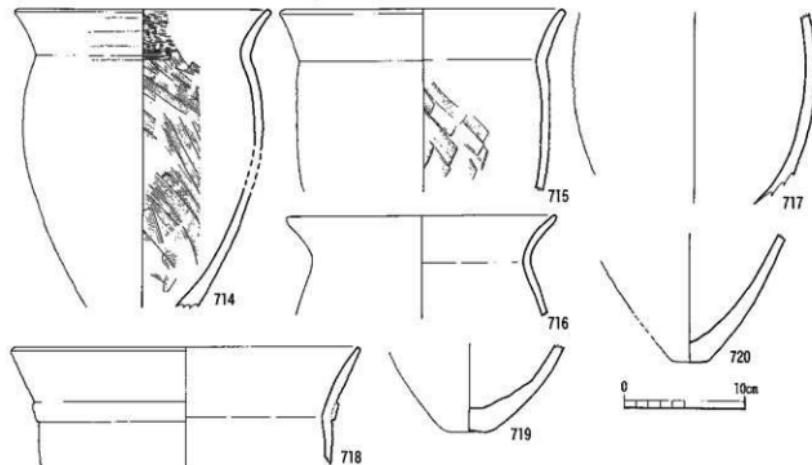
第128図 100号堅穴住居跡 (S A100) 出土遺物図 (1/4)

101号堅穴住居跡 (S A101・第129図-714~720)

遺構：S A100・102同様、調査時の不手際で個別遺構図が存在しないため、部分的な記録のみである。B区北西側、S A93・94の南側で検出された。平面形態は方形であり、一辺約2m四方の方形である。主軸はB区の他の住居跡同様、斜面に直交する。S A101・102の周辺には暗褐色土（基本層序の第IV層）が

厚く堆積し、多くの上器・石器類が検出され、この2軒以外の住居跡の存在が推察される。これらの多くが住居跡に伴うものであると考えられるが、どれがどの住居跡に伴うものであるか判断が難しく、SA101の床面直上で検出した遺物のみを遺構出土遺物として判断した。

遺物：714～718は甕である。718は頸部に格子状の刻みをもつ貼付突帯をもつ。714～718はいずれも外間に平行タタキが認められる。714～716・718は口縁部形態C類をもつ。のことから714～718は甕III類と考えられる。719・720は甕か壺の底部である。

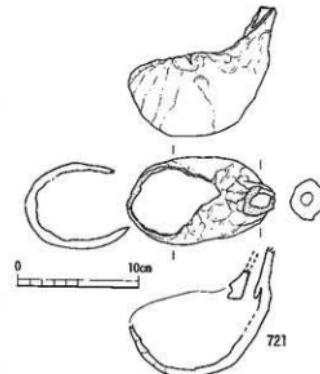


第129図 101号竪穴住居跡（SA101）出土遺物図（1／4）

102号竪穴住居跡（SA102・第130図-721）

遺構：SA100・101同様、調査時の不手際で個別遺構図が存在しないため、部分的な記録のみである。B区北西側、S A96の南側で検出された。平面形態は方形であり、一边約2.5 m四方の方形である。他の住居跡は傾斜に直交する主軸をもつが、この住居跡は南北に沿った主軸をもつという点で他と異なる。

遺物：住居跡に伴うと判断できる遺物はほとんどなく、杓子状土器（721）の1点のみが出土した。本遺跡において杓子状土器の柄部は多く出土しているが、受部が付属した状態の出土はこの1点のみである。他の柄部は人の親指大の大きさで工具ナデによる器面調整をしているが、比してこの柄部は細く、指ナデによる器面調整を行っている。しかも柄部と受部が中空の状態で繋がっており、現代の急須のような構造になっている。この土器は杓子状というよりは注口土器としての機能が考えられる。

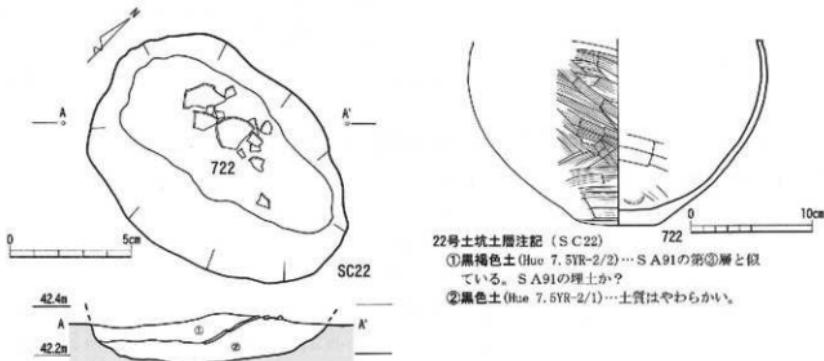


第130図 102号竪穴住居跡（SA102）出土遺物図（1／4）

22号土坑 (SC22・第131図・第131図-722)

遺構：B区東側、S A91の北辺を切る形で検出された。長径約118cm×短径約82cmの楕円形である。検出時の深さは約20cmであるが、S A91検出作業中、遺構上面が削平された形で検出されたので、正確な深さは不明である。埋土を観察すると、遺物は第②層の黒褐色土層から検出されている。黒褐色土はS A91の第③層（埋土）とよく似ており、SC22はS A91に切られた状態であると判断できる。

遺物：壺の底部が出土した。底部形態B類の平底の壺で、表面全体に横と斜方向のハケ目を施している。出土状況からSC22の遺物というよりもS A91の遺物である可能性が高い。

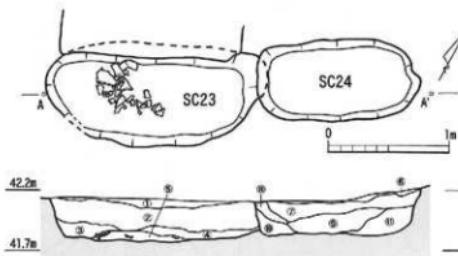


第131図 22号土坑 (SC22) 図 (1/20) 及び出土遺物図 (1/4)

23・24号土坑 (SC23・24・第132図・第133図-723～728)

遺構：B区東側、S A91の南側でSC24の東辺がSC23の西辺をわずかに切る形で検出された。2つの土坑は、後世の攪乱により一部破壊されていたが床面近くはほぼ残存していた。SC23は長軸約180cm×短軸約80cmの長楕円形、SC24は長軸約130cm×短軸約70cmの長楕円形である。2つの土坑は主軸をほぼ同じくし、横並びで配置されており、計画的な配置が想定される。SC23の中央部よりやや西で遺物の集中が見られた。

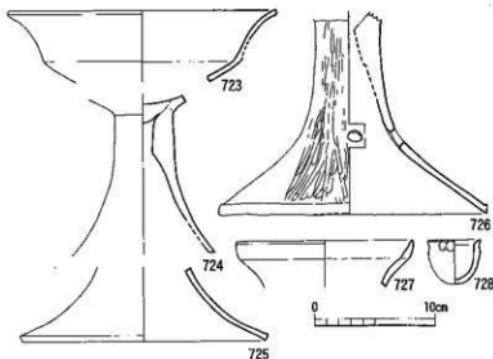
遺物：SC23からは4点の遺物が出土した。723～726は高壙である。723～725は同一個体である。粉々になつた状態で出土したので、完形に復元できなかったが、完形



23・24号土坑土層注記 (SC23・24)

①暗灰褐色土 (Hue 2.5YR 5-2) … S C23の埋土。基本層序の第IV層と似ているが、少しやわらかく、色調は灰色がちである。
 ②暗褐色土 (Hue 10YR 3-4) … S C23の理土。基本層序の第IV層の土と似ている。
 ③褐色土 (Hue 7.5YR 4-4) … S C23の理土。土質はやわらかい。
 ④褐色土 (Hue 7.5YR 4-4) … 第①層と同じ。
 S C23の理土。
 ⑤暗灰褐色土 (Hue 2.5YR 6-6) … S C23の理土。土層片を多く含む層。
 ⑥暗灰褐色土 (Hue 2.5YR 5-2) … S C24の理土。第①層と同じ。
 ⑦褐色土 (Hue 10YR 4-4) … S C24の理土。
 ⑧にぶい黃褐色土 (Hue 10YR 5/4) … S C24の理土。
 ⑨褐色土 (Hue 10YR 4-4) … S C24の理土。
 ⑩褐色土 (Hue 10YR 5/4) … 第⑦層と同じ。S C24の理土。

第132図 23・24号土坑 (SC23・24) 図 (1/40)

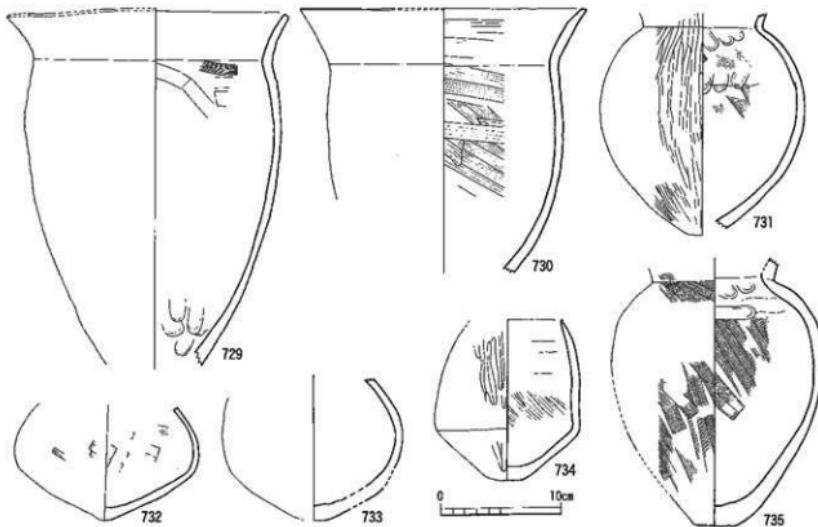


第133図 23・24号土坑 (SC 23・24) 出土遺物図 (1/4)

B区包含層出土の土器 (第134図-729~751)

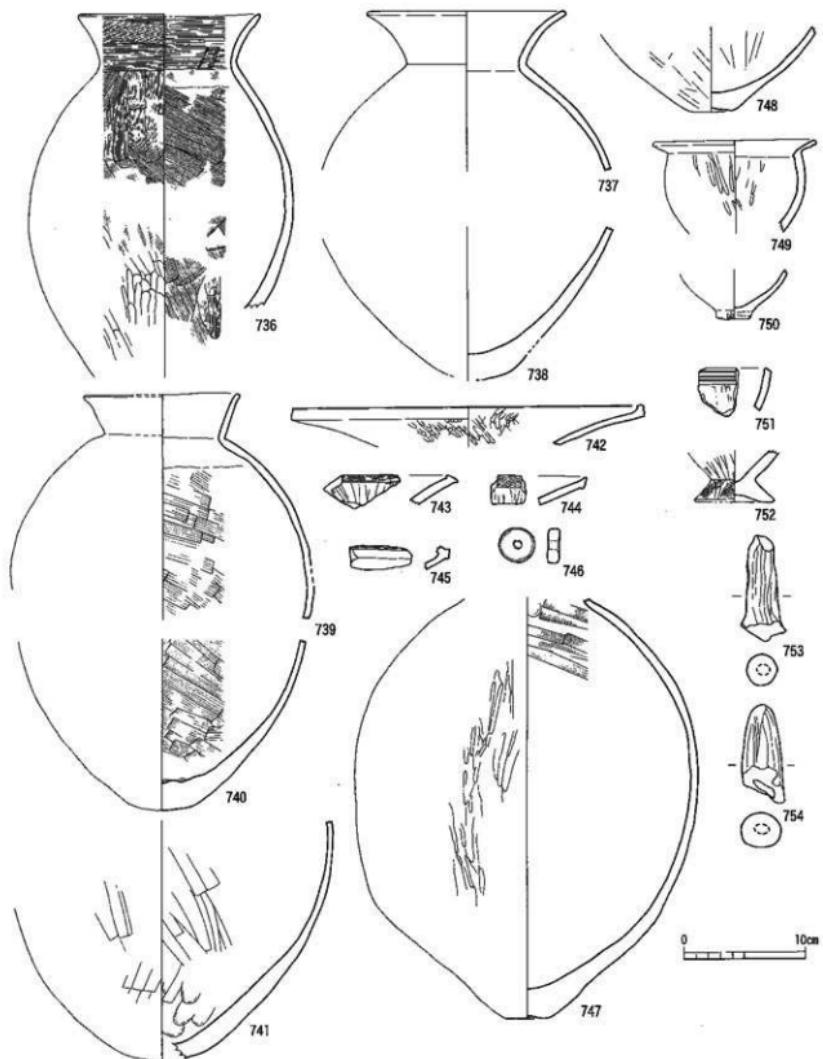
B区の遺構内出土以外の土器を一括して扱う。

729~730は壺である。729・730ともに口縁部形態C類で、表面に平行タタキをもつ。壺III類である。731~741・743~745・747・748は壺である。736~740は形態より壺II類と考えられる。そのうち737と738、739と740は同一個体である。734は頭部のない無頸壺である。743・744は輪描波状文をもつ壺I類の口縁部である。742は器台の受部である。内外面に丁寧なミガキが施されている。745は壺の口縁部または算盤玉のような形状をもつ壺の胴部と考えられる。746は土製の紡錘車である。749は小型の壺である。小型ではあ



第134図 B区包含層出土遺物図① (1/4)

の状態であったと考えられる。壺部形態B類・脚部形態A類で高壺II類になると考えられる。726は高壺の脚部である。脚部A類と考えられる。2つの高壺は723~725の個体が黒色、726の個体が赤彩された赤色で、あたかも赤と黒のコントラストを狙ったかのような印象をうける。727は壺の口縁部である。一度頸部で屈曲し立ち上がる形態をとる。728は手捏土器である。



第135図 B区包含層出土遺物図② (1/4)

るが、形態は壺I類に似ている。750は小型の壺である。底部1/3程穿孔を施してある。751はおそらく鉢II B類だと考えられる。内湾しながら立ち上がる口縁部に3条の横走する沈線が施されている。752は脚台付きの鉢であり、鉢II類だと考えられる。特筆すべきは、脚部に線刻による三角形の幾何学文が描かれている。753・754は杓子状土器の柄部である。表面全体に工具ナデを施している。

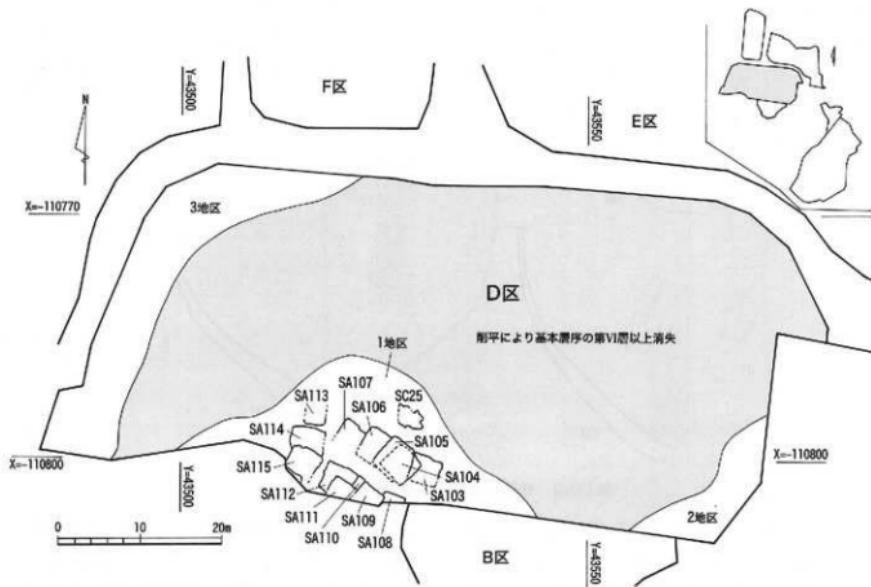
(4) D区の調査 (第136図～第157図)

D区は北ブロック中位に位置し、X軸は8～12ラインを、Y軸はA～Iラインを包含する3,200m²の調査区である。B区とは東半の南辺、E区とは東半分の北辺、F区とは西半分の北辺で接地する。

調査は2次調査において実施した。調査前の状況は、東側にコンクリート基礎のハウス2棟と果樹(ミカン)園、西側に畑地が広がっており、ほぼ水平であった。ハウス部分のコンクリート基礎及び果樹園と畑地の耕作土を重機により除去したところ、調査区域の大半は削平され、アワオコシスコリア層とイワオコシスコリア層(基本層序の第VII層・第IX層)が面的な広がりをみせていた。辛うじてB区と接する南端部と西端部に基本層序の第IV層以上の包含層が確認された。さらに西側南端は後世の造成土が多量に補填されており、この場所がかつて谷地形であったことが確認された。こうした状況を考えると、D区は、B区南部を突端部とする入り組んだ丘陵地であったと推定できる。

検出された遺構は、堅穴住居跡13軒(SA103～SA115)・土坑1基(SC25)・炉穴1基で、出土した遺物から堅穴住居跡と土坑は弥生時代、炉穴は縄文時代に帰属するものだと考えられる。

以下に検出された遺構と遺物について若干の説明をくわえる。堅穴住居跡の計測値は第1表～第3表に、遺物の観察表・計測表は第4表～第32表に掲載している。なお、縄文時代に帰属すると考えられる炉穴は後述「第6節 旧石器時代～縄文時代の調査」に掲載している。



第136図 下那珂遺跡D区地形図及び遺構配置図 (1/600)

■豎穴住居跡（S A103～S A115）

D区全体で13軒検出された。いずれもD区南辺中央部付近に集中する。B区同様、ほとんどが主軸と斜面が直交するように配置され、大きくA群（S A103～107）・B群（S A108～112）・C群（S A113～115）の3群に分けることができる。特にA群は、B区上段グループ（S A91～96）と連続する住居跡群を形成する可能性がある。また、A・B両群はそれぞれの群内住居跡が互いに大きく主軸を変えることなく、等高線に沿いながら帯状に重複しあっており、短期間に移動しながら住居を建て替えていったと考えられる。因みに、A群はS A107→106→105→104・S A103→104（S A103とS A105の順番は不明）の順番となり、B群はS A112→110→111→109・S A108→109（S A108とS A111の順番は不明）の順番となる。C群はS A113が独立しており、S A114→115となる。

住居の規模は切り合いにより全体像が把握できないものが多いが、一辻3.5mから4.2mぐらいに集中する傾向がある。平面形態は方形のものが多いが、緩やかな斜面上に建てられているので、斜面下部は流失しているものが多い。柱穴は他の住居跡群同様、ほとんど確認されなかった。

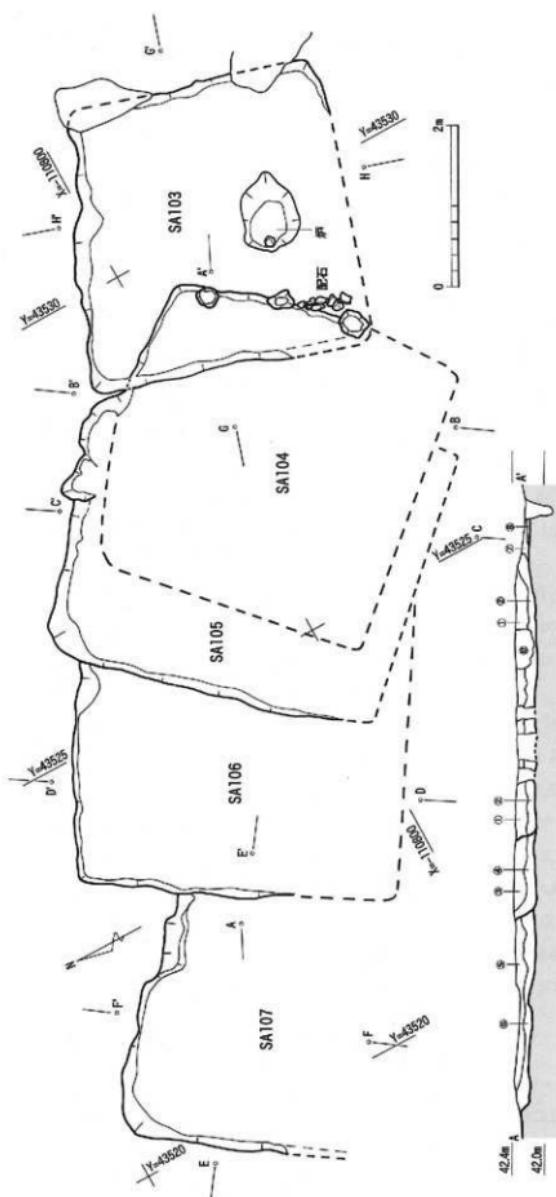
103号豎穴住居跡（S A103・第137図・第138・第139図-755～783）

遺構：A群の西端で検出された。約3.5m四方の方形で、中央よりやや南側に径約70～90cm・深さ約20cmの十坑が確認された。土坑は埋土に多量の炭化物を含んでいた。さらに土坑埋土は住居跡埋土と考えられる第②層（第138図）下にあり、豎穴住居跡構築以降のものではない。このことから、この土坑は豎穴住居に伴う土坑であると考えられ、炭化物の存在などから炉などの用途に用いられていた土坑ではないかと推察できる。また、S A104との境界近くに拳人の円礫が8個程直線状に並んで検出された。この礫の意味するところはわからないが、S A103で用いられていた円礫がS A104造営の折、端によせられたのではないかと推察される。

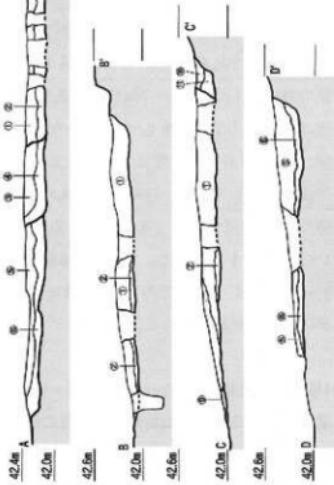
遺物：ほとんどが細片である。完形に近いもののうち、2点（771・774）は住居跡内土坑出土である。755～762は甕である。755～758は工具ナデやハケ目調整の口縁部であり、口唇部形態B類に口縁部形態B類の特徴をもつ。759～762は甕の底部であり、底部形態D類の特徴をもつ。このことから、S A103の甕は甕II類的な要素をもつ。763～767は蓋である。763・764は口縁部形態B類をもち、763は口縁部内側、764は口唇部に竹管による押正文を施している。765は蓋の頭部であり、斜位の刻目文と竹管による押压文を施している。768・769は高坏である。768は坏部形態B類・769は脚部形態B類であり、高坏II類である。770は細片であり不明であるが、おそらく器台の裾部と考えられる。771～774は鉢である。771～773は鉢I類である。771は胸部形態C類・底部形態B類をもつ。774は小型の鉢II A類である。775～780は小型土器片である。780は口縁部に8～9条の櫛描文をもつ。782・783は敲石であり、長軸端部に敲打痕が認められる。

104号豎穴住居跡（S A104・第137図・第140図・第141図-784～811）

遺構：A群5軒のうち右から2番目に位置する。切り合い関係より、A群の中では最も時期の新しい住居跡であることがわかる。平面形態は、西側がS A105と一部混同し、南側が傾斜により流失しているが、およそ3.5m四方の方形を呈する。遺物は床面一面より出土しているが、北壁中央部付近から完形に近い甕（784）・壺（794・795）や石庖丁（810）・砥石（811）が集中して出土した。

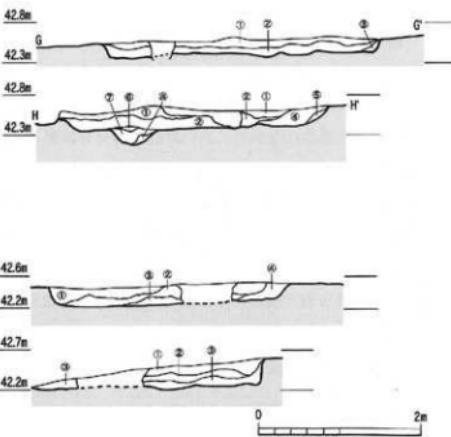


104～108号堅穴柱状土壌注記 (SA104～SA108)
 ①褐色褐色土 (blue 7.5YR 4-4) … SA104の層土。既に地とアカホヤ山DEだと考えられる黄褐色土を含む。
 ②褐色褐色土 (blue 7.5YR 4-2) … SA108の層土が赤土・土壌と考えられる褐色土を含む。
 ③褐褐色土 (blue 7.5YR 5-8) … SA108の三十九か所土。①層と似ている。
 ④明褐色土 (blue 10YR 3-2) … SA107の層土。透水性土と無機性土とある。
 ⑤暗褐色土 (blue 10YR 2-3) … SA106の層土。
 ⑥褐色土 (blue 7.5YR 3-3) … SA104の層土と小土 (blue 7.5YR 4-4) … SA104の層土と小土。既
 色土と黄褐色土を含む。
 ⑦褐色褐色土 (blue 7.5YR 3-3) … SA108の層土。若干の落葉を含む。
 ⑧褐色褐色土 (blue 7.5YR 4-4) … SA105の層土。
 ⑨褐色褐色土 (blue 7.5YR 5-8) … SA105の層土。
 ⑩層と同じ。
 ⑪明褐色土 (blue 10YR 3-2) … SA105の層土。
 ⑫層と同じ。

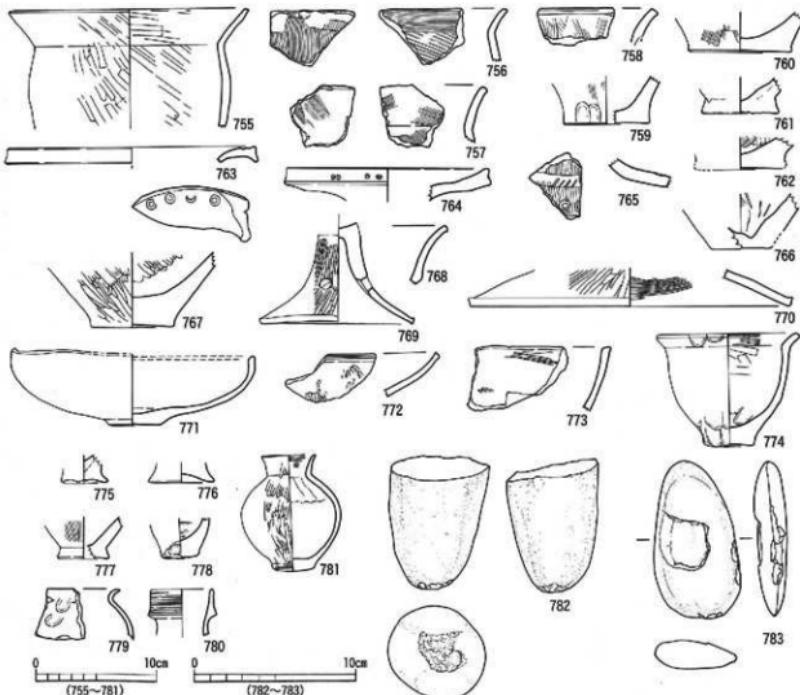


103号竪穴住居跡層記注記(SA103)

①黒褐色土 (Hue 7, SYR-3/1) …住居跡埋土。土質はやわらかい。／②暗褐色土 (Hue 7, SYR 3/3) …住居跡埋土。径 1 mm 程の明黄褐色土粒を含む。土器片と炭化物を多く含む。／③褐色土 (Hue 7, SYR-4/4) …住居跡埋土。土器片と炭化物を多く含む。／④暗褐色土 (Hue 7, SYR-3/4) …住居跡埋土。土質は③層に似ているが、色調が少し暗い。／⑤暗褐色土 (Hue 10YR-3/3) …住居跡埋土。土質はかたくしまっている。／⑥黒褐色土 (Hue 7, SYR-2/3) …住居跡の埋土か灰の塵土。炭化物を多く含む。／⑦褐色土 (Hue 7, SYR-3/2) …炉の埋土。炭化物を多量に含み、焼土だと考えられる明褐色土も多く含む。／⑧黒褐色土 (Hue 2, 5YR-2/1) …灰の埋土。⑦層同様、明褐色土と炭化物を多量に含む。



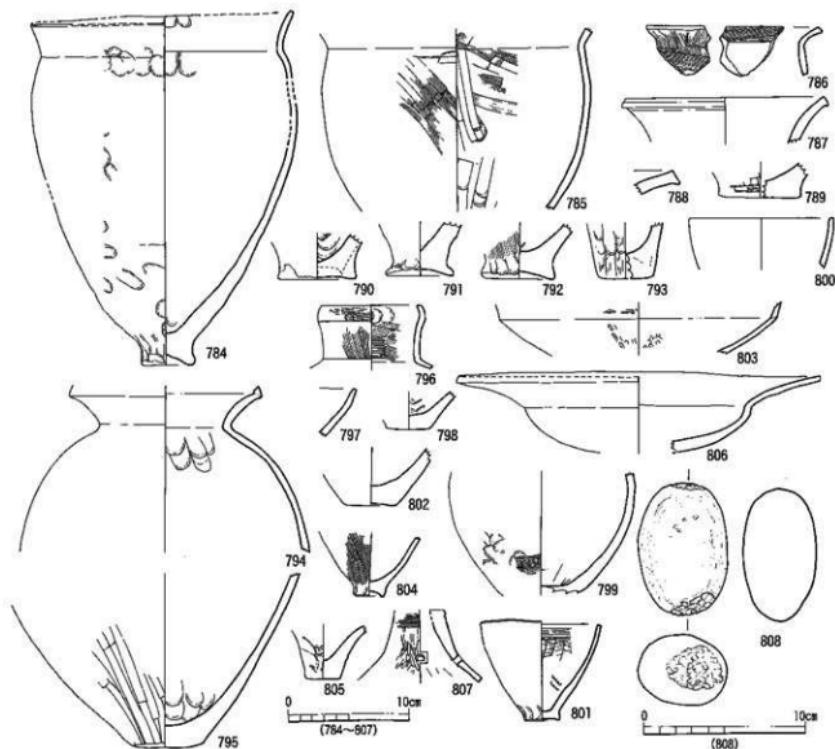
第138図 103・107号竪穴住居跡 (SA103・107) 土層断面図 (1/60)



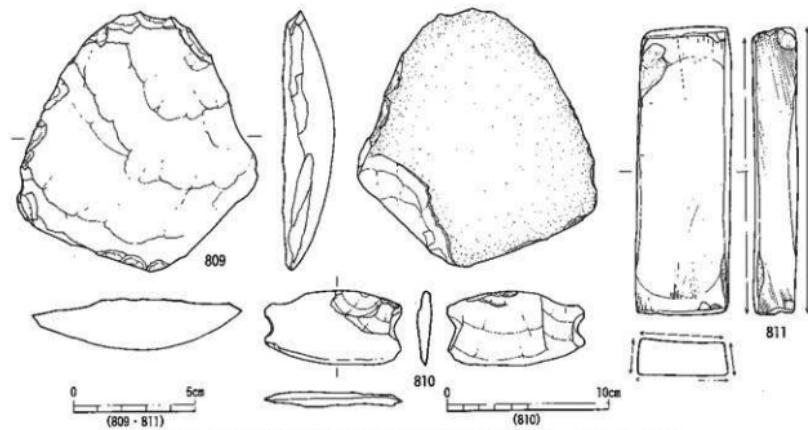
第139図 103号竪穴住居跡 (SA103) 出土遺物図 (1/4・1/3)

遺物：784～786・790～792は壺である。784は口縁部形態B類に底部形態B類をもち、壺II類と考えられる。791～792は底部であり、底部形態はB類で、指ナデによる調整が行われている。794～799は壺である。794・795は同一個体で二重口縁をもつ壺I類である。796は壺の口縁部で、短頸壺の口縁部をわずかに内傾させながら二次口縁的な部分を拡張している。800～801・806は鉢である。801は小型の鉢II B類である。806はS字脛部を特徴とする鉢IA類である。803・807は高壺である。803は高壺II類の壺部である。807は器面調整にミガキを施し、脚柱部に横走する数条の櫛描文をもつ脚部である。文様・調整方法から、瀬戸内地域との関連が考えられる。

808は蔽石である。長径の両端部に敲打痕が認められる。809は蛤形剥片石器である。円礫から剥いだ自然面の残る剥片を用いるI類で、周縁に微細な刺離を施すことによって刃部を作出している。810はII D類（両端に抉りをもつ弧背弧刃）の石庖丁である。811は砥石 I B類（定型化した板状砥石）であり、表面中央部の緩やかな擦みや表裏面と側面端部の擦痕が確認できる。



第140図 104号竪穴住居跡 (SA 104) 出土遺物図① (1/4・1/3)

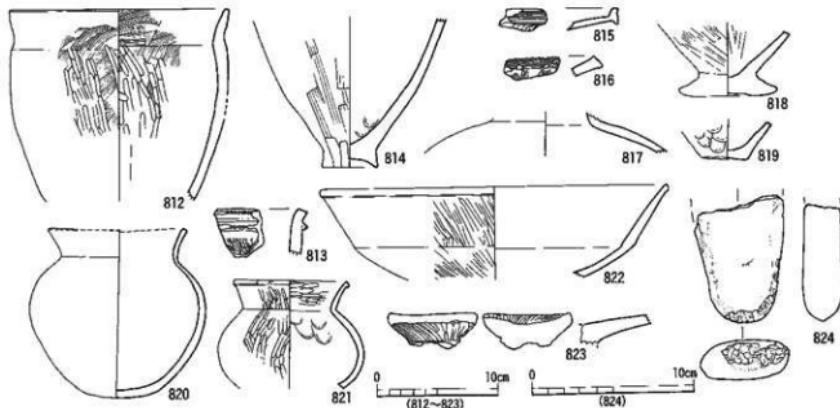


第141図 104号竪穴住居跡 (SA 104) 出土遺物図② (1/2・1/3)

105号竪穴住居跡 (SA 105・第137図・第142図-812~824)

遺構：A群5軒のうち中央部に位置する。SA 106を切り、SA 104に切られている形で検出された。遺構は、全体的に大きくSA 104に切られ、南側が傾斜により流失しているため全体の約1/3程度しか残存していない。平面形態は断面及び西邊から考えて、およそ4.2m×3.5mの若干南北に長い方形である。

遺物：812~814は甕である。812は短い口縁部に内外面にミガキを施す。813は口唇部と口縁部下に2条の縦位の刻目付き貼付突縫文をもつ下城系の口縁部である。815~817・820~821は蓋である。815・816は大きく開く口縁部形態B類で、815が口唇部に凹線文をもち、816が口唇部に櫛描波状文をもつ。820・821は緩やかに口縁部が曲がる小型甕である。外面にミガキを施す。822・823は高坏である。822は明瞭に屈曲しながら外反する高坏II類の坏部である。824は敲石である。楕円形縁の長径端部に敲打痕が認められる。

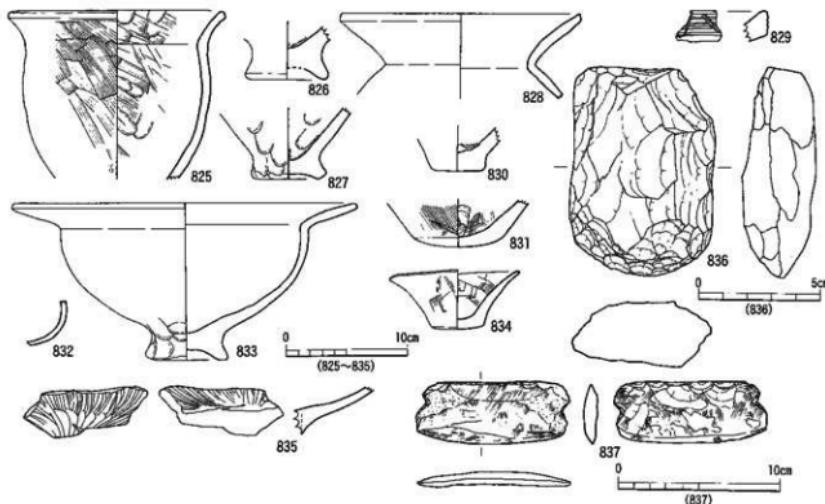


第142図 105号竪穴住居跡 (SA 105) 出土遺物図 (1/4・1/3)

106号堅穴住居跡 (S A106・第137図・第143図-825~837)

遺構: A群5軒のうち西から2番目に位置する。S A107を切り、S A105に切られている形で検出された。S A105に切られ、南側が傾斜により流失しているため全体の約1/2程度の残存状況である。平面形態は断面及び北辺と西辺から考えて、およそ一辺4.1mの方形と推察される。遺物は北西隅を中心とする数か所に固まって出土した。

遺物: 825・826は小型壺である。827~830は壺である。828は頸部で「く」字状に曲がり大きく開く壺II類の口縁部～頸部である。829は口唇部に凹線文上有斜位の押圧文を施す口縁部である。832~834は鉢である。833は大きく開く口縁部と脚台状底部をもつ鉢IA類である。834は外反しながら開く口縁部と平底の底部をもつ小型鉢である。形状からみて蓋の可能性もある。835は高杯の杯下部である。836はホルンフェルス製の打製石斧である。刃部付近に細かな刺離を施している。837はII C類（両端に抉りをもつ直背直刃）の石庖丁である。

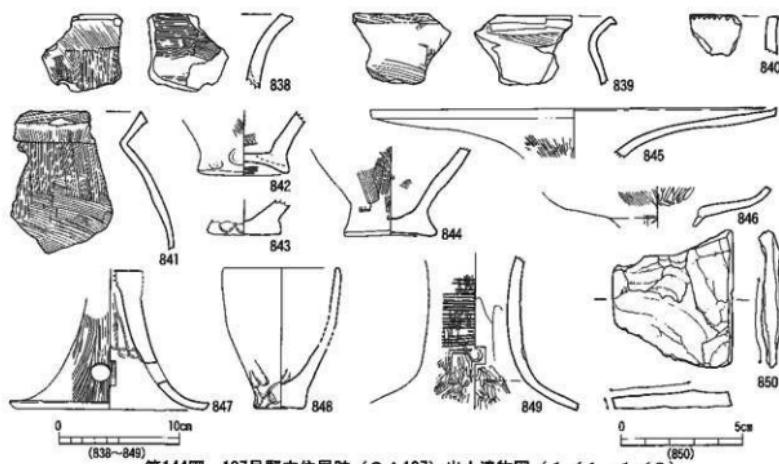


第143図 106号堅穴住居跡 (S A106) 出土遺物図 (1/4 · 1/2 · 1/3)

107号堅穴住居跡 (S A107・第137図・第138図・第144図-838~850)

遺構: A群5軒のうち西端に位置する。S A106に切られ、A群の中では最も古い住居跡と考えられる。南端の流失が著しく遺構の半分近くが残存しない。さらに中央部に木根による擾乱が数か所ある。残存している規模は北辺約3.1m×西辺約2mである。北辺と西辺は直交しており、方形または長方形の平面形態が推察できる。しかし、他の住居跡と異なり、北辺は直線状ではなく東側でクランク状に曲がる。このことは、S A107に別の堅穴住居跡や土坑などもう一つの別の遺構があったこと、北辺に入口施設などの構造物があったことを示す可能性があるが、SA2やSA67のような平面形態である可能性もある。

遺物：838～840は甕である。838は口唇部断面が凹面状に窪む口唇部形態A類の口縁部である。839は口唇部断面が平坦状である口唇部形態B類の口縁部である。838・839とともに内外面に工具ナデを施す。840は口唇部に縦位の劍文をもつ口縁部である。841～844は壺である。841は短く「く」字状に曲がる壺III類の口縁部である。外面にT工具ナデを施す。842は上底の底部である。846・847は高杯である。847は短いが、細身の受部から大きく「八」字状に開く脚部形態B類である。845・849は器台である。845は細身の柱部から急激に開く形状である。849は柱部に凹線文と円形透かしが施され、備讃瀬戸地域との類似性が認められる。848は直立気味に立ち上がる小型の深鉢（鉢II B類）である。850は砥石I B類（定型板状砥石）が剥離・欠損したものであり、表面1面のみに研磨痕が認められる。



第144図 107号竪穴住居跡 (S A107) 出土遺物図 (1/4・1/3)

108号竪穴住居跡 (S A108・第145図)

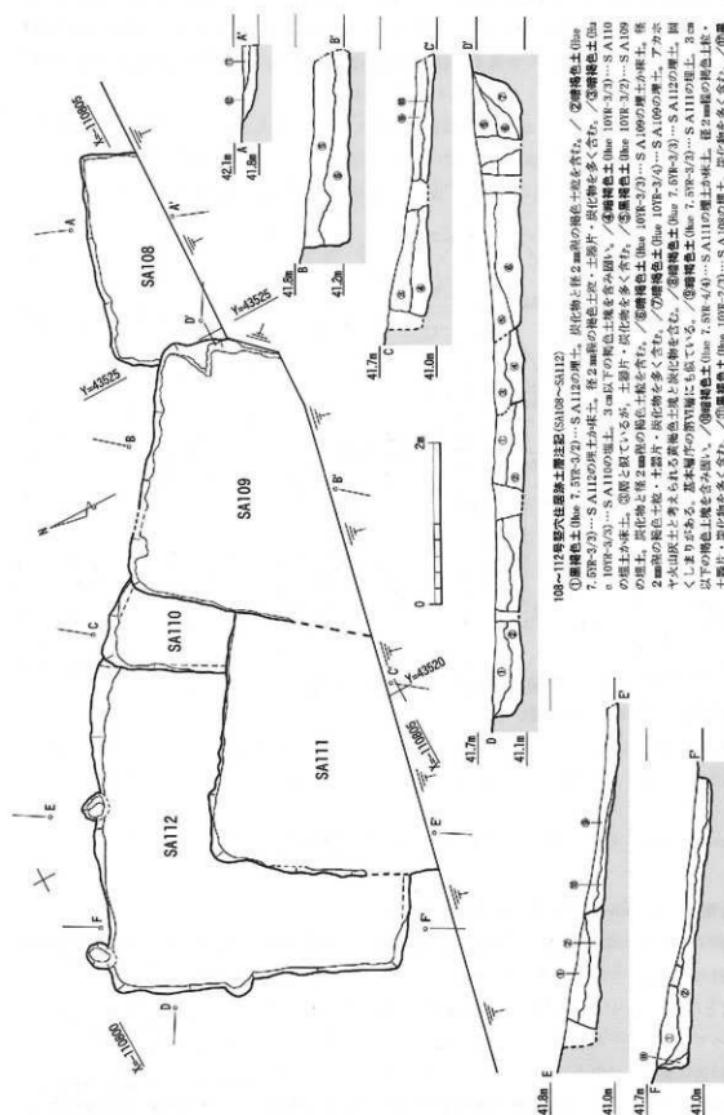
遺構：B群の東端に位置する。S A109に西辺を切られている形で検出された。南半分は造成工事の掘削により消失しており、遺構の半分以上が残存しない。残存する北辺は約2.6mであり、小型の住居跡である。

遺物：細片のみが埋土中から出土し、遺構に伴うと判断できる遺物がなかった。

109号竪穴住居跡 (S A109・第146図・第147図-851～863)

遺構：B群の東から2番目に位置する。S A108の西辺・S A110東部・S A111東部を切る形で検出された。B群の中では最も新しい住居跡だと考えられる。南半分は造成工事の掘削によって消失し、西辺はS A111との切り合いによって攪乱されており、遺構の約1/3が消失している。北辺は3.9mあり、部分的に残っている東辺と西辺は北辺に対して直交し、方形か長方形の平面形態が推定できる。遺物は北壁中央部付近に集中して出土した。

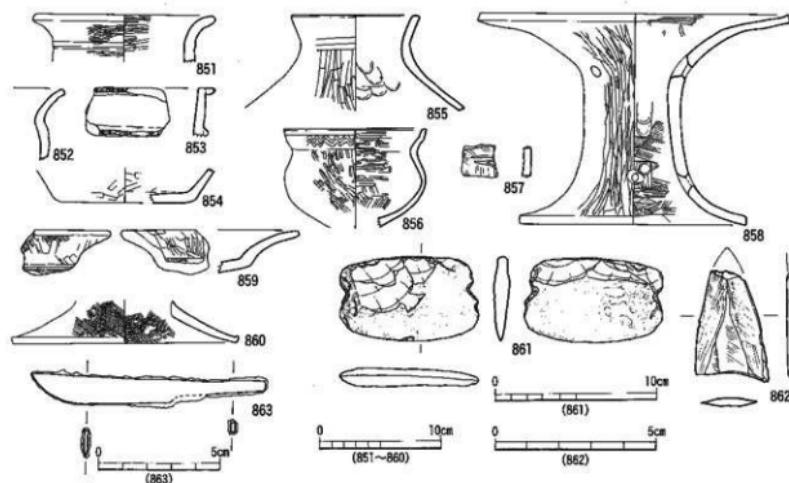
遺物：851～853は甕である。851は内外面に横方向のミガキを施す小型甕であり、頸部に1条の貼付突帯をもつ。852は緩やかに「く」字状に曲がる口縁形態C類の口縁部であり、胴部に平行タタキを施



第145図 108・109・110・111・112号堅穴住居跡 (SA108・109・110・111・112) 図 (1-60)

す。854～855・857は壺である。857は不定方向のハケ目調整の上に沈線文を施している。細片であり、全体の沈線文様は不明である。858は器台である。受部の方が裾部より広い寸胴形である。859～860は高壺である。859は一度明瞭に屈曲し外反しながら立ち上がる壺部形態B類の口縁部である。861はII D類（両端に抉りをもつ弧背弧刃）の石刀丁である。862は磨製石鎌である。他の磨製石鎌の例に多い（本遺跡では約50%）ように切っ先部分が欠損している。

863は刀子である。全長9.6cm（うち刃部長6.0cm・茎長3.6cm）・厚さ0.4cm、片刃で斜め闊の形状をもつ。断面形は刃部楔形、茎部鈎丸形を呈する。弥生時代において、刀子は主に北部九州を中心とする西日本の弥生時代後期から終末期にかけての墓や住居跡から出土することが多く、武器や工具としての用途が考えられている。本遺跡出土刀子はこの1点のみであるが、弥生時代後期から終末期頃の堅穴住居跡出土といいう全国的な通例に沿う出土例となった。

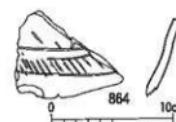


第146図 109号堅穴住居跡 (SA109) 出土遺物図 (1/4・1/3・2/3・1/2)

110号堅穴住居跡 (SA110・第145図・第147図-864)

遺構：B群の中位に位置する。SA109・SA111・SA112に大部分を切られており、北西隅部のみの検出であった。北辺と西辺が直交することから方形か長方形の平面形態が推察されるが、規模等は不明である。

遺物：細片が数点のみが埋土中から出土し、遺構に伴うと判断できる遺物は少なかった。864は、壺か鉢の頸部付近の細片である。表面にヘラ書きによる横方向と斜方向の組合せ文様が施されている。

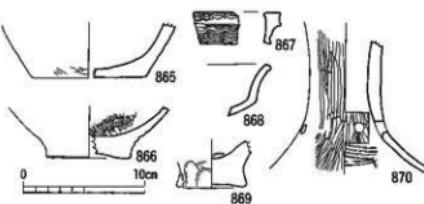


第147図 110号堅穴住居跡 (SA110) 出土遺物図 (1/4)

111号竪穴住居跡 (S A111・第145図・第148図-865~870)

遺構：B群の西側に位置する。南半が造成により消失し、東辺がS A109に切られ、S A110とS A112を切る形で検出された。残存する規模は、辺長約3.1mの北辺と辺長約2.8mの西辺が直交することから、一辺3m以上の方形または長方形の平面形態を呈するものと推測できる。

遺物：865~867は壺である。865は底部形態B類、866は底部形態A類とB類の中間的要素をもつ。867は口縁部であり、輪描波状文を施す。868は高坏である。一度明瞭に屈曲し外反しながら立ち上がる坏部形態B類の特徴をもつ。869は外面に指ナデを施した底部形態B類の壺の底部である。870は器台である。縦方向の丁寧なミガキを施しており、円形透かしをもつ。

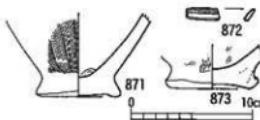


第148図 111号竪穴住居跡
(S A111) 出土遺物図 (1/4)

112号竪穴住居跡 (S A112・第145図・第149図-871~873)

遺構：B群の西端に位置する。S A110とS A111に東部を約1/3切られた状態で検出された。B群の中では最も古い住居跡の可能性がある。規模は東西約4.0m・南北約3.6mで、平面形態は方形に近い長方形である。壁面に柱穴が3基認められたが、3基とも包含層中から掘り込まれており、後の時期のものであろうと判断した。

遺物：871~873は壺である。871・873は縦方向のハケ日の器面調整に上げ底気味の底部形態をもつ。872は細片で詳細が不明であるが、内面の口唇部付近を若干産ませ、斜方向のハケ目を施す土器である。小型鉢もしくは小型壺の口縁部と考えられる。



第149図 112号竪穴住居跡 (S A112)
出土遺物図 (1/4)

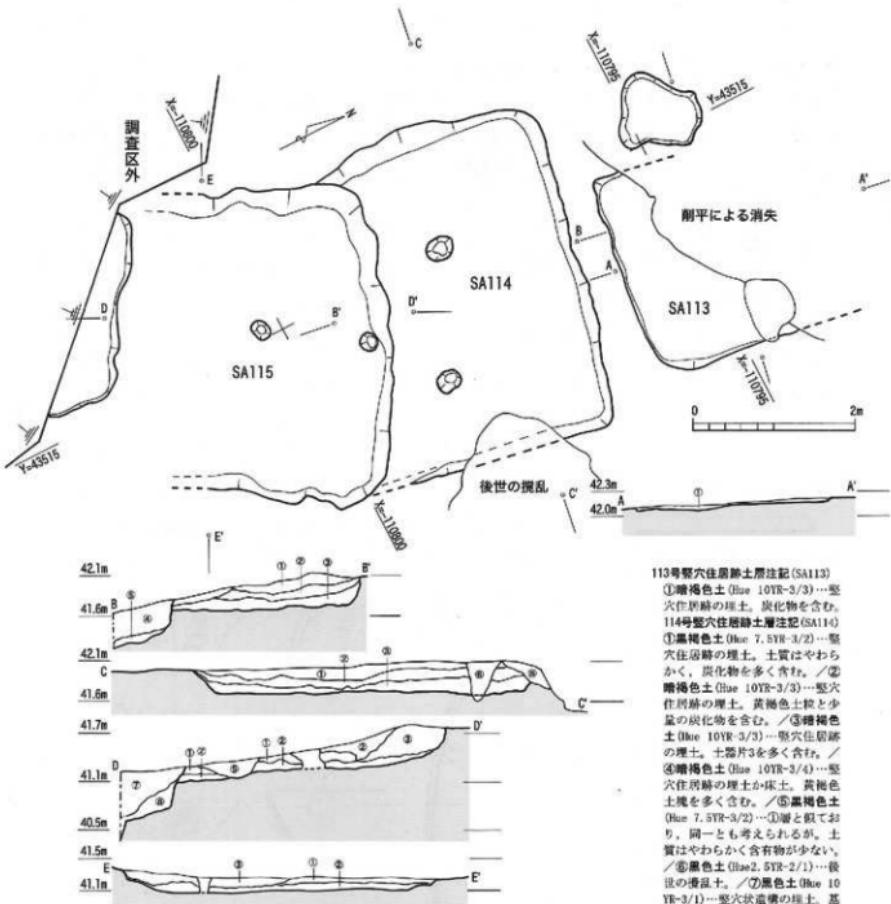
113号竪穴住居跡 (S A113・第150図)

遺構：C群の北側、床面付近のみの検出である。他住居跡との切り合いではなく、独立している。北半分は後世の擾乱及び削平のため、遺構面が消失している。辺長2.6mの南辺が残り、一辺2.6m程度の小型の方形もしくは長方形の平面形態が推測される。この住居跡の床面は、傾斜の低い南半に床面が残ることから、水平ではなくやや南に傾斜していたと考えられる。主軸はN-6°-Eとおよそ南北方向である。

遺物：細片が数点のみが埋土中から出土し、遺構に伴うと判断できうる遺物がなかった。

114号竪穴住居跡 (S A114・第150図・第151図・第152図-874~905)

遺構：C群の中央部に位置する。S A115に南半部を切られ、1/2程度残存している。辺長約4.1mの北辺と西辺・東辺がそれぞれ直交することから一辺4m前後の方形か長方形の平面形態が推測される。主軸はN-7°-EとS A113とほぼ同じく南北方向である。床面で2基の柱穴らしきピットが確認されたが、S A111同様、包含層中から掘り込まれており、後の時期のものと考えられる。遺物は北壁近く、特に北東隅部付近に集中している。



113号竪穴住居跡土層記(SA113)

- ①暗褐色土 (Hue 10TR-5/3)…堅穴住居跡の埋土。炭化物を含む。
- 114号竪穴住居跡土層記(SA114)
- ①黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2)…堅穴住居跡の埋土。土質はやわらかく、炭化物を多く含む。/②暗褐色土 (Hue 10YR-3/2)…堅穴住居跡の埋土。黄褐色土層と少量の炭化物を含む。
- ③暗褐色土 (Hue 10YR-3/2)…堅穴住居跡の埋土。土器片3を多く含む。/④暗褐色土 (Hue 10YR-3/4)…堅穴住居跡の埋土。黄褐色土層と多く含む。/⑤黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2)…①層と似ており、同一とも考えられるが、土質はやわらかく含有物が少ない。
- ⑥黒褐色土 (Hue 2.5YR-2/1)…後世の埋土。土器片2を含む。
- ⑦黒褐色土 (Hue 10YR-3/4)…堅穴住居跡の埋土。基木廻りの土層にも似ている。
- ⑧暗褐色土 (Hue 10YR-3/4)…堅穴住居跡の埋土。

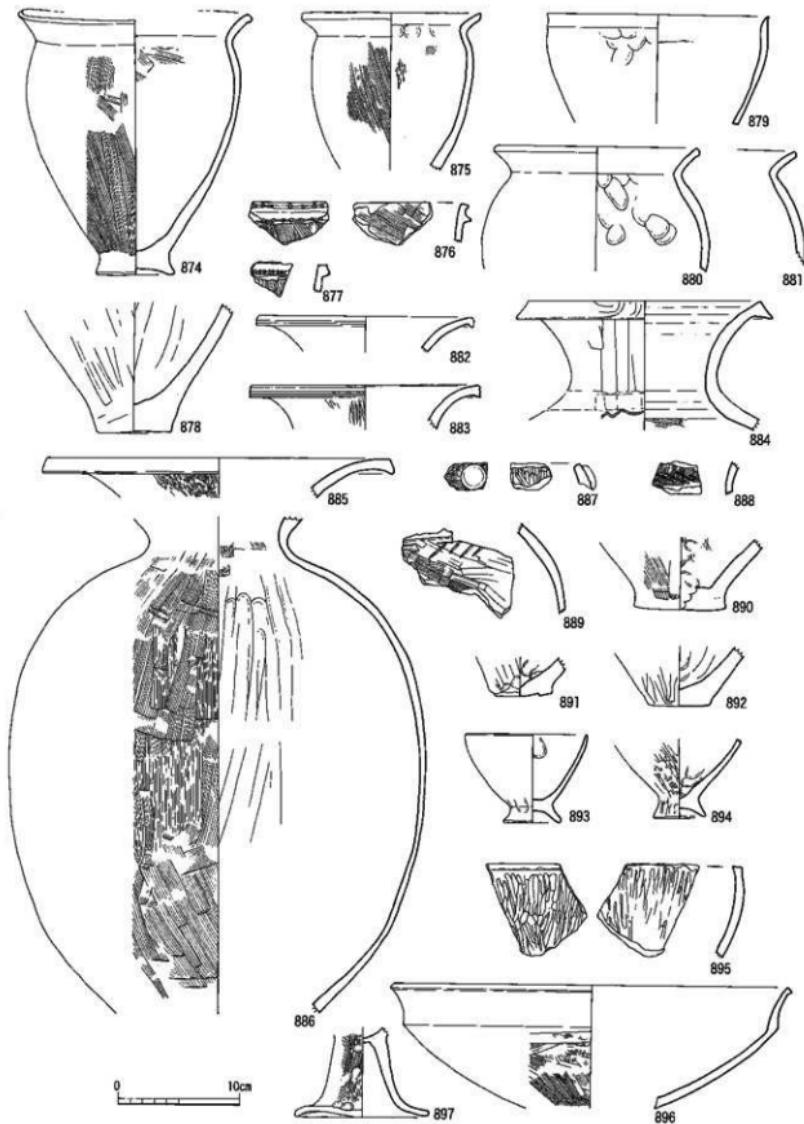
堅穴住居跡の埋土。⑦層に比べて硬くしまり黄褐色土塊を多く含む。/⑧黒褐色土 (Hue 2.5YR-2/1)…後世の埋土。

115号竪穴住居跡土層記(SA115)

①暗褐色土 (Hue 10YR-5/3)…堅穴住居跡の埋土。黄褐色土塊を多く含む。/②暗褐色土 (Hue 10YR-3/3)…堅穴住居跡の埋土。①層と似ているが、炭化物を多く含む。/③にぶい黄褐色土 (Hue 10YR-5/4)…堅穴住居跡の埋土か土末。粘性があり固くなっている。/④黒褐色土 (Hue 7.5YR-3/2)…後世のピットによる擾乱土。

第150図 113・114・115号竪穴住居跡 (SA113・114・115) 図 (1/60)

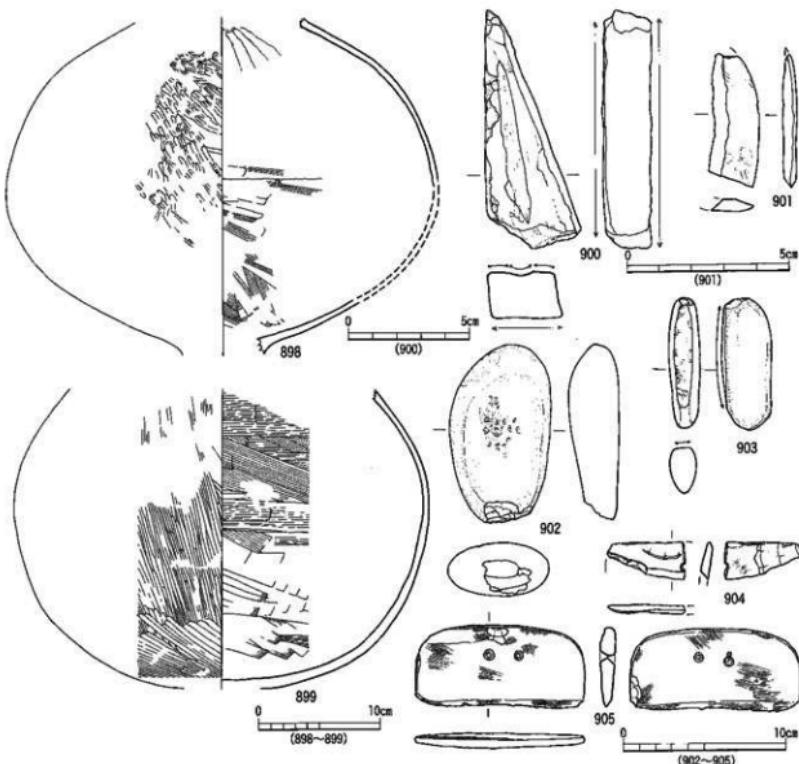
遺物：874～878は壺である。874は口唇部形態B類・口縁部形態B類・底部形態B類の特徴をもつ壺II類である。875は874より小形であるが、口縁部から底部付近までのプロポーションが似ており、874と同じく壺II類である。876・877は口唇部下や口縁部に縦位の刻文をもつ貼付突帯を有し、下城式系の壺の口縁部である。878は底部形態E類である。879は口唇部を尖らせわずかに外反させるが、基本的に内湾しながら立ち上がる口縁部形態C類の鉢である。880～892は壺である。880・881は緩やかに外反す



第151図 114号整穴住居跡 (S A114) 出土遺物図① (1/4)

る口縁部形態D類をもつ壺IV類である。882・883は口縁部であり、口縁部下方に若干拡張し口縁端部に凹線文を施す。884は若干拡張した口縁部をもち、頸部には崩れた櫛描波状文を施す。器面調整はミガキでなく、縦方向の工具ナデを施す。885は壺の口縁部か器台の受部である。886は長胴形の胴部形態A類をもつ。口縁部は欠損しているが、口縁部形態B類のような大きく開くタイプと考えられる。887はわずかに内湾しながら立ち上がる二次口縁部分であり、櫛描波状文の上に円形浮文が施されている。888は頭部、889は胴部である。両方ともにヘラ状工具による斜位の刻文がある。893～895は鉢である。893は口縁部形態C類・底部形態A類をもつ小型の鉢II B類である。895は口縁部形態C類で、内外面にミガキを施す。896・897は高坏である。896は坏部形態B類の坏部である。897は短いながら裾部が大きく開く脚部である。898・899は大形の壺の胴部である。898は底部が欠損しているが、脚台付きの底部形態A類かレンズ状の底部形態C類と考えられる。899は丸底の底部形態D類である。

900は砂岩製の砥石である。平面三角形、側断面長方形を呈する。表裏面にc種研磨痕が認められる。注目すべきは、表面中央部に研磨痕をもつ槌状の窪み（長さ6.5cm・幅0.5cm）がある。本遺跡出土の他



第152図 114号竪穴住居跡 (SA114) 出土遺物図② (1/4・1/2・2/3・1/3)

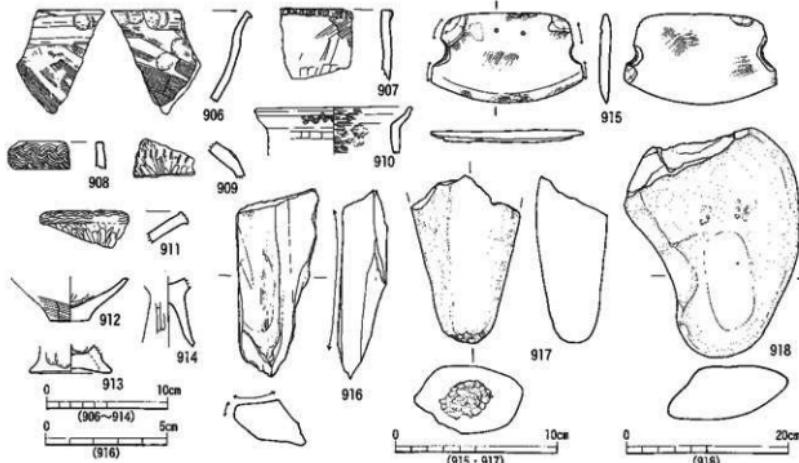
の砥石にはそうした橢状の研磨痕が認められず、特殊な研磨に用いた可能性がある。901は磨製石鎌であり、半分が欠損している。902は砂岩製の敲石であり、表面中央部に敲打痕が認められる。長軸端部には大きく打ち欠いた痕跡があるが、敲打痕とは認められない。903は砂岩製の磨石であり、左側面に磨痕が認められる。904は石庖丁の欠損品である。直線状の背部と曲線状の刃部との距離が短く、何度も刃部を研ぎ直した可能性がある。905は石庖丁ⅠA類（穿孔・弧背直刃型）である。

115号竪穴住居跡（S A115・第150図・第153図-906～918）

遺構：C群の南端に位置し、S A114の南半部を切る形で検出された。南半は造成及び竪穴状造構によって消失し、1/2程度残存している。辺長約4mの北辺から一辺4m程度の規模が想定できるが、西辺・東辺がそれぞれ北辺に直交せず、若干平行四辺形気味を呈する。主軸はN-23°-EとS A113・SA114と少し方向を異にする。

遺物：906・907・910は甕である。906は口唇部に三角状の貼付突帯をついている。907は直立気味に立ち上がる口縁部で、口縁部下に縦位の刻文をもつ貼付突帯を有する。910は一度頸部で大きく「く」字状に屈曲した後に若干内湾しながら立ち上がる口縁部をもつ小型甕である。口縁部に山形に近い輪描波状文を施す。908・909・911・912は壺である。909は器面調整がミガキで、縦位の刻文をもつ肩部である。912は小型壺の底部である。913はおそらくコップ状鉢II類の底部である。914は小型高杯の脚部である。

915は頁岩製II B類（直背曲刃・抉り有り）の石庖丁である。抉りを両端にもちながら、未貫通の紐穴用穿孔をもつ。この未貫通の穿孔行為は製作途中で行ったものか、使用途中で行ったものなのか疑問が残る。916は頁岩製砥石で、表面一面のみに往復作業による凹面の研磨面が認められる。917は砂岩製の敲石で、長軸端部に敲打痕が認められる。918は砂岩製石皿で、表面中央部に敲打痕と長軸12.5cm程度の橢円形の磨痕が認められる。



第153図 115号竪穴住居跡（S A115）出土遺物図（1/4・1/2・1/3・1/6）

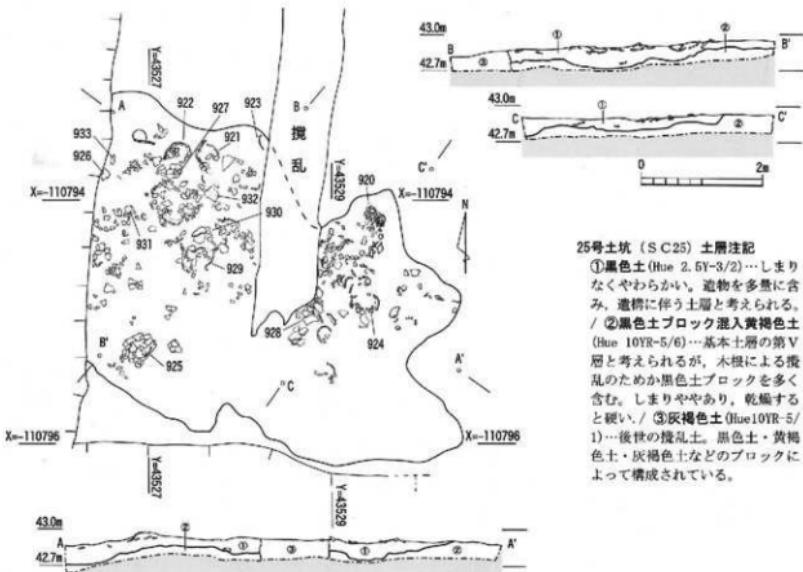
■土坑 (S C25)

D区で1基のみ検出された。D区南辺中央部付近の住居跡群の北側に位置する。

25号土坑 (S C25・第154図・第155図—919~933)

遺構：D区南辺中央部付近、住居跡A群 (S A103~107) の北側に位置する。調査前まで植樹されていた場所で、擾乱されていた。樹木や耕作土を除去したところ、現地表下20~30cm程度のところから多量の弥生土器片を含む黒色土の広がりが検出された。黒色土の広がりは、西側の一部が消失しているが、長軸約3.8m、短軸約2.4m、最深部約20cmの不定形を呈する。出土土器類は北側に集中し、完形に近い壺・壺・鉢がいずれも遺構床面ではなく、床面約10~20cm上から出土した。規模や遺物出土状況から考えて、堅穴住居跡の床面付近の可能性があるが、検出された高低差約10cmの凸凹遺構面は住居跡床面とは判じ難く、土坑として扱う。土坑の性格としては、多量の土器出土状況から考えて、廃棄土坑の可能性を示唆しておきたい。

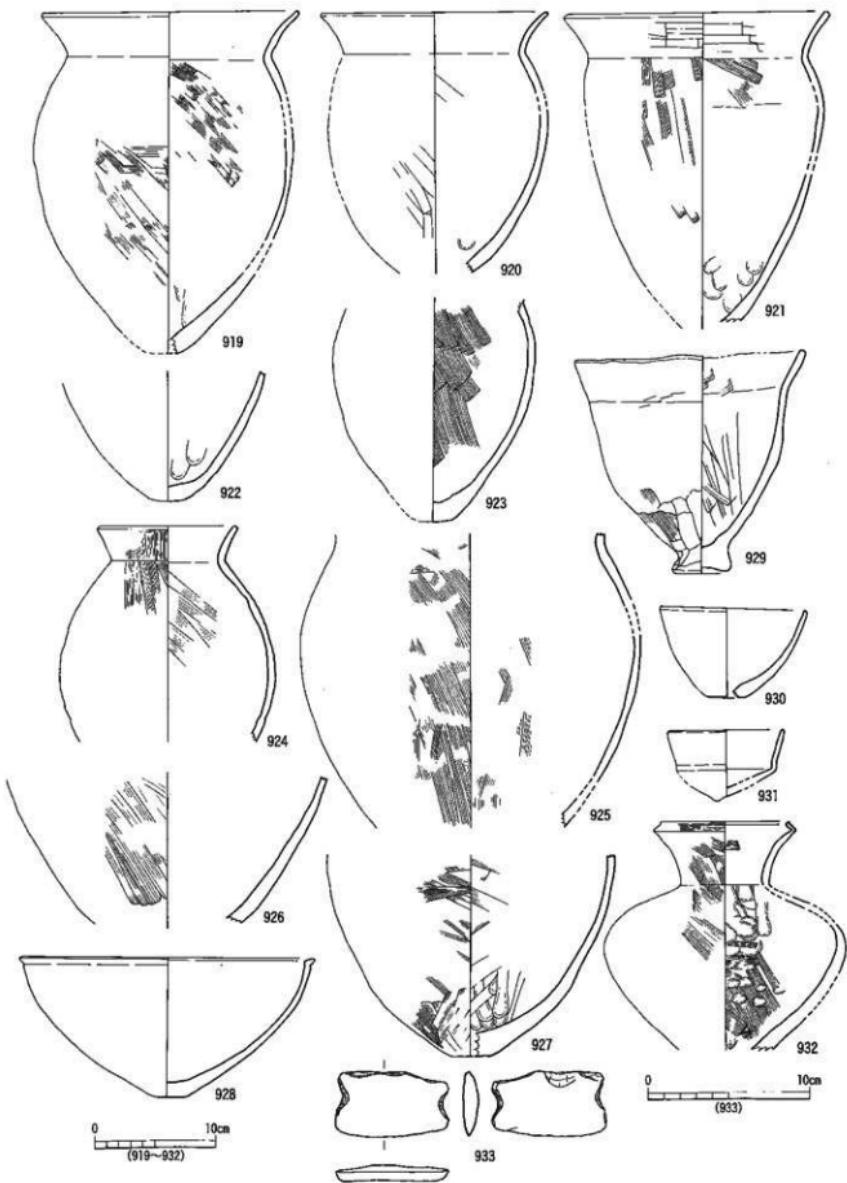
遺物：919~921は壺である。いずれもハケ目による胴部調整、口縁部形態C類・胴部形態C類であり、壺III類と考えられる。922~927・932は壺である。922~925は長形胴の胴部形態A類である。926は胴部下半のみであるが、胴部中位に最大径がくる形の胴部片である。932は二重口縁をもつ壺I類である。胴部形態は偏球形のC類である。928~931は鉢である。928は浅鉢タイプの鉢I C類であるが、口縁部は短く外反し、底部は平底である。929は上げ底で外反する口縁部形態B類の深鉢タイプ鉢I B類である。930は小型の鉢I C類である。931は尖底の底部から胴部下半で一度屈曲し、わずかに外反しながら立ち上がる特殊な形態である。壺の可能性もある。933はII C類（抉りあり・直背直刃）の石庖丁である。



25号土坑 (S C25) 土層注記

- ①黒色土 (Hue 2.5Y-3/2)…しまりなくやわらかい。遺物を多量に含み、遺構に伴う土層と考えられる。
- ②黒色土ブロック混入黄褐色土 (Hue 10YR-5/6)…基本土層の第V層と考えられるが、木根による擾乱のためか黒色土ブロックを多く含む。しまりややあり、乾燥すると硬い。
- ③灰褐色土 (Hue 10YR-5/1)…後世の擾乱土。黒色土・黄褐色土・灰褐色土などのブロックによって構成されている。

第154図 25号土坑 (S C25) 図 (1/40)



第155図 25号土坑 (SC 25) 出土遺物図 (1/4・1/3)

D区包含層出土の土器（第156図・第157図-934～1002）

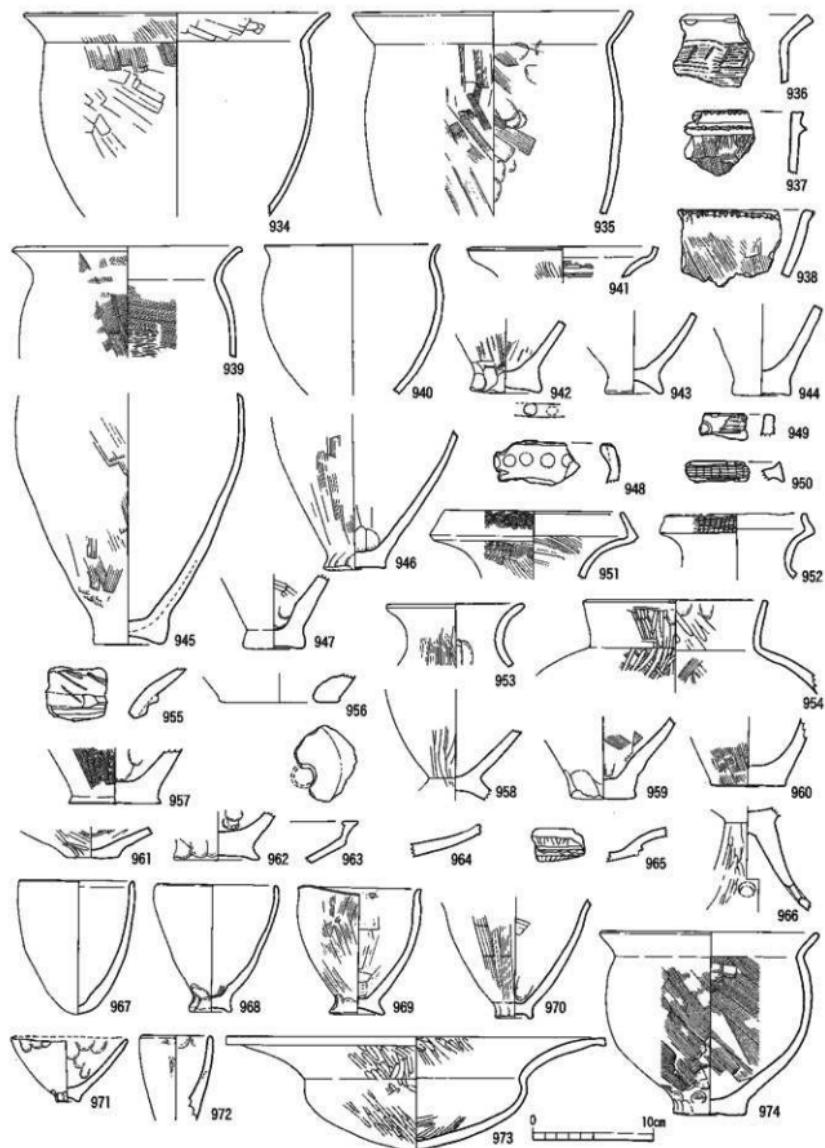
D区では、先述したが、大きく3か所で遺物が集中して出土した。これを1～3地点と名付け、地点別に述べる。

（1）1地点（第156図・第157図-934～988）

D区堅穴住居跡群が密集するD11・E11・F11・D12・E12・F12区である。934～947は甕である。（934・935・939は口縁部形態B類の口縁部である。934は工具ナデ、935・939はハケ目を施す。936は平面状の口唇部形態B類に口縁部形態A類をもつ。外面には斜位の連続刻目文と斜方向のハケ目を施す。937・938は他の甕の口縁部のように頸部で屈曲しないタイプである。937は肥厚した口唇部と口縁部下に1条の三角状の貼付突帯上に連続刻目文を施す下城式系の口縁部である。938は肥厚した口唇部に連続刻目文を施す。940は口縁部を指で摘み上げたように小さく緩やかに外反させる比較的小型の甕である。942～947は底部である。942は指ナデによってわずかに端部が張り出した底部形態B類である。944・946は底部形態E類で、946は縦方向のハケ目と平行タタキの両方を施す。945は底部形態C類である。）948～962は壺である。948は内湾しながら立ち上がる二次口縁部の外側と口唇部に円形浮文を施す。949は直立しながら立ち上がる二次口縁部に三角形幾何学文と円形の竹管文を施す。950は上下方向に拡張した口縁部に押引き状の文様を施す。952は内傾しながら立ち上がる口縁部に950と同様の押引き状の文様を施す。953は口縁部形態D類の口縁部である。954は口縁部形態E類の短頸タイプの口縁部であり、外面にミガキを施す。955は大きく外反する口縁部で、1～2条の貼付突帯を施す。956は底部に穿孔をもつが、穿孔位置が中央部ではなく端部に寄っている。958は脚台状上底で底部形態A類の底部である。963～966は高杯である。963は直立気味に口縁が立ち上がる坏部形態A類の口縁部である。964は口縁部が欠損しているが、963同様、坏部形態A類の口縁部であると考えられる。967～974は鉢である。967～970・972は深鉢で、鉢II類である。967は丸底で内湾しながら立ち上がる口縁部をもつ鉢II B類である。968・969は脚台状上底に直立もしくは内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。971・973は浅鉢で鉢I類である。971はつまみによって持ち上げた底部に逆「ハ」字状に広がる口縁部をもつ。973は口縁部形態A類・底部形態D類の鉢I A類である。974は甕と鉢の中間形態のような鉢II B類である。975～977は器台である。975は上下2段に透かしをもち、寸胴で器高の低いタイプである。978は蓋部である。鉢のようでもあるが、内面上部付近の調整が比較的粗雑なことから蓋として扱うこととした。979～986は小型土器である。979は短く外反する口縁部で、外面に縦方向のミガキを施す。986は底部である。底面端部に1か所穿孔が認められる。孔は径4mm程度、中心部に向かって斜めに穿たれている。987は杓子状土器の柄部である。一面に縦方向のナデ調整が施されている。988は不明土製品である。現存長5.3cm・幅1.3cmの直方体に近い形状をなす。わずかにカーブを描き、何かの柄になるようにも見える。

（2）2地点（第157図-989～996）

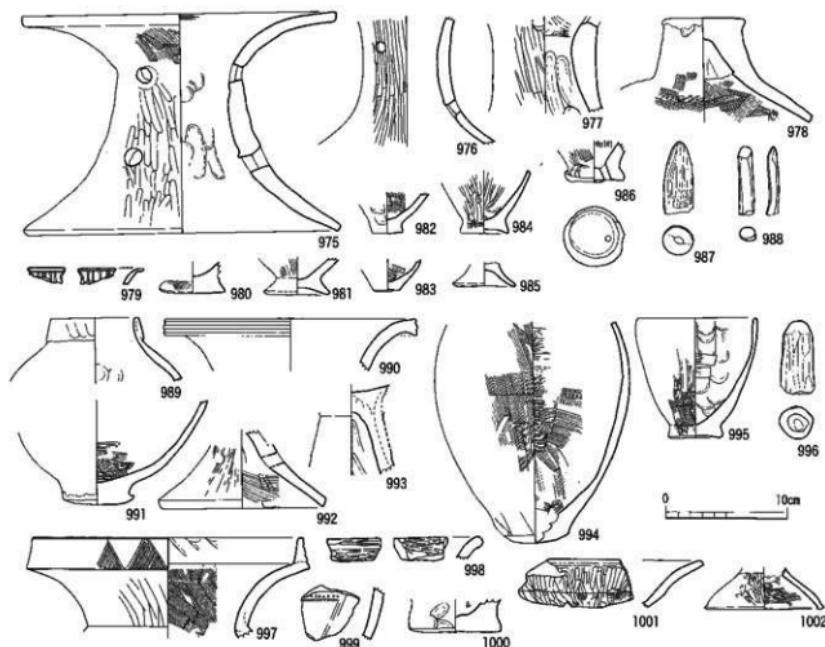
D区南東部、I11区に谷地形の跡が検出され、落ち際の緩斜面から土器が集中して出土した。989～991・994は甕である。989は端部を折り返すように肥厚させる口縁部形態E類の口縁部である。990は口唇部に凹線文を施す口縁部形態B類の口縁部である。991は円盤状の貼付状底部をもつ。994は長形胴をもつ胴部形態A類とレンズ状の底部形態C類をもつ。992・993は高杯の脚部である。995は鉢であり、鉢II B類である。996は杓子状土器の柄部である。



第156図 D区包含層出土遺物図① (1 / 4)

(3) 3地点 (第157図-997~1002)

D区西部、A10・B8・B9・B10区で遺構は検出されなかったが、緩斜面にわずかに基本層序の第IV層以下が残っており、そこから土器が集中して出土した。997は壺である。二重口縁部に三角形の幾何学文を施す。998は壺の口縁部で、内外面に横方向のミガキを施す。999はおそらく鉢と考えられる。横と斜方向の沈線と列点文の組合せ文を施す。1001は高环の坏部である。明瞭な屈曲点をもたない坏部形態C類をもつ坏部の口縁部である。1002は外面にミガキを施す蓋部と考えられる。



第157図 D区包含層出土遺物図② (1/4)

(5) E・F区の調査 (第158図～第172図)

E・F区は北ブロック北西側に位置し、X軸は2～11ラインを、Y軸はC～Lラインを包含する3,450 m²の調査区である。D区とは南辺で接地する。

調査は2次調査において実施した。調査前の状況は、F区中央部にコンクリート基礎のハウス1棟、E区に管理棟と倉庫が各1棟、周辺に畑地が広がっており、地形はほぼ水平であった。建物部分のコンクリート基礎と畑地の耕作土を重機により除去したところ、調査区域の大半は削平され、アワオコシスコリア層とイワオコシスコリア層（基本層序の第VII層・第IX層）が面的な広がりをみせていた。辛うじてE区の北側と西側に基本層序の第IV層以上の包含層が確認された。こうした状況を考えると、F区は、D区同様、B区南部を突端部とする入り組んだ丘陵地であり、その丘陵部はD・E・F区の境界付近が頂部になると推定される。そして、F区西側は丘陵地の西斜面、F区北側はB・D区丘陵地の後背斜面と考えられる。

検出された遺構は、竪穴住居跡5軒（SA116～SA120）、土坑5基（SC26～30）、炉穴1基で、出土した遺物から竪穴住居跡と土坑は弥生時代、炉穴は縄文時代に帰属するものと考えられる。

以下に検出された遺構と遺物について若干の説明をくわえる。竪穴住居跡と土坑の計測値は第3表に、遺物の観察表・計測表は第4表～第32表に掲載している。なお、縄文時代に帰属すると考えられる炉穴は後述「第6節 旧石器～縄文時代の調査」に掲載している。



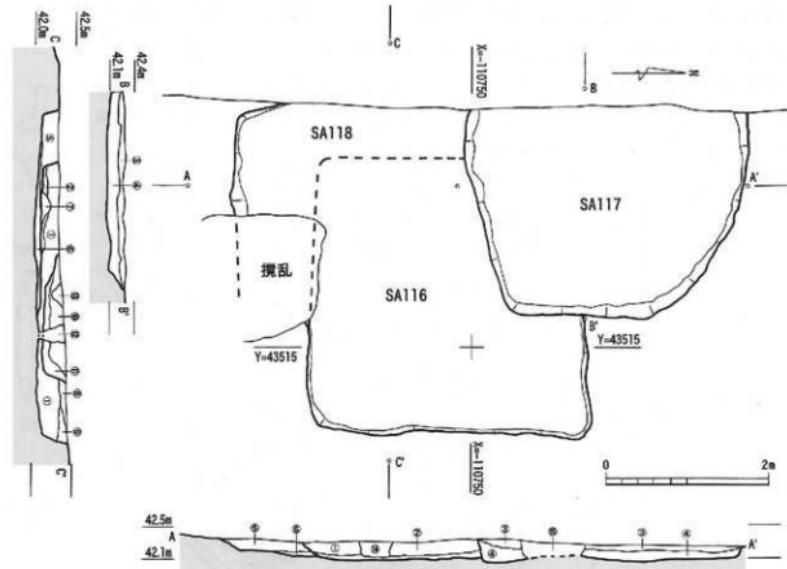
第158図 E・F区遺構配置図 (1/600)

■豎穴住居跡（S A116～S A120）

F区全体で5軒検出された。いずれもF区南西部付近に集中する。他区の豎穴住居跡同様、S A119・S A120は独立しており、S A116～118は重なり合っており、S A118→S A116→S A117の順で切り合っていたと考えられる。住居の規模と平面形態は切り合いにより全体像が把握できないものが多く不明であるが、S A116とS A120は一辺3.5m程度の方形、S A117は長径3.5m程度の不整形であるように全てが方形というわけではない。柱穴は他の住居跡群同様、確認されなかった。

116号豎穴住居跡（S A116・第159図・第160図—1003～1024）

遺構：C7グリッドで検出された。S A118を南西部で切り、北西部をS A117によって切られており、遺構の西側が搅乱されている。辺長約3.5mの東辺に直交する北辺と南辺が残存しており、平面形態は方形と推定できる。主軸はほぼ南北方向のN 2° Eである。

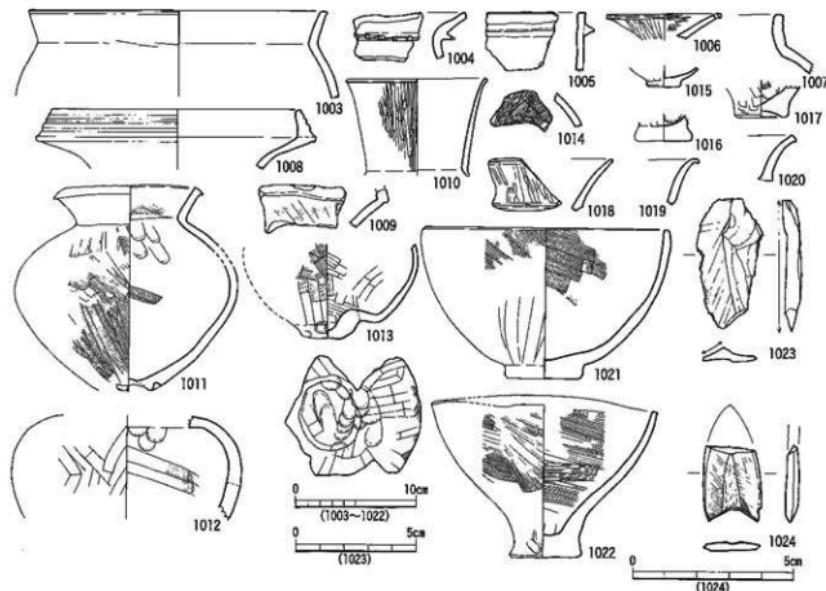


116～118号豎穴住居跡土層注記(S A116～118)

- ①黒褐色土(Hue 2.5Y-3/2)…S A116の埋土。下部にわずかに炭化物を含む。／②オリーブ褐色土(Hue 2.5Y-4/3)…S A116の埋土か床土。上部に土器片を含む。基本層序の第V層の土塊をわずかに含む。／③黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…S A117の埋土。無色透明粒、炭化物と土器片を多く含む。／④暗褐色土(Hue 10YR-3/4)…S A117の埋土か床土。2～3mm程の乳白色粒と炭化物を多量に含む。／⑤オリーブ褐色土(Hue 2.5Y-4/3)…S A118の埋土。土器片を多量に含む。／⑥黄褐色土(Hue 2.5Y-5/4)…S A118の埋土か床土。基本層序の第V層の土塊を多量に含む。／⑦黒褐色土(Hue 10YR-3/2)…土器片を含むが、土質はボコボコしており、木根などの搅乱と考えられる。／⑧黒褐色土(Hue 10YR-4/6)…S A116の埋土。下部に土器片を含む。／⑨灰褐色土(Hue 5Y-4/1)…S A116の埋土。上部に土器片を含む。／⑩褐色土(Hue 10YR-3/3)…わずかに炭化物を含む。別の遺構（土坑など）の可能性がある。／⑪オリーブ褐色土(Hue 2.5Y-4/4)…黄褐色土塊を含む。／⑫同様の遺構（土坑など）の可能性がある。／⑬黒褐色土(Hue 10YR-4/6)…後世の搅乱土。木根痕跡の可能性がある。／⑭黒褐色土(Hue 10YR-4/6)…後世の搅乱土。

第159図 116・117・118号豎穴住居跡（S A116・117・118）図（1/60）

遺物：1003～1005は甌である。1003は明瞭に屈曲する頸部に平坦状の口唇部をもつ口縁部形態A類である。1004は頸部で大きく屈曲しながら外反する口縁部で、頸部に斜位の刻目をもつ貼付突帯を施す。1005は直立気味に立ち上がる口縁部で、頸部に縦位の刻目をもつ貼付突帯を施す。1006～1014は壺である。1008は二次口縁部に回線文を施す。1010は縦方向に丁寧なミガキを施した長頸壺の口縁部である。1011は小さく外反する口縁部形態C類に偏球形胴の胴部形態C類をもつ甌II類である。1013は胴部～底部片であるが、底部が左右非対称で不整形に歪んでいる。意図的なものとは考えにくく、偶発的に発生したものと考えられる。1015は肩部であり、ミガキ調整の上にヘラ描きの幾何学文が施されている。1015～1017は小型土器片であり、1015は円盤貼付状平底の甌の底部で、1016は端部が外反する平底の甌または鉢の底部で、1017は上底の甌の底部である。1018～1020は高坏であり、いずれも一度明瞭に屈曲した後に外反しながら立ち上がる坏の口縁部である。1021・1022は鉢である。1021は現代のドンブリのように内湾しながら立ち上がる器形で、底部は円盤状平底をもつ。1022は緩やかなS字を描きながら外側に開く器形をもつ。鉢としているが、D区包含層出土978と形態が似ており、蓋の可能性もある。1023は砥石である。頁岩製で、表面1面のみに研磨面をもち、本遺跡分類のII類（不定形剥片砥石）に該当する。1024は磨製石鎌である。頁岩製で、先端部が欠損している。



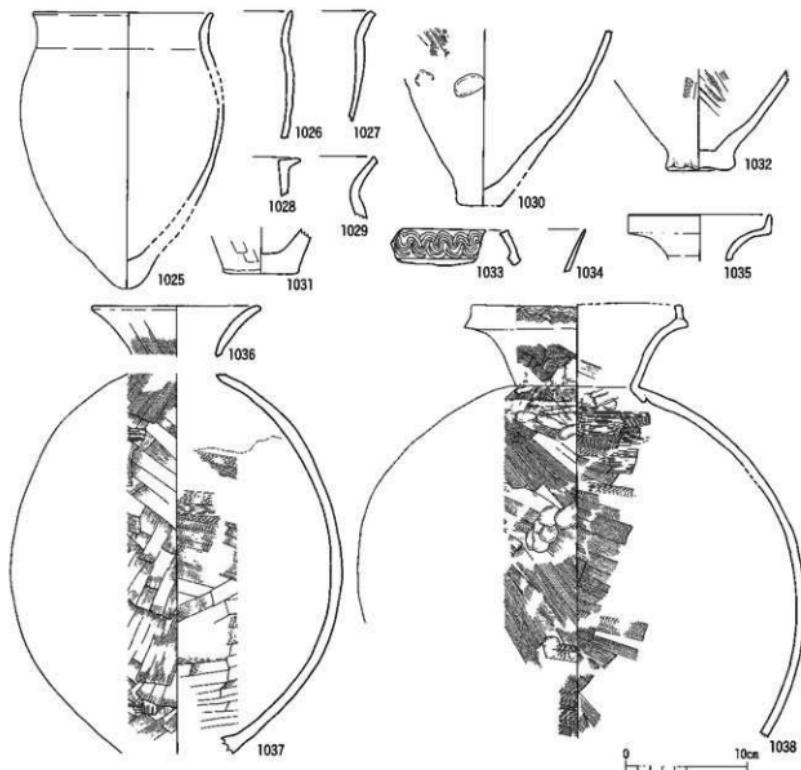
第160図 116号竪穴住居跡 (SA 116) 出土遺物図 (1/4・1/2・2/3)

117号竪穴住居跡 (SA 117・第159図・第161図・第162図-1025～1052)

遺構：南側でSA 116とSA 118を切る形で検出された。西側は後世の造成によって攢乱されており消失している。東辺は直線的になっている部分はあるが、残っている北・東・南辺は弧状を呈する。西側

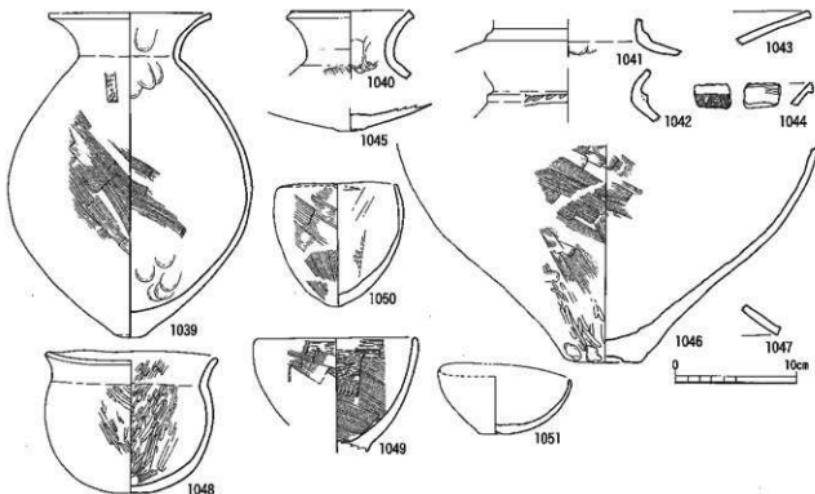
が検出できず平面形態は不明であるが、本遺跡の主流である方形や長方形でなく、最大径約3.5mの不定形だと推察される。遺物は遺構やや南寄りの中心部分に集中している。不整形の平面形態や遺物が中央付近に集中して出土していることから考えて、土坑の可能性も考えられるが、床面から直立気味に壁が立ち上ることから、堅穴住居跡と考えられる。

遺物：1025～1031は壺である。1025は、薄く尖る口唇部形態C類、緩やかにS字状に屈曲する口縁部形態C類、長胴で胸部上半に最大径がくる胸部形態C類、尖底の底部をもつ壺III類である。1026・1027も口縁部形態C類をもつ。1028は逆L字状に開く口縁部である。1030は底部形態E類をもつ。1032～1046は壺である。1036・1037は同一個体であると考えられる。大きく外反する口縁部形態C類、長形胴の胸部形態A類をもつ壺II類である。1038は二次口縁部に櫛描波状文を施す口縁部形態A類、球形胴の胸部形態B類をもつ壺I類である。1033は内湾しながら立ち上がる二次口縁部であり、大きくうねる櫛描波状文を施す。1035は二重口縁のII縁部形態A類であるが、やや小型であり、直立気味に立ち上がる二次口縁部は無文である。1034は外側にわずかに開きながら伸びるやや小型壺の口縁部である。器壁は



第161図 117号堅穴住居跡 (SA 117) 出土遺物図① (1/4)

薄く櫛描波状文が描かれている。1039は口縁部形態B類に長形胴の胸部形態A類、レンズ状平底の底部形態C類をもつ壺I類である。1041・1042は頸部である。1041は頸部に貼付状突起らしき膨らみが認められる。1042も1041同様、頸部に突起をもつが、更に斜位の刻目をもつ。1044は下部に拡張した口唇部に回線文が施されている。1047は小片ではあるが、おそらく高环の坏部片である。1048～1052は鉢である。1048は頸部で屈曲する口縁部形態B類をもつ鉢I B類である。1049～1052は内湾しながら立ち上がる口縁部形態C類である。1050は底部が丸底で砲弾形を呈する鉢I C類である。



第162図 117号堅穴住居跡 (SA 117) 出土遺物図② (1/4)

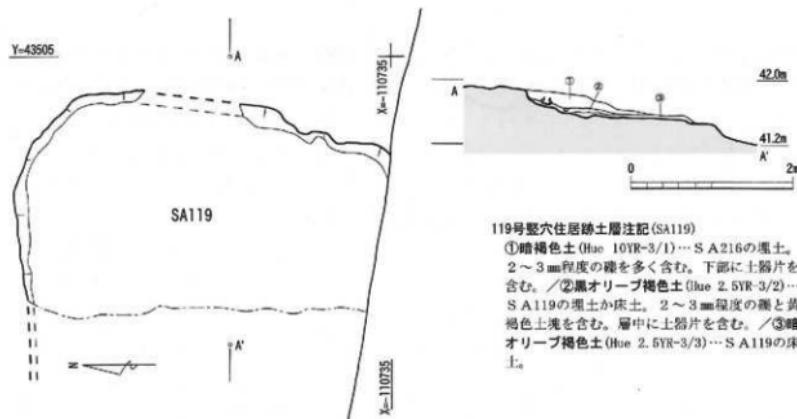
118号堅穴住居跡 (SA 118・第159図)

遺構: 北側をSA 117に北東をSA 116に切られ、西側を後世の造成で、東側を後世の擾乱で消失した形で検出された。わずかに南西部が残る程度である。南西コーナーが残存しており、辛うじて方形もしくは長方形だと推測される以外は規模など不明な点が多い。

遺物: 細片が数点のみが埋土中から出土し、遺構に伴うと判断できうる遺物はなかった。

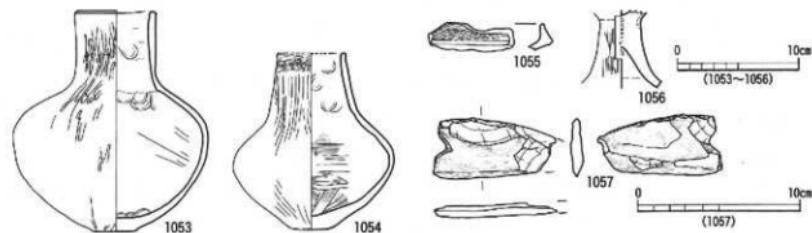
119号堅穴住居跡 (SA 119・第163図・第164図-1053～1057)

遺構: 北F区中央部西側、C5グリッドに位置する。他の堅穴住居跡と重ならず独立しているが、西側は後世の造成、南側は擾乱によって消失しており、約1/2程度の残存状態である。平面形態は、辺長約4.5mの東辺と部分的に残っている北辺より、一边4.5m程度の方形または長方形であると推測できる。ただし他の堅穴住居跡と違い、角張った方形ではなく、角が丸い隅丸方形の平面形態である。検出面は比較的傾斜があるが、床面をほぼ水平に設けている。遺物は北壁近くと東壁近くで出土した。完形に近い壺2点(1053・1054)が出土するなど、残存状況は悪くはないと考えられるが、10～15cm程度の自然疊が多く含まれており、廃絶した住居跡にしては若干不自然な検出状況である。



第163図 119号竪穴住居跡 (SA119) 図 (1/60)

遺物：1053～1055は壺である。1053は直立する短頸壺で、偏球洞の胴部形態C類、レンズ状平底の底部形態C類をもつ壺VI類である。器面調整はミガキを施す。1054も1053とほぼ同様の形態で、口縁がわずかに窄む。口縁上部に櫛描波状文を施す。3は口縁部形態A類の二次口縁部であり、櫛描波状文を施す。1056は小型の高壺の脚部である。1057は頁岩製の石庖丁である。製作時の形態なのか、刃の研ぎ直しによるものかわからないが、右側縁に向かって細くなっていく平面形態をもつ。表面は剥離が多いが、赤化が認められる。原石によるものか、研磨時に鉄分などに反応したのか不明である。

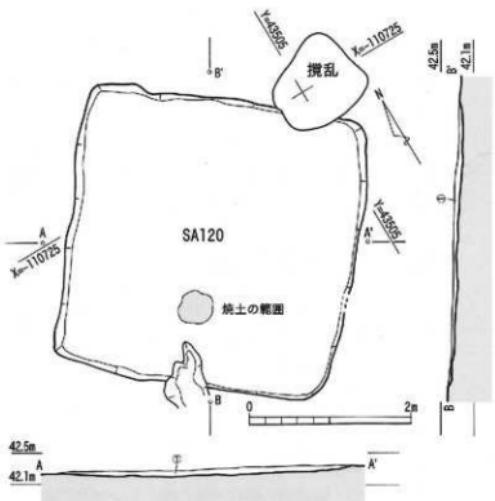


第164図 119号竪穴住居跡 (SA119) 出土遺物図 (1/4・1/3)

120号竪穴住居跡 (SA120・第165図・第166図-1058～1062)

遺構：F区中央付近、D4グリッドに位置する。先述したが、F区は北端と西端部を除いて、削平により基本層序第IV層以上の包含層が消失している。そうした場所の基本層序第VI層から多くの遺物を伴って検出された。平面形態は一辺約3.5mの方形を呈する。しかし、掘り下げを行ったところ、埋土は数cm程度しか存在せず、遺構剖面が検出された。このことから、この住居跡は、後世の削平によって床面付近だけが残った竪穴住居跡と考えられる。遺物は東側を中心に検出された。

遺物：1058は壺である。緩やかに「S」字状に屈曲する口縁部形態C類、胴部上半で最大径がくる長形壺の胴部形態C類をもつ壺III類である。1059は短く緩やかに外反する口縁部形態C類、胴部中心に最



120号堅穴住居跡(SA120)

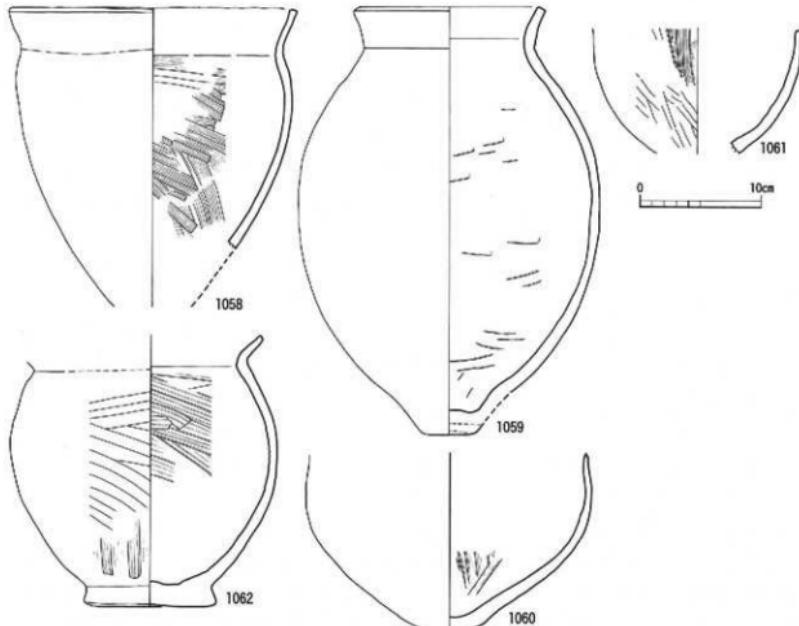
①褐色土(hue 10YR 4/4)…周辺の土層(基本層序の第VI層)似ているが、わずかに色調が明るい。床面付近のみの検出と考えられる。

第165図 120号堅穴住居跡(SA120)図(1/60)

大径がくる長形胴の胴部形態A類、平底の底部形態D類をもつ壺III類である。1060は平底とレンズ状平底の中間形態での底部をもつ、胴部は下半しかないが、形態から考えて頭部で短く外反する鉢であろう。1061は鉢か壺の胴部である。1062は壺と鉢の中間形態のような土器である。短く外反する口縁、球形胴、円盤状平底をもち、器面調整には工具ナダを施す。

26号土坑(S C26・第167図-1063)

遺構: F区南西部、5Dグリッドで検出された。長径80cm・短径65cmの鶏卵形を呈する。深さは検出面から約10cmと浅めである。埋土は大きく2層に分かれ、層の境



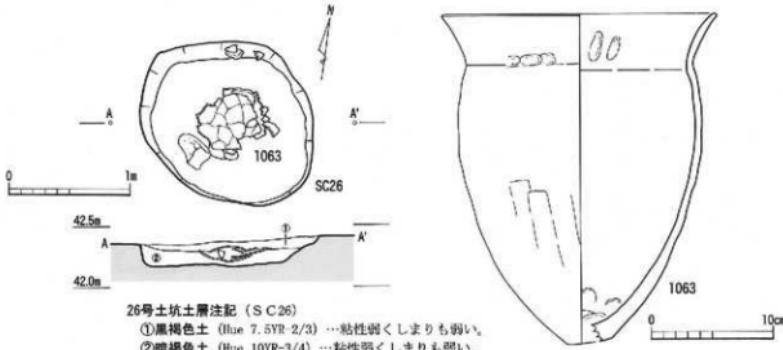
第166図 120号堅穴住居跡(SA120)出土遺物図(1/4)

界付近に完形に近い壺（1063）が潰れた状態で出土した。壺の割れた隙間には、炭化物を多く含む黒色土と焼けたような礫が1個検出された。この黒色土と割れた礫は、壺が割れる前に入っていたと考えられる。

遺物：壺が1点のみ出土した。薄くのびる口唇部形態C類、緩やかに「S」字状に屈曲する口縁部形態C類、長形胴で上部に最大径がくる胴部形態C類の特徴をもつことから、壺III類だと考えられる。

27号土坑（SC27・第168図-1064～1070）

遺構：F区西南西部、5Dグリッドで3基が集中した形で検出された。北側と西側が後世の擾乱で消失している。SC28の北辺がSC29の南辺を切っている以外は個々が独立した状態である。SC27は西側が一部消失した形で検出された。長軸約110cm、短軸推定約80cmの涙滴形を呈する。深さ約10cmで、埋土はやわらかい黒色土である。遺物は中央部より鉢（1064）が1点出土した。



26号土坑土層注記（SC26）

- ①黒褐色土（Hue 7.5YR 2/3）…粘性弱くしまりも弱い。
- ②暗褐色土（Hue 10YR 3/4）…粘性弱くしまりも弱い。
- ③層に比べて色調が明るく、炭化物を含む

第167図 26号土坑（SC26）図（1/40）及び出土遺物図（1/4）

遺物：1点のみの出土である。1064は鉢である。口縁部が内湾しながら立ち上がる鉢I C類であるが、口縁端部がわずかに外反する。

28号土坑（SC28・第168図-1065）

遺構：SC28の平面形態は、北東側が一部擾乱によって消失しているが、一辺約180cmの方形である。深さは約10cmで、埋土はやわらかい黒色土である。遺構面は比較的水平であり、竪穴住居跡の可能性も考えられたが、埋土が短期間で埋まったような單一層であったので土坑と判断した。遺物は、東壁付近より壺の一部（1065）、中央部付近より自然礫が3個集まった形で出土した。

遺物：1065は壺の胴部～底部である。ほぼ平底ではあるが、若干上底状で端部をわずかに張り出した底部形態B類とD類の中間的特徴をもつ。

29号土坑（SC29・第168図-1066～1070）

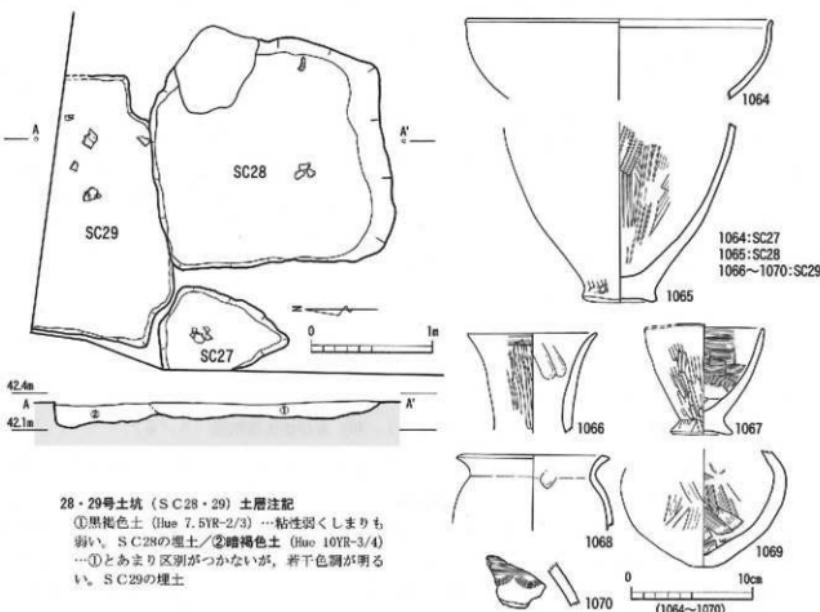
遺構：SC29は、南辺がSC28によって、北側の大部分が後世の擾乱によって消失している。正確な規模と平面形態は不明であるが、東西長220cm、南北の現存長115cmと3基の土坑の中では一番大きい。SC29もSC28同様、竪穴住居跡の可能性も考えられたが、同様の理由で土坑と判断した。遺物は南東

部分に散在した状態で出土した。

遺物：1066は長頸壺の口縁部で壺V類である。1067は鉢II B類で、上底気味で端部を摘み出した形態の底部をもつ。1068は短く外反する口縁部形態C類をもつ壺III類である。1069は壺の胴部～底部である。偏球脛の胴部形態C類とレンズ状平底の底部形態C類の特徴をもつ。1070は壺の肩部である。沈線による重弧文が施されており、免田式壺の一種である。

30号土坑（S C30・第169図-1071～1078）

遺構：F区北西隅に位置する。調査時の不手際で図化できなかったが、長軸約4m、短軸約2.5m、アーメバー状の不定形を呈する。埋土は、平面形状がドーナツ状に2層に分かれ、中心部が黒灰色土で小さな土器片を多量に含み、周辺部が黒褐色土で形の判別できるような大きめの土器片が多く含まれる。

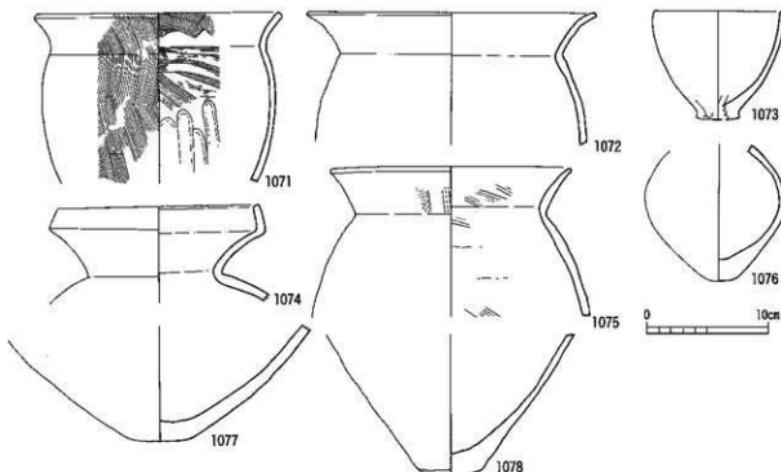


第168図 27・28・29号土坑（S C27・28・29）図（1/40）及び出土遺物図（1/4）

遺構の性格については不明であるが、中央部の黒灰色は灰質土で被熱の可能性が大いに考えられる。ただし、遺構周辺の包含層は著しく擾乱され、果たして土器年代の示すような時期の遺構であるか疑問が残る。例えば畑地耕作時に出てきた土器類をゴミと一緒に焼却しようとした土坑など、後世の土坑である可能性が大きい。

遺物：1071～1072・1075・1079は甕である。1072・1075は上方に薄くのびる口縁部に器面調整に平行タキを施す。甕III類だと考えられる。1071は緩やかに「く」字状に屈曲しながら立ち上がる口縁部形態B類をもつ。器面調整は縦方向のハケ目である。1079は壺のように大きく広がる底部ではあるが、底

部形態E類の特徴をもつ甕の底部である。器面調整は平行タタキを施す。1074・1076・1078は甕である。1074はわずかに内湾しながら立ち上がる二次口縁部をもつ。二次口縁部には櫛描波状文を施す。1076は小型甕である。レンズ状の底部形態C類を特徴的にもつ。1078は大きく開きながら立ち上がる底部であり、平底の底部形態B類をもつ。1073は鉢である。内湾しながら立ち上がる鉢II B類で、半底で端部をわずかに摘み出す底部形態をもつ。

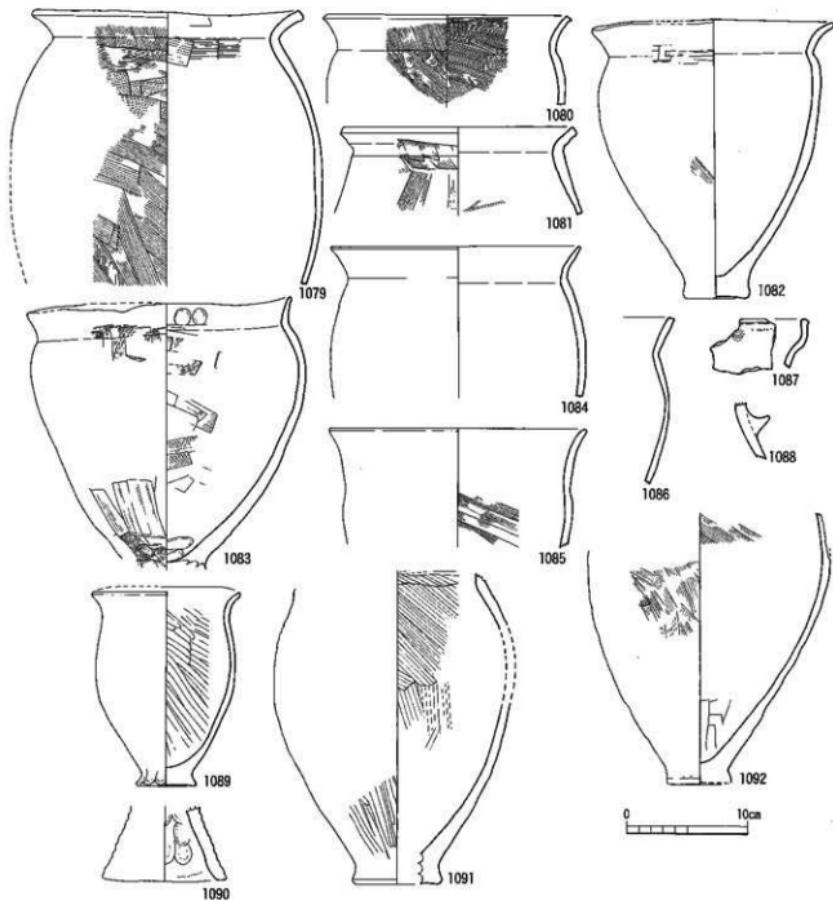


第169図 30号土坑 (S C 30) 出土遺物図 (1/4)

F区包含層出土の土器 (第170図～第172図-1079～1140)

F区では、造構外からの遺物が主に西側と北側の傾斜面に集中して出土した。ここでは一括して扱う。1079～1092は甕である。1079・1081は、短く屈曲する口縁部をもつ甕I類である。器面調整はハケ目を施す。1080は緩やかに屈曲する口縁部B類をもち、器面調整はハケ日を施す。1081は短く屈曲する口縁部A類をもつ甕I類だと考えられる。1082は、胴部上半で最大径がくる胴部形態C類をもち、口縁部は短く外反する。1083は短いII縁部に、胴部上半で最大径がくる胴部形態C類をもつ。1084は長く緩やかに屈曲する口縁部形態C類をもち、外面には平行タタキを施す。1087は外反しながら直立気味に立ち上がる口縁部である。外面II縁部に櫛描波状文を施している。1088は断面形が角状に立ち上がる1条の突帯をもつ頭部である。1089は小型の甕である。1090は器面調整に平行タタキを施す甕の脚台部分だと考えられる。1091・1092は胴部～底部である。いずれも長形胴タイプではあるが、最大径の場所が若干違う。脚部形態は、ともに張り出しをもつ平底のD類である。1091は底部付近に縦方向のミガキを施す。

1093～1104は甕である。1093は口縁部が大きく開くタイプの甕II類の直口口縁並である。口唇部は凹面状にくぼみ、球形胴に平底をもつ。1094は甕I類の二重口縁甕の二次口縁部であり、櫛描波状文の上に円形浮文を装飾する。1095は口縁部形態B類をもち、その口唇部に櫛描波状文を施し、その上に縦位の貼付突帯文を施す。1096・1097は二次口縁部に凹線文をもつ甕I類の口縁部である。1099は甕V類の



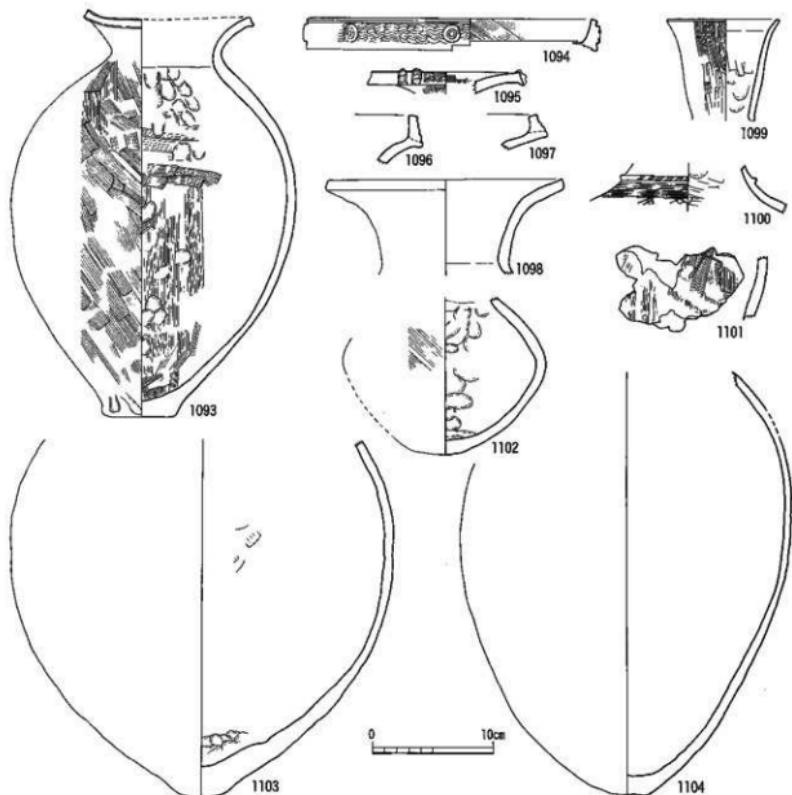
第170図 F区包含層出土遺物図① (1/4)

長頸壺である。1100は壺の肩部であり、斜位の刻文をもつ貼付突帯・横走する数条の沈線文・三角形を基調とする幾何学文を施す。1101は壺の胴部か頸部であり、縦方向のハケ目が全体に施されているが、その上側に「×」のようなヘラ書き文らしきものが認められる。1102・1103・1104は胴部であり、1102は球形壺であるが、わずかに最大径部が「く」字状に曲がっている。1103は球形の胴部形態B類の胴部に尖底気味の底部をもつ。1103は長形の胴部形態A類の胴部に平底気味の底部をもつ。

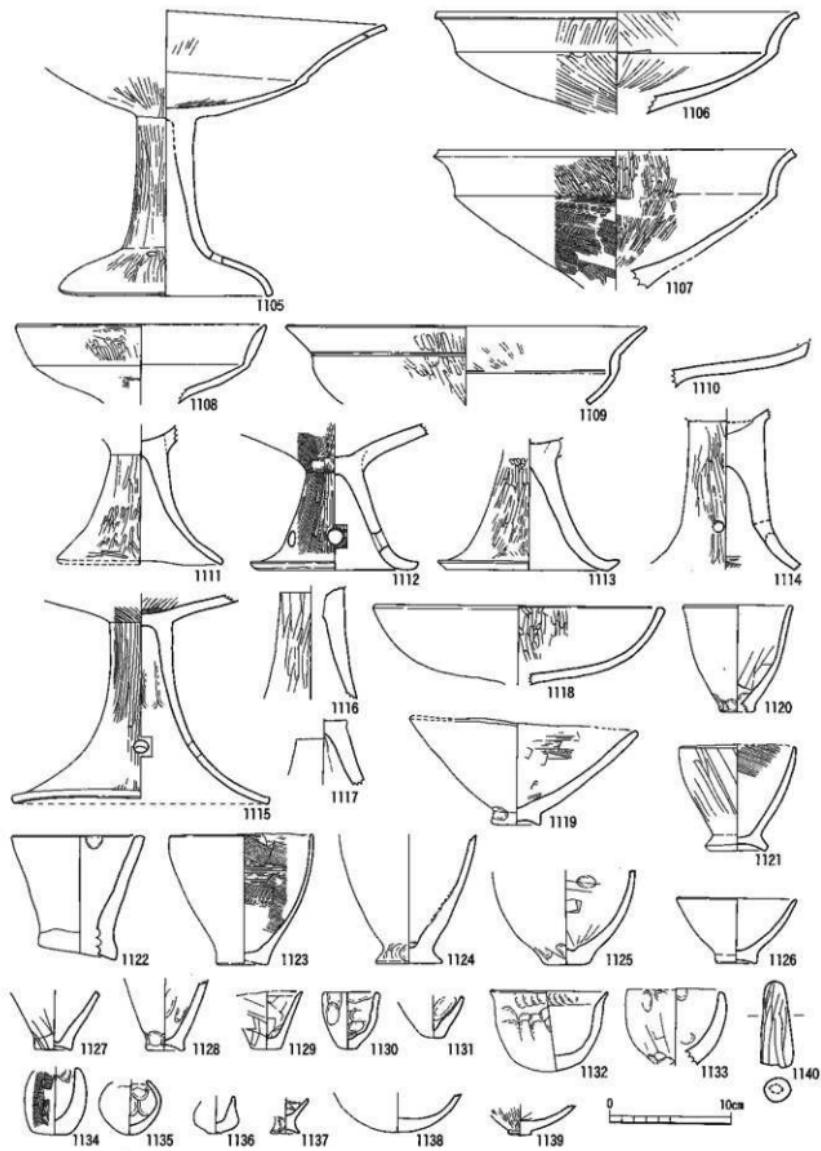
1105～1117は高坏である。1105は緩やかに屈曲しながら立ち上がる坏部C類と内湾しながら脚注部に繋がる裾部をもつ高坏Ⅲ類である。1106・1107は坏部形態B類の坏部である。1108・1109は同一個体だと考えられる。坏部はB類のようであるが、口縁部が外反ではなく直立気味に立ち上がっている。脚部

は短くラッパ状に開くB類である。1113は杯部の一部と脚部である。円形透かしをもち、長脚で細長くラッパ状に開くA類の脚部をもつ。

1117～1126は鉢である。そのうち1117～1119・1126は深鉢（I類）・1120～1125は浅鉢（II類）である。1117は胸部でS字状に屈曲する胸部形態A類をもつ鉢IA類である。1118は内湾しながら立ち上がる胸部形態C類をもつ鉢IC類である。底部は欠損しているが、貼付円盤状平底を呈すると考えられる。1119は直線的に開くタイプである。1120・1121・1123・1124はわずかに内湾しながら立ち上がる鉢II B類である。底部は1124の平底を除いて、1120・1121・1123は上底である。1122は直線的に外側に開く鉢である。1125は平底の底部に内湾しながら立ち上がる胸部をもち、小型壺の可能性もある。1127～1139は小型土器である。1138・1139は小型壺の可能性がある。1140は杓子状土器の柄部である。



第171図 F区包含層出土遺物図② (1/4)



第172図 F区包含層出土遺物図③ (1/4)

(6) その他の遺物 (第173図-1142~1145)

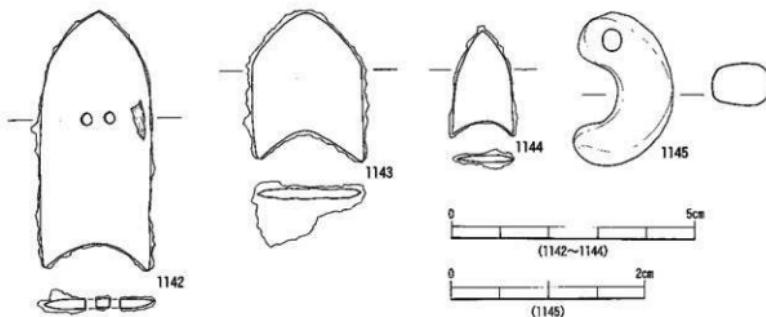
遺構外出土の土器・石器以外の遺物として、鉄器と石製装飾品が出土した。

■鉄器 (第173図-1142~1144)

下那珂遺跡では全部で6点の鉄器が出土した。うち5点が鉄鎌で、残り1点は刀子である。鉄鎌の1点 (S A56-608) と刀子1点 (S A109-863) が遺構出土であり、他はこの4点の鉄鎌 (1142~1144) である。3点とも平面形態が異なるが、いずれも無茎の三角形鎌の範疇に入る。1142は比較的鎌身の長いタイプで最大長5.5cmである。鎌身部上半に2つの穿孔が施してある。大きさは若干異なるが、平面形態は弥生時代後期終末頃に時期比定されている福岡県小郡市三沢栗原遺跡29号住居跡出土鉄鎌 (小郡市教育委員会1986『三沢栗原遺跡V』) と似ている。1143は五角形の一辺が腫んだような形態を呈する。1144は全長2.1cmと小形である。平面形態は砲弾形を呈し、基部が弧状に腫む。

■石製装飾品 (第173図-1145)

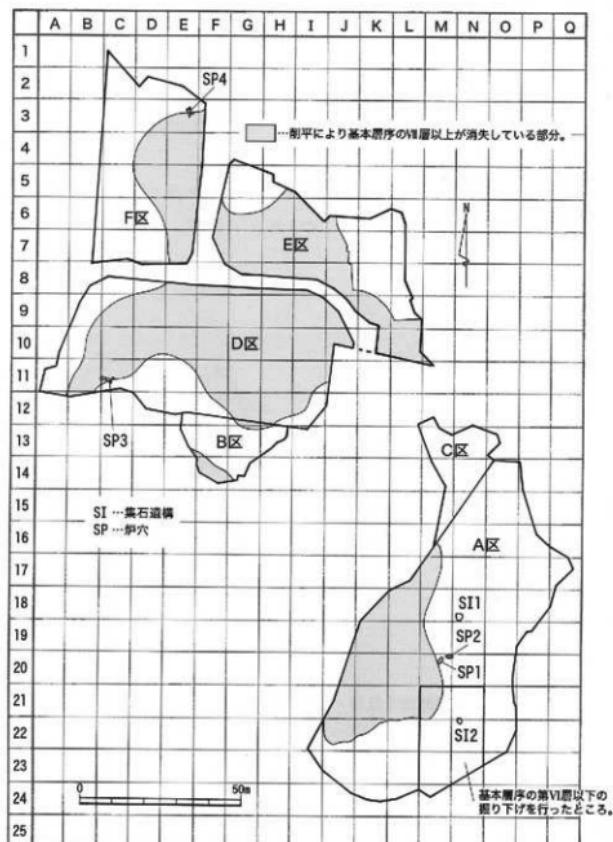
1145は石製の勾玉である。下那珂遺跡では勾玉が合計3点出土したが、うち2点は土製勾玉 (S A11-422・S A56-609) で、出土している石製勾玉はこの1点のみである。石材は緑色滑石で、1カ所に径2mmの穿孔が施してある。



第173図 遺構外出土鉄器・石製勾玉図 (1/1・2/1)

第6節 旧石器時代～縄文時代の調査

前節で述べたが、下那珂遺跡は弥生時代後期～終末期主体の遺跡である。しかし、部分的な調査や表探資料によって弥生時代以前の存在が確認された。確認された遺構・遺物は、集石遺構2基・炉穴状遺構4基・石器類・縄文土器類である。以下簡単にであるが、個別の説明を行う。



第174図 縄文時代遺構配置図 (1/1,500)

(1) 遺構

■集石遺構（第175図）

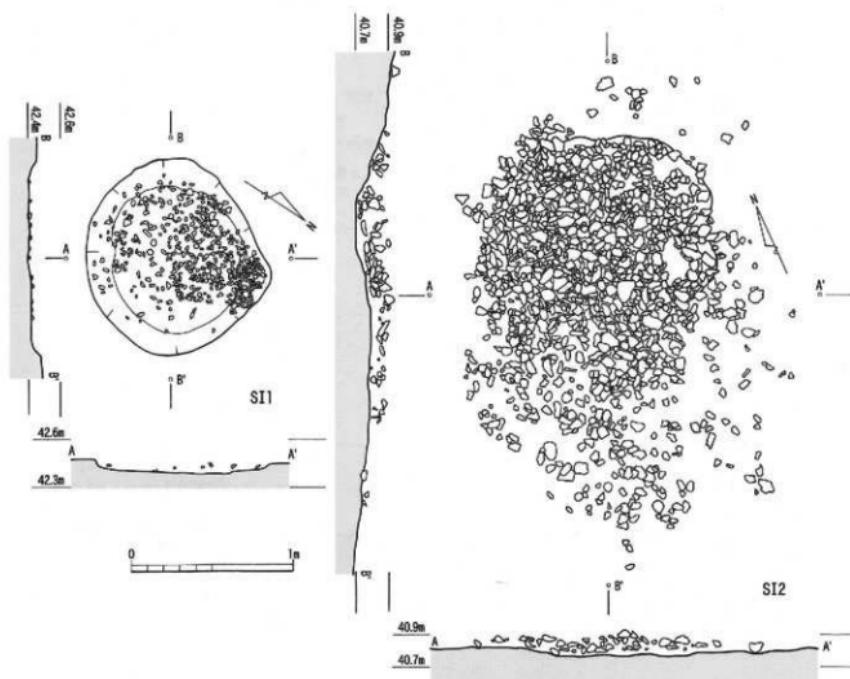
A区調査において、基本層序の第Ⅰ層～第Ⅲ層を除去し弥生時代中心包含層（基本層序の第Ⅳ層）検出した時、丘陵頂部が削平され第V層以下が検出されたことは前項で述べたが、その折に完全な検出状況ではないが2基の集石遺構が検出された。

1号集石遺構（第175図左）

N18グリッド南西側で検出された。長軸約120cm・短軸約115cm・深さ約6cmの円形プランの浅い土坑をもつ。構成礫は小形で3～8cm程度の砂岩製亜円礫を主体とする。疊密集状況は、北側に密集部分があるが、他は疎らである。

2号集石遺構（第175図右）

N21とN22の境界上で検出された。長軸約125cm・短軸約110cm・深さ7～17cmの円形プランの1号集石遺構とほぼ同形・同規模の土坑をもつ。構成礫は5～10cmの砂岩製亜円礫を主体であるが、土坑底面付近では約10～15cmのやや大きめの砂岩製砾を用いている。疊密集状況は、1号集石遺構と異なり土坑内に密集しており、さらに南側の土坑外にも疎らに存在する。



第175図 1号・2号集石遺構（S11・2）(1/30)図

■炉穴状遺構（第176図～第177図）

A区で2基・D区で1基・F区で1基の炉穴状遺構が検出された。

1号炉穴（第176図-1）

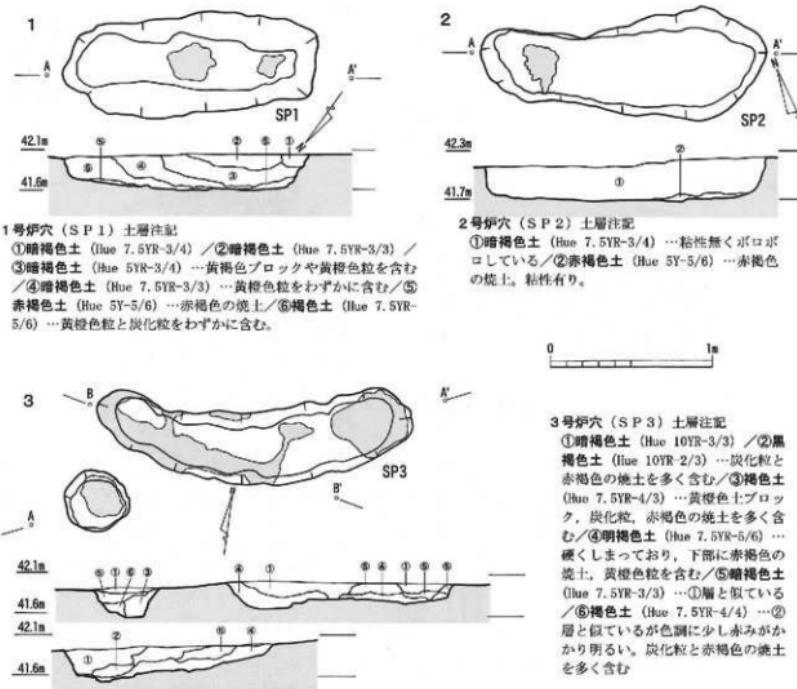
A区N20グリッド北東側で検出された。長軸176cm・短軸41～70cmの瓢箪形を呈する。深さは約25cm、埋土は粘性のない暗褐色土の単層であるが、径の大きい方の端部の底部には粘性のある柔らかな土、もう片方の底部には赤化した焼土が確認された。

2号炉穴（第176図-2）

A区N20グリッド北東側で検出された。長軸155cm・短軸51cmの隅丸方形を呈する。深さは約22cm、埋土は中央部の底部と片方の底部中央部には赤化した焼土が確認された。

3号炉穴（第176図-3）

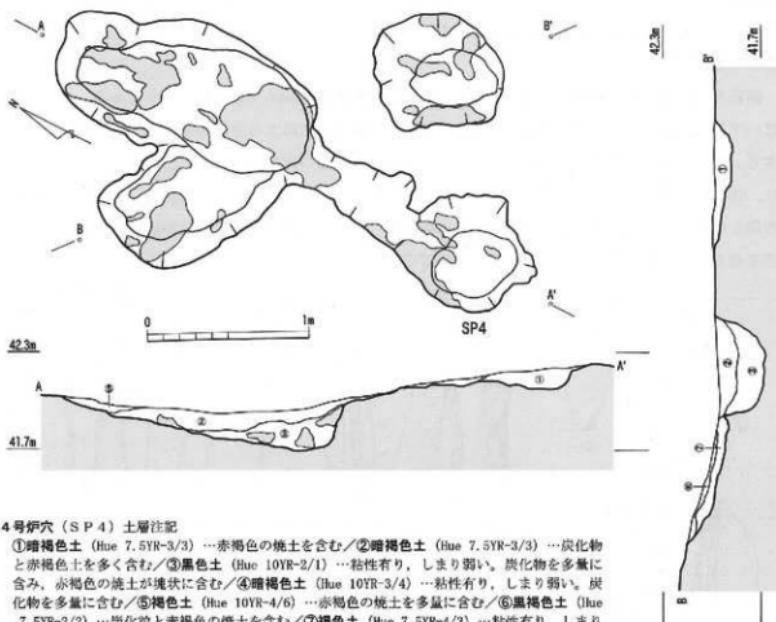
D区C11グリッドで検出された。長軸194cm・短軸44cmのバナナのように反った長楕円形と径38cmの円形の2つから成る。深さは13～21cmで、床面の大部分と壁面の一部に焼土が確認された。



第176図 1号・2号・3号炉穴 (SP 1・2・3) 図 (1/30)

4号炉穴（第177図）

F区E2グリッドで検出された。長軸328cm・短軸31~78cmの長楕円形、その長楕円形から分化した長軸78cm・短軸71cmの隅丸方形の組合せのY字状土坑と径77cmの円形土坑から成る。床面の各端部と中央部に焼土が確認できる。2基以上の炉穴が切り合ってできたものだと考えられる。



4号炉穴（SP4）土層注記

①暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) …赤褐色の焼土を含む／②暗褐色土 (Hue 7.5YR-3/3) …炭化物と赤褐色土を多く含む／③黒色土 (Hue 10YR-2/1) …粘性有り、しまり弱い。炭化物を多量に含み、赤褐色の焼土が塊状に含む／④暗褐色土 (Hue 10YR-3/4) …粘性有り、しまり弱い。炭化物を多量に含む／⑤褐色土 (Hue 10YR-4/6) …赤褐色の焼土を多量に含む／⑥黒褐色土 (Hue 7.5YR-2/2) …炭化物と赤褐色の焼土を含む／⑦褐色土 (Hue 7.5YR-4/3) …粘性有り、しまり弱い。黄褐色土粒を含む

第177図 4号炉穴（SP4）(1/30) 図

(2) 遺物（第178図～第181図・1147～1161）

■石器…包含層及び基本層序の第VI層以下から旧石器～縄文時代早期に属すると考えられる石器類が出土した。出土した石器はナイフ形石器・尖頭器・削器細石刃核・剥片石器・打製石器である。

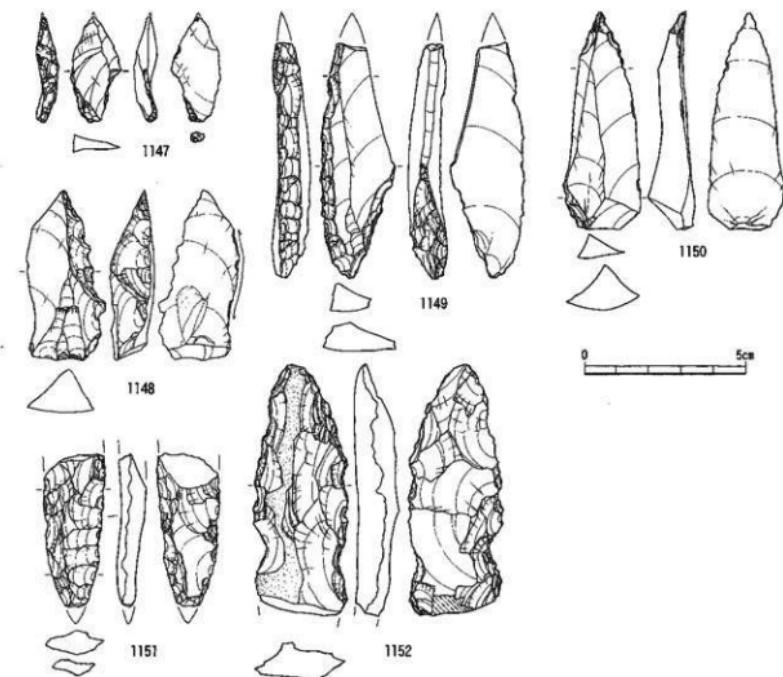
ナイフ形石器（第178図-1147～1150）…1147はチャート製である。素材剥片のバレブ側を先端に用いる。背面と左右側縁いずれのプランティングにも対向調整が観察される。刃部には不規則な刃こぼれ状の微細剝離痕が考えられる。1148は頁岩製である。縦長の剥片を素材とし、剥片末端部を先端に用いる。二次調整は通常のプランティングより大ぶりで、鋸歯状を呈する調整の後に、通常のプランティングが施される。また、腹面の刃縁には刃こぼれ状の微細剝離痕が確認できる。1149はホルンフェルス製である。縦長剥片を素材とし、剥片末端部を先端に用いる。1150は頁岩製である。縦長剥片を素材とし、剥片末端部にプランティングを施す。背面右側にも二次調整が施されるが、通常のプランティングより

若干甘い加工である。背面右側縁には刃こぼれ状の微細剥離痕が確認できる。

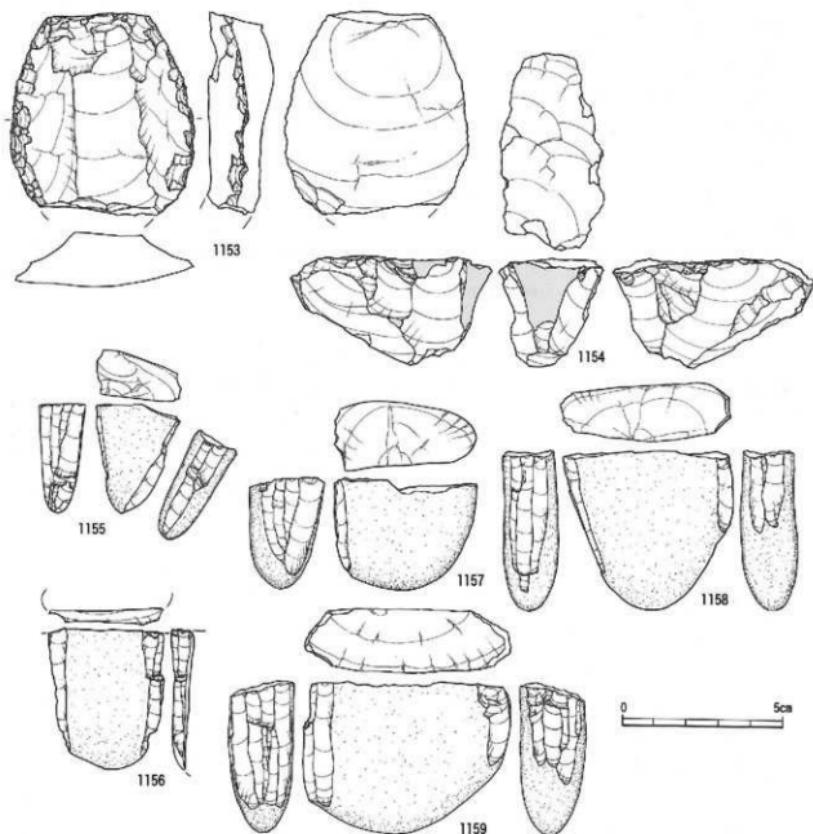
尖頭器（第178図—1151～1152）…1151は珪質岩製である。調整は両面に及ぶ。調整剥離は概して粗く、側面の調整はジグザグしている。1152はホルンフェルス製である。半面形は左右対称であるが、調整は左右非対称である。

剣器（第179図—1153）…1153は頁岩製である。大形の幅の広い剥片を素材とし、両側縁にスクレイバーエッジを形成する。剥片末端部を欠損するが、この部分にも刃部が形成されていたとすれば揃器である可能性もある。

細石刃核（第179図—1154～1159）…1154は流紋岩製の船野型細石刃核のプランクである。1155～1159はいずれも珪原型細石刃核である。1155は頁岩製で、両極打法による分割礫を用い、2面の作業面を有する。1156は砂岩製で、節理面によって破損している。2面の作業面を有する。表面が光沢をもっており、弥生時代に砥石として再利用された可能性がある（246）。1157は砂岩製であり、両極打法による分割礫を用い、1面の作業面を有する。1158は砂岩製であり、両極打法による分割礫を用い、2面の作業面を有する。1159は砂岩製であり、両極打法ではない分割礫を用い、2面の作業面を有する。



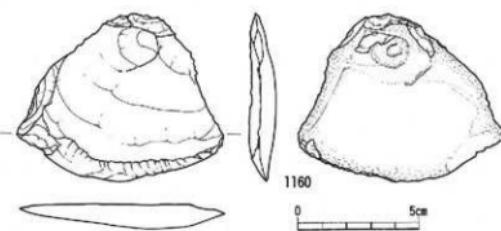
第178図 旧石器時代～縄文時代石器図① (2/3)



第179図 旧石器時代～縄文時代石器図②（2／3）図

剥片石器（第180・181図1160～1161）

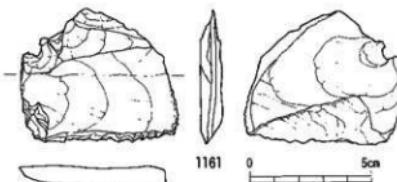
1160～1161は第VI層中から出土した。先項（第II章—第4節）で述べた蛤形剥片石器との共通点も多いが、縄文時代早期以前に属する石器であり、別に剥片石器として扱う。ただし、先項でも述べているが、先項で蛤形剥片石器の範疇



第180図 旧石器時代～縄文時代石器図③（1／2）図

にいれたものの中に縄文時代以前の剥片石器の可能性があるものが多く含まれていることを予め断っておきたい。1160は砂岩製である。背面に自然面を残し、幅の広い端部と左側縁の一部とバルブ側に剥離を施し、刃部を形成する。1161は剥片の上下両側縁に剥離を施し、刃部を形成する。特に下方縁には丁寧な剥離を施し、鋸齒状に仕上げている。1160・1161とも削器的な利用が想定できる。

■土器…細片が多数出土した。ほとんどが基本層序の第IV層（主に弥生時代の包含層）上から出土した。風化著しく不明なものが多い。土体は口縁部断面が舌状を呈しする厚手（1.0～1.3cm前後）で、胎土には1mm以下の乳白色と淡黄色粒を多く含むものが多い。外面施文は無文が多いが、横と斜方向の貝殻腹縁による条痕文を施すものも多い。また、橢円形・山形の押型文もわずかに含む。いずれも縄文時代早期に属するものだと考えられる。



第181図 旧石器時代～縄文時代石器図④（1／2）図

(1) 穫穴住居跡

住居番号	検出区	検出 グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模(cm)			面積 (m ²)
						長さ	幅	深さ	
SA1	A区	N19	N-27-E	不正方形	有?	233	×	256 × 18	5.6
SA2	A区	O20	N-11-E	不正方形	有?	280	×	331 × 15	8.3
SA3	A区	N20	N-30-E	不明	有?	140	×	327 × 11	4.6
SA4	A区	L22	N-34-E	長方形	無	142	×	299 × 13	4.3
SA5	A区	K22	N-35-E	不正方形	無	395	×	523 × 12	18.5
SA6	A区	L23	N-26-W	不明	無	315	×	(185) × —	7.0
SA7	A区	K23	N-30-W	不明	無	419	×	(203) × —	12.4
SA8	A区	K24	N-42-W	不明	無	(189)	×	(138) × —	1.5
SA9	A区	O21	N-20-E	方形	有?	434	×	412 × 19	17.0
SA10	A区	O20	N-22-E	不明	有?	364	×	(207) × 11	7.6
SA11	A区	O20	N-9-W	不正形	有?	360	×	421 × 13	12.9
SA12	A区	O19	N-19-E	方形	有?	393	×	348 × 9	12.0
SA13	A区	O19	N-13-E	不明	有?	428	×	(333) × 19	12.1
SA14	A区	O22	N-43-W	方形	無	218	×	351 × 22	9.6
SA15	A区	O22	N-53-E	不明	無	(296)	×	347 × 15	9.7
SA16	A区	O22	N-34-W	不明	無	(193)	×	(115) × 17	2.3
SA17	A区	N23	N-55-E	不明	無	480	×	(437) × 11	16.6
SA18	A区	N22	N-45-E	方形	無	(227)	×	250 × 7	5.4
SA19	A区	N22	N-41-E	方形	無	252	×	(228) × 20	5.4
SA20	A区	N22	N-34-E	不明	無	257	×	(131) × 12	3.0
SA21	A区	O17	N-29-E	長方形	無	399	×	499 × 10	18.9
SA22	A区	J21	N-36-W	不明	無	不明	×	不明 × 19	13.5
SA23	A区	J21	N-43-E	不明	無	(298)	×	(222) × 24	3.9
SA24	A区	J21	N-32-E	不明	無	(270)	×	410 × 24	11.6
SA25	A区	N22	N-34-W	隅丸方形	無	211	×	248 × 26	4.5
SA26	A区	N23	N-1-W	長椭円形	無	343	×	238 × 22	7.0
SA27	A区	M19	N-35-E	長方形	無	428	×	328 × 12	13.6
SA28	A区	L22	N-35-E	方形	無	329	×	369 × 20	11.5
SA29	A区	M22	N-34-E	長方形	無	(275)	×	356 × 15	9.4
SA30	A区	L23	N-43-E	方形	無	249	×	257 × —	5.8
SA31	A区	L23	N-49-E	不明	無	(186)	×	(196) × —	3.3
SA32	A区	L23	N-40-E	方形	無	276	×	269 × —	7.6
SA33	A区	L23	N-37-E	不明	無	(257)	×	不明 × —	7.7
SA34	A区	P18	N-53-W	不明	無	(293)	×	(386) × 9	11.1
SA35	A区	P17	N-55-W	不明	無	(361)	×	(164) × 18	17.9
SA36	A区	Q17	N-49-W	不明	無	448	×	128 × 30	10.9
SA37	A区	Q17	N-45-W	不明	無	(427)	×	(358) × 35	13.4
SA38	A区	Q17	N-133-W	不明	無	(178)	×	(217) × 不明	2.9
SA39	A区	Q17	N-47-W	不明	無	(385)	×	(250) × 14	12.3
SA40	A区	Q17	N-53-E	不明	無	(242)	×	(373) × 24	6.9
SA41	A区	P16	N-8-E	不明	無	(571)	×	(350) × 13	18.6
SA42	A区	P16	N-22-E	不明	無	300	×	不明 × 15	7.8
SA43	A区	P15	N-9-W	不明	無	267	×	(240) × 21	6.0
SA44	A区	P15	N-12-W	不明	無	400	×	(432) × 18	17.6
SA45	A区	P14	N-21-E	不明	無	不明	×	(262) × 31	6.3
SA46	A区	K23	N-24-W	不明	無	474	×	(323) × —	23.7
SA47	A区	K23	N-36-W	不正形	無	384	×	476 × —	15.3
SA48	A区	K23	N-37-W	不正形	無	(341)	×	434 × —	15.3
SA49	A区	K23	N-34-W	不明	無	(228)	×	382 × —	7.1
SA50	A区	L24	N-16-W	不明	無	(189)	×	(175) × —	3.9
SA51	A区	J23	N-51-E	不明	無	278	×	(180) × —	3.2
SA52	A区	J23	N-8-W	不明	無	(296)	×	322 × —	10.5
SA53	A区	J23	N-38-E	不明	無	(138)	×	290 × —	4.8

第1表 下那珂遺跡検出竪穴住居跡及び土坑計測表(1)

(1) 積穴住居跡

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規 模 (cm)			面積 (m ²)
						長さ	幅	深さ	
SA54	A区	J23	N-47-E	不明	無	(284) ×	434	×	8.5
SA55	A区	K23	N-36-E	方形	有?	(439) ×	469	×	19.2
SA56	A区	J23	N-46-E	不明	無	(81) ×	(294)	×	1.0
SA57	A区	I22	N-77-E	不明	無	(111) ×	(85)	×	1.1
SA58	A区	J22	N-63-E	方形	有?	254	×	296 × 24	8.6
SA59	A区	K22	N-56-E	不正形	無	(124) ×	(327)	×	2.6
SA60	A区	K23	N-18-W	不明	無	352	×	336 × 5	5.1
SA61	A区	K23	N-23-W	長方形	無	228	×	(347) ×	5.8
SA62	A区	K23	N-29-W	方形	無	442	×	490 × 1	21.7
SA63	A区	P17	N-33-E	方形	無	233	×	222 × 17	5.1
SA64	A区	P17	N-30-W	方形	無	312	×	341 × 19	9.8
SA65	A区	P18	N-45-W	方形	無	(204) ×	253	×	5.2
SA66	A区	021	N-15-E	不明	無	(271) ×	(256)	×	6.8
SA67	A区	021	N-2-E	不明	無	(414) ×	(183)	×	6.7
SA68	A区	021	N-5-E	不明	有?	(243) ×	(273)	×	7.1
SA69	A区	020	N-4-E	不明	無	(76) ×	(280)	×	2.3
SA70	A区	020	N-18-E	不明	無	(151) ×	不明	×	6.5
SA71	A区	021	N-25-E	不明	無	不明	×	不明 × 20	4.9
SA72	A区	021	N-37-E	不明	無	不明	×	不明 × 20	0.5
SA73	A区	021	N-20-E	長方形	無	334	×	277 × 22	8.4
SA74	A区	022	N-32-E	方形	無	253	×	265 × 36	6.8
SA75	A区	022	N-32-E	不明	無	395	×	(162) × 19	7.5
SA76	A区	021	N-18-E	不明	無	307	×	(248) × 35	8.8
SA77	A区	022	N-33-E	不明	無	317	×	(168) × 16	4.9
SA78	A区	021	N-25-E	方形	無	(263) ×	240	×	7.2
SA79	A区	N21	N-36-E	方形	無	259	×	333 × 19	9.2
SA80	A区	N22	N-35-W	方形	無	(237) ×	267	×	6.0
SA81	A区	N21	N-20-W	不明	不明	(122) ×	(33)	×	0.3
SA82	A区	022	N-37-E	方形	無	244	×	218 × 29	5.4
SA83	A区	021	N-10-E	不明	無	257	×	(125) × 32	3.5
SA84	A区	019	N-33-E	方形	有4	398	×	355 × 20	13.5
SA85	A区	P19	N-34-E	不明	無	284	×	(186) × 不明	4.3
SA86	A区	019	N-21-W	不明	無	不明	×	不明 × 15	2.6
SA87	A区	I23	N-55-E	不明	無	(87) ×	343	×	2.5
SA88	A区	P18	N-39-E	不明	無	不明	×	不明 × 10	8.3
SA89	A区	P19	N-25-E	不明	無	不明	×	不明 × 21	6.6
SA90	C区	M13	N-6-E	長方形	無	(317) ×	276	×	8.3
SA91	B区	G13	N-25-W	不明	無	(290) ×	551	×	14.2
SA92	B区	G13	N-52-E	方形	無	489	×	444 × 16	22.8
SA93	B区	F13	N-43-E	方形	無	351	×	408 × 26	14.5
SA94	B区	F13	N-41-E	不明	無	(170) ×	(80)	×	1.6
SA95	B区	F12	N-47-E	長方形	無	226	×	309 × 35	7.0
SA96	B区	F12	N-47-E	方形	無	248	×	265 × 54	6.4
SA97	B区	G14	N-10-E	方形	有?	357	×	414 × 43	14.2
SA98	B区	G14	N-10-E	楕円形	無	(190) ×	(298)	×	5.7
SA99	B区	I14	不明	不正形	無	—	×	— × —	—
SA100	B区	H13	不明	橢円形	無	—	×	— × —	—
SA101	B区	G12	不明	方形	無	—	×	— × —	—
SA102	B区	F12	不明	方形	無	—	×	— × —	—
SA103	D区	F12	N-24-E	方形	無	312	×	352 × 25	12.0
SA104	D区	E12	N-48-E	方形	無	348	×	380 × 26	14.0
SA105	D区	E12	N-42-E	方形	無	421	×	355 × 26	6.3
SA106	D区	E11	N-32-E	方形	無	410	×	(269) × 26	10.1
SA107	D区	F11	N-35-E	不明	無	(203) ×	(313)	×	8.7
SA108	D区	E12	N-18-E	不明	無	(139) ×	(263)	×	2.8

第2表 下那珂遺跡検出竪穴住居跡及び土坑計測表(2)

(1) 壺穴住居跡

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模(cm)			面積(m ²)
						長さ	幅	深さ	
SA109	D区	E12	N-38-E	不明	無	(294)	×	(392) × 56	7.4
SA110	D区	E12	N-30-E	不明	無	(153)	×	(109) × 36	1.4
SA111	D区	E12	N-31-E	不明	無	(278)	×	(312) × 23	7.1
SA112	D区	D12	N-24-E	方形	無	362	×	406 × 35	8.9
SA113	D区	D11	N-7-E	不明	有?	(284)	×	413 × 24	2.5
SA114	D区	D11	N-6-E	不明	無	(152)	×	262 × 17	10.6
SA115	D区	D12	N-23-E	不明	無	(297)	×	404 × 42	11.2
SA116	F区	C07	N-2-E	方形	無	347	×	(344) × 36	11.5
SA117	F区	C06	N-3-W	不正形	無	349	×	(262) × 19	7.8
SA118	F区	C07	N-2-W	不明	無	(282)	×	(139) × 23	4.0
SA119	F区	C05	N-10-E	不明	無	(275)	×	(454) × 25	10.9
SA120	F区	D04	N-48-E	方形	無	357	×	363 × 7	12.4

(2) 土坑

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模(cm)			面積(m ²)
						長さ	幅	深さ	
SC1	A区	I22	N-65-W	隅丸方形	—	190	×	108 × 55	2.0
SC2	A区	J23	N-63-W	隅丸方形	—	205	×	135 × —	2.4
SC3	A区	K23	N-38-E	不明	—	(157)	×	(145) × —	2.3
SC4	A区	M22	N-2-W	不正方形	—	121	×	110 × —	1.1
SC5	A区	—	—	—	—	—	×	— × —	—
SC6	A区	—	—	—	—	—	×	— × —	—
SC7	A区	—	—	—	—	—	×	— × —	—
SC8	A区	J21	N-56-E	正方形	—	325	×	(96) × 25	6.5
SC9	A区	J23	N-50-E	不明	—	(51)	×	(225) × 50	1.9
SC10	A区	L22	W-17-S	不定形	—	250	×	93 × 50	1.0
SC11	A区	Q17	N-58-W	隅丸方形	—	125	×	82 × 20	1.0
SC12	A区	I22	N-44-W	隅丸方形	—	168	×	139 × 80	2.1
SC13	A区	K23	N-87-E	不正形	—	191	×	168 × —	2.6
SC14	A区	N22	N-50-E	長方形	—	228	×	163 × 33	3.5
SC15	A区	P17	N-18-W	方形	—	77	×	76 × 28	0.6
SC16	A区	N22	N-30-E	隅丸方形	—	115	×	98 × —	0.8
SC17	A区	J23	N-45-E	長方形	—	155	×	135 × 20	2.1
SC18	A区	J23	N-53-E	方形	—	257	×	245 × —	5.8
SC19	A区	J23	N-38-E	不明	—	(15)	×	124 × 55	0.3
SC20	A区	J21	N-35-E	椭円形	—	233	×	100 × —	1.7
SC21	A区	P17	N-26-W	隅丸方形	—	88	×	47 × 15	0.4
SC22	B区	G13	N-87-E	椭円形	—	118	×	82 × 20	0.8
SC23	B区	G13	N-30-E	長楕円形	—	180	×	80 × 30	0.8
SC24	B区	H13	N-34-E	長楕円形	—	130	×	70 × 30	1.2
SC25	D区	E11	N-23-W	不定形	—	380	×	240 × 20	6.4
SC26	F区	5D	N-50-W	円形	—	80	×	65 × 10	1.6
SC27	F区	5D	N-5-E	三角形	—	110	×	80 × 10	0.5
SC28	F区	5D	N-2-W	方形	—	180	×	180 × 10	3.3
SC29	F区	5D	N-7-E	長方形	—	220	×	(115) × 15	2.0
SC30	F区	2C	不定	不定形	—	400	×	250 × 10	不明

SC5～SC7は欠番

第3表 下那珂遺跡検出壺穴住居跡及び土坑計測表(3)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
1	磨製石鏟	A	包含層	19	頁岩	1.4	1.6	0.2	0.7
2	磨製石鏟	D	包含層	S4-4436	頁岩	2.8	1.6	0.3	1.6
3	磨製石鏟	A	包含層	S1-1385	頁岩	3.0	1.8	0.2	1.3
4	磨製石鏟	A	包含層	H12	頁岩	2.2	1.9	0.2	1.6
5	磨製石鏟	B	包含層	1094	頁岩	2.9	2.0	0.3	2.0
6	磨製石鏟	A	包含層	S1-1563	頁岩	3.0	2.0	0.2	2.2
7	磨製石鏟	A	包含層	F12	頁岩	3.0	2.0	0.3	2.6
8	磨製石鏟	A	包含層	D14 3層	頁岩	2.9	1.8	0.3	2.2
9	磨製石鏟	A	包含層	E8	頁岩	3.1	1.9	0.4	2.0
10	磨製石鏟	F	包含層	S6-245	頁岩	3.4	1.8	0.3	2.0
11	磨製石鏟	D	包含層	S8-4100	ホルンフェルス	3.3	2.2	0.4	2.2
12	磨製石鏟	A	包含層	F14	頁岩	3.6	2.0	0.3	2.8
13	磨製石鏟	A	包含層	S2-41区	頁岩	2.0	2.1	0.2	1.6
14	磨製石鏟	D	包含層	S3西	頁岩	3.5	2.1	0.3	2.4
15	磨製石鏟	A	包含層	H10	頁岩	3.2	2.0	0.2	1.5
16	磨製石鏟	A	包含層	121レ	頁岩	3.9	1.9	0.2	1.6
17	磨製石鏟	A	包含層	S1-1263	頁岩	3.3	1.6	0.3	1.9
18	磨製石鏟	A	包含層	S7-1括	頁岩	1.9	2.0	0.2	1.1
19	磨製石鏟	A	包含層	J8	頁岩	4.0	2.3	0.3	2.3
20	磨製石鏟	A	包含層	H10	頁岩	3.7	2.3	0.3	3.4
21	磨製石鏟	F	包含層	S6-385	頁岩	3.6	2.3	0.3	2.9
22	磨製石鏟	A	包含層	E13	頁岩	2.9	3.0	0.2	2.3
23	磨製石鏟	A	包含層	H9	頁岩	2.9	2.9	0.4	3.0
24	磨製石鏟	F	包含層	S6-854	頁岩	3.9	1.2	0.3	2.7
25	磨製石鏟	D	包含層	S003西タクラン	頁岩	3.8	2.0	0.2	2.4
26	磨製石鏟	F	包含層	S6-998	頁岩	4.7	2.5	0.4	5.5
27	磨製石鏟	A	包含層	K8	頁岩	4.5	2.7	0.4	5.6
28	磨製石鏟	B	包含層	-	頁岩	4.7	2.3	0.4	6.8
29	磨製石鏟	A	包含層	G13	頁岩	2.5	2.2	0.3	2.6
30	磨製石鏟	F	包含層	S6-526	頁岩	2.9	2.5	0.3	2.7
31	磨製石鏟	A	包含層	F14	頁岩	4.2	2.4	0.3	4.6
32	磨製石鏟	F	包含層	121レ	ホルンフェルス	5.3	2.3	0.4	6.0
33	磨製石鏟	A	包含層	H13	頁岩	3.5	2.1	0.4	3.8
34	磨製石鏟	A	包含層	19	頁岩	3.9	1.0	0.4	1.8
35	磨製石鏟	D	包含層	S003西タクラン	頁岩	3.2	1.5	0.3	1.3
36	磨製石鏟	A	包含層	29トレ	頁岩	5.8	3.4	0.3	7.6
37	磨製石鏟	F	包含層	S6-1325	頁岩	5.9	2.8	0.4	10.8
38	磨製石鏟	A	包含層	J8	頁岩	4.0	1.5	0.3	2.0
39	磨製石鏟	A	包含層	H10	頁岩	2.8	1.7	0.3	2.1
40	磨製石鏟	A	包含層	I9	頁岩	3.7	1.0	0.4	1.8
41	磨製石鏟	A	包含層	S1-475	頁岩	3.5	1.0	0.3	1.5
42	磨製石鏟	D	包含層	S003西タクラン	頁岩	3.9	1.6	0.2	1.8
43	磨製石鏟	F	包含層	S6-1095	頁岩	4.2	3.1	0.6	8.8
44	磨製石鏟	A	包含層	H11	頁岩	3.1	2.7	0.2	3.0
45	磨製石鏟	A	包含層	H10	頁岩	1.8	1.8	0.3	1.2
46	磨製石鏟	A	包含層	D12	頁岩	2.0	2.1	0.3	1.5
47	磨製石鏟	A	包含層	F13	頁岩	3.1	1.1	0.3	1.2
48	石鏽木製品	A	包含層	141レ	頁岩	4.7	1.9	0.5	5.0
49	石鏽木製品	A	包含層	-	頁岩	3.6	2.7	0.6	6.4
50	石鏽木製品	F	包含層	南	頁岩	4.5	3.1	1.1	12.2
51	石鏽木製品	A	包含層	E9	頁岩	5.5	3.3	0.8	15.3
52	石鏽木製品	B	包含層	-	頁岩	8.8	3.8	0.7	23.4
53	石庖丁	D	包含層	Ⅲ層中	流紋岩	10.4	4.0	0.6	34.2
54	石庖丁	-	包含層	-	ホルンフェルス	9.8	4.8	0.9	50.7
55	石庖丁	D	包含層	S003西タクラン	ホルンフェルス	7.1	4.6	0.4	27.9
56	石庖丁	A	包含層	E9	頁岩	9.5	4.1	0.5	28.3
57	石庖丁	A	包含層	G10	頁岩	9.3	5.1	0.7	46.0
58	石庖丁	D	包含層	タクラン	頁岩	5.0	4.6	0.5	18.7
59	石庖丁	A	包含層	J8	頁岩	10.9	5.0	0.9	88.6

第4表 下那珂遺跡出土石器計測表(1)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
60	石刀	D	包含層	S003西9号	泥紋岩	9.4	4.1	0.8	39.7
61	石刀	A	包含層	S2 3区	ホルンフェルス	8.1	5.1	0.9	59.5
62	石刀	F	包含層	S6-250	ホルンフェルス	9.1	5.0	0.7	38.9
63	石刀	D	包含層	S6-4244	頁岩	10.5	4.3	0.6	42.9
64	石刀	A	包含層	H6	頁岩	8.8	4.3	0.6	37.5
65	石刀	A	包含層	G12	頁岩	6.4	5.9	1.0	51.0
66	石刀	A	包含層	I9	頁岩	8.0	4.0	0.5	25.6
67	石刀	A	包含層	S251	頁岩	4.6	3.7	0.8	20.4
68	石刀	D	包含層	S4-1695	頁岩	6.6	3.3	0.3	10.2
69	石刀	F	包含層	I17	頁岩	4.7	4.0	0.5	12.4
70	石刀	D	包含層	S003西9号	頁岩	3.8	3.9	0.4	8.5
71	石刀	F	包含層	S6-2056	頁岩	3.9	2.0	0.6	10.2
72	石刀	A	包含層	G10	頁岩	10.0	4.9	1.1	86.4
73	石刀	A	包含層	J8	頁岩	10.2	4.2	0.6	38.7
74	石刀	C	包含層	#17	頁岩	10.2	4.9	1.0	76.2
75	石刀	A	包含層	F13	頁岩	8.9	5.1	0.6	38.1
76	石刀	A	包含層	I5	ホルンフェルス	9.3	4.8	1.1	64.8
77	石刀	A	包含層	H13	ホルンフェルス	8.1	4.4	1.2	57.8
78	石刀	A	包含層	S4-249	頁岩	8.6	3.7	0.6	30.4
79	石刀	A	包含層	E13	頁岩	4.1	4.2	0.6	13.0
80	石刀	A	包含層	H10	頁岩	4.5	3.4	0.7	15.7
81	石刀	A	包含層	I7	頁岩	4.9	4.7	0.8	21.5
82	石刀	A	包含層	I12	頁岩	5.9	4.7	0.4	13.6
83	石刀	A	包含層	G14	頁岩	5.8	2.8	0.4	10.1
84	石刀	G	包含層	I-69	ホルンフェルス	8.3	5.1	0.9	62.0
85	石刀	A	包含層	I7	頁岩	7.8	4.4	0.9	38.9
86	石刀	A	包含層	J8	頁岩	6.9	3.7	0.7	22.6
87	石刀	A	包含層	G14	頁岩	4.0	4.7	0.8	20.4
88	石刀	A	包含層	I5	頁岩	4.2	4.0	0.8	19.4
89	石刀	A	包含層	G13	ホルンフェルス	8.7	4.4	1.1	58.7
90	石刀	A	包含層	F13	ホルンフェルス	8.3	4.8	1.0	55.3
91	石刀	D	包含層	S5	ホルンフェルス	8.5	4.3	0.8	48.7
92	石刀	A	包含層	J8	ホルンフェルス	8.6	4.9	0.5	26.7
93	石刀	A	包含層	S1-184	頁岩	7.7	4.6	1.0	45.0
94	石刀	A	包含層	S1-1191	頁岩	9.0	4.7	0.6	45.0
95	石刀	A	包含層	H13	ホルンフェルス	8.6	4.9	0.7	48.3
96	石刀	G	包含層	SE1-1括	頁岩	6.7	4.7	0.4	29.5
97	石刀	A	包含層	B9	頁岩	8.8	5.0	1.3	76.3
98	石刀	A	包含層	H14	頁岩	6.0	4.1	0.7	27.1
99	石刀	G	包含層	I-28	頁岩	7.1	4.3	1.3	52.8
100	石刀	A	包含層	F11+9ト	頁岩	7.5	3.9	0.6	25.1
101	石刀	G	包含層	I-53	頁岩	8.5	4.9	0.9	50.0
102	石刀	F	包含層	S6-42	頁岩	7.9	4.6	0.9	43.3
103	石刀	D	包含層	S2-6	頁岩	7.0	4.1	0.9	40.9
104	石刀	A	包含層	E13	頁岩	7.1	3.9	0.9	35.8
105	石刀	F	包含層	S6-1020	地質岩	9.1	3.6	0.7	29.2
106	石刀	A	包含層	S2-816	頁岩	9.1	4.5	0.7	50.3
107	石刀	A	包含層	D13	頁岩	7.7	4.2	0.6	35.4
108	石刀	A	包含層	H11	頁岩	8.2	5.0	1.0	54.0
109	石刀	F	包含層	S6-2054	頁岩	7.6	5.0	1.0	46.7
110	石刀	A	包含層	S4-240+-233	頁岩	8.9	4.5	0.8	46.1
111	石刀	A	包含層	表採	頁岩	8.0	4.4	0.8	31.1
112	石刀	A	包含層	H10	頁岩	7.6	4.7	0.8	38.4
113	石刀	F	包含層	S6-519	頁岩	8.3	4.8	0.8	43.2
114	石刀	A	包含層	F14	頁岩	8.1	4.8	0.8	49.9
115	石刀	D	包含層	S003西9号	頁岩	7.5	5.0	0.8	50.3
116	石刀	D	包含層	S2-171	頁岩	9.4	4.1	0.9	55.4
117	石刀	A	包含層	S4-165	頁岩	9.4	4.0	0.7	46.1
118	石刀	A	包含層	S2 362	ホルンフェルス	10.7	4.5	0.7	65.3

第5表 下那珂遺跡出土石器計測表(2)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
119	石泡丁	F	包含層	S6-181	真岩	10.2	5.5	0.8	77.3
120	石泡丁	F	包含層	Tト+S6	真岩	9.6	4.3	0.7	51.2
121	石泡丁	A	包含層	S1-1720	真岩	9.5	5.2	1.5	85.7
122	石泡丁	A	包含層	C14	真岩	8.7	3.6	0.7	30.6
123	石泡丁	A	包含層	S3-166	真岩	8.7	4.2	0.7	36.2
124	石泡丁	D	包含層	S003ヨウ	ホルンフェルス	5.1	5.7	0.4	25.4
125	石泡丁	A	包含層	H13	真岩	4.7	4.4	0.7	24.5
126	石泡丁	A	包含層	I8	真岩	8.6	5.5	0.5	36.0
127	石泡丁	A	包含層	T12	真岩	9.0	5.0	1.2	66.3
128	石泡丁	A	包含層	T9	真岩	8.9	5.2	0.6	41.9
129	石泡丁	G	包含層	J層一柄	ホルンフェルス	8.6	5.0	0.4	43.2
130	石泡丁	A	包含層	S1-720	真岩	10.0	5.9	1.4	103.4
131	石泡丁	A	包含層	S1-1192	真岩	9.6	5.2	9.6	53.0
132	石泡丁	A	包含層	S2-398	真岩	7.0	5.2	0.7	46.2
133	石泡丁	A	包含層	S5-20	真岩	10.0	4.8	1.0	78.7
134	石泡丁	A	包含層	F14	真岩	8.2	3.6	0.6	32.0
135	石泡丁	D	包含層	S3 西	真岩	7.4	4.2	0.7	33.3
136	石泡丁	A	包含層	H10	真岩	7.4	3.2	0.6	22.2
137	石泡丁	A	包含層	J8	真岩	7.5	5.1	0.6	37.4
138	石泡丁	A	包含層	G13	真岩	6.2	4.2	0.7	21.3
139	石泡丁	A	包含層	F13	ホルンフェルス	7.3	4.5	0.8	32.1
140	石泡丁	A	包含層	F13	真岩	10.1	4.7	1.2	76.1
141	石泡丁	D	包含層	表採	真岩	8.5	4.3	0.4	41.9
142	石泡丁	A	包含層	F10	真岩	7.4	4.9	1.3	42.4
143	石泡丁	F	包含層	上層	真岩	4.5	5.5	0.7	21.6
144	石泡丁	B	包含層	H152	真岩	7.3	3.8	0.9	24.6
145	石泡丁	A	包含層	S1-1408	真岩	7.4	4.1	0.6	26.6
146	石泡丁	A	包含層	S1-1429	真岩	8.5	4.1	1.8	68.7
147	石泡丁	A	包含層	F14	真岩	9.0	3.9	0.8	44.6
148	石泡丁	A	包含層	F11	真岩	9.3	4.1	0.9	33.0
149	石泡丁	A	包含層	G14	真岩	7.3	4.5	0.7	30.2
150	石泡丁	D	包含層	S003北ヨウ	真岩	8.5	4.5	1.2	59.4
151	石泡丁	A	包含層	S4	真岩	9.8	6.1	1.1	76.2
152	石泡丁	F	包含層	S6-850	真岩	8.8	5.0	0.9	46.4
153	石泡丁	A	包含層	K9	真岩	8.3	3.6	1.0	34.4
154	石泡丁	F	包含層	-	真岩	5.3	5.4	1.0	27.1
155	石泡丁	A	包含層	J7	砂岩	5.1	5.0	0.7	20.8
156	石泡丁	A	包含層	H13	真岩	5.5	4.1	0.4	9.9
157	石泡丁	A	包含層	F14 3層	真岩	4.2	4.3	0.4	10.1
158	石泡丁	A	包含層	F14	真岩	4.5	3.1	0.5	10.9
159	石泡丁	A	包含層	S4-231	真岩	2.7	2.9	0.3	2.5
160	石泡丁	A	包含層	F13	真岩	3.6	1.9	0.6	2.6
161	石泡丁	A	包含層	H10	真岩	2.9	2.3	0.5	2.8
162	石泡丁	A	包含層	H13	真岩	3.4	2.5	0.6	6.5
163	石泡丁	A	包含層	C14	真岩	4.8	2.5	0.4	5.1
164	石泡丁	A	包含層	G10	ホルンフェルス	5.6	3.9	0.7	16.2
165	石泡丁	A	包含層	F14	真岩	3.9	3.2	0.6	7.8
166	石泡丁	F	包含層	S6-2075	真岩	5.3	4.3	0.5	14.8
167	石泡丁	D	包含層	S1-20	真岩	4.1	3.6	0.5	8.4
168	石泡丁	A	包含層	F12	真岩	4.0	2.8	0.5	5.7
169	石泡丁	A	包含層	F14	真岩	4.2	2.6	0.4	4.7
170	石泡丁	A	包含層	H13	真岩	4.5	2.4	0.4	3.9
171	石泡丁	A	包含層	T11	真岩	3.8	5.2	1.3	23.1
172	石泡丁	A	包含層	-	真岩	3.1	3.9	0.4	6.7
173	砥石	A	包含層	H13	真岩	6.0	1.2	1.1	12.9
174	砥石	A	包含層	S2-2101	真岩	5.8	2.5	1.3	25.6
175	砥石	A	包含層	F14	真岩	7.3	2.2	2.0	36.4
176	砥石	D	包含層	S3 西	真岩	10.5	2.1	1.6	67.6
177	砥石	D	包含層	S4 2016	真岩	10.4	1.9	1.9	43.3

第6表 下那珂遺跡出土石器計測表(3)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
178	砥石	A	包含層	G14	砂岩	10.6	4.1	3.4	197.6
179	砥石	A	包含層	S1-1313	頁岩	11.9	2.9	1.9	83.6
180	砥石	A	包含層	H12	頁岩	9.0	2.2	1.6	49.0
181	砥石	A	包含層	H10	頁岩	5.7	2.4	0.9	14.6
182	砥石	D	包含層	S4-14243	頁岩	9.8	3.4	1.6	50.5
183	砥石	B	包含層	-1113	砂岩	7.7	3.9	4.0	155.8
184	砥石	A	包含層	G12	砂岩	7.7	3.2	1.3	58.4
185	砥石	A	包含層	F14	頁岩	15.6	3.2	1.2	52.1
186	砥石	A	包含層	表採	頁岩	12.3	3.1	2.1	91.3
187	砥石	A	包含層	H10	頁岩	9.8	3.9	2.2	58.8
188	砥石	C	包含層	妙ワシ	頁岩	12.6	3.4	1.1	58.4
189	砥石	A	包含層	I7	頁岩	11.5	4.0	0.9	56.6
190	砥石	A	包含層	H10	頁岩	5.7	2.9	1.1	22.2
191	砥石	A	包含層	E14	頁岩	2.4	2.4	0.6	6.2
192	砥石	A	包含層	S2-5区	頁岩	4.7	4.2	1.5	37.1
193	砥石	F	包含層	18レ	頁岩	3.6	1.6	0.4	4.0
194	砥石	A	包含層	G13	頁岩	5.4	3.8	0.9	22.7
195	砥石	A	包含層	下層-201	頁岩	4.8	2.6	0.4	7.9
196	砥石	F	包含層	北	頁岩	5.5	2.4	0.7	13.4
197	砥石	A	包含層	6レ	頁岩	5.5	3.0	0.6	12.4
198	砥石	A	包含層	F-14	頁岩	8.1	4.1	0.7	34.6
199	砥石	A	包含層	J8	頁岩	5.0	4.0	1.1	17.3
200	砥石	D	包含層	S4-2023	頁岩	4.2	3.9	1.1	24.8
201	砥石	A	包含層	E14 3層	頁岩	6.5	4.6	1.0	32.1
202	砥石	F	包含層	北	頁岩	6.9	3.8	1.0	40.6
203	砥石	D	包含層	S3 西	頁岩	5.3	3.4	0.6	11.2
204	砥石	A	包含層	D13	頁岩	5.3	4.2	0.8	25.8
205	砥石	A	包含層	I12	頁岩	5.7	3.6	0.9	23.7
206	砥石	A	包含層	S7-0139	地縫岩系	4.1	4.6	1.7	47.3
207	砥石	A	包含層	G14-F14 3層	頁岩	10.4	5.2	1.3	89.2
208	砥石	A	包含層	G14	砂岩	8.5	4.8	1.4	91.5
209	砥石	D	包含層	S2-4区	砂岩	7.1	7.0	1.1	84.8
210	砥石	A	包含層	S1-1514	頁岩	8.1	7.1	2.4	147.0
211	砥石	A	包含層	F11	頁岩	5.2	4.5	1.6	38.2
212	砥石	A	包含層	G14	頁岩	12.0	7.8	1.9	165.7
213	砥石	A	包含層	I12	頁岩	11.8	6.2	1.3	124.3
214	砥石	D	包含層	S3	頁岩	7.2	5.7	0.3	17.1
215	砥石	F	包含層	北	頁岩	6.1	4.9	1.0	24.6
216	砥石	A	包含層	F12	頁岩	6.3	2.6	1.2	20.2
217	砥石	F	包含層	北	頁岩	5.4	3.2	0.7	9.7
218	砥石	A	包含層	F14	頁岩	4.6	3.5	0.8	11.4
219	砥石	A	包含層	F14 3層	頁岩	3.7	3.0	0.7	8.5
220	砥石	※	包含層		頁岩	4.0	4.2	1.1	18.2
221	砥石	D	包含層	SA4-14253	頁岩	5.2	2.5	1.1	14.4
222	砥石	A	包含層	S5	頁岩	5.7	3.5	0.8	13.5
223	砥石	A	包含層	H13	頁岩	5.6	4.1	1.0	19.8
224	砥石	A	包含層	E14 3層	頁岩	5.2	3.2	0.8	14.4
225	砥石	F	包含層	15レ	頁岩	5.2	2.3	0.8	12.2
226	砥石	A	包含層	S1 18レ	頁岩	4.1	2.9	0.6	7.1
227	砥石	F	包含層	上層	頁岩	4.7	2.7	0.4	6.5
228	砥石	A	包含層	S2	頁岩	4.1	3.3	1.0	12.3
229	砥石	A	包含層	J8	頁岩	4.5	2.2	1.3	7.7
230	砥石	A	包含層	2レ	頁岩	4.6	5.4	0.7	23.8
231	砥石	A	包含層	J8	頁岩	6.4	4.5	1.0	28.7
232	砥石	A	包含層	F14	頁岩	7.2	7.8	0.7	52.8
233	砥石	F	包含層	S6-1504	頁岩	6.7	5.7	1.6	46.8
234	砥石	A	包含層	S2 10区	頁岩	1.6	3.6	0.4	2.9
235	砥石	A	包含層	S1-408	頁岩	7.5	5.5	0.7	22.3
236	砥石	B	包含層	B-1122	頁岩	8.2	5.7	1.1	75.2

第7表 下那珂遺跡出土石器計測表(4)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
237	砥石	A	包含層	H15 3層	頁岩	7.0	3.5	1.1	34.0
238	砥石	A	包含層	H12	頁岩	6.9	2.4	0.5	11.3
239	砥石	C	包含層	H5	頁岩	9.2	6.4	0.8	59.9
240	砥石	A	包含層	S1-425	頁岩	8.2	5.2	1.3	36.1
241	砥石	A	包含層	S1-676	頁岩	11.1	3.0	1.0	45.5
242	砥石	F	包含層	S6-1281	頁岩	10.8	4.4	1.3	54.4
243	砥石	A	包含層	S3-153	頁岩	4.6	5.9	1.3	40.3
244	砥石	A	包含層	H10	頁岩	4.7	5.7	1.4	38.0
245	砥石	F	包含層	191v	頁岩	3.5	4.0	0.6	12.2
246	砥石	A	包含層	F13	頁岩	4.4	3.6	0.5	10.2
247	砥石	F	包含層	S6-204	頁岩	9.9	5.3	2.2	111.0
248	砥石	A	包含層	K9	頁岩	11.6	4.6	3.6	125.7
249	砥石	A	包含層	G14	頁岩	11.6	8.1	2.7	270.9
250	砥石	A	包含層	S1-391	頁岩	15.0	5.1	2.3	130.2
251	砥石	A	包含層	下 H12	頁岩	9.1	5.7	2.5	196.1
252	砥石	A	包含層	S1-680	頁岩	11.5	4.8	1.9	130.1
253	砥石	A	包含層	F11	頁岩	13.9	4.8	1.9	157.5
254	砥石	D	包含層	S3 西	砾灰岩	11.6	4.8	2.1	165.7
255	砥石	A	包含層	H12	砂岩	8.3	4.3	1.6	69.2
256	砥石	A	包含層	S2-242	頁岩	8.7	8.1	3.1	404.4
257	砥石	B	包含層	B-1339	砾灰岩	6.7	7.4	3.4	241.2
258	砥石	A	包含層	S1-817	砾灰岩	11.5	6.3	3.6	482.7
259	砥石	A	包含層	H13	頁岩	10.2	2.6	4.1	157.4
260	砥石	A	包含層	SA40	砂岩	7.7	8.5	3.3	278.0
261	砥石	A	包含層	S2-125	砂岩	12.1	6.9	5.8	438.5
262	砥石	A	包含層	S1-546	砂岩	9.7	9.8	4.9	613.0
263	砥石	A	包含層	S1-1743	砾灰岩	26.4	16.1	5.1	2971.0
264	砥石	A	包含層	S3 西	砂岩	17.3	9.3	4.0	1042.0
265	砥石	D	包含層	S4-4778	砂岩	37.5	14.9	5.7	4200.0
266	削器	F	包含層	北 上層	頁岩	10.0	4.7	2.1	80.6
267	削器	A	包含層	F11	砾灰岩	9.3	4.2	1.6	58.5
268	削器	A	包含層	S21010	頁岩	9.4	3.9	1.3	53.6
269	削器	A	包含層	I5	頁岩	10.2	4.9	1.3	65.2
270	削器	A	包含層	E13	頁岩	8.9	5.3	1.0	55.7
271	削器	A	包含層	131v	砾灰岩	10.3	3.0	1.4	56.5
272	蛤形剥片石器	D	包含層	6層	砂岩	5.0	6.4	1.7	59.0
273	蛤形剥片石器	D	包含層	S4-24187	砂岩	4.2	5.7	0.9	25.1
274	蛤形剥片石器	A	包含層	S2	砂岩	5.5	7.5	1.5	61.2
275	蛤形剥片石器	A	包含層	S4-247	頁岩	4.8	5.8	0.8	18.2
276	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-1120	砂岩	4.4	4.9	1.2	28.1
277	蛤形剥片石器	D	包含層	S3 北	頁岩	4.5	6.1	1.1	40.4
278	蛤形剥片石器	A	包含層	B9	頁岩	3.5	5.6	0.9	19.3
279	蛤形剥片石器	A	包含層	G10	砂岩	4.2	6.0	1.2	34.8
280	蛤形剥片石器	D	包含層	147v-12	頁岩	3.9	5.0	1.2	20.5
281	蛤形剥片石器	A	包含層	S4-227	砂岩	5.6	8.3	1.5	82.0
282	蛤形剥片石器	A	包含層	H11	頁岩	6.1	8.7	1.1	69.9
283	蛤形剥片石器	A	包含層	17	頁岩	5.8	8.1	1.4	71.1
284	蛤形剥片石器	A	包含層	I9	砾灰岩	5.5	7.7	1.5	62.7
285	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-2075	砾紋岩	8.9	8.6	2.2	151.0
286	蛤形剥片石器	A	包含層	SZ1 3B	砂岩	7.7	8.4	1.5	104.0
287	蛤形剥片石器	A	包含層	G11	砾灰岩	10.1	11.9	2.7	389.3
288	蛤形剥片石器	A	包含層	H10	頁岩	5.9	8.9	7.4	85.6
289	蛤形剥片石器	A	包含層	J8	砾灰岩	5.2	7.5	1.2	59.1
290	蛤形剥片石器	A	包含層	I10	頁岩	5.5	7.9	1.3	68.1
291	蛤形剥片石器	D	包含層	S3 北	砾灰岩	3.6	4.2	0.9	12.4
292	蛤形剥片石器	A	包含層	S21	砾灰岩	3.9	5.5	1.0	20.3
293	蛤形剥片石器	A	包含層	H10	頁岩	4.1	4.9	1.1	24.5
294	蛤形剥片石器	A	包含層	S5	頁岩	4.2	4.5	0.9	23.1
295	蛤形剥片石器	A	包含層	J8	頁岩	9.2	6.6	1.2	100.0

第8表 下那珂遺跡出土石器計測表(5)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
296	蛤形剥片石器	A	包含層	I9	堆積岩系	8.6	11.4	1.6	135.8
297	蛤形剥片石器	A	包含層	26トレ	堆積岩系	5.9	8.2	1.2	62.0
298	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-2095	堆積岩系	6.4	7.0	1.4	64.0
299	蛤形剥片石器	B	包含層	-1019	砾灰岩	6.6	6.7	1.9	79.8
300	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-1633	頁 岩	4.5	4.2	1.2	22.7
301	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-410	砾灰岩	5.6	4.4	1.3	31.2
302	蛤形剥片石器	B	包含層	-1340	堆積岩系	5.6	4.0	1.1	19.0
303	礫 器	A	包含層	J10	砾灰岩	8.8	8.0	3.0	240.7
304	礫 器	D	包含層	S3 西	砂 岩	10.1	8.6	3.0	305.8
305	礫 器	A	包含層	S2-534	玄山岩	13.2	13.2	5.0	1008.5
306	礫 器	A	包含層	H10	頁 岩	11.3	9.2	3.2	369.3
307	礫 器	B	包含層	-	頁 岩	10.0	8.4	4.7	460.0
308	磨製石斧	A	包含層	S1-1383	頁 岩	14.2	6.3	4.6	692.1
309	磨製石斧	A	包含層	112	頁 岩	7.8	4.1	2.0	76.4
310	磨製石斧	F	包含層	S6-1600	頁 岩	10.2	4.3	1.8	112.0
311	磨製石斧	A	包含層	S2-2431	頁 岩	11.1	3.2	4.4	308.3
312	打製石斧	A	包含層	表様	頁 岩	11.6	5.9	2.7	275.6
313	打製石斧	G	包含層	-括	砾灰岩	12.9	5.3	2.4	182.0
314	打製石斧	D	包含層	S4-4867	砾灰岩	11.5	5.6	2.2	149.0
315	打製石斧	B	包含層	-	砂 岩	13.0	8.4	2.9	336.1
316	打製石斧	A	包含層	112	堆積岩系	8.2	3.9	1.3	52.0
317	打製石斧	C	包含層	H6	堆積岩系	9.0	4.5	1.6	89.0
318	打製石斧	C	包含層	-	堆積岩系	10.0	6.3	2.4	160.0
319	打製石斧	A	包含層	T H13	砾灰岩	7.6	5.3	2.1	109.0
320	打製石斧	A	包含層	S2	頁 岩	8.9	5.2	2.6	152.2
321	打製石斧	C	包含層	HS	頁 岩	9.9	5.2	1.6	108.0
322	打製石斧	F	包含層	71レ	頁 岩	9.1	4.3	1.6	85.0
323	打製石斧	A	包含層	下層 G13	頁 岩	8.2	5.2	3.1	177.9
324	敲 石	A	包含層	S2	堆積岩系	4.9	1.5	1.3	13.7
325	敲 石	D	包含層	4ナゾン-31	砂 岩	6.5	4.7	3.8	181.1
326	敲 石	A	包含層	S4-242	砂 岩	12.7	5.4	5.1	465.7
327	敲 石	A	包含層	S2-233	砾灰岩	11.3	5.4	5.1	489.5
328	敲 石	D	包含層	4ナゾン	砾灰岩	10.1	5.6	4.6	365.9
329	敲 石	A	包含層	10ナ	砂 岩	13.3	7.5	5.9	853.7
330	敲 石	A	包含層	H11	砂 岩	10.5	6.0	5.0	415.0
331	敲 石	A	包含層	S1-1460	砾灰岩	9.8	5.6	4.9	412.9
332	凹 石	A	包含層	S1-753	砂 岩	20.9	6.8	3.2	693.0
333	凹 石	F	包含層	S6-1601	砂 岩	11.1	7.9	7.1	870.0
334	凹 石	D	包含層	S3 西	砂 岩	12.4	5.4	4.0	365.9
335	凹 石	A	包含層	G11	砂 岩	21.4	21.1	5.3	3287.0
336	磨 石	A	包含層	F	砾灰岩	7.5	7.2	3.6	284.0
337	磨 石	A	包含層	I9	砾灰岩	9.7	9.5	4.6	622.0
338	石 盆	A	包含層	S4-349	砂 岩	23.4	15.0	6.6	2852.0
339	剥片石器	A	包含層	S2-66	ホルンフェルス	6.5	11.3	1.3	96.0
340	剥片石器	A	包含層	S6-695	頁 岩	14.4	6.2	1.3	159.0
341	削 器	A	包含層	I9	砾灰岩	5.7	7.0	1.5	60.0
342	礫 器	A	包含層	I9	ホルンフェルス	8.1	5.7	2.4	128.0
343	石 斧 丁	A	SA45	SA45-14	頁 岩	8.8	4.9	0.7	51.2
344	石 斧 丁	A	SA45	SA45-1	ホルンフェルス	9.2	5.7	1.0	86.0
345	石 斧 丁	A	SA45	SA45-63	ホルンフェルス	8.6	3.6	0.7	42.2
363	石 斧 丁	A	SA44	SA44-89	ホルンフェルス	9.2	5.2	1.0	70.3
364	石 鋸 未製品	A	SA44	SA44	頁 岩	6.0	3.2	1.6	22.3
386	砥 石	A	SA21	SA21-132	頁 岩	4.4	2.9	0.6	10.4
387	石 斧 丁	A	SA21	SA21-116	頁 岩	7.9	4.3	0.7	35.5
389	砥 石	A	SA35	SA35	砂 岩	5.5	5.3	0.7	16.8
390	蛤形剥片石器	A	SA35	SA35	ホルンフェルス	4.4	6.1	0.7	18.1
397	敲 石	A	SA37	SA37-5	砾灰岩	9.6	5.6	4.1	327.6
398	敲 石	A	SA37	SA37-130	砂 岩	16.7	7.2	6.5	1067.0
399	台 石	A	SA37	SA37-183	砂 岩	17.1	32.2	6.3	5629.0

第9表 下那珂遺跡出土石器計測表(6)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
408	蛤形剥片石器	A	SA39	SA39-194	ホルンフェルス	6.7	6.4	1.6	82.0
409	穀器	A	SA39	SA39-279	ホルンフェルス	8.6	7.8	3.3	226.3
410	砥石	A	SA39	SA39-171	真岩	22.9	4.5	3.5	454.2
413	磨製石鏃	A	SA42	SA42-1柄	真岩	3.3	2.2	0.4	3.2
414	砥石	A	SA63	SA63-67+71	真岩	10.6	3.2	2.3	75.0
423	石庖丁	A	SA11	SA11-12 SH	ホルンフェルス	8.5	5.1	0.6	42.2
424	砥石	A	SA11	SA11-12-129	真岩	9.4	2.3	2.2	41.0
425	蛤形剥片石器	A	SA11	SA11-12-167	ホルンフェルス	8.3	4.7	2.1	95.0
428	磨製石鏃	A	SA12	SA11-12-224	真岩	2.1	1.9	0.3	1.1
431	石庖丁	A	SA13	SA13	真岩	9.4	4.3	0.7	41.4
436	砥石	A	SA2	SA2-63	真岩	8.4	2.8	1.1	32.7
437	蛤形剥片石器	A	SA9	SA9-48	ホルンフェルス	6.7	6.6	1.1	63.0
444	石庖丁	A	SC14	SC14-6	真岩	9.0	5.6	1.1	89.6
453	敲石	A	SA15	SA15-84	砂岩	7.7	4.6	3.8	204.6
454	砥石	A	SA15	SA15-5	砂岩	10.2	3.7	3.3	86.4
468	砥石	A	SA28	SA28	真岩	8.0	1.9	1.9	44.2
476	石庖丁	A	SA29	SA29-68	真岩	5.4	5.0	0.6	20.7
477	石庖丁	A	SA29	SA29 南	ホルンフェルス	7.8	6.2	0.5	33.5
478	石庖丁	A	SA29	SA28-29	ホルンフェルス	4.6	3.0	0.7	11.6
479	砥石	A	SA29	SA28-29-1柄	真岩	12.8	3.8	2.3	117.2
495	砥石	A	SA5	SA5-134	真岩	4.9	2.8	0.7	11.3
496	砥石	A	SA30	SA30	真岩	12.7	3.7	1.6	109.0
500	磨製石鏃	A	SA32	SA32	真岩	3.9	2.1	0.3	2.5
501	磨製石鏃	A	SA32	SA32	真岩	2.7	3.0	0.3	1.9
506	磨製石鏃	A	SA33	SA33-1930	真岩	2.8	1.4	0.3	1.3
514	敲石	A	SA46	SA46-1838	砂岩	8.7	5.4	3.5	244.6
526	砥石	A	SA47	SA47-1746	真岩	7.1	3.5	0.8	19.2
527	敲石	A	SA47	SA47-1642	砂岩	12.8	6.4	4.5	612.0
528	敲石	A	SA47	SA47-1642	砂岩	15.0	13.3	9.6	2662.0
537	砥石	A	SA7	SA7	真岩	4.1	2.4	1.0	12.6
559	磨製石鏃	A	SC13	SC13	真岩	3.0	2.5	0.3	2.5
560	砥石	A	SC13	SC13-25	真岩	3.3	3.5	0.9	8.4
601	磨製石鏃	A	SA54	SA54-55-441	真岩	2.6	2.1	0.3	2.3
602	台石	A	SA54	SA54-350-12	砾状岩	9.9	7.2	4.7	455.0
610	砥石	A	SC9	SC9-5	真岩	18.9	6.0	1.8	371.2
611	磨製石鏃	A	SC9	SC9-9	真岩	3.4	2.0	0.2	2.4
613	石庖丁	A	SA57	SA57-6	ホルンフェルス	10.4	5.0	0.7	54.5
619	磨製石鏃	A	SA58	SA58-40	真岩	2.0	1.3	0.4	1.4
620	敲石	A	SA58	SA58-1839	砾状岩	9.6	7.2	4.5	561.0
628	敲石	A	SA22	SA22-23-15	砂岩	7.2	5.5	2.1	102.9
629	砥石	A	SA22	SA22	真岩	7.0	2.7	1.1	18.9
630	石庖丁	A	SA22	SA22	ホルンフェルス	7.9	4.6	0.8	38.8
647	砥石	A	SA27	SA27-5	砂岩	10.1	5.1	4.1	293.2
657	磨製石鏃	B	SA91	SA91南-1柄	真岩	3.9	1.8	0.2	2.1
658	敲石	B	SA91	SA91-60	砂岩	8.9	5.2	3.8	244.7
659	敲石	B	SA91	SA91-20	砂岩	12.7	5.0	3.6	331.6
660	石鍤	B	SA91	SA91-8	砂岩	5.8	8.7	2.4	184.0
667	砥石	B	SA93	SA93	真岩	6.4	3.8	1.3	31.0
668	石庖丁	B	SA93	SA93-81	真岩	5.6	4.2	0.5	11.7
669	台石	B	SA93	SA93C	砂岩	27.6	11.4	9.9	3466.0
681	砥石	B	SA95	SA95-35	砂岩	5.0	6.3	3.1	176.0
682	磨製石鏃	B	SA95	SA95南-1柄	真岩	3.1	2.2	0.3	2.5
683	石庖丁	B	SA95	SA95-28	ホルンフェルス	9.2	5.5	1.0	68.2
687	石庖丁	B	SA96	SA96-52	真岩	8.2	4.8	0.7	45.1
699	石庖丁	B	SA97	SA97 2区上	ホルンフェルス	9.0	5.3	1.0	60.5
782	敲石	D	SA103	SA201-1	砾状岩	8.4	5.2	5.7	363.0
783	敲石	D	SA103	SA201-408	真岩	9.8	5.4	2.1	133.0
808	敲石	D	SA104	SA209-188	砂岩	8.3	5.6	4.4	266.0
809	蛤形剥片石器	D	SA104	SA209-125	砂岩	10.8	9.9	2.2	219.0

第10表 下那珂遺跡出土石器計測表 (7)

番号	器種	出土区	出土位置	注記番号	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
810	石磨丁	D	SA104	SA209-25	堆積岩系	8.3	4.6	0.6	39.5
811	砥石	D	SA104	SA209-24	頁岩	11.9	3.9	1.9	154.5
824	敲石	D	SA105	SA208-65	砂岩	7.9	5.5	2.4	144.0
836	打製石斧	D	SA106	SA207-6	ホルンフェルス	8.4	6.0	3.0	205.0
837	石磨丁	D	SA106	SA207-63	頁岩	9.4	3.8	0.8	46.3
850	砥石	D	SA107	SA202-157	頁岩	5.7	5.0	0.9	21.0
861	石磨丁	D	SA109	SA213-67	頁岩	8.6	5.2	1.1	63.2
862	磨製石鏟	D	SA109	SA213-163	頁岩	3.5	2.3	0.3	3.3
900	砥石	D	SA114	SA203-411	砂岩	9.9	4.0	2.0	86.9
901	磨製石鏟	D	SA114	SA203-407	頁岩	5.6	2.1	0.6	8.0
902	敲石	D	SA114	SA203-187	砂岩	11.1	6.3	3.3	297.0
903	磨石	D	SA114	SA203-102	砂岩	5.5	1.3	2.1	22.0
905	石磨丁	D	SA114	SA203-336	頁岩	10.5	4.9	0.9	72.5
915	石磨丁	D	SA115	SA205-29	ホルンフェルス	9.4	5.6	0.5	55.6
916	砥石	D	SA115	SA205-271	頁岩	7.8	3.4	2.0	48.0
917	敲石	D	SA115	SA205-176	砂岩	10.3	6.8	4.3	284.0
918	石皿	D	SA115	SA205-211	砂岩	28.5	21.5	9.5	5721.0
1023	砥石	F	SA116	SA215-129	頁岩	5.4	2.8	0.8	9.0
1024	磨製石鏟	F	SA116	SA215	頁岩	2.4	2.1	0.2	1.9
1057	石磨丁	D	SA119	SA216-36	頁岩	7.6	3.8	0.8	29.1
1141	磨製石鏟	C	SA90	SA90-③	頁岩	2.9	1.4	0.3	1.3
1147	ナイフ形石器	A	包含層	表探	チャート	2.2	1.6	0.5	2.5
1148	ナイフ形石器	A	包含層	表探	頁岩	5.4	2.4	1.3	13.7
1149	ナイフ形石器	A	包含層	SA13-53	ホルンフェルス	7.4	2.2	0.9	17.3
1150	ナイフ形石器	A	包含層	F9	頁岩	6.8	2.5	1.5	15.1
1151	尖頭器	E	包含層	I-83	ホルンフェルス	4.8	1.7	0.6	7.7
1152	尖頭器	A	包含層	I7	珪質岩	7.8	3.0	1.2	32.0
1153	削器	A	包含層	表探	頁岩	6.3	5.7	1.7	38.7
1154	細石核	A	包含層	F11	頁岩	3.4	6.3	3.2	59.3
1155	細石核	A	包含層	D14	頁岩	3.4	2.7	1.4	14.5
1156	細石核	A	包含層	F13	砂岩	4.5	3.6	0.7	10.4
1157	細石核	B	包含層	カゲソ	砂岩	3.4	4.3	2.1	44.1
1158	細石核	A	包含層	表探	砂岩	5.0	5.3	1.7	65.6
1159	細石核	A	包含層	表探	砂岩	4.6	6.5	2.1	91.4
1160	粗製刮片石器	A	包含層	下層-283	頁岩	7.0	8.7	1.1	65.2
1161	粗製刮片石器	A	包含層	下層-242	ホルンフェルス	5.5	6.6	1.0	36.0

第11表 下那珂遺跡出土石器計測表(8)

番号	種別	器種部	出土上区	出土地点	法 長 (cm)	手形・調査・文様ほか	色 調		胎土の特徴	備考			
							外 面	内 面	外 面	内 面			
343	高坏	口縁部	A	SA45	26.9	黒化著しく調査不 可。底に墨が付いて る。	黒化著しく、表面不 規則な黒い色。それが やや赤褐色である。	明黄褐	明黄褐	2mm以下灰・黒色 を含む			
344	高坏	脚部	A	SA45		模索する跡と別物 底板は墨文。底に墨 の付着。	模索する跡と別物 底板は墨文。底に墨 の付着。	にぶい 黄橙	桜	2mm以下灰・黒 色を含む			
345	高坏	脚部	A	SA45		黒化著しく、底 部、肩部濃黒灰 化。	黒化著しく、底 部、肩部濃黒灰 化。	にぶい 黄橙	桜	2mm以下灰・黒 色を含む			
346	器台	柱部	A	SA45		模索する跡の墨 文。底力の付着。	模索する跡の墨 文。底力の付着。	ナデ	にぶい 黄橙	2mm以下灰・黒 色を含む			
350	壺	口縁部～ 底部	A	SA44	20.2	ナデ、工具ナデ	ナデ	桜	桜	1~3mmの灰・黒色 を含む			
351	壺	口縁部～ 脚部	A	SA44	16.3	口縁部は前方の ハケ目。後方には機 方向のハケ目。脚部は機 方向のハケ目。	口縁部はハケ目の 後方ナデ。脚部は機 方向のハケ目。	にぶい 桜	にぶい 桜	2mm以下灰・黒色 を含む。1mm以下の赤 褐色を含む			
352	小型壺	口縁部～ 脚部	A	SA44	11.6	機方向の工具ナデ	機方向の工具ナデ	桜	桜	2mm以下灰の色 を含む			
353	壺	口縁部	A	SA44	12.1	機方向のハケ目	機方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下灰の色 を含む			
354	小型壺	口縁部～ 底部	A	SA44	5.0	10.8	口縁部は機方向の ハケ目。脚部は機方 向のハケ目。底部は機 方向のハケ目。	工具ナデの間にナ デ。機方向のハケ目。	にぶい 黄橙	黄灰	2mm以下灰・黒 色を含む		
355	壺	脚部～ 底部	A	SA44		4.3	黒化著しく、不明で あるが、おそらくナ デ。	ナデ。底部附近は機 方向のハケ目。	桜	黄灰	2mm以下灰・黒 色を含む		
356	壺	脚部～ 底部	A	SA44		3.6	機方向の工具ナデ	機方向の工具ナデ	にぶい 桜	桜	2mm以下灰・黒色 を含む		
357	鉢	口縁部～ 底部	A	SA44	26.8	4.6	10.0	黒化著しく、機方 向のハケ目がある。	黒化著しく、機方 向のハケ目がある。	桜	にぶい 黄橙	1mm以下の黒色光沢 ・無色透明・黒・白色 を含む	
358	鉢	口縁部～ 底部	A	SA44	12.7	機方向のハケ目。 底板は墨。	機方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下灰・黒色 を含む			
359	高坏	脚部	A	SA44		黒化著しく、調査不 可。	黒化著しく、調査不 可。	桜	桜	1mm以下の灰・黒・無 色透明を含む			
360	高坏	坏部～脚 部	A	SA44		機方向のハケ目。 底板は墨。	机方向のハケ目。 底板は墨。	にぶい 黄橙	黄橙	1mm以下の灰・黒色 を含む			
361	鉢	口縁部～ 底部付近	A	SA44	21.8	機方向の工具ナデ。 底板は墨。	黒化しているが放 射状に墨が残る。	にぶい 桜	桜	1mm以下の黒色光沢 ・無色透明を含む			
362	高坏	脚部	A	SA44		17.4	黒化著しくわざ りに墨が残る。	円周方向のハケ目	にぶい 桜	桜	1mm以下の黒色光 澤を含む		
365	壺	脚部	A	SA43		機方向の工具ナデ。 底板は墨。	指ナデ	桜	にぶい 黄橙	2mm以下灰の色 を含む			
366	鉢	脚部～底 部	A	SA43		6.7	機方向の工具ナデ。 底板は墨。	不定方向のミキモ ツ。	桜	桜	1mm以下の灰・黒色 を含む		
367	高坏	口縁部	A	SA43			上半は機方向のハ ケ目。下半は機方向 のハケ目。	機方向のミキモ ツ。	桜	桜	1mm以下の灰・黒 色を含む		
368	高坏	坏部と脚 部の連結部	A	SA43			工具ナデ	ナデ	にぶい 黄橙	灰	1mm以下の灰・黒 色を含む		
369	鉢	口縁部～ 底部	A	SA43	19.5	2.9	6.2	機方向のナデの最 終部分のハケ目。	機方向のナデ、ナデ のハケ目。	桜	にぶい 桜	1mm以下の灰・黒色 を含む	
370	壺	口縁部～ 脚部	A	SA21	15.3		工具ナデ	ナデ	にぶい 桜	桜	1mm以下の灰・黒 色を含む		
371	壺	口縁部～ 脚部	A	SA21	16.1		機方向は機方向の ナデ。脚部は機方向 のハケ目。	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	4mm以下灰・黒 色。2mm以下灰・黒 色透明を含む			
372	壺	口縁部～ 脚部	A	SA21	20.1		機方向はナデ。脚 部は機方向のハ ケ目。	機方向は機方向の ナデ。脚部は機方向 の工具ナデ。	にぶい 桜	にぶい 桜	4mm以下灰・黒 色。2mm以下灰・黒 色透明を含む		
373	壺	口縁部～ 脚部	A	SA21	16.7		機方向は機方向の ナデ。脚部は機方向 のハケ目。	機方向は機方向の ナデ。脚部は機方向 の工具ナデ。	にぶい 黄橙	桜	3mm以下灰・黒 色。2mm以下灰・黒 色透明を含む		
374	壺	口縁部	A	SA21			二次口沿部に模 倣の通路跡。	ナデ	桜	桜	3mm以下の赤色。1 mm以下の透明光沢 を含む		
375	壺	口縁部～ 底部	A	SA21	11.6	5.7	19.0	機方向に工具 ナデ	機方向に工具 ナデ	にぶい 黄橙	3mm以下の赤色・灰 ・黒・黄色光沢を含む		

第12表 下那珂遺跡出土土器観察表(1)

番号	種別	器種 部位	出土 区	出土地点	法量(cm)		手法・鋸割・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
376	壺	頸部～胴部	A	SA21				鋸割は斜ナギ、斜削 は斜方削の工具ナギ のナギ	浅黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の墨色、2mm以上の褐色を含む		
377	壺	口縁部～ 頸部	A	SA21	13.0			口縁部は横方削の ナギ、斜削は斜方削の 工具ナギのナギ		にぶい 橙	2～3mmの墨・黒色を含む		
378	甕	底部	A	SA21	4.2			風化著しく不明で あわらがれやすく、斜削 は斜方削の工具ナギ のナギ		にぶい 橙	3mm以下の墨・褐灰色 を含む		
379	壺	頸部～底 部	A	SA21		5.3		鋸割は斜方削の工 具ナギ、底削付近は 斜ナギ	浅黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の墨色、2mm以上の褐色を含む		
380	高坏	脚部	A	SA21				鋸と斜方削のミガキ ナギ		にぶい 橙	4mm以下の墨色・褐灰色 1mm以下での透明光沢 を含む		
381	高坏	坏部	A	SA21	27.5			鋸方向のミガキ	鋸方向のミガキ	橙	2mm以下の墨色・黒色を含む		
382	鉢	口縁部～ 脚部	A	SA21	26.3			鋸と斜方削のミガキ	鋸と斜方削のミガキ	橙	3mm以下の墨色・白 い・黒色・褐灰色を含む		
383	高坏	坏部	A	SA21				風化著しく不明で あるが、おそらく斜 方削のミガキ	風削、鋸と斜方削の ミガキ	浅黄橙	黒褐	3mm以下の墨色、1 mm以下の透明光沢 を含む	
384	鉢	口縁部	A	SA21				主に斜方削のミガキ	主に斜方削のミガキ	にぶい 赤褐	1mm以下の透明光沢 1mm以下での墨色を含む		
385	壺	底部	A	SA21		2.0		鋸方向のミガキ	鋸方向のミガキ	にぶい 黄橙	3mm以下の墨色、1 mm以下での透明光沢 を含む		
388	鉢	口縁部～ 底部	A	SA34	7.2	6.3	2.5	口縁部は横方削の 工具ナギ、斜削は斜方 削の工具ナギのナギ	口縁部は横方削の 工具ナギ、斜削は斜方 削の工具ナギのナギ	橙	1～2mmの墨色・褐 色石斑、2mm以下の墨 色を含む		
391	甕	頸部～頸 部	A	SA37				鋸と斜方削のミガキ	鋸と斜方削のミガキ	にぶい 橙	2mm以下の墨色、1 mm以下の墨色を含む		
392	甕	頸部～底 部	A	SA37		6.1		横と斜方削のミガ キ、底削付近は斜方 削	横と斜方削のミガキ ナギ、底削付近は斜方 削	橙	3mm以下の墨色・白 い・黒色・褐灰色を含む		
393	壺	頸部～底 部	A	SA37				鋸方向のハック目	底削附近は斜ナギ、 斜削はナギ	にぶい 黄橙	1mm以下の墨色・白 い・黒色・褐灰色を含む		
394	壺	口縁部	A	SA37	12.2			二重口縁部に斜削 波状文、口縁部は斜 ナギと斜方削のミガ キ	二重口縁部は横方 削のミガキ、斜削は斜 方削のミガキ	にぶい 橙	1mm以下の透明光沢 を含む		
395	壺	口縁部	A	SA37				二重口縁部に斜削 波状文、口縁部は斜 ナギと斜方削のミガ キ	二重口縁部は横方 削のミガキ、斜削は斜 方削のミガキ	にぶい 橙	2mm以下の墨色・白 い・1mm以下の透明 光沢を含む		
396	壺	口縁部	A	SA37				一重口縁部に斜削 波状文、口縁部は斜 ナギと斜方削のミガ キ	一重口縁部に斜削 波状文、口縁部は斜 ナギと斜方削のミガ キ	橙	1mm以下の墨色を 含む		
400	鉢	口縁部～ 底部	A	SA38	10.0	2.4	7.9	風化著しい・薄い カット	鋸方向の工具ナギ のナギ	橙	3mm以下の墨色・白 い・1mm以下の透明 光沢を含む		
401	壺	口縁部～ 頸部	A	SA38		8.3		口縁部は横方削の 工具ナギ、斜削は斜 化著しい・薄いカット のミガキ	風化著しい・薄い カット	明赤褐	1mm以下の透明光 沢、1mm以下の白 色・乳白色を含む		
402	壺	口縁部～ 底部	A	SA39	13.3	5.0	25.1	二重口縁部は斜削 波状文、斜削は斜 ナギと斜方削のミガ キ	二重口縁部は斜削 波状文、斜削は斜 ナギと斜方削のミガ キ	にぶい 黄橙	2mm以下の墨色・白 い・1mm以下の透明 光沢を含む		
403	壺	口縁部～ 底部	A	SA39	11.4	0.8	24.2	鋸と斜方削の工具 ナギ	鋸削は斜ナギ、斜削 は斜方削の工具 ナギ	にぶい 褐灰	4mm以下の墨色・白 い・1mm以下の透明 光沢を含む		
404	壺	頸部～底 部付近	A	SA39				鋸と斜方削のハック 目	鋸削は斜ナギ、斜削 は斜方削の工具 ナギ	にぶい 橙	3mm以下の墨色・白 い・墨色を含む		
405	甕	頸部～底 部	A	SA39		6.4		風化著しい・薄い カット	風化著しい・薄い カット	橙	4mm以下の墨色・白 い・ナゲル・墨色を含む		
406	甕	頸部～底 部	A	SA39		5.0		風化著しい・薄い カット	風化著しい・薄い カット	橙	3mm以下の墨色・白 い・透明光沢・墨色 を含む		
407	甕	底部	A	SA39		6.2		指ナギ	指ナギ	灰	3mm以下の墨色・白 い・墨色を含む		
411	甕	底部	A	SA40		5.4		斜削不明だが、底 付近は斜カット	斜削不明だが、底 付近は斜カット	にぶい 橙	3mm以下の墨・白 い・墨色を含む		
412	鉢	口縁部～ 底部	A	SA41	22.6	6.1	10.5	風化著しい・薄い カット	ナゲル・斜削の工具 ナギ	橙	4mm以下の墨色・白 い・墨色を含む		

第13表 下那珂遺跡出土土器観察表(2)

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法 長 (cm)	手法・調査・文様ほか		色		胎土の特徴	備考		
						口径	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
417	壺	口縁部	A	SA65	8.7			二次口縁部に輪郭 模様文	或方角のナデ	にぶい 橙	橙	2mm以下の褐・茶色地 を含む	
418	壺	胴部～底 部	A	SA65		3.6		ナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・黒色 を含む	
419	鉢	口縁部～ 底部	A	SA86	11.3	5.4	14.3	輪郭部は横方向の ケ日、底脚付近部は ナデ、胴部は丁字ナ デのナデ	輪郭部は横方向の ナデ、底脚付近部は ナデ、胴部は丁字ナ デのナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	4mm以下の赤褐色、2 mm以下の褐色地を含 む	
420	壺	底部	A	SA11		5.9		ナデ、工具ナデ	不定方向のハケ日	にぶい 橙	黑灰	1mm以下の灰白・褐 色透明粘土を含む	
421	高坏	肩部	A	SA11				或方角のナデ、円 滑道有	ナデ	にぶい 橙	灰黄褐	2mm以下の褐・白・黑 色地を含む	
422	勾玉		A	SA11						橙	橙	1~2mmの黑色粒 を含む	
426	高坏	肩部	A	SA12				輪郭に横條文、或方 角のナデ	斜と横方向の工具 ナデ	にぶい 黄橙	浅黄	1mm以下の褐色地を含 む	
427	壺	底部	A	SA12		4.1		工具によるナデの後 に土台	主に或方角のハケ日	にぶい 橙	黄橙	1mm以下の灰白・無色 透明粘土地を含む	
429	壺	口縁部	A	SA13	12.5			横方向のナデで一 度工具が剥離	或方角のナデ	橙	橙	3mm以下の褐・灰 色透明粘土を含む	
430	壺	胴部	A	SA13				円形の起伏状態、微 細の輪郭模様文、或 方角のナデ		にぶい 橙	灰	1mm以下の褐色地を含 む	
432	壺	口縁部	A	SA2	12.6			口縁部は或方角の ナデ、口縁部は或方 角のナデ	或方角のナデ、ナデ のハケ日	橙	橙	1mm以下の無色透明 粘土を含む	
433	壺	胴部	A	SA2				輪郭横条文の一帯 あり	ナデ	橙	橙	1mm以下の褐灰・灰 色地を含む	
434	高坏	肩部	A	SA2				横方向の工具ナデ 後にハケ日	不定方向のハケ日	にぶい 橙	黄橙	4mm以下の灰褐色、2 mm以下の明 赤褐色・褐色地を含 む	
435	器台	肩部	A	SA2				輪郭に横條文、或方 角のハケ日の後ナ デ	或方角のハケ日	にぶい 橙	黄橙	5mm以下の灰褐色・赤 褐色地、3mm以下 の乳白・無色透明 粘土地を含む	
438	甕	口縁部～ 肩部	A	SA18	19.3			輪郭に斜削の劍文、 或方角のナデ	主に或方角のハケ 日	にぶい 黄橙	黄褐	1mm以下の褐色地を含 む	
439	高坏	肩部	A	SC14	26.9			上方に横削のナ デ、下辺はナデ	風の薫しがほほ 向ひのナデ	にぶい 黄橙	黄橙	2mm以下の水褐色・褐 色透明粘土を含む	
440	高坏	肩部	A	SC14				輪廓部はナデ、他は 或方角のナデ	曲面側面付近に推ナ デ、他は2mm	にぶい 黄橙	黄橙	2mm以下の褐・茶褐色 地を含む	
441	甕	肩部	A	SC14				輪と斜方角のナ デ	斜方角のナデ	にぶい 黄橙	黄橙	2mm以下の褐・灰褐色 地・白・灰褐色地を含 む	
442	器台	柱部	A	SC14				中央部には各方向 のナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の白・褐・黑 色透明粘土を含む	
443	器台	袖部	A	SC14	30.5			豊富な斜方角のナ デ	斜方角のナデ	橙	橙	2mm以下の白・褐・黑 色透明粘土を含む	
444	甕	底部	A	SC14	5.2			豊富なハケ日、底 部付近は唐草文	ナデ	にぶい 黄橙	灰	1~2mmの灰・茶褐色 地を含む	
445	壺	口縁部	A	SC14				二次口縁部に円形 模様文	氯化層らしいがおそら くナデ	橙	橙	2mm以下の乳白・黑 色透明粘土を含む	
447	甕	底部	A	SA14	6.9			ナデ、底脚付近部 ナデ	角ナデ	にぶい 黄橙	黄灰	4mm以下の灰褐色・赤 褐色地を含む	
448	器台	袖部	A	SA14	22.6			輪方角のナデ	輪と斜方角のナ デ	橙	橙	1mm以下の赤褐色・褐 色透明粘土を含む	
449	壺	口縁部～ 肩部	A	SA15	18.7			二次口縁部に輪郭 模様文、輪郭は工具 による丁字ナデ	工具ナデ	橙	にぶい 橙	2mm以下の灰・褐・黑 色地を含む	
450	壺	口縁部	A	SA15	11.8			口縁部付近は横方 角、頭部部は輪郭 模様文のハケ日	或方角付近は横方 角、頭部部は輪郭 模様文のハケ日	橙	橙	2mm以下の灰褐色・赤 褐色・黑色透明粘土を含 む	
451	手捏土 器	口縁部～ 底部	A	SA15	5.3	1.1	4.3	或方角のナデ	或方角の工具 ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・褐 色地を含む	
452	甕	口縁部～ 肩部	A	SA15				口縁部付近は斜 方角のナデ	斜方角のナデ	橙	橙	2mm以下の灰・褐 色地を含む	

第14表 下那珂遺跡出土土器観察表(3)

番号	種別	器種	出土区	出土地点	法身 (cm)		手法・素面・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面	
456	甕	口縁部～肩部	A	SA19	14.0		口縁部は横方向のナダ、脚部は直方向のハケ日	口縁部は横方向のナダ、脚部は直方向の工具ナダに側面にナダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~3mmの黒・褐色斑を含む	
457	壺	口縁部～肩部	A	SA19	10.3		腹方向のハケ日	腹方向のハケ日	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色斑を含む	
458	壺	口縁部～肩部	A	SA19	9.0		斜方向のハケ日	は縦方向のナダ、脚部は沿ナダ、脚部はナダ	にぶい 橙	灰黄	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
459	壺	底部	A	SA19		3.3	黒化著しく凹凸ある く工具ナダ	ナダ	橙	灰黄	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
460	甕	口縁部～底部	A	SA25	28.3		口縁部はナダ、脚部は直方向のナダ	口縁部はナダ、脚部は直方向のナダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
461	甕	肩部～底部	A	SA25		4.9	ナダの後、不規方向 のハケ日、底部附近は直方向のハケ日	ナダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
462	鉢	底部	A	SA25		3.1	黒化著しく圓錐不 規たがおもぞりナダ	ナダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
463	壺	底部	A	SA25	9.2		ナダ、底部附近はナ ダ	斜方向の工具ナダ	褐灰	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
464	壺	頭部～底部	A	SA25	2.9		黒化著しく開窓ハ 明だが、おもぞりナ ダ	黒化著しく開窓ハ 明だが、おもぞりナ ダ	にぶい 橙	にぶい 黄橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
465	鉢	口縁部	A	SA25			黒化著しく開窓ハ 明だが、おもぞりナ ダ	黒化著しく開窓ハ 明だが、おもぞりナ ダ	浅黄褐	にぶい 黄橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
466	甕	頭部～底部	A	SA26		4.9	黒化がハケ日の後 にナダ	斜方向のハケ日	浅黄褐	にぶい 黄橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
467	甕	底部	A	SA28		6.6	ナダ	ナダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色斑を含む	
469	壺	口縁部～肩部	A	SA29			頭部は横方向のナ ダ、脚部は平行クタ キ	ナダ、指ナダ	にぶい 橙	黄灰	2mm以下の褐色斑を含む	
470	壺	肩部	A	SA29			三段状の肩部を 次の上に斜向の道 筋紋、斜方向の工 具ナダ	ナダ、脚部附近は沿 ナダ斜方向の工具 ナダ	にぶい 橙	橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
471	鉢	口縁部～底部	A	SA29	7.7	2.3	ナダ、底部附近はナ ダ	ナダ	にぶい 黄橙	灰黄褐	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
472	鉢	口縁部～底部	A	SA29	9.7	3.5	7.5	口縁部は横方向の ナダ、脚部はナダ、 脚部附近は沿ナダ のハケ日	灰白	反黄	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
473	鉢	口縁部～底部	A	SA29	7.9	4.6	7.0	ナダ、底部附近は指 ナダ	灰黄	暗灰黄	4mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
474	高坏	脚部	A	SA29			黒化が中止され、円 形透かし	ナダ	にぶい 橙	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色斑を含む	
475	高坏	脚部	A	SA29			黒化が中止され、円 形透かし	ナダ	橙	1~2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む		
480	壺	口縁部	A	SA4			二次丸脚に自縫 文、腹側のハケ日	ナダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の褐色・白・青褐色斑を含む	
481	高坏	脚部	A	SA4			腹方向シケナリ、 ガタ、ナダ、円脚透 きあり	脚部の工具ナダ の後ナダ	根	根	3~4mmの赤褐色・褐 色・灰白色を含む	
482	甕	口縁部～底部	A	SA5	19.0	5.0	16.5	口縁部は横方向の ナダ、脚部は斜方向 の工具ナダ、脚部は直 方向ナダ	灰黄	にぶい 黄橙	2mm以下の赤褐色、 1~2mmの褐色・黑色 斑を含む	
483	壺	口縁部～肩部	A	SA5	13.0		山筋部は横方向の ナダ、脚部は不規方 向の工具ナダ	ナダ	にぶい 橙	2mm以下の褐色斑、2mm 以下の褐色・暗灰・黑 色斑を含む		
484	壺	底部	A	SA5		5.6	脚部斜方向のハケ 日	脚部斜方向のハケ 日	明黄褐	明黄褐	2mm以下の赤褐色・ 1~2mmの褐色・黑色 斑を含む	
485	壺	肩部	A	SA5			脚部斜方向に斜 状の工具ナダ、斜 方向のハケ日、ナ ダ	ナダ	根	根	2mm以下の褐色斑を含 む	
486	壺	肩部	A	SA5			脚部斜方向のハ ケ日、底部附近はナ ダ	斜方向のハケ日	にぶい 黄橙	褐灰	1mm以下の褐色斑を含 む	
487	壺	底部	A	SA5		4.4	脚部斜方向のハ ケ日、底部附近はナ ダ	斜方向のハケ 日	にぶい 黄橙	褐灰	1mm以下の褐色斑を含 む	

第15表 下那珂遺跡出土土器観察表 (4)

番号	種別	器種部	出土区	出土地点	法量(cm)		手法・箇頭・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
488	小型壺	口縁部～底部	A	SA5	7.1	2.2	4.8	指ナデ	指ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の黒色、2～3mmの灰白色を含む	
489	高壺	耳部	A	SA5	24.0			上半は横方向のハケ目、下半は不定方向の工具ナデ	上半は横方向のハケ目、下半は不定方向の工具ナデ	橙	にぶい 橙	1mm以下の灰白・黑色調明光沢を含む	
490	高壺	耳部	A	SA5	25.8			縦と斜方向のハケ目	縦と斜方向のハケ目	明黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐色を含む	
491	高壺	脚部	A	SA5		13.6		斜方向のハケ目の後半	斜方向のハケ目の後半	橙	黑褐	1mm以下の黒色を含む	
492	高壺	脚部	A	SA5		13.6		黒化していく調整不規則、内面は滑らか	上半は指ナデ、下半はナデ	橙	橙	2～3mmの薄・灰色石粒を含む	
493	器台	受部	A	SA5	31.4			右角は鉛筆、左角は方角のハケ目	右角は鉛筆、左角は方角のハケ目	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の灰白・場・赤褐色を含む	
494	器台	受部～脚部	A	SA5	21.3	19.5	19.4	口縁部には鉛筆、上下左右に内面凹凸、全周に斜方角のハケ目	口縁部は横方向のハケ目、下半は斜方角のハケ目、他はナデ	灰褐	橙	2mm以下の灰・墨・黑色調明光沢を含む	
497	甕	口縁部～脚部	A	SA30				黒化していく、左側は斜方角のハケ目	口縁部は横方向のナデ、ナデの後に指ナデ	橙	橙	1mm以下の墨・黑色調を含む	
498	壺	口縁部	A	SA30	8.6			斜方角のナデ、一部工具ナデが認められる	口縁部は横・斜方角のナデ	にぶい 橙	橙	2mm以下の赤・黑色調を含む	
499	鉢	口縁部	A	SA30				不定方向のハケ目	不定方向のハケ目	橙	黑褐	1mm以下の墨色を含む	
502	小型甕	口縁部	A	SA33	16.3			斜方角のハケ目	横と斜方角のハケ目	橙	橙	1mm以下の灰・赤・黑色調を含む	
503	甕	脚部～底部	A	SA33		2.7		斜方角のハケ目	斜方角の工具ナデ	明黄橙	明黄橙	1mm以下の灰・墨・黑色調を含む	
504	鉢	口縁部～底部	A	SA33	15.2	6.9	8.9	上半は斜方角のナデ、下半は斜方角のハケ目	黒化していく、調整不規則	褐灰	褐灰	2mm以下の赤褐色を含む	
507	甕	口縁部～脚部	A	SA46	19.0			口縁部は斜方角のナデ、脚部は斜方角のハケ目	ナデ、部分的に工具ナデが認められる	にぶい 黄橙	灰白	4mm以下の灰白色を含む	
508	甕	口縁部～脚部	A	SA46	16.8			口縁部は斜方角のナデ、脚部は斜方角のハケ目	ナデ、部分的に工具ナデが認められる	褐灰	黑褐	4mm以下の褐色不規則を含む	
509	甕	底部	A	SA46		5.6		黒化していく、調整不規則	底部近辺には指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	5mm以下の赤褐色を含む	
510	壺	肩部～底部	A	SA46		5.2		縦と斜方角にしき毛	指ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の灰・墨・黑色調を含む	
511	甕	底部	A	SA46		5.8		脚部は横・斜方角のハケ目、底部は斜方角のナデ	にぶい 黄橙	褐灰	4mm以下の灰褐色を含む		
512	鉢	脚部～底部	A	SA46		4.8		斜方角のハケ目		にぶい 橙	橙	2mm以下の灰・墨・黑色調を含む	
513	器台	脚柱部	A	SA46				斜方角のハケ目	ナデ	橙	橙	1mmの褐色不規則を含む	
515	甕	口縁部～底部	A	SA47	12.4	4.2	18.9	黒化していく、口縁部は斜方角・脚部は斜方角のハケ目、脚部は指ナデ	黒化していく、口縁部は斜方角・脚部は斜方角のハケ目、脚部は指ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・墨・黑色調を含む	
516	甕	口縁部	A	SA47				口縁部は斜方角のハケ目、口縁部は斜方角・脚部は斜方角のハケ目	斜方角の工具ナデ	橙	橙	4mm以下の赤褐色、2mm以下の灰褐色・透明白粉を含む	
517	壺	口縁部	A	SA47		13.6		二次口縁部は擦痕状況又、底部は斜方角のハケ目	口縁部は指ナデ、脚部は斜方角のハケ目	にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の墨色石粒を含む	
518	壺	口縁部	A	SA47		10.9		斜方角のハケ目	斜方角の工具ナデの後半は斜方角のハケ目、脚部は斜方角のハケ目	にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の透明白粉を含む	
519	壺	肩部	A	SA47				底線文部の腹部、斜方角のハケ目	指ナデ、斜方角のハケ目	橙	橙	2mm以下の赤褐色石粒、1mm以下の墨色石粒を含む	
520	甕	肩部～脚部	A	SA47				斜板の裏面もつ、貼付跡、裏面のハケ目	ハケ目その後に指ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の灰褐色、1mm以下の灰白色を含む	
521	高壺	口縁部	A	SA47	17.4			黒化していく、前方は工具ナデの後半に斜方角のハケ目	黒化していく、前方は工具ナデの後半に斜方角のハケ目	橙	橙	3mm以下の赤・場・墨・黑色調を含む	
522	鉢	口縁部～底部	A	SA47	6.9			黒化していく、左側は斜方角のハケ目	指ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・赤褐色を含む	

第16表 下那珂遺跡出土土器観察表(5)

番号	種別	部 種 部 位	出土 区	出土地点	法 量 (cm)		手法・形態・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備 考	
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
523	高坏	脚部	A	SA47		12.4	ナデ	横方向のハケ口	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の赤褐色・褐 色を含む		
524	壺	頸部～胸 部	A	SA47			横面に丁字状のハケ 口、斜方のハケ口、指 先ナデ	横方向のハケ口、指 先ナデ	根	根	3mm以下の赤褐色・褐 色を含む		
525	器台	脚部	A	SA47		23.9	横面は2段方向のナ デ、脚部は能力方向の 工具ナデの後にじこ ナデ	横方向の工具ナデ、 工具ナデの後にじこ ナデ	根	根	4mm以下の赤褐色・褐 色を含む		
529	壺	底部	A	SA48		3.6	ナデ	斜方狀の工具ナデ	にぶい 黄根	褐色	2~3mmの褐色石 英を含む		
530	甕	頸部～底 部	A	SA48		4.6	縦と斜方のハケ口 口、底付近付近ナ デ	斜方の工具ナデ	根	褐色	3mm以下の白・灰・褐 色・乳白色を含む		
531	壺	脚部～底 部	A	SA48		3.3	斜方のハケ口、底 付近付近ナデ	斜方狀的沿子ナデ	根	根	3mm以下の赤・褐・黑 色石英を含む		
532	高坏	脚部	A	SA48		21.3	円錐通し・縫合が あるナデ	ハケ口、脚部には ナデナデ	にぶい 根	にぶい 黄根	3mm以下の赤・乳白・ 褐色を含む		
533	高坏	脚部	A	SA48		18.9	円錐通し、黒化 味があるナデ	脚部は上部から向 けたが横方向のナ デ、脚部にはナ デ	根	根	3mm以下の黒褐色 味、3mm以下の赤褐色 味を含む		
535	鉢	口縁部～ 底部	A	SA7			口縁部は横方向の ナデ、脚部は斜方 方向のナデ	口縁部は横方向の ナデ、脚部は斜方 方向のハケ口	洗黄根	にぶい 黄根	3mm以下の赤褐色 味、3mm以下の白・乳白 色を含む		
536	鉢	口縁部～ 底部付近	A	SA7	10.5	7.0	上部にはナデの痕 跡ナデ	横方向のハケ口	褐色	褐色	3mm以下の透明光沢 味を含む		
538	壺	口縁部	A	SA55		35.8	口縁部は斜方の ナデ、脚部の工具ナ デをもつ時の脚部付 近は黒化味がある がモモナデ	脚部は斜方のナデ、 脚部は斜方の工具ナ デ	根	根	3mm以下の白・乳白・ 黑褐色を含む 等真のみ		
539	壺	口縁部～ 底部	A	SA55			底に黒いナデ、 工具ナデ	口縁部はナデ、脚 部は斜方の工具ナ デ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の黒褐色・ 黑化味を含む 等真のみ		
540	壺	口縁部	A	SA55		7.5	黒化味なく不明 なナデ	黒化味なく不明ナ デが残る	根	根	3mm以下の白・灰・ 黑色味を含む 等真のみ		
541	壺	口縁部	A	SA55			口縁部に黒斑次 数、口縁部ナデ	ナデ	根	根	3mm以下の黒褐色・ 黑色味を含む 等真のみ		
542	壺	口縁部～ 頸部	A	SA55			黒化味しがれの脚 部のハケ口が残る	脚部は斜方の ハケ口が残る	明黄根	にぶい 黄根	3mm以下の白・灰・ 黑褐色を含む 等真のみ		
543	円盤状 土製品		A	SA55			ナデ	ミギナ	にぶい 根	にぶい 根	3mm以下の黒褐色・ 黑色味を含む 等真のみ		
544	鉢	口縁部～ 底部	A	SA55	15.5	4.1	8.1	斜方の工具ナデ	黒化味なく不明	明黄根	根	3mm以下の黒褐色・ 黑色味を含む 等真のみ	
545	壺	口縁部	A	SC3		20.8		二重の脚部は横方 の脚部、脚部はハ ケ口	横方向のナデ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の黒褐色・ 黑色味を含む	
546	壺	底部	A	SC3		6.8		脚部のハケ口、ナ デ	不定方向のナデ	根	根	3mm以下の赤褐色 味を含む	
547	壺	底部	A	SC3		4.7		脚部のハケ口	工具ナデ、脚ナデ	根	根	3mm以下の黒褐色 味を含む	
548	壺	脚部	A	SC3			不定方向のハケ口	脚部は脚ナデ、横方 の工具ナデ	根	根	3mm以下の黒褐色、 3mm以下の赤褐色化粧味 を含む		
549	壺	口縁部	A	SC3		21.0		縦と斜方のハケ 口	斜方のハケ口	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の白・灰・ 黑色味を含む 等真のみ	
550	甕	口縁部	A	SC3			口縁部は横方向の ナデ、脚部は斜方の ナデ	横方向のハケ口、脚 部は斜方のナデ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の黒褐色光 沢味を含む 等真のみ		
551	壺	口縁部～ 脚部	A	SC3		10.3		口縁部は横方向の ナデ	横方向のハケ口、脚 部は斜方の工具ナ デ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の黒褐色・ 黑色味を含む 等真のみ	
552	甕	口縁部	A	SC3		18.6		口縁部は横方向の ナデ	横方向のハケ口、脚 部は新方向のハ ケ口	根	根	3mm以下の白色味 味を含む 等真のみ	
553	鉢	脚部	A	SC3			ナデ	ナデ	根	根	3mm以下の白色味 味を含む 等真のみ		
554	高坏	脚部	A	SC3			斜方のナデ	横方向のハケ口、ナ デ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の赤褐色、 3mm以下の白・灰・ 黑色味を含む 等真のみ		
555	器台	受部	A	SC3		27.1		斜方狀的沿子ナ デ	横方向のハケ口	にぶい 根	にぶい 根	3mm以下の黒褐色、 3mm以下の白・灰・ 黑色味を含む 等真のみ	
556	壺	脚部	A	SC3			横方向のナデ	不定方向の工具ナ デ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の黒褐色、 黑色味を含む 等真のみ		

第17表 下那珂遺跡出土土器観察表(6)

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	計量(cm)		手法・運搬・文様ほか		色調		出土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
557	高坏	脚部	A	SC3				黒化著しいが、おそれなくナゲ	不定方向のハケナダ	黄橙	橙	5mm以下の赤褐色、3mm以下の茶褐色-乳白色を含む	実測困難、写真のみ
558	壺	底部～底部	A	SC3		4.3		黒化著しいが、工具ナダ	風化著しいが、強力向のハケが残る	にぶい黄橙	黄灰	1mm以下の赤褐色	実測困難、等高のみ
561	甕	口縁部～脚部	A	SA51	25.9			黒化著しいが、工具ナダ	風化著しいが、工具向のハケが残る	にぶい橙	橙	4mm以下の赤褐色-乳白色を含む	等高のみ
562	甕	口縁部～脚部	A	SA51	31.6			脚部の肩部をもつ脚付尖底、ハケナダ	口縫附近は肩ナダ、不定方向の工具ナダ	橙	橙	1mm以下の緑-墨色を含む	
563	高坏	脚部	A	SA51	36.6			口縫附近は工具向のハケが、脚部は脚付尖底のハケ	風化著しいが、工具向のハケが残る	にぶい橙	橙	2mm以下の赤褐色-透明光沢、4mm以上の乳白色を含む	
564	甕	脚部～底部	A	SA51		6.3		脚部は工具向のハケナダ	風化著しいが、工具向のハケが残る	にぶい黄橙	黄橙	4mm以下の赤褐色-乳白色を含む	
565	甕	口縁部	A	SA51				平行タケナダ		にぶい橙	橙	2mm以下の赤褐色-乳白色を含む	
566	壺	口縁部	A	SA51	5.1			口縫附近は底方のナダ、脚部は脚付尖底のハケナダ	脚ナダ	橙	橙	2mm以下の赤褐色-乳白色を含む	
567	高坏	脚部	A	SA51		14.8		脚部は底方のナダ、脚部は脚付尖底の工具ナダ	脚方のナダ	橙	橙	2mm以下の赤褐色-乳白色-透明光沢を含む	
568	甕	口縁部～脚部	A	SA52	12.4	4.8	26.4	脚部は底方のハケナダ	脚ナダ、脚ナダ	橙	橙	5mm以下の赤-紫-乳白色を含む	
569	甕	口縁部～脚部	A	SA52		17.6		口縫部は底方、脚部は底方のハケナダ	脚部は底方のハケナダ、脚部は脚付尖底のハケナダ	橙	橙	5mm以下の赤-灰褐色-墨色を含む	
570	甕	脚部～底部	A	SA52		5.6		脚部は底方のハケナダ、脚部附近は脚付尖底ナダ	脚部はナダ、脚部附近は脚付尖底ナダ	にぶい橙	黄橙	5mm以下の赤-灰褐色-墨色を含む	
571	鉢	脚部～底部	A	SA52		5.0		底付近はおそれなくハベリ、脚部附近は脚付尖底ナダ	ナダ、脚部附近は脚付尖底ナダ	橙	橙	4mm以下の赤-灰褐色-墨色を含む	
572	甕	脚部～底部	A	SA52		5.1		脚部は底方のハケナダ、脚部附近は脚付尖底ナダ	脚部は底方の工具ナダ	にぶい黄橙	黄橙	4mm以下の赤-灰褐色を含む	
573	壺	口縁部～脚部	A	SA52				黒化著しいが、おそれなくナダ	風化著しく、不明で、あらわげナダ	橙	灰黄橙	2mm以下の灰褐色-乳白色を含む	実測困難、写真のみ
574	壺	口縁部～脚部	A	SA52				口縫部は底方のハケナダ、脚部は底方のハケナダ	脚部はナダ	にぶい黄橙	黄橙	2mm以下の赤褐色-乳白色を含む	実測困難、写真のみ
575	壺	口縁部	A	SA52				口縫部は底方のハケナダ、脚部は底方の工具ナダ	脚部はナダ	黄橙	黄橙	2mm以下の灰褐色-赤褐色を含む	実測困難、写真のみ
576	壺	口縁部	A	SA52				口縫部は底方の工具ナダ	脚部は底方の工具ナダ	淡黄橙	淡黄橙	5mm以下の赤褐色-灰褐色を含む	実測困難、写真のみ
577	壺	口縁部～脚部	A	SA52				黒化著しいが、おそれなくナダ	脚部は底方の工具ナダ、脚部はナダ	にぶい黄橙	黄橙	1mm以下の赤褐色-灰褐色を含む	写真のみ
578	手捏土器	脚部～底部	A	SA52				脚ナダ	脚ナダ	浅黄	灰黄	2mm以下の灰褐色、1mm以下の赤褐色を含む	実測困難、写真のみ
579	手捏土器	口縁部～底部	A	SA52				脚ナダ	脚方向のナダ	にぶい黄橙	黄橙	5mm以下の赤褐色-乳白色を含む	実測困難、写真のみ
580	鉢	口縁部～底部	A	SA52				黒化著しい、一基底方の工具ナダが確認できぬ	土に擦力向の工具ナダ	にぶい黄橙	黄橙	4mm以下の乳白色、2mm以下の墨褐色-灰褐色を含む	実測困難、写真のみ
581	鉢	口縁部～底部	A	SA52				ナダ	口縫部は脚ナダ、脚部はナダ	にぶい橙	橙	5mm以下の黒色、3mm以下の乳白色を含む	実測困難、写真のみ
582	高坏	脚部	A	SA52				脚方向のハケ	脚方向のハケ	にぶい黄橙	黄橙	1mm以下の赤褐色-乳褐色を含む	写真のみ
583	壺	脚部～底部	A	SA52				黒化著しいが、おそれなくナダ	不定方向の工具ナダ	にぶい黄灰	黄灰	2mm以下の赤褐色-乳白色を含む	実測困難、写真のみ
584	壺	底部～脚部	A	SA52				脚部の工具ナダ、脚部は黒化著しく、不規則	脚部は不定方向の工具ナダ、脚部は黒化著しく、不規則	にぶい黄灰	黄灰	2mm以下の赤褐色-乳白色を含む	実測困難、写真のみ
585	壺	脚部～脚部	A	SA53				ナダ	ナダ	にぶい黄橙	黄橙	1mm以下の赤褐色-乳褐色-灰褐色を含む	実測困難、写真のみ

第18表 下那珂遺跡出土土器観察表 (7)

番号	種別	器種	部位	出土区	出土地点	法 量 (cm)		手法・測量・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備 考
						口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面	
586	甕	口縁部	A	SA53					口縁部は横方向の、 側面は丸と方角の のハケ目	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の赤口・黒根 色石を含む	表面凹凸なし。 平らのみ
587	壺	底部	A	SA53		7.0			黒化著しく不明で あるが、直線付には ナダ	にぶい 黄根	黒根	1mm以下の赤口・黒根 色石を含む	表面凹凸なし。 平らのみ
588	小型甕	口縁部～ 底部	A	SA53	5.0	1.2	5.4	山筋部は側方向、側 面は底方向のナダ	ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の乳白色陶 色石を含む	表面凹凸なし。 平らのみ
589	甕？	肩部	A	SA53				側と斜方方向のハケ 目、ヨリヨリ波状な状 態の底筋部はナダ		にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の深褐色・灰 色・赤色を含む	表面凹凸なし。 平らのみ
590	甕	口縁部～ 肩部	A	SA54	31.4			口縁部は斜方方向の ナダ、側面は斜方方 向のハケ目		橙	橙	4mm以下の銀灰色陶	
591	甕	口縁部～ 肩部	A	SA54	24.0			口縁部は側方向の ナダ、側面は斜方方 向のハケ目		橙	橙	3mm以下の赤口・灰 色・褐色を含む	
592	甕	口縁部～ 肩部	A	SA54	11.3			黒化著しく側面不 明		橙	橙	3mm以下の赤口・灰 色・褐色を含む	
593	甕	口縁部	A	SA54	19.8			側位の付見もつづ きの點付見。口縁部は斜 方方向の工芸ナダ		にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の赤口・褐 色・黒色を含む	
594	甕	底部	A	SA54		5.9		黒化著しく、底筋不 明	ナダ、底筋ナダ	にぶい 黄根	黄根	3mm以下の赤・褐・青 色化粧、2mm以下 の滑面陶	
595	甕	肩部	A	SA54				円形の點付見。側 面は斜方方向のハケ 目		浅黄根	浅黄根	2mm以下の灰褐色・灰 色を含む	
596	壺	肩部	A	SA54				三角形の點付見。 突起の上に下線状 側筋文		明黄根	にぶい 黄根	2mm以下の黒・褐・青 色化粧、2mm以下 の滑面陶	
597	鉢	口縁部～ 肩部	A	SA54	12.6			口縁部は斜方方向の ナダ、側面は斜方方 向の工芸ナダ		赤根	根	2mm以下の墨褐・褐色 を含む	
598	鉢	肩部～底 部	A	SA54		4.8		側面は斜方方向のハ ケ目、底筋付近はこ ガタ		にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の赤褐・後 黄色を含む	
599	甕	肩部～底 部	A	SA54		7.1		黒化著しく、底 筋ナダ		根	根	2mm以下の灰白色陶	
600	鉢	口縁部～ 底部	A	SA54	32.8			機方向のナダ		にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の黒・褐・ 白色化粧を含む	
603	鉢	口縁部～ 肩部	A	SA56	14.8			口縁部は側方向の ナダ、側方方向のハ ケ目		根	根	3mm以下の黒・墨褐 色を含む	
604	壺	口縁部	A	SA56	10.2			口縁部は横方向の ナダ、底筋2箇ナダ +工芸ナダ		明黄根	明黄根	2mm以下の赤口・赤 色化粧を含む	
605	壺	底部	A	SA56		6.4		機方向の工芸ナダ、 側ナダ		根	明黄根	2mm以下の灰白・灰 色化粧を含む	
606	器台	受部～ 蓋部	A	SA54				柱部に横の凹形切 込み・機方向のナダ +工芸ナダ		根	根	2mm以下の灰褐・灰 色化粧を含む	
607	鉢	口縁部～ 底部	A	SA54	23.1	10.1	4.9	口縁部は斜方方向の ナダ、側面は斜方ナ ダ、機方向のナダ +ナダ		根	根	2mm以下の墨褐・赤 色化粧を含む	
612	甕	底部	A	SA57		5.6		平行タキ	不平行方向のナダ	にぶい 根	根	4mm以下の黒・灰白色 化粧を含む	
614	鉢	口縁部～ 底部	A	SA57	26.0	3.4	8.9	機方向のナダ、 側方向の工芸ナダ	ナダ、不平行方向の ハケ目、側方向の工 芸ナダ	赤根	赤根	2mm以下の黒・褐・青 色化粧を含む	
615	甕	底部	A	SA57		7.3		機方向の工芸ナダ、 側ナダ		にぶい 黄根	にぶい 黄根	1~2mmの墨褐・褐 色化粧を含む	
616	壺	底部	A	SA57		9.9		機方向のハケ目	不平行方向のハケ目	根	根	2mm以下の灰白・灰 色化粧を含む	
617	壺	底部	A	SA57		8.4		黒化著しく不明、斜 方方向の工芸ナダ		根	にぶい 黄根	4mm以下の墨褐・不 一定方向化粧を含む	
618	壺	底部	A	SA57		4.9		黒化著しく不明 のハケ目		浅黄根	浅黄根	1mm以下の赤・青 色化粧を含む	
621	甕	口縁部～ 肩部	A	SA22	16.1			黒化著しく側面不 明		にぶい 根	にぶい 根	3mm以下の黒・褐・青 色化粧を含む	
622	壺	口縁部	A	SA22	21.1			黒化著しく測定不 明		にぶい 根	にぶい 根	4mm以下の赤・褐・青 色化粧を含む	
623	壺	肩部～底 部	A	SA22		3.5		斜方方向のハケ目	ナダ	根	にぶい 根	4mm以下の赤・褐・青 色化粧を含む	

第19表 下那珂遺跡出土土器観察表 (8)

番号	種別	器種 部位	出土 区	出土地点	基 本 寸 数 (cm)		手法・箋 器高 外 面 内 面		色 調 外 面 内 面		胎土の特徴	備 考
					口径	底径	器高	外 面 内 面	外 面 内 面			
624	高坏	脚部	A	SA22			15.0	圓柱形で底面方向の 工具ナダ、内腔は深 くあり、側面はナ ダ	橙	橙	2mm以下の赤黄・灰 色・乳白色を含む	
625	手提 土器	口縁部～ 底部	A	SA22	4.7			圓と斜面の合ての牛 角方向のハケ日、底 部付近2箇ナダ	浅黄褐	浅黄褐	1mm以下の赤褐色 色、5mmの薄暗小 管を含む	
626	鉢	口縁部～ 底部	A	SA22	12.4	10.6	9.8	圓方向のハケ日、底 部付近2箇ナダ	にぶい 橙	1～2mmの黒褐色 色、5mmの薄暗小 管を含む		
627	鉢	口縁部～ 底部	A	SA22	10.3	4.3	5.5	黒化著しく網撚不 規則なナダ、内腔は 凹凸のナダ	にぶい 黄褐	黄褐	1mm以下の赤褐色 色、2mm以下透明 度を含む	
631	壺	頸部～底 部	A	SA23			4.4	圓柱形は底面方 向のハケ日、底 部付近2箇ナ ダ	橙	にぶい 黄褐	1mm以下の赤黄・灰 色・乳白色を含む	
632	壺	口縁部	A	SA24	19.2			圓方向のナダ、斜方 角のハケ日	にぶい 黄褐	橙	5mmの赤褐色、2mm 以下の灰・褐色を含 む	
633	壺	口縁部	A	SA24	17.0			圓方向のナダ、斜方 角のハケ日	にぶい 黄褐	浅黄褐	2mm以下の灰・褐色 色を含む	
634	壺	口縁部	A	SA24	13.8			2次に横筋の有る 底状文、腹部は斜 方角の工具ナ ダ、底部は横筋方 向の工具ナ ダ	橙	橙	4mm以下の赤黄・灰 色・乳白色を含む	
635	鉢	口縁部～ 頸部	A	SA24				口縫部は底面方 向のナダ、側面はナ ダ	浅黄褐	橙	2mm以下の赤・灰 色・乳白色を含む	
636	壺	頸部～底 部	A	SA24			5.5	圓柱形は底面方 向のハケ日、斜方 角の工具ナダ は底面方向のナ ダ	橙	橙	1mm以下の赤・灰 色・乳白色を含む	
637	壺	頸部～底 部	A	SA24				黒化著しいが、一 般斜方角の工具ナ ダが複数	にぶい 橙	浅黄褐	1～2mmの赤褐色 色を含む	
638	高坏	口縁部	A	SA24	25.5			口縁部は底面方 向の工具ナダ、斜 方角の工具ナ ダ	橙	橙	2mm以下の赤・灰 色・乳白色を含む	
639	高坏	脚部	A	SA24				底面は円筒形で 中心に凹窓があり、調 整は黒化著しく不 規則	にぶい 橙	1～2mmの赤・灰 色・乳白色を含む		
640	高坏	脚部	A	SA24			10.6	内部通路は斜方 角の工具ナ ダ	橙	橙	1mm以下の赤褐色 色を含む	
641	壺	底部	A	SA24			8.8	斜方角の工具ナ ダ	にぶい 黄褐	2mm以下の灰・褐 色・乳白色を含む		
642	器台	底部	A	SA24			16.6	斜方角の工具ナ ダ、側面は斜方 角のナ ダ、内腔はナ ダ	橙	橙	1mm以下の赤褐色 色を含む	
643	器台	底部	A	SA24			27.4	斜方角のナ ダが複数 に斜方角のナ ダ	橙	橙	3mm以下の赤褐色・灰 色・乳白色を含む	
644	壺	口縁部～ 底部	A	SA27	15.5			口縫部は斜方 角のナ ダ、側面は 底面方向のハ ケ日	にぶい 橙	浅黄褐	4mm以下の赤褐色 色、5mm以下の赤 色・灰白色を含む	
645	壺	口縁部～ 底部	A	SA27				1条の長いナ ダ、口 縫部は斜方角のハ ケ日は底面方 向のナ ダ	浅黄褐	浅黄褐	4mm以下の赤褐色 色、灰・乳白色を含 む	
646	壺	底部	A	SA27			8.0	底面の工具ナ ダ、底部付近はナ ダ	橙	黑褐	1～2mmの灰・黑 色・乳白色を含む	
648	壺	口縁部～ 底部	B	SA91	13.5	4.7	22.7	ナ ダ、斜方角のナ ダ	橙	橙	1～4mmの赤・灰 色・乳白色を含む	
649	壺	底部	B	SA91			4.0	黒化著しいがおも くナ ダ	橙	橙	4mm以下の灰・黑 色・乳白色を含む	
650	壺	口縁部～ 底部	B	SA91	15.5	4.7	18.1	口縫部は底面方 向のナ ダ、側面は底面方 向のナ ダ	黄褐	橙	1mm以下の赤褐色 色、2～3mmの褐色 色を含む	
651	壺	頸部～底 部	B	SA91			4.7	ナ ダ	橙	橙	2～3mmの赤・灰 色・乳白色を含む	
652	壺	底部	B	SA91			6.4	底面方向のハ ケ日	にぶい 黄褐	灰黄褐	5mm以下の灰・灰 色・乳白色石粉を含 む	
653	高坏	脚部	B	SA91			29.3	上部は斜方角のナ ダ、下部は底面方 向のナ ダ	橙	橙	2～3mmの赤褐色 色、～2mmの灰・褐色 色を含む	
654	高坏	脚部	B	SA91				剥離あり、底面方 向のナ ダ	橙	浅黄褐	3mm以下の赤褐色、1mm 以下の灰・灰褐色 色・乳白色石粉を含 む	
655	高坏	口縁部～ 底部	B	SA91	12.2	9.7	14.3	口縫部は丁寧なナ ダ、側面は底面方 向のナ ダ	にぶい 橙	橙	4mm以下の赤褐色・ 灰・乳白色を含む	

第20表 下那珂遺跡出土土器観察表 (9)

番号	種別	器種	出土区	出土地点	法量 (cm)			手法・測定・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
656	鉢	口縁部～底部	B	SA91	24.6	6.9	16.3	口縁部附近は楕円形のナデ、側面は横方向のハケ目	横	橙	3mm以下の赤・灰白・褐色を含む			
661	壺	口縁部～底部	B	SA93	20.3			黒化著しいがおもらくナデ	横	橙	2mm以下の灰・灰白・褐色を含む			
662	壺	肩部～底部	B	SA93		6.7		ナデ、側面の凹入工具があり、底部付近は横方向のナデ	横方向の工具ナデ、側面付近は横方向のナデ	にぶい 黄橙	3mm以下の灰・灰白・褐色を含む			
663	壺	肩部	B	SA93				黒化著しいがおもらくナデ	横	にぶい 黄橙	2mm以下の灰・灰白・褐色を含む			
664	高壺	肩部	B	SA93	30.2			黒化著しいがナギが残る	横方向のハケ目	にぶい 黄橙	2mm以下の墨・褐色、3~5mm褐色を含む			
665	鉢	口縁部～底部	B	SA93	15.2	3.9	11.5	横方向のナギ、ナデ	横化著しいがおもらくナデ	横	橙	2mm以下の灰・灰白・透明な白色石を含む		
666	小型鉢	口縁部～底部	B	SA93	8.5			ナデ	横ナデ	灰黄	にぶい 黄橙	2mm以下の灰・灰白・灰褐色を含む		
670	壺	口縁部	B	SA95				側面の斜文もつづけたナデ、側面の粘付突起ナデ		浅黄橙	にぶい 黄橙	1~5mm褐色を含む		
671	壺	口縁部	B	SA95				側面の斜文もつづけたナデ、一部側面の粘付突起ナデ	暗灰黄	にぶい 黄橙	1mmの褐色を含む			
672	壺	口縁部～底部	B	SA95	18.5			不定方向のハケ目、ナデ	ナデ、暗ナデ	にぶい 根	3mm以下の灰・灰白・1mm以下灰・褐色を含む			
673	鉢	口縁部～肩部	B	SA95	25.1			不定方向のハケ目	主に横方向の工具ナデ	根	1~5mm褐色・褐色・灰色を含む			
674	皿	口縁部～底部	B	SA95	12.3		2.4	黒化著しいが工具の可動性がある	工具によるナデの後にナギ	根	にぶい 黄橙	3mm以下の灰・灰白・1mm以下灰・褐色を含む		
675	壺	口縁部～肩部	B	SA95	20.3			横方向のハケ目	横と斜方向のハケ目	にぶい 根	4mm以下の灰・灰白・1mmの褐色を含む			
676	鉢	口縁部～肩部	B	SA95	22.7			口縁部に横方向のナデ、側面に不定方向のハケ目ナデ	口縁部は横方向のナデ、側面は不定方向のナデ、側面は不規則なハケ目ナデ	浅黄橙	黄橙	2mm以下の墨・褐色・1mmの褐色・透明な白色石を含む		
677	小型壺	口縁部～肩部	B	SA95	9.0			ナデ	ナデ、側面は横ナデ	にぶい 黄橙	2mm以下の墨・褐色、1mmの褐色・透明な白色石を含む			
678	高壺	肩部	B	SA95	32.3			工具による横方向のナデ、下部はその上に横方向のナデ、下部はその上に横方向のナデ	工具による横方向のナデ、下部はその上に横方向のナデ、下部はその上に横方向のナデ	にぶい 黄橙	2mm以下の灰・褐色			
679	器台	肩部	B	SA95				穿孔あり、横方向のナデの後に横方向のナギ		浅黄橙	灰黄褐	1mm以下の褐色を含む		
680	器台	肩部	B	SA95				横方向のハケ目	ナデ、横と斜方向の工具ナデ	にぶい 根	1mm以下の墨・褐色、3mm以下の灰・褐色を含む			
685	壺	口縁部	B	SA96				側面の斜文もある	黒化著しいがおもろくナデ	にぶい 根	2mm以下の灰・褐色・透明な白色石を含む			
686	壺	肩部	B	SA96				斜方向のナギ、横方向の斜文をもつづけたナギ	丁寧なナデ、一部側面は横方向のナギ	にぶい 黄橙	3mm以下の墨・褐色・透明な白色石を含む			
688	壺	肩部～底部	B	SA97		6.1		口縁部は横方向のハケ目、側面は横方向の横方向のハケ目	横	にぶい 黄橙	4mm以下の灰・褐色・透明な白色石、1mmの褐色を含む			
689	壺	口縁部～底部	B	SA97	25.6	6.5	29.1	口縁部・側面は横方向のハケ目、工具ナデ、側面付近は横方向ナデ	横方向のハケ目、工具ナデ、側面付近は横方向ナデ	にぶい 黄橙	3mm以下の灰・褐色・透明な白色石を含む			
690	壺	口縁部	B	SA97				側面は横方向のハケ目	横方向のハケ目、側面の工具ナデ	にぶい 浅黄橙	2mm以下の灰・褐色・透明な白色石を含む			
691	壺	口縁部	B	SA97				側面波状文	ナデ、暗ナデ	根	にぶい 黄橙	1mm以下の墨・褐色・褐色を含む		
692	小型壺	口縁部～肩部	B	SA97	7.9			口縁部2横方向のハケ目、側面は横と主に横方向のハケ目	ナデ、側面は横ナデ	浅黄橙	4mm以下の墨・褐色・褐色を含む			
693	小型壺	口縁部～肩部	B	SA97	7.2	1.6	10.7	口縁部2横方向のハケ目、側面は横と主に横方向のハケ目	ナデ、側面は横ナデ	浅黄橙	4mm以下の墨・褐色・褐色を含む			
694	鉢	口縁部～底部附近	B	SA97	29.6	8.8	18.7	口縁部2横方向の工具ナデ、側面は横工具ナデ	横方向工具ナデ	根	にぶい 根	2mm以下の墨・褐色・褐色を含む		

第21表 下那珂遺跡出土土器器観察表 (10)

番号	種別	器種 部位	出土 区	出土地点	底 面		手法・調査・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備考		
					口径	底径	高さ	外 面	内 面	外 面	内 面			
695	壺	底部	B	SA97		1.7		黒化著しい、鉛板の 向のハケ目が複数 ある	黒化著しい、鉛板の 向のハケ目が複数 ある	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の赤褐色・黑色 を含む		
696	器台?	唇部	B	SA97		23.5		黒化著しいおもろく ナデ	黒化著しいおもろく ナデ、鉛板の向か うのハケ目	橙	橙	1~3mmの黄・赤 色を含む		
697	鉢	口縁部～ 底部	B	SA97	9.8	4.8	13.7		黒化著しいおもろく ナデ	黒化著しいおもろく ナデ	橙	橙	2mm以下の赤褐色・黑 色を含む	
698	鉢	口縁部～ 底部	B	SA97	28.7	5.9	7.5		黒化著しいがしきが ある	黒化著しいがしきが ある	明赤褐	橙	1~3mmの赤褐色 を含む	
700	甕	口縁部～ 肩部	B	SA98	20.2			白銀調の斜方の ハケ日、側面は平行 シテ	白銀調の斜方の ハケ日、側面は斜方 シテのハケ目	橙	橙	1~3mmの黄・灰白 色を含む		
701	壺	肩部～底 部	B	SA97		4.4		平行タキ ナデ	平行タキ ナデ	にぶい 黄橙	橙	1mm以下の灰・乳白色 6mm以下の赤褐色を 含む		
702	高坏	口縁部～ 腰部	B	SA98	13.3	11.7	17.0	黒化著しいがおもろく ナデ	黒化著しいがおもろく ナデ	橙	橙	1~3mmの黄・黑色 を含む		
703	高坏	坏部	B	SA98	28.9			上位は工具による 刃山のナデの裏に ナデ、上部はナデの 黒化の背後見え、下部 にコギ付	上位は工具による 刃山のナデの裏に ナデ、上部はナデの 黒化の背後見え、下部 にコギ付	橙	橙	2mm以下の赤・黄光 沢光沢を含む		
704	甕	口縁部～ 底部	B	SA98	22.7	2.9	25.9	口縁部は斜方の ハケ日、側面は一筋 ナデ、底面付近は斜 工具の痕跡が生 じナデ	口縁部は斜方の ハケ日、側面は一筋 ナデ、底面付近は斜 工具の痕跡が生 じナデ	黄橙	黄橙	4mm以下の灰・乳灰 色・褐色石粉を含む		
705	甕	口縁部	B	SA99	25.1			平行タキ 横方向のハケ目	平行タキ 横方向のハケ目	にぶい 橙	橙	2mm以下の灰・乳黃 色を含む		
707	壺	口縁部～ 肩部	B	SA99	11.3			黒化著しいがおもろ くナデ、口縁部には 鉛板の文様が複 雑である	黒化著しいがおもろ くナデ、鉛板の文様が複 雑である	橙	にぶい 橙	5mm以下の黄・赤褐 色・黑色透明白 色を含む		
708	壺	肩部～底 部	B	SA99		3.6		黒化著しいがおもろ くナデ	黒化著しいがおもろ くナデ、底面付近は コギ付	橙	にぶい 黄橙	8mm以下の黄・灰・黃 色・黑色透明白 色を含む		
709	高坏	坏部	B	SA99	23.9			黒化著しいがおもろ く斜方のハケ日 の裏にコギ付	黒化著しいがおもろ くナデ	にぶい 黄橙	橙	4mm以下の白・白 色・7mm以下の赤褐 色を含む		
710	壺	肩部～ 肩部	B	SA100		5.2		鉛板折れの斜方の ハケ日、側面はナ デと平行タキ	ナデ、斜方の工具 ナデ	橙	橙	2~3mmの黄・赤褐色 を含む		
711	壺	底部	B	SA100		5.0		黒化著しいがおもろ くナデ	黒化著しいがおもろ くナデ	にぶい 黄橙	橙	2mm以下の灰・乳 色・黑色透明白 色を含む		
712	小型甕	口縁部～ 底部	B	SA100	9.6	5.4	11.5	口縁部は斜方の ハケ日、側面は鉛 板折れと鉛板 折れ斑状	ナデ	にぶい 黄橙	橙	2mm以下の黄・灰・黃 色・黑色透明白 色を含む		
713	小型壺	肩部～底 部	B	SA100		1.6		範囲方向のハケ ナデ	黒化著しいがおもろ くナデ	にぶい 黄橙	橙	2mm以下の黄・灰・黃 色・黑色透明白 色を含む		
714	甕	口縁部～ 底部付近	B	SA101	20.4			口縁部は斜方の ナデ、側面は平行 タキ	口縁部は斜方の ナデ、側面は斜方 の工具ナデ	にぶい 黄橙	黄橙	2mm以下の赤褐色 1~3mmの赤褐色を 含む		
715	甕	口縁部～ 肩部	B	SA101	23.6			平行タキ(横方向) (斜方)	口縁部はナデ、斜面 は斜方のハケ目	灰黄	灰黄	3mm以下の高脚小 瓶、1mm以下の高 脚白色透明白 色を含む		
716	甕	口縁部～ 肩部	B	SA101	22.0			黒化著しく調査不 明	黒化著しく調査不 明で見る限り鉛 板の跡跡が複数で ある	にぶい 橙	にぶい 黄橙	4mm以下の高・赤 色・黒色透明白 色を含む		
717	甕	肩部	B	SA101				平行タキ(横方向) (斜方)	ナデ、一部ハケ目が 確認できる	にぶい 黄橙	にぶい 橙	2mm以下の高・赤 色・2mm以下の赤褐 色を含む		
718	甕	口縁部～ 肩部	B	SA101	28.3			斜方と斜方の平 行タキ、側面に鉛 板子状の凹みをもつ て付いてる	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の高・灰 色・1mm以下の基 本色透明白 色を含む		
719	壺	底部	B	SA101		3.1		黒化著しく調査不 明	黒化著しく調査不 明	にぶい 橙	にぶい 黄橙	2mm以下の赤褐色 1mm以下の赤褐色 を含む		
720	壺	底部	B	SA101		3.0		ナデ	ナデ、一部ハケ目が 確認できる	浅黄	にぶい 橙	4mm以下の高・灰 色・1mm以下の基 本色透明白 色を含む		
721	注口土 器		B	SA102				ナデ、指ナデ	ナデ、指ナデ	灰白	にぶい 黄橙	1mm以下の灰白・乳 白色透明白 色を含む		
722	壺	肩部～底 部	B	SC22		7.1		斜方の工具ナデ	ナデ、横方向の工具 ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の黄色・3mm 以下の灰・乳灰色 を含む		

第22表 下那珂遺跡出土土器観察表 (11)

番号	種別	器種	出土区	出土地点	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
723	高坏	坏部	B	SC23	22.0			横方向のT字ナデ	横方向のT字ナデ	灰黄根	灰黄根	1~3mmの赤褐色。1mm以下の白・黑色を含む	
724	高坏	脚部	B	SC23				横方向のU字ナデ	丁寧なナデ	灰黄根	灰黄根	1~3mmの赤褐色。1mm以下の白・黑色を含む	
725	高坏	脚部	B	SC23		20.0		横方向のU字ナデ	丁寧なナデ	灰黄根	灰黄根	1~3mmの赤褐色。1mm以下の白・黑色を含む	
726	高坏	脚部	B	SC23		22.2		横方向のU字ナデ、各部の可能性あり	ナデ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の薄・灰白・乳白色を含む	
727	壺	口縁部	B	SC23	14.3			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい 根	にぶい 黄根	2mm以下の薄・灰白・乳白色を含む	
728	手捏土器	口縁部～底部	B	SC23	4.4	1.4		ナデ	ナデ	灰白	浅黄	1mm以下の青・灰・黑色を含む	
729	甕	口縁部～脚部	B	包含層	22.3			は縦線は主に横方 向のナデ、脚部上半 は斜方的な工具ナ デ、下半は粗ナデ	浅黄根	浅黄根	浅黄根	4mm以下の薄・灰・黑 色を含む	
730	甕	口縁部～脚部	B	包含層	23.3			口縫部は横方・側 面は斜方方向の平行 なナデ	明黄根	明黄根	明黄根	1mm以下の薄・灰・黑 色を含む	
731	壺	頸部～底部	B	包含層		2.2		横方向のU字ナ デ	横方向のU字ナ デ	にぶい 根	にぶい 根	3mm以下の薄・灰白 色を含む	
732	壺	頸部～底部	B	包含層		1.2		黒化しない斜方 角の工具ナデ根 跡が残る	黒化しない斜方 角の工具ナデ根 跡が残る	根	根	7mmの褐色。2~ 3mmの場合粘土を含 む	
733	壺	頸部～底部	B	包含層				黒化して、表面不 規格だが、ナデの可 能性	根	根	根	1~3mmの薄・灰白 色粘土を含む	
734	壺	口縁部～底部	B	包含層	7.6	2.9	13.3	縫隙は横方方向の ハケ日、縫隙はナ デ、表面はナデ	ハケ日、縫隙はナ デ	根	根	1~2mmの薄・灰白色 を含む	
735	甕	頸部～底部	B	包含層		2.9		縫隙は横方方向の ハケ日、縫隙はナ デ	上半は横方方向の ハケ日、下半はナデ	にぶい 根	根	3mm以下の薄・灰白 色粘土を含む	
736	壺	口縁部～底部付近	B	包含層		14.7		口縫部は横方方向 のハケ日、脚部はナ デ	口縫部は横方方向 のハケ日、脚部はナ デ	根	にぶい 黄根	1~3mmの薄・灰・白 色粘土を含む	
737	壺	口縁部～頸部	B	包含層		15.9		黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡が残る	黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡が残る	根	根	4mm以下の灰・青・黑 色粘土を含む	
738	壺	頸部～底部	B	包含層		4.3		黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡が残る	黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡が残る	根	根	4mm以下の薄・灰・白 色粘土を含む	
739	壺	口縁部～脚部	B	包含層		12.2		黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡が残る	黒化した工具ナデ 痕跡が残る	根	根	3mm以下の薄・灰・白 色粘土を含む	
740	壺	頸部～底部	B	包含層		5.4		黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡が残る	黒化した工具ナデ 痕跡が残る	根	根	3mm以下の薄・灰・白 色粘土を含む	
741	壺	頸部～底部	B	包含層		5.5		上半はナデとハケ 日、下半は平行ナ デ	横方向の工具ナデ 痕跡は逆は指ナデ	浅黄根	にぶい 黄根	4mm以下の灰・黑・乳 白・白色を含む	
742	器台	受部	B	包含層		28.7		浮ナデ、指捺印の 後に斜・向むけナ デ	横斜方方向のU字ナ デ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	4mm以下の薄・灰・黑 色、1mm以下の透視 性粘土を含む	
743	器台	受部	B	包含層				口縫部は横方方向 のハケ日、脚部はナ デ	黒化しないが、脚部 向むけナデ痕跡があ る	根	根	2mm以下の青・灰・白 色粘土を含む	
744	器台	受部	B	包含層				口縫部は横方方向 のハケ日、脚部はナ デ	脚部はナデ、脚部 向むけナデ痕跡があ る	根	根	2mm以下の薄・灰・白 色粘土を含む	
745	壺	口縁部	B	包含層				口縫部は横方方向 のハケ日、脚部はナ デ	横方向のナデ	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の薄・灰・白 色粘土を含む	
746	紡錘車		B	包含層				ナデ、中心部に粗 めの孔		にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の薄・灰・白 色粘土を含む	
747	壺	頸部～底部	B	包含層		3.6		黒化しないが、一部 黒化した工具ナデ 痕跡がある。走査?	ナデ、脚部のハケ 日	根	褐灰	1~3mmの灰白・黑 色粘土を含む	
748	壺	底部	B	包含層		4.1		ナデ、工具ナデ	放針状の工具ナデ	根	根	1~3mmの灰白・黑 色粘土を含む	

第23表 下那珂遺跡出土土器観察表 (12)

番号	種別	器種部	出土区	出土地点	法量(cm)		手法・適應・文様ほか		色調		粘土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
749	小型甕	口縁部～胴部	B	包含層	13.2		風化著しく底方向のナデ痕跡が残る	底方向のナデ	橙	橙	1mm程の褐・灰色鉄を含む		
750	小型甕	胴部～底部	B	包含層		2.3	風化著しく底方向のナデ痕跡が残る	ナデ	橙	橙	2mm以下の中・深褐色鉄を含む		
751	小型鉢	口縁部	B	包含層			口縁部に二重の凹痕、底方向のナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の中・深褐色鉄を含む		
752	小型壺	胴部～底部	B	包含層		6.1	側面・底部ともにナデ痕跡	側面・底部ともにナデ	橙	橙	1mm以下の中・深褐色鉄を含む		
753	杓子状土器	柄部	B	包含層			棒状工具によるナデ	中性	橙	橙	1mm程の黑色鉄を含む		
754	杓子状土器	柄部	B	包含層			棒状工具によるナデ	中性	橙	にぶい 黄橙	1mm程の黑色鉄を含む		
755	甕	口縁部～胴部	D	SA103	19.0		斜方角の工具による斜方角の工具によるナデ・ナデ	斜方角の工具によるナデ・ナデ	にぶい 黄	にぶい 黄	2mm以下の褐・灰白色、2mm以下の中・深褐色鉄を含む		
756	甕	口縁部～胴部	D	SA103			ナデ・斜方角のハケ日	斜方角のハケ日	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mmの褐色を含む		
757	甕	口縁部～底部	D	SA103			斜方角のハケ日	斜方角のハケ日	浅黄橙	浅黄橙	1~2mmの褐・赤褐色、黒褐色鉄を含む		
758	甕	口縁部	D	SA103			口縁部に底方向のナデ、口縫部は斜方角のハケ日	丁寧なナデ、底方向のハケ日	にぶい 橙	にぶい 橙	2mm以下の褐色、1mmの黑色鉄石鉄を含む		
759	甕	胴部～底部	D	SA103	7.1		斜方角のハケ日、指付さず	ナデ	橙	にぶい 黄橙	1~3mmの赤褐色、薄透明鉄を含む		
760	壺	底部	D	SA103	4.9		ナデ	ナデ	橙	にぶい 橙	2mm以下の赤褐色、2mm以下の中・乳白色鉄を含む		
761	甕	底部	D	SA103	6.0		平行タキ	ナデ	にぶい 黄灰	2~3mmの白・褐色鉄を含む			
762	甕	底部	D	SA103	7.6		ナデ	斜方角のハケ日、ナデ	橙	橙	1~2mmの褐・乳白色、1mm以下の中・透明鉄を含む		
763	壺	口縁部～胴部	D	SA103			風化により調節不規則	風化により調節不規則	橙	橙	1mm以下の中・白色鉄、4mm以下の褐色石鉄を含む		
764	壺	口縁部	D	SA103	16.2		口縁部に側面の凹痕、側面部のナデ	側面のナデ、ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~4mmの褐色・米褐色を含む		
765	壺	胴部	D	SA103			側面のハケ日、側面部のナデ	ナデ、一部端ナデか	浅黄橙	浅黄	2mm以下の褐・乳白色鉄を含む		
766	甕	底部	D	SA103	8.5		斜・側方向のハケ日	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~2mmの乳白・褐色・透明鉄を含む		
767	壺	底部	D	SA103	6.8		斜・側方向のナデ	ナデ、斜方角のナデ	橙	橙	1mm以下の中・褐色鉄を含む		
768	高坏	口縁部	D	SA103			風化により調節不規則、ナデ?	風化により調節不規則、ナデ?	浅黄橙	浅黄	2mm以下の褐・乳白色鉄を含む		
769	高坏	脚部	D	SA103	12.4		底面のミズ・草丸あり	ナデ・指ナデ	橙	橙	1mm以下の中・褐色鉄を含む		
770	高坏?	脚部?	D	SA103	25.9		側・斜方向のミズ	側・斜方向のミズ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の中・褐色鉄を含む		
771	鉢	口縁部～底部	D	SA103	19.7	4.5	5.9	一部にナデ痕跡がある	一部にナデ痕跡がある	橙	橙	1mm程の褐色石鉄を含む	
772	鉢	口縁部～胴部	D	SA103			側・斜方向のミズ	丁寧なナデ	橙	橙	1mm以下の中・褐色鉄・黒鉄を含む		
773	鉢	口縁部	D	SA103			側・斜方向のナデ・斜方角のナデ	側・斜方向のナデ・斜方角のナデ	にぶい 橙	橙	1mm以下の中・褐色鉄を含む		
774	小型甕	口縁部～底部	D	SA103	11.1	4.2	9.3	斜・側方向のナデ・ナデ	ナデ・底面付近にナデ	浅黄橙	浅黄	2mmの褐色石鉄を含む	
775	ミニチュア土器	底部	D	SA103		3.9	丁寧なナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の中・乳白色鉄を含む		
776	小型甕	底部	D	SA103		5.2	ナデ		橙	一	1~4mmの褐・赤褐色・乳白色鉄を含む		

第24表 下那珂遺跡出土土器観察表 (13)

番号	種別	器種 部位	出土区	出土地点	法量(cm)		手法・裏面・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
777	小型鉢	肩部～底 部	D	SA103		4.4	縦横のハケ目、ナ ゲ		橙	橙	1~2mmの薄・灰白色 胎土を含む		
778	ミニチュ ア土器	肩部～底 部	D	SA103		3.0	丁寧な俄ナデ、指 おさえ	丁寧な俄ナデ、指 おさえ	にぶい 黄橙	褐灰	1mm以下の灰白、に ぶい・赤褐色を含む		
779	小型壺	口縁部～ 肩部	D	SA103			一部はきつい筋模 様があり、表面には 凹窪の不規則		にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の褐色を 含む		
780	小型壺	口縁部～ 肩部	D	SA103	5.0		8~9条の繊維模様 と俄のナデ		にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の灰・褐色を 含む		
781	小型壺	口縁部～ 底部	D	SA103	4.3	3.5	9.7	継と斜方向のハケ 目、ナデ	継と斜方向のハケ 目、ナデ	橙	橙	2mm以下の黑色骨頭 ・石・青色・灰・褐色を 含む	
784	壺	口縁部～ 肩部	D	SA104	21.4	4.4	28.9	黒化しているが、おも く斜方向のハケ 目とナデ	黒化しているが、おも く斜方向のハケ 目とナデ、表面は黒い 感じ、おもくナ デ	浅黄橙	にぶい 橙	3mm以下の黒・灰白・ 褐色を含む	
785	壺	頸部～肩 部	D	SA104			表面は斜方向のハ ケ目、俄は斜方向の ハケ目、底面は工芸ナ ゲ		にぶい 橙	橙	4mm以下の灰・青・乳 白・褐色を含む		
786	小型壺	口縁部～ 肩部	D	SA104			口縁部は斜方向の ハケ目、俄は斜方向の ハケ目、下部は斜方 向のハケ目とナデ		浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の灰・黒・灰 白色を含む		
787	壺	口縁部	D	SA104	16.3		口縁部は斜方向の ナデ、俄は斜方向上部 が斜方向、底面は斜 方向のナデ	ナデ	橙	にぶい 橙	3mmの褐色石絆。1 mm以下の灰・白・褐 白色を含む		
788	壺	口縁部	D	SA104			口縁部は斜方向の ナデ、表面は斜方 向のハケ目と模様 のナデ		浅黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の灰・白色 胎土を含む		
789	壺	底部	D	SA104		6.8	継かたの工芸ナ ゲ、俄は斜方向の ハケ目とナデ	丁寧なナデ	にぶい 黄橙	橙	2mm以下の赤・褐 ・灰・白色を含む		
790	壺	底部	D	SA104		6.4	継かたのナデ	ナデ、ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の灰・黑 褐色石絆を含む		
791	鉢	肩部～底 部	D	SA104		5.3	ナデ、俄方向のナ ゲ、底面はナ ゲ	ナデ	橙	橙	2~3mmの薄・灰白色 胎土を含む		
792	壺	底部	D	SA104		6.1	俄方向の工芸ナ ゲ、俄は斜方 向のナデ	ナデ、指ナデ	明褐色	褐灰	2mm以下の褐色・灰 白色を含む		
793	鉢	肩部～底 部	D	SA104		4.5	俄・継かたのナ ゲ	ナデ	灰黄	浅黄橙	1mm以下の黄・赤 褐色石絆を含む		
794	壺	口縁部～ 肩部	D	SA104	15.3		表面に不均一な模 様、そこにはナ デ		橙	橙	3mm以下の灰・白・ 褐色石絆を含む		
795	壺	肩部～底 部	D	SA104		5.8	ナデ、俄方向の工芸 ナデ	ナデ、指ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・白・ 褐色石絆を含む		
795	鉢	口縁部～ 肩部	D	SA104			上部は俄方向のナ ゲ、下部は斜方 向のナデ	俄方向のナ ゲ	橙	橙	2mm以下の褐色石絆 を含む		
796	壺	口縁部～ 肩部	D	SA104	8.3		上部は俄方向、下部 は斜方向のハケ目、底 面は斜方向	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の灰・乳 白色を含む		
798	小型壺	底部	D	SA104		3.7	ナデ	ナデ、一部斜面が 凸凹	橙	橙	2mm以下の灰・乳 白色を含む		
799	壺	肩部～底 部	D	SA104		6.3	ナデ、工具によ るナデ	工具によるナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	2mm以下の灰・乳 白色石絆を含む		
800	鉢	口縁部～ 肩部	D	SA104	11.2		表面に不均一な模 様、そこにはナ デ		橙	黄橙	2mm以下の灰・乳 白色石絆を含む		
801	小型鉢	口縁部～ 底部	D	SA104	9.9	2.7	口縁部は斜方 向のナデ、俄は斜 方向のナデ	俄方向のハケ 目	にぶい 黄橙	にぶい 橙	1~2mmの褐色を 含む		
802	壺	肩部～底 部	D	SA104		4.1	ナデ	ナデ	灰白	暗灰	2mm以下の灰・乳 褐色石絆を含む		
803	高壺	底部	D	SA104			上部は俄方向のナ ゲ、下部は斜方 向のナデ		橙	橙	1mm以下の褐色を 含む		
804	小型鉢	肩部～底 部	D	SA104		2.1	俄方向のハケ目、下 部は斜方向	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~2mmの赤褐色、1 mm以下の褐色を 含む		
805	小型鉢	肩部～底 部	D	SA104		2.4	ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の赤褐色 胎土を含む		
806	鉢	底部	D	SA104	29.8		致射状のしがみ	致射状のしがみ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の灰・褐色 胎土を含む		

第25表 下那珂遺跡出土土器観察表(14)

番号	種別	器種	出土部位	出土点	規格(cm)		手法・調査・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
807	高坏	縦部	D	SA104				縫と側方のひげ ナダ、模倣する模様 等。ナダ	ナダ、側方向に工具 痕	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の表面・灰・ 黒色透明釉を含む	
812	壺	口縁部～ 肩部	D	SA105	18.2			側方のひげ口、側 方の1.5cm	側方向のひげ口、側 方の1.5cm	にぶい 黄根	にぶい 根	2mm以下の灰黒、灰 色透明釉を含む	
813	壺	口縁部	D	SA105				縫の跡文をもつ た条の巻市、縫方向の ひげ口	縫方向のナダ	根	にぶい 根	1~2mmの黒黒、黑色 透明釉を含む	
814	壺	肩部～底 部	D	SA105	4.6			縫方向のひげ口	黒化により不透明 なぐりナダ	根	黄根	4mm以下の灰・黒・乳 白・褐色透明釉を含む	
815	壺	口縁部	D	SA105				縫の跡文と、縫の跡 のひげ口	ナダ	根	根	1mm以下の白色乳化 を含む	
816	壺	口縁部	D	SA105				縫の跡文と、縫の跡 のナダの後ひげ 口	縫方向のナダの後 のナダ	根	根	1mm以下の灰黒、白色 透明釉を含む	
817	壺	肩部	D	SA105				ナダ、口口の後ひ げ口	ナダ	根	根	2mm以下の灰白・褐 灰・褐色透明釉を含む	
818	鉢	側部～底 部	D	SA105	8.1			縫方向のひげ口、ナ ダ	工具ナダ、指痕有 る	浅黄根	浅黄根	2mm以下の白色乳化 2mm以下の灰・黒・灰 色透明釉を含む	
819	壺	肩部～底 部	D	SA105	3.8			ナダ、指痕有あり	工具ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の赤褐・黑色石 膏を含む	
820	小型壺	口縁部～ 底部	D	SA105				黒化により不明瞭、お そらくナダ、指痕有 り	黒化により不明瞭、お そらくナダ、指痕有 り	根	根	1mmの乳白・灰白・ 灰白色乳化を含む	
821	小型壺	口縁部～ 肩部	D	SA105	9.2			縫上部方向のひげ 口	縫上部方向のひげ 口、ナダ	根	根	2mm以下の灰・褐色の 透明釉を含む	
822	高坏	縦部	D	SA105	28.3			口唇部は側方の ナダ、模倣する模様 等。ナダ	模倣のひげ口。ナ ダ等	浅黄根	にぶい 根	1~2mmの赤褐色、1 mm以下の白色乳化を含 む	
823	高坏	縦部	D	SA105				縫方向のひげ口	ヒゲ	根	根	2mm以下の灰・赤褐 色透明釉を含む	
825	壺	口縁部～ 肩部	D	SA106	17.8			縫方向のひげ口	縫方向のひげ口、ナ ダ	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の灰・褐 色透明釉を含む	
826	壺	底部	D	SA106	6.9			縫方向のナダ、ナダ ハケ口の後にナダ	ナダ	にぶい 根	灰	1~2mmの灰白・褐 乳白色透明釉を含む	
827	壺	底部	D	SA106	6.1			ナダ、不定方向の ナダ、沿ナダ、指痕 等。指痕有あり	ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	4mm以下の灰・乳白 色透明釉を含む	
828	壺	口縁部～ 肩部	D	SA106	19.5			黒化により不明瞭、 模倣のひげ口、ナ ダ等	模倣のひげ口、ナ ダ等	根	根	1~2mmの灰・赤褐 乳白色透明釉を含む	
829	壺	口縁部	D	SA106				縫の跡文と、位相 の跡文と、ロコナ ダ	ロコナダ	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の浅黄・灰 色透明釉を含む	
830	壺	底部	D	SA106	5.2			黒化により不明瞭、 模倣のひげ口、ナ ダ等	模倣のひげ口、ナ ダ等	にぶい 根	浅黄根	2mm以下の灰・褐色 透明釉を含む	
831	壺	底部	D	SA106	7.2			縫方向のひげ口、高 脚付は側面	ナダ	根	暗灰黄	1mm以下の乳白色の 透明釉を含む	
832	壺	側部	D	SA106				黒化により不明瞭、 模倣のひげ口、ナ ダ等	ナダ	根	灰	1~2mmの灰・乳白色 透明釉を含む	
833	鉢	口縁部～ 底部	D	SA106	27.7	6.8	13.0	ナダ、底面部にはナ ダ	ナダ	黄根	黄根	1mmの灰・褐色透明 釉を含む	
834	鉢	口縁部～ 底部	D	SA106	10.7	4.5	4.8	縫と側方のひげ 口の間にナダ	ナダの縫にハケ口	浅黄根	浅黄根	2mm以下の赤褐・灰 色透明釉を含む	
835	高坏	縦部	D	SA106				縫方向のひげ口	縫方向のひげ口	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の赤褐・黑色 透明釉を含む	
838	壺	口縁部	D	SA107				縫方向の工具ナダ	縫方向のナダ	にぶい 黄根	浅黄根	1~2mmの灰・赤褐 色透明釉を含む	
839	壺	口縁部	D	SA107				模・側方向のひげ 口	ナダ、工具ナダ	浅黄根	浅黄根	1mm以下の乳・白乳 色透明釉を含む	
840	壺	口縁部	D	SA107				口唇部は側面の位 相、ナダ	ナダ	にぶい 黄根	黄根	1mm以下の赤褐色 透明釉を含む	
841	壺	口縁部～ 肩部	D	SA107				上部の2段目・下部2 段目の工具ナダ	工具によるナダ、も しくはハケ口	根	根	1mm以下の灰白・赤 色透明釉を含む	
842	壺	底部	D	SA107				ナダ、縫方向のひ げ口、指ナダ	ナダ、縫方向のひ げ口	にぶい 根	灰	1~2mmの灰・赤褐 色透明釉を含む	
843	壺	肩部	D	SA107				縫・側方向のナ ダ、表面2段目のナ ダ	ナダ	淡黄	黑褐	2mm以下の灰白、灰 色透明釉を含む	
844	壺	肩部～底 部	D	SA107				縫・側方向のナ ダ、表面2段目のナ ダ	ナダ	浅黄	灰	2~6mmの薄・赤褐色 透明釉を含む	

第26表 下那珂遺跡出土土器観察表 (15)

番号	種別	器種	出土部	出土区	出土地点	法身 (cm)		手法・刺繡・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
						口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面	
845	器台	受部	D	SA107	33.2			上部は斜め、下方は 横方向のけがね 化により不明瞭	橙	橙	2mm以下の薄・灰白色。 1mm以下の黒色を含む		
846	高坏	坏部	D	SA107				横方向のけがねも しくは工具ナデ	ニギキ	淡黄橙	にぶい 楊	1~7mmの赤褐・灰色 を含む	
847	高坏	脚部	D	SA107	16.4			円錐透かし、就方 のけがね	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙		
848	坏	口縁部～ 底部	D	SA107	8.5	4.6	11.8	ハケ目、指捺印	ナデ、指ナデ	にぶい 楊	根	1~7mmの赤褐・灰 色を含む	
849	器台	柱部～脚 部	D	SA107				底面のけがね。柱 脚は横方向のけがね 柱脚はナデ、柱脚は の後に黒鉛の墨跡 文	柱脚はナデ、柱脚は 墨と力強いけがね	根	根	2mm以下の薄・灰白 色を含む	
851	壺	口縁部	D	SA109	15.0			腹部に3条の突筋、 横方向のけがね		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の赤褐・淡黄 色を含む	
852	壺	口縁部	D	SA109				上部は横方向・下部 は斜方向の平行ナ デ		にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の薄・灰色石 英を含む	
853	壺	口縁部	D	SA109				口縁部には墨跡の 突筋のけがねをもつ て墨跡の付着		にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の赤褐・淡 乳白色を含む	
854	壺	底部	D	SA109		11.4		ナデ、一部・具ナデナ デ、一部・ハケ目が 付着		にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の薄・灰・淡 乳白色を含む	
855	壺	口縁部～ 肩部	D	SA109	10.4			白墨跡は横方向の 工具ナデ、腹部は斜 方向のけがね	ナデ、腹周は指ナデ	根	根	2mm以下の薄・灰・淡 乳白色を含む	
856	壺	口縁部～ 底付け付近	D	SA109	11.6			白墨跡は横方向の 工具ナデ、腹部は山形 墨跡文、脚部にはけ がね	上部は横方向のけが ね、下部は斜方向の 墨跡文、脚部にはけ がね	根	根	2mm以下の薄・淡黄色 を含む	
857	壺	脚部	D	SA109				墨跡文	ナデ	淡黄根	淡黄根	2mm以下の薄・淡黄色 を含む	
858	器台	受部～脚 部	D	SA109	25.3	18.3	17.3	上下に丸みある、横 方向のけがね	柱脚はナデ、受部 は斜方向のけがね、 脚部はハケ目			1~3mmの褐色を含む	
859	高坏	坏部	D	SA109				上部は横方向・下部 は横方向の工具ナ デの後でけがね	上部は横方向・下部 は横方向の工具ナ デの後でけがね	にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の薄・灰・淡 乳白色を含む	
860	高坏	脚部	D	SA109		18.3		斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	淡黄根	淡黄根	2mm以下の薄・灰・淡 乳白色を含む	壺の口縁 の可能性
864	壺	脚部	D	SA109				ナデ、脚部によく 残る墨跡文	ナデ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の薄・灰・淡 乳白色を含む	
865	壺	底部	D	SA111		9.5		断続的にけがねが 残る、底面もけがね	ナデ	にぶい 根	にぶい 黄根	2mm以下の薄・透明白 色を含む	
866	壺	底部	D	SA111		7.1		平行タクナ、ナデ	不直方向のハケ目	根	根	4mm以下の乳白色・ 淡黄色を含む	
867	壺	口縁部	D	SA111				巻きをもたらす墨 跡の墨跡文	斜方向のナデ	根	根	1mm以下の薄・灰・ 淡黄色を含む	
868	高坏	坏部	D	SA111				口縁部は横方向の ナデ、口縁部は横方 向のけがね	ナデ	根	根	1~3mmの赤褐・灰 色を含む	
869	壺	底部	D	SA111		5.7		ナデ（指捺印らしい 墨跡が付着）	ナデ（指捺印らしい 墨跡が付着）	にぶい 黄根	暗灰	2mm以下の薄・灰 色を含む	
870	高坏	脚部	D	SA111				跡があれ、腹部内の けがね	ナデ、工具ナデ	根	根	1~2mmの赤褐・灰 色を含む	器台の可 能性
871	壺	脚部～底 部	D	SA112		5.7		脚部は横方向のハ ケ目、底面はナデ のけがね	ナデ、底面は ナデ	にぶい 黄根	根	1~4mmの赤・灰・白 色を含む	
872	壺	底部	D	SA112		6.4		脚部は横方向のハ ケ目、底面はナデ のけがね	ナデ	暗灰	暗灰	2mm以下の薄・白・淡 乳白色を含む	
873	壺	口縁部	D	SA112				ナデ		根	根	1mm以下の薄・黑色 色を含む	
874	壺	口縁部～ 底部	D	SA114				口縁部は横方向の ナデ、脚部は斜方向 のハケ目	口縁部は横方向の ナデ、脚部はナデ	根	根	2mm以下の薄・黑褐色 を含む	
875	壺	口縁部～ 脚部	D	SA114				口縁部は横方向の ナデ、脚部は斜方向 のハケ目	ナデ、脚部は斜方向 のハケ目	根	根	1~4mmの薄・基褐色 を含む	
876	壺	口縁部	D	SA114				底面のけがねをもつ て墨跡の付着、底面 は斜方向、脚部は斜 方向のハケ目		根	根	2mm以下の薄・灰・淡 乳白色を含む	
877	壺	脚部	D	SA114				底面のけがねをもつ て墨跡の付着、底面 は斜方向、脚部は斜 方向のハケ目	にぶい 根	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の薄・灰 色を含む	

第27表 下那珂遺跡出土土器観察表 (16)

番号	種別	器種部	出土区	出土地点	走査 (cm)		手法・調査・文様はか		色 譲		胎土の特徴	備 考	
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
878	甕	縁部～底部	D	SA114		5.9		網目工真ナデ, 真 縫ナナデ	放射状のナデ	浅黄褪	黒	1~4mmの透明・灰 白・褐色の石粉を含む	
879	甕	口縁部～底部	D	SA114	18.2			圓孔に不規則孔 もぐらナナデ	上部に横ナデ, 下部 もぐらナナデ	橙	橙	2mm以下の暗・灰 色の石粉を含む	
880	甕	口縁部～底部	D	SA114	16.4			横方向のナデ, 真方 向のナデ	口縫は横・真方 向のナデ	橙	橙	4mm以下の暗・黒色の 石粉を含む	
881	甕	口縁部～底部	D	SA114				横方向のナデ, 真方 向のナデ	口縫は横・真方 向のナデ	橙	橙	4mm以下の暗・黒色の 石粉を含む	
882	器台?	口縁部?受部?	D	SA114	17.6			口縫は21条の網 目, 網目は真孔化の もぐらナナデ		にぶい 黄褪	黄褪	1mm以下の暗・乳白色 を含む	
883	器台?	口縁部?受部?	D	SA114	18.7			口縫は21条の網 目, 網目は真孔化の もぐらナナデ		橙	橙	1mm以下の褐色の石 粉を含む	
884	甕	口縁部～底部	D	SA114	19.0			口縫はナナデ, 球形 は繩方向の工具ナ デ, 繩波形	横方向のナデ, 真方 向のヘケ目	橙	浅黄褪	7mm以下の暗・黄・ 灰・黒色の石粉を含む	
885	甕	受部	D	SA114	28.1			口縫はコナナデ, 繩波形コナナデ, 繩波形横ナナデ もぐらナナデ	風化による不規則な もぐらナナデ	橙	橙	5mm以下の暗・灰・黃 色, 2mm以下 の黒色透明白を含む	
886	甕	底部～口縁部	D	SA114				口縫は横方向のナ デ, 球形は張力の ヘケ目	横方向のナデ もぐらナナデ	橙	橙	1~4mmの透明・灰 色, 黄色を含む	
887	甕	口縁部	D	SA114				他の2の円柱交 織波波形ナナデ, 繩波波形ナナデ	横と斜方向のナ ナデ	橙	橙	3mm以下の暗・灰 色の石粉を含む	
888	甕	縁部	D	SA114				ヘケ目, 真工具上 の斜波, 斜方 向のナナデ, 真工 具ナナデ	にぶい 黄褪	にぶい 黄褪	3mm以下の暗・黄 色の石粉を含む		
889	甕	縁部～胴部	D	SA114				ヘケ目, 真工具上 の斜波, 斜方 向のナナデ, 真工 具ナナデ	一箇部横波或 ナナデ	橙	橙	3mm以下の暗・灰・黑 色の石粉を含む	
890	甕	縁部～底部	D	SA114	7.5			口縫は横方向のナ ケ目, 底部はナナ デ	放射状のナナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	4mm以下の暗・灰 白・褐色の石粉を含 む	
891	甕	縁部～底部	D	SA114	5.6			口縫は横方向のナ ケ目, 指押有, 底 部ナナデ	ナナデ, 指ナナデ	にぶい 橙	灰黄褪	2mm以下の暗・灰白 透明白を含む	
892	甕	縁部～底部	D	SA114	5.1			口縫はナナデ, 真 縫ナナデ	放射状のナナデ	浅黄褪	黒	1~2mmの褐色白粒 を含む	
893	小型鉢	口縁部～底部	D	SA114	9.9	4.8	7.2	風化による不規則 なナナデ	ナナデ, 口縫波形 もぐらナナデ	にぶい 橙	暗灰	2mm以下の暗・灰・ 褐色の石粉を含む	
894	小型鉢	縁部～底部	D	SA114		4.2		横方向のナナデ	横波形ナナデ, 斜 波形ナナデ	にぶい 黄褪	浅黄褪	2mm以下の暗・灰 色の石粉を含む	
895	鉢	口縁部～底部	D	SA114				口縫はコナナデ, 口縫波形横波形 もぐらナナデ	横方向のナナデ	黒褐色	黄褪	1mm以下の褐色石 色, 1~2mmの褐色 透明白を含む	
896	高坏	口縁部～底部	D	SA114	32.3			口縫はコナナデ, 横波形24条のナ ケ目	口縫は24条コナ ナデ, 斜波形24条 横波形24条横波形 ナナデ	橙	橙	2mm以下の暗・灰・透 明白を含む	
897	高坏	脚部	D	SA114		11.1		横方向の工具ナ ナデの後に一部斜 ナナデ	にぶい 橙	灰黄褪	灰	3mm以下の暗・非 透明白・褐色の石 粉を含む	
898	甕	縁部～底部	D	SA114				横波形ナナデ, 縫 縫は斜方向工具ナ ナデ	横波形ナナデ, 斜 波形ナナデ	橙	褐灰	3mm以下の暗・灰 色の石粉を含む	
899	甕	縁部～底部	D	SA114		6.4		横方向のナナデ	横波形のナ ケ目, ナナデ	横	にぶい 黄褪	4mm以下の灰・赤 色, 1mmの乳白色 を含む	
906	甕	口縁部	D	SA115				口縫は横ナナデ と横方向のナナデ, 斜波形ナナデ, 真 縫は斜方向のナ ケ目	口縫は横ナナデ と横方向のナナデ, 斜波形ナナデ, 真 縫は斜方向のナ ケ目	にぶい 橙	にぶい 黄褪	3mm以下の褐色石 色, 2mm以下の暗・ 灰・褐色の石粉を含 む	
907	甕	口縁部～胴部	D	SA115				口縫は横波形 もぐらナナデ	ナナデ, 一箇部横波 或ナナデ	橙	橙	2mm以下の透明・灰 白・黒・褐色の石 粉を含む	
908	甕	口縁部	D	SA115				横波形波状文	波状文	橙	橙	1mm以下の暗・灰 色の石粉を含む	
909	甕	肩部	D	SA115				横方向のナナデ, 縫の波状文	波状文	橙	橙	1mm以下の暗・灰 色の石粉を含む	
910	甕	口縁部～ 底部	D	SA115	12.4			口縫附近に1条の 直波状と山形波状 の横波状波, 横方 向のナナデ	横と斜方向のナ ナデ	にぶい 黄褪	灰黄褪	1mm以下の透明・黑 色, 2mm以下の暗・ 灰・褐色の石粉を含 む	
911	甕	口縁部	D	SA115				口縫附近に横波 状波, 口縫附近は 斜波状波, 横方 向のナナデ	横波状波, 斜 波状波	浅黄褪	橙	1mm以下の暗・黑 色・灰白色の石 粉を含む	

第28表 下那珂遺跡出土土器観察表 (17)

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法 異 (cm)			手面/腹面・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備 考
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
912	壺	底部	D	SA115		3.4		内側に斜方 向の工芸ナデ 内の可塑性(あぶら け)	ナデ, (高ナデ はナデ)	浅黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の薄・黒・ 灰・乳白色を含む	
913	甕	底部	D	SA115		6.6		ナデ, 指ナデ, 斧面 はナデ	ナデ	にぶい 黄褐色	褐灰色	2mm以下の薄・黒・ 灰・乳白色を含む	
914	高坏	脚部	D	SA115				ナデ, 腹方向のナ ダ	ナデ	にぶい 黄褐色	褐灰色	2mm以下の薄・黒・ 灰・乳白色を含む	
919	甕	口縁部～ 底部	D	SC25	20.8	2.6	28.0	上半分は平行タチ ナダ, 平分した後方 向のハケ日		にぶい 黄褐色	明黄褐色	2mmの底面・薄・灰 色2.2, 2mm以下の灰・ 黑色を含む	
920	壺	口縁部～ 底部付近	D	SC25	18.5			白練部にはナデ, 腹部は二工芸板 が残るナデ, 底部 付近は丸みによる 凹	一概工具痕が残る ナデナダ	橙	明黄褐色	2mm以下の薄・乳白・ 黑色, 1mm以下の灰・ 黑色を含む	
921	甕	口縁部～ 底部付近	D	SC25	21.1			口縁部付近は前方 向のハケ日, 腹部は 前方のハケ日	ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 橙	2mm以下の薄・灰色 色, 1mm以下の薄・ 黑色を含む	
922	甕	肩部～底 部	D	SC25		3.2		ナデ(黒化によ り不明瞭)	ナデ(黒化によ り不明瞭)	板	にぶい 黄褐色	2mm以下の黒色・深 灰色, 黑・黑色を 含む	
923	甕	肩部～底 部	D	SC25		3.2		平行タチキ, 一面黑 度	腹方向のハケ日, 黑 度	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1~4mmの薄・深褐色 色, 2mm以下の黑色 色, 黑色を含む	
924	壺	口縁部～ 底部	D	SC25	10.8			腹方向のハケ日, ナデ, 腹部的にハ ケ日が残る	ナデ	橙	橙	1mm以下の茶色・深 褐色を含む	
925	甕	口縁部～ 底部付近	D	SC25				腹と斜方向のハケ 日	腹と斜方向のハケ 日	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1~5mmの灰・青灰・ 灰・黑色を含む	
926	壺	肩部～底 部	D	SC25				腹と斜方向のハケ 日	ナデ	にぶい 橙	にぶい 黄褐色	1mm以下の褐色を 多く, 4mm以上の 板を含む	
927	甕	肩部～底 部	D	SC25		3.1		腹と斜方向のハケ 日, 底部付近にナ ダリ	腹方向のハケ日, 前 方のナデ, ナ ダリ	板	褐灰色	4mm以下の褐色, 1 mm以下の乳白色・深 褐色を含む	
928	鉢	口縁部～ 底部	D	SC25	23.8	1.7	11.5	ナデ(黒化のため 難不明瞭) - 一部 化	ナデ(黒化のため 難不明瞭) - 一部 化	橙	橙	4mmの薄・灰・ 灰褐色, 2mm以 上の深褐色・黑色 化を含む	
929	小型甕	口縁部～ 底部	D	SC25	18.9	4.8	17.9	長方向のナデ, ナ ダ, 腹方向のナ ダ	工具によるナデ・推 ナデ	壁	壁	2mm以下の褐色土 色, 1mmの灰・乳白 色を含む	
930	鉢	口縁部～ 底部	D	SC25	11.8	3.2	7.4	ナデ・工具によ るナデ	ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	2mm以下の褐色土 色, 1mm以下の深褐色・黑 色を含む	
931	壺	口縁部～ 底部	D	SC25	9.4	0.6	5.8	腹方向のナデの推 ナデ, 不定方向のナ ダ	腹と斜方向のナ ダ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1mm以下の褐色, 透明 度を含む	
932	壺	口縁部～ 底部	D	SC25	10.5			口縫部は斜面状 で, 斜面は力強い ハケ日	不定方向のハケ日, 推ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	2mm以下の褐色・深 褐色, 2mm以下の褐色 を含む	
934	甕	口縁部～ 肩部	D	包含層		24.9		口縫部ナデ, 口縫 部は工具によるナ ダ, 斜面は力強い ナデ	口縫部は斜方向の 工具によるナ ダ, 斜面は力強い ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	4mm以下の褐色・灰 色・褐色の石斑を含 む	
935	甕	口縁部～ 肩部	D	包含層		23.0		口縫部は腹方向の ハケ日, 斜面は力強 いナデ	山端部は腹方向の ハケ日, 斜面は力強 いナデ	にぶい 橙	にぶい 黄褐色	3mmの褐色・茶褐色・ 灰・黑色を含む	
936	甕	口縁部	D	包含層				斜板の火候, 斜方 向の點・ハケ日	斜板は腹方向の ハケ日, 斜面は力強 いナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1~3mmの褐色を含 む	
937	甕	口縁部	D	包含層				腹面に刺毛もつ れの痕跡, 斜面は力 強いナデ	ナデ, ナデ	にぶい 橙	にぶい 黄褐色	3mmの褐色・茶褐色・ 灰・黑色を含む	
938	甕	口縁部	D	包含層				腹方向のハケ日, 口 縁部は腹方向に膨 せた縦の突起をも つ	ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1mm以下の赤・青・ 透明度を含む	
939	甕	口縁部～ 肩部	D	包含層		18.4		腹と斜方向のハ ケ日	腹と斜方向のハ ケ日	にぶい 橙	にぶい 黄褐色	1~4mmの灰・青灰・ 黑色を含む	
940	甕	口縁部～ 肩部	D	包含層		14.2		黒化濃い・黒, おそ らくナデ	黒化濃い・黒, おそ らくナデ	橙	橙	1~4mmの灰・青灰・ 黑色を含む	
941	壺	口縁部	D	包含層		14.9		口縫部は腹方向の ナデ, 下部は斜方 向のナデ	腹方向のナデ, 斜 方向のナデ	橙	橙	1mm以下の薄・透明白 色を含む	
942	甕	肩部～底 部	D	包含層		5.9		腹方向のハケ日, 斜 面付近は指紋をも つ	ナデ	黒褐色	黒褐色	2mm以下の薄・灰・白色 を含む	

第29表 下那珂遺跡出土土器観察表 (18)

番号	種別	器種 部位	出土区	出土地点	形 状 (cm)		手法・調査・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
943	甕	胴部～底 部	D	包含層			4.5	黒化等しいがおそらくナデ、底面付近は表面凹凸	黒化等しいがおそらくナデ	にぶい 根	根	1mm以下の黒根・白色胎土を含む	
944	甕	胴部～底 部	D	包含層			4.7	黒化等しいがおそらくナデ	黒化等しいがおそらくナデ	根	根	2mm以下の黒根・灰白・赤褐色を含む	
945	甕	胴部～底 部	D	包含層			5.9	黒化等の工具ナデ、ナデ	黒化等しいがおそらくナデ	にぶい 根	根	2mm以下の黒根・灰白・赤褐色の胎土を含む	
946	甕	胴部～底 部	D	包含層			5.1	平行タケ口、下端は底面内の工具ナデ、底面付近は錐状凹凸	ナデ	明赤褐	根	3mm以下の赤根・灰白・灰褐色を含む	
947	甕	底部	D	包含層			5.0	黒化等しいがおそらくナデ、底面付近は表面凹凸	黒化等しいがおそらくナデ	にぶい 根	浅黄根	2mm以下の黒根・灰白・灰褐色を含む	
948	壺	口縁部	D	包含層				横方向の工具ナデ、表面凹凸	横方向の工具ナデ	明褐	明褐	2~3mmの乳白・灰白色を含む	
949	壺	口縁部	D	包含層				ハラ模様の二重角突、口縁部に口縫付口縫付	横方向のナデ、口突	にぶい 根	根	1mm以下の赤根・透明白色を含む	
950	壺	口縁部	D	包含層				側面斜工具による横引模様	ナデ	浅黄根	浅黄根	3mm以下の赤根・黑色を含む	
951	壺	口縁部	D	包含層			14.5	二次口縫は横引方向のナデの後、横引模様、表面文、側面斜工具ナデ	口縫付2丁目なナデ、側面斜は横引方向の工具ナデ	根	根	1mm以下の黒・透明白色を含む	
952	壺	口縁部～ 肩部	D	包含層			11.2	口縫部に押付のような側面斜工具、側面斜は横引方向のナデ	黒化等しいがおそらくナデ	根	根	1mm以下の黒根・白色胎土を含む	
953	壺	口縁部～ 肩部	D	包含層			11.1	横方向の斜口ハケ口	口縫部は横引方向のナデ、側面斜は横引方向	浅黄根	にぶい 根	3mm以下の赤根・灰白色を含む	
954	壺	口縁部～ 肩部	D	包含層			13.0	横方向の横口ハケ口	横方向の横口ハケ口の後、横引方向のナデの後、横引方向のナデ	灰黄褐	にぶい 根	2mm以下の赤根・黑・黑色を含む	
955	壺	口縁部	D	包含層				ナデの側に横斜引工具が複数できり、1~2次の横引模様をもつ	上端は横引方向のハケ口、下端はナデ	にぶい 根	浅黄根	3mm以下の赤根・灰白色を含む	
956	壺	底部	D	包含層			9.9	ナデ、底面に2mmの摩耗丸印	黒化等しいがおそらくナデ	にぶい 根	根	4mm以下の黒根・黄褐色を含む、1mm以下の透明白色を含む	
958	甕	胴部～底 部	D	包含層				黒化等しいが、ハケ口から側面にも側面斜が認められる	黒化等しいが、ハケ口から工具痕と側面斜が認められる	にぶい 根	根	1~2mmの黒・灰・赤褐色を含む	
958	甕	底部	D	包含層			7.6	側面斜の横口ハケ口、表面はナデ	ナデ、表面はナデ	にぶい 根	根	3mm以下の灰・晶・乳白色を含む	
959	甕	胴部～底 部	D	包含層			5.3	側面斜2丁、底部附近は横引方向のハケ口ナデ	射出成形のハケ口ナデ	にぶい 根	灰黄	1mm以下の灰白・透明白色を含む	
960	甕	胴部～底 部	D	包含層			6.2	側面斜の横口ハケ口	丁型なナデ、一部指ナデ	にぶい 根	黄根	2mm以下の黒色を含む	
961	鉢	胴部～底 部	D	包含層			4.4	側面斜は横斜引のナデ、底面斜は横引方向のナデ	不定方向の横引ナデ	根	根	2mm以下の透明白色を含む	
962	甕	底部	D	包含層			7.0	側面斜は平行ナデ、側面斜付近は横引方向のナデ、側面斜は横引方向のナデ	ナデ、表面はナデ	にぶい 根	根	2mm以下の透明白色を含む	
963	鉢	口縁部～ 底部	D	包含層				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	根	根	1mm以下の黒・白色胎土を含む	
964	鉢	口縁部	D	包含層				ナデ、射出成形のハケ口	黒化等しいがおそらくナデ	根	根	1mm以下の白・透明白色を含む	
965	高杯	杯部	D	包含層				側面斜の横引のナデ、底面斜の横引のナデ	黒化等しいがおそらくナデ	根	根	2mm以下の赤根・透明白色を含む	
966	高杯	杯部	D	包含層				平らあり、横方向のシガキ	横方向のナデ	にぶい 根	根	2mm以下の透明白色を含む	
967	小型鉢	口縁部～ 底部	D	包含層	9.3	2.2	10.8	ナデ、工具ナデ	丁型なナデ	灰	灰	2mm以下の小根・黒・透明白色を含む	
968	小型甕	口縁部～ 底部	D	包含層	9.8	3.6	10.3	黒化等しいがおそらくナデ	黒化等しいがおそらくナデ	根	根	2mm以下の透明白・黒色胎土を含む	
969	小型甕	口縁部～ 底部	D	包含層	9.8	4.2	9.7	側面斜の横口ハケ口の後ナデ	親口方向の工具ナデ	にぶい 根	根	3mm以下の透明白・赤褐色を含む	
970	小型甕	口縁部～ 底部	D	包含層			3.2	親口方向の工具ナデ	ナデ、一部横方向の工具ナデ	浅黄根	浅黄根	3mm以下の根・黒・灰色胎土を含む	

第30表 下那珂遺跡出土土器観察表 (19)

番号	種別	器種 部位	出土 区	出土地点	法量 (ml)			手法・測算・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外 国	内 面	外 面	内 面		
971	小型鉢	口縁部～底部	D	包含層	9.6	1.9	5.0	ナデ, 裏面全体は擦 ナデ, 割裂のナデ ナダ	ナデ, 蓋ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の浅黄色 を含む	
972	小型壺	口縁部～底部	D	包含層	5.6			縦方向ハケ口の ナダ		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の白・灰・白 色を含む	
973	鉢	口縁部～底部	D	包含層	31.1		9.2	風化していがこが 風化していがこが 風化		橙	派橙	3mm以下の灰・黑・白 色を含む	
974	壺	口縁部～底部	D	包含層	17.4	6.0	14.9	口縫は黒色の 口口, 断面は黒 色のハケ口		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の灰・黑・白 色を含む	
975	器台	受部～表 部	D	包含層	25.9	26.1		草部あり, 縦方向 ナダ	受部はいがこ, 横部 は押ナデ, 横縫はナ ダ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の透青・黑 色を含む	
976	器台	柱部～表 部	D	包含層				不规则のナデ, J ナダ		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色を 含む	
977	器台	受部～柱 部	D	包含層				受20ミリの後 斜方向のナダ		桜	桜	3mm以下の青・黑・透 青色を含む	
978	蓋	底部	D	包含層				箱ナデ, 不定方 向のナダ		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mmの赤褐・褐色 を含む	
979	小型壺	口縁部	D	包含層				横方向のナデの 縫に割裂のナダ	1巻ナデ, 口縫は 割裂のナダ	桜	派桜	3mm以下の褐色を 含む	
980	甕	底部	D	包含層	5.4			J	ナダ	桜	桜	3mm以下の青・黑・透 青色を含む	
981	小型鉢	胴部～底 部	D	包含層	5.0			縫は黒色のハ ケ口, 断面は横 方向のナダ		にぶい 桜	浅黄橙	1mm以下の透青・黑 色を含む	
982	ミニチュ アト器	胴部～底 部	D	包含層	2.2			工具ナデ	不规则の工具ナ ダ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の茶褐色 を含む	
983	ミニチュ アト器	胴部～底 部	D	包含層	2.0			タキの後ナデ	工具ナデ	にぶい 黄橙	桜	2mm以下の青・灰・透 青色を含む	
984	小型鉢	胴部～底 部	D	包含層				風化していがこが 風化	横方向のハケ口 ナダ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の灰・黑・透 青色を含む	
985	小型鉢	底部	D	包含層	5.0			横方向のナデの縫 に横方向のナダ	横方向は横方向の ハケ口	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の青・透 青色を含む	
986	壺	胴部～底 部	D	包含層	4.8			ナデ, 縫ナデの 縫に横方向の ナダ	横方向のハケ口, 横 縫	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の褐色を 含む	
987	杓子状 土器	柄部	D	包含層				工具ナデ		桜	灰黄橙	1~2mmの赤青・灰 色を含む	
988	杓子状 土器	柄部	D	包含層				ナデ	ナデ	桜	桜	1mm以下の灰・黑 色を含む	
989	壺	口縫部	D	包含層	7.1			口縫部に横じの凹 凸縫がある		桜	桜	1mm以下の茶褐色 を含む	
990	壺	口縫部	D	包含層	20.3			口縫部に凹の凹縫 横方向のナダ	風化のため断面不 明	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の茶褐色 を含む	
991	鉢	胴部～底 部	D	包含層	5.8			風化していがこが 風化	複数のハケ口	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒・灰・白 色を含む	
992	高坏	脚部	D	包含層	13.3			風化していがこが 風化	複数の工具ナデ, ナダ	浅黄橙	浅黄橙	2~4mmの赤・灰・2 mm以下の青・灰・透 青色を含む	
993	高坏	脚部	D	包含層				縫方向ハケ口の 縫にナダ	ナダ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の茶褐色 を含む	
994	壺	胴部～底 部	D	包含層		3.6		縫方向ハケ口, 断 面は縫方向のナダ J	縫に横方向のハ ケ口	にぶい 桜	にぶい 黄橙	3mm以下の青・黑・透 青色を含む	
995	小型鉢	口縫部～底 部	D	包含層	9.7	4.5	9.8	縱方向のハケ口	横ナデ, 横方向のハ ケ口	桜	桜	3mm以下の灰・黑・透 青色石斑を含む	
996	杓子状 土器	柄部	D	包含層				縫2cm, 横方向の ナダ		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下茶褐色を 含む	
997	壺	口縫部～ 底部	D	包含層	22.2			ハケ縫き断面丈 口縫は横方向の ナダ, 断面は横 方向のナダ	縫2cmは横方向の 縫	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の茶褐色 を含む	
998	壺	口縫部	D	包含層				横方向のこが 縫	横方向のこが 縫	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の茶褐色 を含む	
999	鉢	脚部	D	包含層				丁寧なナデ, 横縫 風化	ナダ	明赤褐	明赤褐	1mm以下の灰・白 色を含む	
1000	壺	底部	D	包含層		7.1		縫方向ハケ口, 指 縫は横方向のナダ 横縫は工具ナダ	ナダ	暗灰	暗灰	1mm以下の灰・白 色を含む	

第31表 下那珂遺跡出土土器観察表 (20)

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	基盤 (cm)		手法・調査・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1001	高坏	耳部	D	包含層				白壁面に漆の跡、口縁に朱漆の跡が有る	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の黒-赤褐色を含む		
1002	蓋	蓋部	D	包含層		9.8		輪削方式のハケ口	にぼい 白	橙	橙	1mm以下の黒-灰白-褐色を含む	
1003	壺	口縁部	F	SA116	24.3			風化著しく調査不能	風化著しく調査不能	にぶい 白	橙	1mm以下の赤-灰白-褐色を含む	
1004	壺	肩部	F	SA116				主張、沈痕にごと葉字有る	暗ナデ	橙	橙	2mm以下の角-透明質、4mm以上の黑色を含む	
1005	壺	口縁部	F	SA116				口底面に一箇所粘付痕有る、ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の角-灰白-褐色、4mm以下の褐色を含む	
1006	壺	口縁部	F	SA116	9.3			旋削方式のハケ口、2箇所等字有る	旋削方式のハケ口	黄橙	黄橙	1mm以下の灰白色を含む	
1007	壺	口縁部	F	SA116				ナデ	ナデ、一側面ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白-褐色、透明光沢を含む	
1008	壺	口縁部	F	SA116	20.4			一次口縁部に問題無、風化しているが不规则なハケ口	風化著しいハケ口、不规则なハケ口	橙	橙	1~2mmの黒-灰白-褐色、4mm程の褐色を含む	
1009	壺	口縁部	F	SA116				ナデ、旋削方式のハケ口	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1010	壺	口縁部～底部	F	SA116				旋削方式のハケ口	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1011	壺	口縁部～底部	F	SA116	11.1			不规则の工具ナデ	不规则の工具ナデ、削痕は不规则なハケ口	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の黑色を含む	
1012	壺	肩部～頸部	F	SA116				削痕附近は浮ナデ、削痕は斜面物のハケ口	削痕附近は浮ナデ、削痕は斜面物のハケ口	にぶい 白	浅黄橙	3mm以下の灰褐色を含む	
1013	壺	頸部～底部	F	SA116				旋削方式のハケ口、面部は削ナデ	不规则方式のハケ口	灰白	浅黄橙	3mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1014	甕	口縁部	F	SA116				口縫に削痕の跡、文様もつ、条の系付痕有る、ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1015	小型壺	底部	F	SA116		2.8		旋削方式の工具ナデ	ナデ	にぶい 白	にぶい 白	1mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1016	小型甕	底部	F	SA116		4.7		旋削方式の工具ナデ	ナデ、ナデ	橙	橙	1mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1017	小型壺	底部	F	SA116		4.5		旋削方式の工具ナデ	旋削方式のハケ口	浅黄橙	暗灰黄	2mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1018	高坏	耳部	F	SA116				削痕は薄いがのぞくナデ	削痕は薄いがのぞくナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~2mmの灰-黑-褐色を含む	
1019	高坏	耳部	F	SA116				旋削方式のハケ口	主に旋削方式のハケ口	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の褐色を含む	
1020	高坏	耳部	F	SA116				削痕は薄く不规则で、あらわらおろか、ナデ	削痕は薄く不规则で、あらわらおろか、ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の灰-黑-褐色を含む	
1021	鉢	口縁部～底部	F	SA116	19.7	5.8	12.5	削痕は薄いが、削痕は斜面物のハケ口	削痕は斜面物のハケ口、削痕はナデ	にぶい 白	にぶい 白	3mm以下の灰-黑-褐色、当部は白味	
1022	鉢	口縁部～底部	F	SA116	18.8	5.5	13.3	中に斜方向の工具ナデ	主に斜方向の工具ナデ	橙	橙	2mm以下の灰-灰白色を含む	素の可視性
1025	甕	口縁部～底部	F	SA117	14.6		22.8	風化著しいが、下部に削痕はハケ口	風化著しいが、下部に削痕はハケ口	にぶい 白	にぶい 白	1~3mmの黒-灰褐色、7mm程の黑色を含む	
1026	甕	口縁部～底部	F	SA117				風化著しいが、ドリーナ方式のハケ口	風化著しいが、モロシナデ	にぶい 白	にぶい 白	3mm以下の灰-褐色を含む	
1027	甕	口縁部	F	SA117				口縫は斜方向の工具ナデ	口縫は斜方向の工具ナデ	にぶい 白	にぶい 白	1~2mmの灰-灰白色を含む	
1028	甕	口縁部	F	SA117				削痕は薄いが、削痕は斜方向のハケ口	削痕は斜方向のハケ口、削痕は斜方向のハケ口	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の赤-褐色を含む	
1029	甕	口縁部	F	SA117				削痕は斜方向のハケ口	ナデ	橙	橙	1~2mmの灰-灰白色を含む	
1031	甕	底部	F	SA117		6.3		旋削方式の工具ナデ	ナデ	にぶい 白	にぶい 白	1~3mmの灰-灰白色を含む	
1032	甕	肩部～底部	F	SA117		4.9		削痕は薄いが、削痕は斜方向のハケ口	削痕は薄いが、削痕は斜方向のハケ口	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~3mmの灰-黑-褐色を含む	
1033	甕	口縁部	F	SA117				削痕のナデの後に削痕は斜方向のハケ口	削痕のナデの後に削痕は斜方向のハケ口	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	2mm以下の灰-灰白色を含む	

第32表 下那珂遺跡出土土器観察表 (21)

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	寸法 (cm)		千法・圓筒・文様ほか		色 調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1034	壺	口縁部	F	SA117				輪廓状況	模擬ナダ	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の紫色を含む	
1035	壺	口縁部～瓶部	F	SA117				輪廓状況	模擬ナダ	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の紫色を含む	
1036	壺	口縁部～瓶部～洗部	F	SA117	13.7			輪廓状況	模擬ナダ	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の褐色を含む	
1037	壺	底部	F	SA117		2.4		丁寧なナダ、土が少 ない	不定方向のハケ口	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の浅黄・乳白 色を含む	
1038	壺	口縁部～瓶部	F	SA117	17.3			輪廓状況	模擬ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の浅黄・灰 色を含む	
1039	壺	口縁部～底部	F	SA117	13.2	3.6	26.9	ナダ、方角的ハケ口	輪廓は斜ナダ、底部 は方角的ハケ口	明黄根	にぶい 根	1mm以下の灰・黄・褐 色を含む	
1040	壺	口縁部～瓶部	F	SA117				輪廓は斜ナダ、底部 は方角的ハケ口	輪廓は斜ナダ、底部 は方角的ハケ口	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の褐色を含む	
1041	壺	瓶部	F	SA117				輪廓は斜ナダ、底部 は方角的ハケ口	輪廓は斜ナダ、底部 は方角的ハケ口	根	浅黄根	1mm以下の灰・黄・褐 色を含む	
1042	壺	瓶部	F	SA117				ナダ、斜面的割合 も大きい	ナダ	根	根	1mmの褐色を含む	
1043	高坏	坏部	F	SA117				輪廓方向のハケ口	輪廓方向のハケ口	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の浅黄色を含む	
1044	壺	口縁部	F	SA117				輪廓に凹凸感、周 辺にハケ口	輪廓方向のハクナダ	根	根	1mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1046	壺	瓶部～底部	F	SA117		6.5		輪廓は斜山形のハ ケ口、底部は直線的 なハケ口	輪廓は斜山形のハ ケ口、底部は直線的 なハケ口	にぶい 黄根	黒	1mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1047	高坏	坏部	F	SA117				輪廓方向のハケ口	輪廓方向のナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の灰・灰白色 を含む	
1048	小型壺	口縁部～底部	F	SA117	13.9	3.2	11.8	輪廓高いが、底 部方向のものが低 く	輪廓のしきがく	根	明黄根	4mm以下の灰・灰白・ 褐色、2mm以下の 透明光沢を含む	
1049	鉢	口縁部～底部	F	SA117	9.8	0.6	10.2	輪廓高いが、一部 は方角的ハケ口	輪廓高いが、一部 は方角的ハケ口	根	根	1mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1050	鉢	口縁部～底部	F	SA117	13.0			輪廓は斜方的ハ ケ口、ナダ	輪廓は斜方的ハ ケ口、ナダ	にぶい 根	にぶい 黄根	2mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1051	鉢	口縁部	F	SA117				輪廓高いが、一部 は方角的ハケ口	輪廓高いが、一部 は方角的ハケ口	にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1051	鉢	口縁部～底部	F	SA217	10.8	3.1	5.9	輪廓高いが、一部 は方角的ハケ口	輪廓高いが、一部 は方角的ハケ口	にぶい 根	根	2~3mmの灰・灰色 を含む	
1053	壺	口縁部～瓶部	F	SA119	6.3	3.7	18.2	輪廓方向のハケ 口	輪廓方向のハケ 口	根	灰黄根	1~2mmの灰・灰 色を含む	
1054	壺	口縁部～底部	F	SA119	5.3	3.1	14.6	山形的輪廓と底 部、底部は直線的 なハケ口、底部はナ ダ	山形的輪廓と底 部、底部は直線的 なハケ口、底部はナ ダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の赤褐色・ 透明光沢を含む	
1055	壺	口縁部	F	SA119				二重の輪廓と底 部、底部はナ ダ	二重の輪廓と底 部、底部はナ ダ	根	根	2mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1056	高坏	脚部	F	SA119				輪廓は斜方的ハ ケ口	輪廓は斜方的ハ ケ口	根	根	2mm以下の灰・灰白・ 褐色を含む	
1058	甕	口縁部～底部付近	F	SA119	22.9			山形的輪廓と底 部、底部はナ ダ	山形的輪廓と底 部、底部はナ ダ	にぶい 根	にぶい 根	3mm以上の灰・灰 色を含む	
1059	壺	口縁部～底部	F	SA119	14.8	3.7	35.3	輪廓高くして調 整的、おもむくナ ダ、底部はナ ダ	輪廓高くして調 整的、工具ナ ダ	根	根	3mm以下の灰・海 綿の褐色を含む	
1060	壺	瓶部～底部	F	SA119		4.4		輪廓高くして調 整的、工具ナ ダ	輪廓高くして調 整的、工具ナ ダ	根	根	3mm以下の灰・海 綿の褐色を含む	
1061	壺	瓶部～底部	F	SA119				輪廓高くして調 整的、工具ナ ダ	輪廓高くして調 整的、工具ナ ダ	にぶい 黄根	にぶい 根	3mm以下の灰・海 綿の褐色を含む	
1062	甕	瓶部～底部	F	SA119		10.8	22.5	輪廓は斜方的の工 具ナダ、底部は直 線的ハケ口	輪廓は斜方的の工 具ナダ、底部は直 線的ハケ口	根	根	3mm以下の灰・海 綿の褐色を含む	

第33表 下那珂遺跡出土土器観察表 (22)

番号	種別	器種位	出土区	出土地点	計量(cm)			手法・調査・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1063	甕	口縁部～底部	F	SC26	22.0	3.7	27.4	表面に指ナメ、腹部はナメ	横方向のナメの後、腰部は前方のナメの後ナメの後にナメ	橙	にぶい 黄橙	3mm以下の黒・褐色石粒を含む	
1064	鉢	口縁部～底部	F	SC27	15.0			ナメ	ナメ	橙	橙	3mm以下の褐色石粒を含む	
1065	甕	肩部～底部	F	SC28		5.4		横方向のハケ目	横方向の工具ナメ	にぶい 橙	橙	3mm以下の赤褐・3mm以下の青褐・白色石粒を含む	
1066	壺	口縁部～腹部	F	SC29	10.6			口内側に横方向のナメの後横凹、腰部は腹方向のナメ	横方向のナメ、一部横凹	橙	橙	1mm程の灰白・褐色石粒を含む	
1067	鉢	口縁部～底部	F	SC29	9.8	5.1	9.1	横方向の内ハケ	判に横方向のハケ目	浅黄橙	にぶい 橙	3mm以下の赤褐色石粒を含む	
1068	甕	口縁部～肩部	F	SC29	11.3			横方向の上工ナメ	横方向の上工ナメ、腰部は指ナメ、腹部はナメ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1~3mmの褐色石粒を含む	
1069	壺	底部～底部	F	SC29			2.8	主に横方向のナメ、局部的に指ナメ、腹部は横方向のハケ目	横方向に指ナメ、腹部は横方向のハケ目	にぶい 橙	黄灰	2mm以下の赤褐・淡黄・透明白色石粒を含む	
1070	壺	肩部	F	SC29				風化しているがおそれなし、直立	ナメ、一部深ナメ	橙	黒褐	3mm程の灰・褐色石粒を含む	
1071	甕	口縁部～肩部	F	SC30	19.8			腰に斜方向のハケ目	横方向のハケ目、腰部附近は指ナメ	にぶい 橙	にぶい 橙	1~3mmの赤褐色石粒を含む	
1072	甕	口縁部～肩部	F	SC30	23.4			山積状付近は風化して不規則、腹行け付近は	山積状付近は風化して不規則、腹行け付近は	橙	橙	1~3mmの灰・黑色石粒を含む	
1073	鉢	口縁部～底部	F	SC30	13.5	3.6	9.1	ナメ、腹行け付近に指ナメ	ナメ、腹行け付近は斜方向のナメ	浅黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の灰・赤褐色石粒を含む	
1074	壺	口縁部～底部	F	SC30	16.6			風化著しく、側面不規則、口縫部に側面付近は	風化著しく、側面不規則、口縫部に側面付近は	橙	橙	3mm以下の灰・赤褐色石粒を含む	
1075	甕	口縁部～肩部	F	SC30	19.6			口縫部は斜方向の上工ナメの後、腰部は半片タタキ	口縫部は斜方向の上工ナメの後、腰部は半片タタキ	橙	橙	3mm以下の灰・赤褐色石粒を含む	
1076	壺	底部～底部	F	SC30		1.3		白色灰く側面不規則	ナメ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐色石粒を含む	
1077	壺	底部	F	SC30		5.1		風化著しく側面不規則	白色灰く側面不規則	橙	橙	1~3mmの赤褐色石粒を含む	
1078	甕	肩部～底部	F	SC30		5.3		平行タタキ	ナメ	橙	橙	1~3mmの灰・褐色石粒を含む	
1079	甕	口縁部～肩部	F	包含層	21.6			口縫部は斜方向に保有、腰部は斜方向のハケ目・腰部は斜方向のハケ目	口縫部は斜方向のハケ目、腰部は斜方向のハケ目	にぶい 橙	にぶい 橙	4mm以下の灰・褐色石粒・水褐色石粒・3mm以下の透明白色石粒を含む	
1080	甕	口縁部～肩部	F	包含層	19.7			口縫部は斜方向・腰部は斜方向のハケ目	口縫部は斜方向・腰部は斜方向のハケ目	橙	橙	2mm程の褐・白色石粒を含む	
1081	甕	口縁部～肩部	F	包含層	18.7			口縫部は斜方向・腰部は斜方向のハケ目	腰部は斜方向の工具ナメ	橙	橙	2~3mmの灰・灰・褐色石粒を含む	
1082	甕	口縁部～底部	F	包含層	19.9	5.5	23.1	ナメ、腰部は横方向のハケ目	腰部は横方向のハケ目、ナメ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の褐色石粒を含む	
1083	甕	口縁部～底部	F	包含層	21.3			腰部は横方向のハケ目、直立、腰部は横方向のハケ目	腰部は横方向のハケ目、直立、腰部は横方向のハケ目	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	4mm以下の灰・赤褐色石粒を含む	
1084	甕	口縁部～肩部	F	包含層	20.4			口縫部はナメ、腰部は横方向のハケ目	腰部は横方向のハケ目、直立、腰部は横方向のハケ目	橙	灰黄褐	4mm以下の灰・灰・褐色石粒を含む	
1085	甕	口縁部～肩部	F	包含層	21.0			口縫部はナメ、腰部は横方向のハケ目	腰部は横方向のハケ目、直立、腰部は横方向のハケ目	橙	橙	3mm以下の灰・白・透明玻璃を含む	
1086	甕	口縁部～肩部	F	包含層				口縫部から出張り、腰部は横方向のナメ、工具ナメの後、腰部は横方向のナメ	腰部は横方向のナメ、工具ナメの後、腰部は横方向のナメ	にぶい 橙	にぶい 橙	2~3mmの灰・白・褐色石粒を含む	
1087	壺	口縁部	F	包含層				横方向のナメ、腰部は半片蓋板と腰部は横方向のナメ	横方向のナメ、腰部は半片蓋板と腰部は横方向のナメ	橙	にぶい 黄橙	1mm程の灰褐色石粒を含む	
1088	甕	肩部	F	包含層				風化著しく側面不規則、腹行け付近はおぞらくナメ	腰部は横方向のナメ	橙	橙	3mm以下の赤褐色石粒を含む	
1089	小型甕	口縁部～底部	F	包含層	11.9	2.4	16.5	風化著しく側面不規則、腹行け付近はおぞらくナメ	腰部は横方向のナメ	橙	橙	4mm以下の灰・灰・褐色石粒を含む	

第34表 下那珂遺跡出土土器観察表 (23)

番号	種別	器種部位	出土土区	出土地点	法量(cm)		手法・運転・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	高さ	外側	内側	外側	内側		
1090	壺	底部(脚部)	F	包含層		9.6		横方向の平行クサビ 指ナデ。ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の赤・黒色。 1mm以下は墨・灰色を含む		
1091	壺	脚部～底部	F	包含層		7.4		横方向の平行クサビ 指ナデ。ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の赤・黒・墨色。 1mm以下は墨・灰色を含む		
1092	壺	脚部～底部	F	包含層		5.3		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の赤・黒色。 石粉を含む		
1093	壺	口縁部～ 底部	F	包含層	13.2	5.9	32.9	1)縁部は横方向の ハケ目。側面は不規 則な平行クサビ。 2)底部は墨色。	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む		
1094	壺	口縁部	F	包含層		23.0		横方向の平行クサビ 指ナデ。ナデ	橙	橙	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む		
1095	壺	口縁部	F	包含層		13.0		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	橙	橙	1mm以下の赤・黒・ 灰色を含む		
1096	壺	口縁部	F	包含層				横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	にぶい 橙	にぶい 橙	1mm以下の赤色を含む		
1097	壺	口縁部	F	包含層				横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	1mm以下の墨・灰色を含む		
1098	壺	口縁部	F	包含層		9.2		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	にぶい 橙	にぶい 橙	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む		
1099	壺	口縁部	F	包含層		9.0		上半は横方向のハ ケ目。下半は斜方 向の平行クサビ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む		
1100	壺	脚部	F	包含層				横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	根ナデ。上部によ る横方向のナデ	根ナデ	灰黄根	1mm以下の赤・黒・ 灰色を含む	
1101	壺	脚部	F	包含層				横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	根ナデ	根ナデ	赤根	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む	
1102	壺	脚部～底 部	F	包含層		4.4		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	根ナデ。ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 根	3mm以下の赤色を含む	
1103	壺	脚部～底 部	F	包含層		3.6		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	根ナデ。横方向の ナデ。底面は指ナ デ	根ナデ	にぶい 黄橙	3mm以下の赤・黒色 1mm以下の赤色を含む	
1104	壺	脚部	F	包含層		3.0		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	根ナデ。指ナデ	根ナデ	にぶい 黄根	2-3mmの墨・赤・ 灰色を含む	
1105	高坏	口縁部～ 脚部	F	包含層	33.4	16.7		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は横方向のハ ケ目。下半は斜方 向のナデ。下部は斜方 向のハケ目	にぶい 黄根	にぶい 黄根	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む	
1106	高坏	坏部	F	包含層		29.5		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は横方向のハ ケ目。下部は斜方 向のナデ。下部は斜方 向のハケ目	根ナデ	根	3mm以下の灰白色 を含む	
1107	高坏	坏部	F	包含層		29.7		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は横方向のハ ケ目。下部は斜方 向のナデ。下部は斜方 向のハケ目	にぶい 根	にぶい 根	3mm以下の赤褐色 を含む	
1108	高坏	坏部～脚 部	F	包含層	20.3	13.4		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は横方向のハ ケ目。下部は斜方 向のナデ。下部は斜方 向のハケ目	にぶい 根	にぶい 根	3mm以下の赤褐色。 1mm以下の墨色を含む	
1109	高坏	坏部	F	包含層		29.2		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は斜方方向の ハケ目。下部は斜方 向のナデ	根ナデ	根	1mm以下の赤褐色 を含む	
1110	高坏	坏部	F	包含層				横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は斜方方向の ハケ目。下部は斜方 向のナデ	にぶい 黄根	浅黄根	3mm以下の赤・黒色。 石粉を含む	
1111	高坏	坏部～脚 部	F	包含層	20.3	13.4		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は斜方方向の ハケ目。下部は斜方 向のナデ	にぶい 根	根	3mm以下の赤褐色。 1mm以下の墨色を含む	
1112	高坏	坏部～脚 部	F	包含層		12.5		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は斜方方向の ハケ目。下部は斜方 向のナデ	根ナデ	浅黄根	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む	
1113	高坏	脚部	F	包含層		13.2		横化して、側面不 規則な形状。横方向の 平行クサビ	上半は斜方方向の ハケ目。下部は斜方 向のナデ	根ナデ	根	3mm以下の赤・黒・ 灰色を含む	

第35表 下那珂遺跡出土土器観察表(24)

番号	種別	器種部	山上区	出土地点	計量(cm)		手法・箇所・文様ほか		色調		山上の特徴	備考		
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
1114	高坏	脚部	F	包含層				黒褐色の土台ナデ とナダ	ナダ、腹部は東方向 のハケ日	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の褐色斑を 含む		
1115	高坏	坏部～脚部	F	包含層		20.7		所では放射状のハケ 日、脚部は東方向の ハケ日、内側は少し あり	所では放射状のハケ 日、脚部は東方向の ナダ、腹部は東方向 のナダ	根	にぶい 根	2mm以下の褐-灰色 斑を含む		
1116	高坏	脚部	F	包含層				黒褐色の土台ナデ とナダ	ナダ、腹ナダ	根	根	1~2mmの褐-灰色 斑を含む		
1117	高坏	脚部	F	包含層				黒化粧ないが、一部 脚部のナダ部分 が黒化粧	黒化粧ないが、おそ らくナダ	根	根	1mmの黒色、3mm以 下の褐色斑を含む		
1118	鉢	口縁部～ 底部付近	F	包含層	23.4			黒化粧して脚部外 側	上部は黒くハケ日 下部は黒化粧し く下部	にぶい 根	にぶい 黄根	2mm以下の褐-灰色 斑を含む		
1119	鉢	口縁部～ 底部	F	包含層	18.3	4.1	8.6	不定方向で高ナダ の後にナダ	不定方向で高ナダ の後にナダ	にぶい 根	にぶい 根	4mm以下の灰-青綠 色斑を含む		
1120	鉢	口縁部～ 底部	F	包含層	9.0	2.9	8.9	口縁部は東方向の ナダ、脚部は放射 状のハケ日、底部 付近は脚ナダ	口縁部付近は脚 ナダ、足部は東方 の工芸ナダ	にぶい 根	にぶい 黄根	2mm以下の灰-白 色斑を含む		
1121	鉢	口縁部～ 底部	F	包含層	9.4	4.6	8.8	脚部は放射方向 のナダ、脚部は 放射状のハケ日、底 部付近は脚ナダ	口縁部付近は脚 ナダ、足部は東方 の工芸ナダ	にぶい 根	にぶい 黄根	1mm以下の灰-青綠 色斑を含む		
1122	鉢	口縁部～ 底部	F	包含層	10.9	6.5	10.3	ナダ	底が薄しく脚部不 規則	根	根	2mm以下の灰-白色 斑を含む		
1123	鉢	口縁部～ 底部	F	包含層	11.6	4.1	10.7	ナダ、底部付近は脚 部と脚方向のハケ 日	脚と脚方向のハケ 日	根	根	2mm以下の灰-白 色、1mmの透明光 沢斑を含む		
1124	鉢	口縁部付 近～底部	F	包含層		5.2		黒化粧なく脚部不 規則で脚方向の T字ナダが 残る	黒化粧なく脚部不 規則で脚方向の T字ナダが 残る	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の灰-青 色斑を含む		
1125	鉢	口縁部付 近～底部	F	包含層		3.4		黒褐色ナダ、底部 付近は脚ナダ	不定方向とT字ナ ダの後にナダ、一部脚 ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	1mm以下の灰-白 色斑を含む		
1126	小型鉢	口縁部～ 底部	F	包含層	9.6	3.1	5.3	黒化粧なく脚部不 規則、おもなナダ	黒化粧なく脚部不 規則、おもなナダ	根	根	2mm以下の赤-青 色斑を含む		
1127	小型鉢	脚部～底 部	F	包含層			3.0	ナダ、斜方向の工芸 ナダ	ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	4mm以下の灰-白 色斑を含む		
1128	小型鉢	脚部～底 部	F	包含層		2.2		ナダ、底部付近は脚 ナダ、一部脚ナダ	ナダ、一部脚ナダ	根	根	4mm以下の灰-白 色斑を含む		
1129	小型鉢	口縁部～ 底部	F	包含層		2.5	4.9	不定方向にT字ナ ダの後にナダ	不定方向にT字ナ ダの後にナダ	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の灰-青 色斑を含む		
1130	手捏土 器	口縁部～ 底部	F	包含層		4.4		脚ナダ	脚ナダ	根	根	3mm以下の灰-青 色斑を含む		
1131	手捏土 器	脚部～底 部	F	包含層		1.9		ナダ	脚ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の灰-青 色斑を含む		
1132	小型鉢	口縁部～ 底部	F	包含層		9.7		6.7	脚ナダ、ナダ ナダ、口縁部付近は 脚ナダ	ナダ、口縁部付近は 脚ナダ	にぶい 黄根	にぶい 黄根	2mm以下の灰-白 色斑を含む	
1133	小型鉢	口縁部～ 底部付近	F	包含層		7.9		黒褐色のT字ナダ の後にナダ、底部付 近は脚ナダ	ナダ、脚部ナダ	根	根	2mm以下の灰-白 色斑を含む		
1134	手捏土 器	口縁部～ 底部	F	包含層		3.5	5.7	黒褐色のハケ日	口縁部はナダ、ナ ダ	にぶい 根	にぶい 根	1mm以下の無色透明 灰白色斑を含む		
1135	手捏土 器	脚部～底 部	F	包含層				ナダ	脚ナダ	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の赤-青 色斑を含む		
1136	手捏土 器	口縁部～ 底部	F	包含層		1.2	3.1	ナダ	脚ナダ	根	根	2mm以上の灰-青 色斑を含む		
1137	小型鉢	脚部～底 部	F	包含層		2.4		ナダ、脚ナダ	脚ナダ	にぶい 根	にぶい 根	2mm以下の赤-青 色斑を含む		
1138	小型鉢	底部	F	包含層		2.5		ナダ、朱茎	ナダ、朱茎	黒根	にぶい 根	1mm以下の赤-青 色斑を含む		
1139	杓子状 土器	柄部	F	包含層		1.9		脚部は放射方向のハ ケ日、底部はナダ	工芸ナダの後にナ ダ	にぶい 根	にぶい 黄根	1~3mmの灰-褐色斑 を含む		
1140	杓子状 土器	柄部	F	包含層				ナダ		根	にぶい 黄根			

第36表 下那珂遺跡出土土器観察表 (25)

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量 (cm)		手法・漆面・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1163	甕	口縁部	A	SA18	21.0		白磁園は横方向のナデ、網目は縱方向のハケ。網目は縱方向に斜めの運びあり。	斜方内の工具ナデ	にぶい 黄緑	にぶい 黄緑	Gau11下の胎焼。胎 焼・網目・垂れ毛を含む		
1164	甕	口縁部	A	SA18	17.5		口縁園は横方向のナデ、網目は縱方向のハケ。網目は縱方向に斜めの運びあり。		根	根	Gau11下の胎焼。胎 焼・根台・灰褐色 透明感を含む		
1165	甕	口縁部～ 肩部	A	SA18	19.1		横方向の1半分ナ デ	ナデ	根	根	Gau11下の胎焼。 胎焼を含む		
1166	鉢	口縁部～ 底部	A	SA18	15.9	4.8	10.1	口縁園は横方向の ナデ、網目は縱方向の ナデ、網目は縱方向 の上毛ナデ	明黄緑	明黄緑	Gau11下の胎焼。胎 焼・根台・灰褐色 透明感を含む		
1167	壺	口縁部～ 肩部	A	SA18	10.2		横方向のガタ ナデ		根	根	Gau11下の胎焼・灰 褐色透明感を含む		
1168	壺	口縁部	A	SA18			口縁園は横方向の ナデ、網目は縱方向の ハケ。網目は縱方向 の上毛ナデ	にぶい 黄緑	根	根	Gau11の裏内壁を含 む		
1169	高坏	口縁部	A	SA18			横方向のナデ	墨少し人がおら く機械的ナデ	根	根	1～2mmの褐色斑 を含む		
1170	壺	肩部	A	SA18			横方向の上毛ナデ、 網目は縱方向のナデ	ハケ	黄緑	にぶい 黄	Gau11下の胚・内底、 乳白・褐色斑を含む		
1171	手捏土 器	口縁部～ 底部	A	SA18	7.6	5.0	2.6	手捏ナデ	根ナデ	根	Gau11下の胚・内底、 乳白・褐色斑を含む		
1172	小型壺	口縁部～ 底部	A	SA18	3.6	4.5	10.4	口縁部へ網目ナデ、 網目はナデとハケ、 網目はナデとナデ	口縁部はナデ、網 目はナデとハケ、 網目はナデ	根	根	Gau11下の胚・内底、 褐色斑を含む	

第37表 下那珂遺跡出土土器観察表 (26)

第III章 まとめ

調査では、旧石器時代～弥生時代にかけて多くの遺構・遺物が出土した。各遺構・遺物についてはすでに述べたが、ここでは特徴的な遺構・遺物を抽出し、得られた調査成果や残された課題について若干の整理をすることでまとめとしたい。

1. 出土遺構について

(1) 壓穴住居跡

下那珂遺跡は標高45mの石崎川左岸の丘陵上にあり、周辺の低地面との比高差は約35mである。北方は眼前に佐上原丘陵（90m）が控え眺望はきかない。しかし、南方は日向灘と宮崎平野が広がり、遠くは5km先が見通せる程広い眺望視野をもつ。

下那珂遺跡では多少疑いのあるものも含めて120軒検出された。全てが完全な形で検出された訳ではなく、部分的な検出がほとんどであった。部分的な検出とは、壓穴住居跡のほとんどが傾斜面に立地しており、傾斜上面だけ掘削の痕跡を残し、傾斜下面は流出している状況である。これは傾斜上面を掘削造成し、傾斜下面に造成土を盛って床面を作出した構築方法の結果と考えられる。検出状況はながら傾斜面に築かれた団地を思わせるものであり、宮崎県下において、そうした丘陵上斜面に階段状で築かれる例は確認されていない。視点を拡げてみると、時期や構造、規模などに若干の差違があるが、岡山県山陽町の用木山遺跡（文献①）・大阪府高槻市古曾部・芝谷遺跡（文献②）などの高地性集落に類似例が確認される。

完全な形態を残す数軒を除いて、部分的な検出状況から判断して平面形態を推測しているが、120軒の内、復元想定も不可能な8軒を除き、6軒（S A25・26・56・98・100・117）が楕円形・円形基調（5%）で、残り106軒（95%）は方形・長方形基調だと考えられる。また、方形基調のうち6軒（S A1・2・5・47・59・67）は、一部1～2m×0.5～1mの長方形が入り込む不整形を呈する。本遺跡の壓穴住居跡群は平面形態が方形主体の住居跡群と言える。周辺地域の該期の壓穴住居跡の特徴の一つとして、方形または円形の平面形態に突出壁による間仕切りをもつ「花弁状間仕切り住居」の存在が挙げられる。本遺跡の立地する場所は、この「花弁状間仕切り住居」の分布域にあるといえる。しかしながら、本遺跡では、こうした住居タイプに類するような間仕切りの突出壁をもつ住居跡は検出されなかつた。本遺跡周辺の石崎川流域付近、現在の行政区域でいう佐上原町・宮崎市北部では、現在のところ「花弁状間仕切り住居」の確認例が無い空白地域である。本遺跡においても確認されず、この空白例が増加することとなった。

住居の規模は復元推定も含め、およそ一辺2.5m～5m・床面積は7～25m²を測るものが多い。平均すると一辺約3.5m・面積約12.5m²となり、比較的小型のものが多い。一辺が最大の住居跡はS A41の一辺5.7mであり、その他一辺5m超の住居跡はS A5（一辺：5.2m）・S A21（一辺：5.0m）・S A91（一辺：5.5m）と大型の住居跡が少ない。周辺の同時期遺跡をみると、やはり3～5m級のものが主流となる傾向がある。下那珂遺跡もこうした傾向に沿うものであるが、2.5～3mの小型が多いことと、5m以上の大型住居が少ないことが特徴として挙げられる。

構造的な特徴の一つとして、柱穴のない住居跡が多いことが挙げられる。住居跡床面は基本層序の第

V層（黄褐色土層）に掘り込んでおり、検出状況は黄褐色となる。これに対して埋土は基本層序の第IV層（暗褐色土）であり、埋土と遺構面の土色のコントラストは強く、ピットなどの掘り込みの検出は比較的容易に行える。そうした状況下で柱穴が確認出来なかつたということは、「見つけられなかつた」というよりは「無かつた」と考えられる。住居跡周辺にも柱穴らしきピットは確認できなかつた。柱穴が無かつたと考えると、どのような上屋構造であったかが問題となる。遺跡の立地する緩斜面は、南方が開けており、調査時でも南からの強風に煽られるほどの場所である。海岸付近の強風に晒される場所で柱を埋めず上屋を維持することは困難であり、一体どのような構造であったか疑問が残る。

（2）土坑

土坑は、遺跡から30基検出された。性格については不明なものが多いが、SC15は土坑内に甕が据えられた形で検出され貯蔵土坑の可能性が、SC23は色違いの高杯が検出され墓の可能性を含んだ祭祀土坑の可能性がある。高地性集落内で多く確認されるような炭化物や焼土を含む焼土坑は、本遺跡で確認されなかつた。また、時期については、遺構の土層断面図などから、多くが竪穴住居跡と併行、もしくは廃絶後に掘削されたと考えられる。

2. 出土土器について

（1）遺構・包含層出土土器

弥生土器は、本遺跡出土物の大部分を占め、コンテナ数400箱を超える出土量となった。整理の都合上、全ての土器を整理し、個体数の把握等を行う事が出来なかつたが、約720点以上の図化を行つた。内訳は、甕202点（約28%）・壺215点（約30%）・高杯90点（約12%）・鉢81点（約11%）・器台28点（約4%）・その他約15%である。作図のため、ある程度作為的に抽出したものであり、甕が若干低い比率となっていると考えられるが、本遺跡の器種構成は概ねこの比率に近いと推察される。

下那珂遺跡の弥生土器については、『下那珂貝塚』（文献③）においてI～IV期の編年が提示されている（以後「下那珂編年」と呼称する）。今回の調査はその編年から大きく外れることのない結果であつた。石川悦雄氏が行っている宮崎平野の弥生土器編年において（文献④）、大方V期（弥生時代後期後半）を中心とするIV～VI期の弥生時代後期中葉～終末期に入るものと考えられる。以下、器種別に概観を行う。甕…本遺跡分類の甕I～III類の大きさく3つにグレーピングできる。

甕I類は下那珂編年のI～II期に多い形態である。口唇部は端部が角張った凹面状（口唇部形態A類）か平面状（口唇部形態B類）で、口縁部は短く明瞭に「く」字状に屈曲する（口縁部形態A類）。胴部最大は球胴形で、胴部最大径は上位（胴部形態A類）または中位（胴部形態B類）にあり、口縁部径が最大的ものが多い。底部は口縁部から連続して確認された例がないので明確には言えないが、類例の新富町銀代ヶ迫遺跡（文献⑤）のものなどを参考にすると、平底やわずかな上底と推察できる。器面調整は口縁部・胴部ともに細かいハケ目を施している。口径は小さく、16～20cm前後が多い。B・D・F区出土（690・841・1079）もあるが、A区竪穴住居跡出土（508・538・565・569・593・633・644・645）が多い。

甕II類は下那珂編年のII～III期に多い形態である。ヴァリエイションがあり、さらに細分できる余地が大きくある。口唇部はやや平坦状であるが（口唇部形態B類）、丸みを帯びているものが多い。口縁

部は、I類に比べて長く、頸部で緩やかに屈曲する（口縁部形態B類）。上方にある胸部最大径は口縁部径とほぼ等しく、胸部は底部にかけて急激に窄む（胸部形態C類）ものが多い。底部は指ナデによって張り出しをもつ上底（底部形態B類）が多い。器面調整は縦方向のハケ日が主流であるが、一部丁具ナデ・ハケ目原体条痕ナデを施すものもある。A区出土（370・371・452・460・507・515），B区出土（688・689・700・755・756・757），D区出土（838・839・874・875・921・931・935・939），F区出土（1058・1071・1072・1080・1081）と全区から出土している。

壺III類は下那珂編年のIV期もしくはそれ以降に多い形態である。壺口唇部は尖舌状をなし（口脣部形態C類），口縁部は薄く長く延び、頭部には明瞭な屈曲点はない（口縁部形態C類）。口径はI・II類に比して大きく、20~25cmのものがほとんどであり、平均口径22.5cmと定型化の傾向がある。胸部は上方に最大径をもち（胸部形態C類），平行タタキもしくはナデ+工具ナデ・ハケ目原体条痕を施す。底部形態は丸底に近い形態で、張り出しのない平底（底部形態E類）である。器形のわかるものはB・D・F区の土坑（919~921：S C25・1063：S C26・1072・1075：S C30）及び竪穴住居跡（704：S A98・714・715・718：S A101），包含層からの出土が多い。下那珂貝塚調査時には確認されなかった形態であり、高鍋町大戸ノロ第2遺跡（文献⑥）などで確認されている。宮崎平野部の弥生時代後期～古墳時代中期の編年作業を行っている松永幸寿氏はこのタタキをもつ型式を從来の下那珂遺跡編年に後続するものとして扱っている（文献⑦）。大まかな編年観は壺I類→壺II類→壺III類の流れになると考えられる。

壺…I類（複合口縁壺）・II・III・IV類（単口縁壺類）・V類（長頸壺）・VI類（単頸壺）とヴァリエイションに富んだ内容であり、細かな型式粗列を導き出すことは困難である。しかしながら、共伴する壺や高坏から考えると、不明瞭ではあるが変化が看取できる。全般的な傾向として、①底部：平底→レンズ状、②内面器面調整：指ナデ・もしくは指ナデ+工具ナデ→ハケ目、の2点が挙げられる。また、個別の特徴もいくつかある。I類（複合口縁壺）は二次口縁部が内傾し先縫りするものから、直立気味の端部平面状のものへと変化する。口縁部全体も大きく外側に開くものから、上方には延びるが大きく開かないものへと変化する。長形胸部（胸部形態A類）をもつII・III・IV類（単口縁壺）は、最大径が上位から中位へと、頭部はしまったものから緩やかなものへと変化する。

高坏…本遺跡分類のII類とIII類が主流を占める。特にII類が多く、明瞭な屈曲をもつ坏部と厚く外反しながら立ち上がる口縁部をもつタイプ（II A類…343・367・381・434・490・521・638・768・1106・1107）とB類とC類の中間形態である屈曲をもつ坏部と薄く延びた口縁部をもつタイプ（II B類…563・653・678・723・896・1018・1105・1108）に細分される。これを出土区で考えた場合、A区にII A類が、B・D・F区にII B類とIII類が多い傾向がある。坏部の口縁部から脚部までが連続して残存しているのは455・723~725（同一個体）・1105の3点である。455と1105は脚部内湾形の脚部形態C類に坏部形態C類のIII類であり、723~725はII B類である。455と723~725は竪穴住居跡絶後の土坑出土である。II B類・III類は、高鍋町大戸ノロ第2遺跡（文献⑥）S A13出土などと類似しており、I類・II A類に比べて相対的に若干時期が下ると推察される。

（2）瀬戸内・畿内系土器

宮崎平野部では、弥生時代中期後半から後期後半にかけての壺・器台口唇部の凹線文や高坏脚部の矢羽根透かしに代表される瀬戸内系土器と弥生時代後期～終末期の壺胸部のタタキ技法に代表される畿内

系土器の伝播例が確認されてきた（文献⑧）。

回線文は、弥生時代後期後半にかけて分布の中心である瀬戸内地方において衰退していく文様であるが、下那珂遺跡では多く確認された。ただし、施文場所に若干の多様性があり、（A）器台や壺の口縁部を扁曲させて厚手の二次的な口縁部に回線を施すもの（480・493・1008・1096・1097）・（B）壺や器台の拡張した口唇部に回線を施すもの（395・494・541・576・815・829・882・883・990）・（C）器台や高壺の裾部を拡張して回線を施すもの（426・435・567）・（D）器台の柱部に器面調整の後に10条前後の回線を施すもの（346・442・680・849）に分類できる。さらにも回線の種類もいくつかあり、粗雑な回線も多く、搬入品と見るよりも模倣品と見られる方が妥当なものもある。また、D類の器台の柱部に回線を施すタイプは、宮崎県下において宮崎市壺遺跡（文献⑨）や宮崎市下郷遺跡（文献⑩）などで確認されており、瀬戸内地方でも旧国（備前）や讃岐といった備讃瀬戸地方に類例が求められる。

タタキ技法は前項出土上器の壺の項で述べたとおり、本遺跡分類の壺III類のほとんどの器面調整に見られ、壺に限らず壺の器面調整にもタタキを施している例（469・710・741・912・924）が確認される。壺III類は、本遺跡出土の壺の中でも比較的後出の型式と考えられ、量的にも多く、土流の一型式と言つても過言ではない。器形の違いなどから畿内からの直接的な搬入品とは考えられないが、畿内的な技法の伝播が行われ、それが本遺跡をはじめとする該期遺跡で連続と続く在地的な土器型式の器面調整に採用されることによって成立したと考えられる。これは宮崎平野部において「畿内系土器が在地に対する浸透・拡大指向をもっている（文献⑧）」ことを示す一例となるのではないかろうか。

（3）絵画文・記号文土器

下那珂遺跡が弥生時代の遺跡として周知された理由の一つとして、『飛鳥（もしくは抽象化した竜）』線刻の壺の存在が挙げられる（文献⑪）。さらに、後の工事時において水生昆虫と考えられる線刻画が描かれた壺形土器が発見されている（文献⑫）。今回の調査では、これら2例のような完形に近い土器に描かれた明確な絵画文は確認されなかったが、線刻が描かれた土器片が数多く出土した。

S A43出土の365は壺の肩片であるが、上方に向けて2本の線刻が確認される。S A21出土の375は壺の肩部に「〇」のような記号状の線刻が施されている。F区包含層出土の1101は、壺の胴部片だと考えられ、斜方向のハケ目の上から「×」のような記号状の線刻が施されている。B区包含層出土の752は鉢の底部であり、脚台状の底部全周に線刻の幾何学文を施している。S A18出土の1170は壺の胴部であるが、斜方向の工具ナデの上から線刻を施している。複雑に入り組んだ形状であり、記号文ではないと考えられるが、何を意図しているのか不明である。S A2出土の433は壺の胴部と考えられ、2連の鱗状線刻が確認される。この鱗状線刻は、前例のように鳥の翼や鶴冠などの一部とも考えられるが、崩れた竜の鱗状の突起とも考えられる。また、固化は行っていないが、A区包含層から壺の胴部片に描かれた絵画文がある（写真図版43-③）。これは細片状態で出土したものと接合したものであって、接合面が摩耗しており全体の把握が困難であるが、器面一面に細線による絵画的な線刻が確認できる。絵画のモチーフはわからないが、蛇状のものが確認され、竜を描いたものだと推察される。

絵画文・記号文は弥生時代後期に主に西日本で盛行し終末期になると消滅するものと考えられている。記号文・絵画文は宮崎県下において、宮崎平野部を中心に多くの遺跡で確認されている（文献⑧・⑪）。また、佐原真氏（文献⑬）や春成秀爾氏（文献⑭）は、具象的な絵画文から抽象的な記号文への変遷を

想定している。今回の調査では絵画文と記号文の両方が確認された。下那珂遺跡が営まれた弥生時代後期から終末期は、まさに絵画から記号へと移行、そして消滅していく時代であり、今後研究をすすめる上で貴重な資料となりそうである。

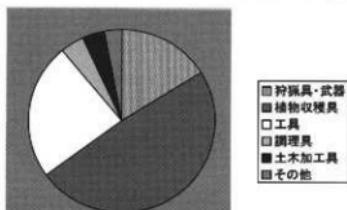
3. 出土石器について

(1) 石器組成

下那珂遺跡で出土した石器は出来る限りピックアップして図化に努めた。問題は、包含層出土のものが多く、旧石器時代や縄文時代に帰属する遺物と弥生時代に帰属する遺物が混同していることである。出土した石器のうち、弥生時代石器の可能性があるものは、他時代の可能性があるものや破片も含めて、合計368点であり、内訳は磨製石鎌60点・石泡丁149点・砥石87点・削器6点・蛤形剥片石器31点・礫器4点・磨製石斧5点・打製石斧12点・敲石8点・凹石3点・磨石2点・石皿1点である。

これを機能別に分類すると、①武器・狩猟具（磨製石鎌）、②植物収穫具（石泡丁・蛤形剥片石器）、③工具（砥石）、④調理具（敲石・凹石・磨石・石皿）、⑤土木加工具（磨製石斧・打製石斧）、⑥その他（礫器・削器）に大きく分けることができる。この機能別分類を百分率で示すと、①狩猟具・武器（16%）、②植物収穫具（49%）、③工具（24%）、④調理具（4%）、⑤土木加工具（4%）、⑥その他（3%）となる（右図）。

本遺跡で突出しているのは石泡丁を中心とする植物性収穫具であり、全体の約半分を占める。植物性食物にある



下那珂遺跡の石器組成図

程度依存していた集団であることは理解できるが、比して他の生活に不可欠な道具類が若干少ないことは疑問が残る。

(2) 石泡丁

本遺跡において、注目すべき遺物のひとつに149点出土（破片も含む）の石泡丁が挙げられる。今現在、宮崎県下において一遺跡出土数としては群を抜く量の多さである。

本遺跡出土の石泡丁は、打製（本遺跡分類の第V類）の8点を除き、全体の約95%の141点が磨製または刃部磨製である。大きく分類して、紐掛け用だと考えられる穿孔を2箇所にあける本遺跡分類のI類「穿孔型」と、穿孔をもたずに紐掛け用の両端抉りを短軸にもつ本遺跡分類のII類「抉入型」に分けられる。両タイプの割合は、形態のわかる138例中、「穿孔型」が24例（約17%）、「抉入型」が114例（約83%）である。「打製」「磨製」の調整方法と「穿孔型」「抉入型」の平面形態を併せて考えると、106例、全体の約77%と圧倒的に「磨製抉入型」が多く、本遺跡出土石泡丁の特徴と言える。「磨製抉入型（本遺跡分類のII類）」は、宮崎県下において多く出土例があり、都農町新別府下原遺跡（文献⑯）・川南町上ノ原遺跡（文献⑰）・高鍋町大戸ノロ第2遺跡（文献⑮）・高鍋町牛牧遺跡（文献⑯）・宮崎市下郷遺跡（文献⑰）・宮崎市熊野原遺跡C地区（文献⑯）など、宮崎平野部周辺の弥生時代後期から終末期にかけての遺跡で多く確認されている。

「抉入型」石泡丁は、弥生時代を通して全国的に信州地方・瀬戸内地方、そして宮崎平野部周辺で確

認されている。宮崎平野部周辺は、この特徴的な分布域を形成する一翼を担っており、本遺跡もまたその一端を担っている。宮崎平野部周辺に「抉入型」が多く確認される理由としては、凹線文土器や矢羽根透かしをもつ高坏などの土器の流入と同じく瀬戸内地方からの流入が考えられている（文献⑩）。瀬戸内地方では、弥生時代前期から後期にかけて、主石材がサヌカイト製の打製タイプが主流である。本遺跡出土の石庖丁は、弥生時代後期から終末期にかけて、主石材が頁岩での抉りをもつ磨製タイプが主流である。瀬戸内と比べて、抉りをもつという点では共通しているものの、時期の違い・磨製と打製の違い・石材の違いなど、多くの相違点が挙げられる。こうした相違点が観れる理由としては、池畠耕一氏が指摘（文献⑪）するように、瀬戸内から流入した石庖丁型式が、宮崎という遠隔地において流布する間に独自の形態へと変化していったため、もしくは流入した時点で変化していたためだと考えられる。現に下那珂遺跡で石庖丁を用いられていたと考えられる弥生時代後期から終末期は、瀬戸内の石庖丁が廃れつつある時期である。更に、磨製に適している石材（頁岩）を打製に適した形態（抉入型）を用いることは、本来の型式を失いつつある証拠であろう。

石庖丁の用途は、一般的に収穫具とされている。多数の堅穴住居と多量の石庖丁が出土したということは、ある程度の規模をもった農業生産活動が営まれていたことが想定される。その農業生産活動場所がどこであったかという問題が出てくる。下那珂遺跡は堅穴住居跡群の中央部が削平され空白地帯となつており可能性もあるが、丘陵頂部のために生産場所として考えにくい。やはり、南方に開ける石崎川周辺の平野部に生産場所を求めるのが妥当であろう。他地域に見られる高地性集落のように、平野部の生産区域と丘陵部の居住区域の住み分けが行われていた可能性が考えられる。

（3）砥石

砥石は破片も含めて87点出土した。本遺跡では大きくⅠ類：定形砥石・Ⅱ類：不定形砥石・Ⅲ類：自然礫砥石と3類に分類した。

注目すべきはⅠ類「定形砥石」の存在である。完形は少なく不明な点が多いが、定形化されたものはいくつかのパターンがあり、①長さ10～15cm・幅と厚さ1～2cmの「柱状砥石」（本遺跡分類ⅠA類）、②長さ5～15cm・幅3～4cm・厚さ1cm前後の「板状砥石」（本遺跡分類ⅠB類）などがある。どちらも平面形態は似ているが厚さが異なる。さらに砥面形態は、柱状砥石が平面状か凹面状、板状砥石が平面状になっている。研磨痕はいずれも光沢状のc種研磨痕と擦傷状のb種研磨痕が主流である。砥面形態と研磨痕を併せて考えると、砥石を固定し、加工対象物を主に往復運動することによって作業をしていたと推察される。砥面形態が異なるのは、研磨作業の頻度が大きく左右するものではあるが、研磨作業工程の相違もあると考えられる。平面状砥面は、主に平滑面を製作する工程、例えば石庖丁や磨製石鎌の表裏面を製作する工程に用いられた可能性がある。それに対して、凹面状砥面は、主に先端部を製作する工程、例えば石庖丁や磨製石鎌の刃部を製作する工程に用いられた可能性がある。ただし、砥石形態と砥面形態が必ずしも一致しないように、厳密に使い分けていたというわけでなく、使い勝手が傾向として顯れたにすぎないものと考えられる。

また、小型の板状砥石（194・197・202・203・205など）や不定形砥石（本遺跡分類のⅡ類：222・227・228・231・235など）、棒縞状砥石（本遺跡分類のⅢA類：241・247・251・252・254・255など）の砥面には凸面状のものがある。おそらくこれは、砥石を固定して加工対象物を往復運動していたのではなく、

加工対象物を固定し、砥石を往復運動することによって作業していたと考えられる。

砥石が石庖丁や磨製石鎌などと同じく定形化されているということは、作業上偶発的に使用されるのではなく、生活の一部に砥石が存在する必然性があることを示す。生活の一部とは、加工対象物の製作場面なのか、加工対象物の研ぎ直しなどのメンテナンス的行為の場面なのか、はたまた別の場面に必要なのかは不明である。半ば必要不可欠な流通製品として成立していた可能性もある。利用する際に便利な形状への追求の結果が定形化に繋がった可能性もある。

弥生時代、砥石は鐵器や石器を研ぐ道具であったと推定されている。砥面形態や研磨面などから、本遺跡では磨製石器が加工対象物の一つであると捉えている。実際、豊穴住居跡に磨製石器と砥石がセットで伴う遺跡がいくつかあり、下那珂遺跡ではSA2・21・22・28・93・95・104・114・116の9軒の出土例がある。そのうちSA116の1軒だけが磨製石鎌との共伴であり、残り8軒は石庖丁との共伴である。宮崎県下に目を広げると、東郷町樋田遺跡SA10（磨製石鎌）（文献⑫）・都農町新別府下原遺跡SA1（磨製石庖丁）（文献⑬）・川南町中ノ迫A遺跡SA1（磨製石庖丁）（文献⑭）・高鍋町牛牧遺跡SA1（磨製石庖丁・磨製石斧）（文献⑮）・新富町八幡上遺跡SA2（磨製石鎌・磨製石斧）（文献⑯）・都城市丸谷第1遺跡SA1（磨製石庖丁）（文献⑰）など多くの遺跡内遺構で砥石と石器製品との共伴例が確認されている。

磨製石器と砥石の関係を裏付けるような調査例がある一方、明確な線状痕（本遺跡分類：a種研磨痕）が認められる砥石（176・179・194・206・207・208・212など）の存在がある。このa種研磨痕は、石同土の研磨ではおよそ付着するとは考えにくく、砥石よりも硬度が高く鋭利なものを研磨対象とした結果付着したものだと考えられる。そうした対象物は当時の遺物の中では鐵器が挙げられる。本遺跡では5点の鐵鎌と1点の刀子が出土しており、鐵器が対象であったことは大いに考えられる。

4. 出土鳩龍文鏡について

（1）年代について

下那珂遺跡出土の銅鏡片は、前漢鏡の一種、鳩龍文鏡である。前漢鏡の分類及び編年の研究をおこなっている岡村秀典氏によれば（文献⑧・⑨・⑩），鳩龍文鏡は細線動物文鏡の1種であり、漢鏡4期（前漢末～王莽代・紀元前1世紀後葉～1世紀初頭）に比定される。鳩龍文鏡は、中国大陸・朝鮮半島・日本列島から幅広く出土する。日本列島では、東は石川県・千葉県から西は宮崎県まで弥生時代後期～古墳時代の幅広い時代の30例近くの遺跡で確認されている。

鏡を副葬していた96号豊穴住居跡（SA96）の遺構年代は、土器の觀点から弥生時代後期後半～終末期頃に比定され、出土した銅鏡と200年近くの年代差が生じることとなる。こうした年代差は、弥生時代後期頃～古墳時代出土漢鏡と出土した遺構との間によくみられる現象であり、鏡の「伝世」と「踏み返し」の2つの可能性を示唆する。しかし、弥生時代終末期、大分県石井入口遺跡82号豊穴住居跡内から廃棄された状態で出土した小型仿製鏡と前1世紀の慶尚北道漁隱洞遺跡で確認された小型仿製鏡が約200年の年代差をもって「同范」関係にあることが確認された例がある（文献⑪・⑫・⑬）。共伴する遺物の所属年代に差がある2つの銅鏡が「同型」ではなく「同范」関係にあるということは、銅鏡の伝世が行われていた可能性を強く示唆するものである。本遺跡出土鏡は、一概に「伝世」か「踏み返し」のどちらかは断定できないが、石井入口遺跡の例などから考えると、伝世品である可能性が高い。

(2) 破鏡の可能性について

下那珂遺跡山上の鬼龍文鏡は、完形の1/3程度の破片で出土した。遺物記述項(p119)でも記したが、明確な研磨痕跡や穿孔は確認できないが、割面と表面の櫛目文箇所に若干の磨滅が確認でき、「破鏡」の類と考えられる。「破鏡」は弥生後期後半～古墳時代初期頃、主として前漢鏡～後漢鏡の舶載鏡を故意に分割することによってより多くの從属首長層に分配する行為である。出土地域は、北部九州を取り巻く周辺の九州地方で多く散見できるが、神奈川・長野・石川まで及ぶ広い範囲に分布している。出土数は、藤丸詔八郎氏の集成(文献⑥)によれば1991年当時146例確認されており、現在もう少し多いとみられる。宮崎県域の確認例は、新富町銀代ヶ迫遺跡の9号竪穴住居跡(弥生時代後期・文献⑤)・高千穂町神殿遺跡A地区の10号竪穴住居跡(弥生時代終末期・文献⑨)出土、そして今回の下那珂遺跡の9号竪穴住居跡(弥生時代後期～終末期)と少ない。出土状況は、弥生時代後期頃の墓から副葬品として出土する北部九州地域、弥生時代後期～終末期頃の竪穴住居跡から廃棄された伝世宝器として出土する北部九州以外地域の2つに大別できる。下那珂遺跡の例は、後者であり、竪穴住居跡に廃棄された形で出土した。前項で述べた時期の問題と併せて考えると、伝世した破鏡の一種と考えられる。

5. 集落として下那珂遺跡の位置付け

下那珂遺跡において展開された集落は、何度も述べているが弥生時代後期～終末期の遺跡である。今回の発掘調査区域内では環濠らしき痕跡は確認できなかったが、近辺でV字溝が確認されたという記述もある(文献⑩)ことから、外環濠をもつ環濠集落の可能性もある。さらに遺跡は、海岸線を遠くにのぞむ、周辺との比高差約35～40mの丘陵上に立地し、定義の問題もあるが高地性集落の様相をもつ。

こうした集落は、一般的に石器の衰退及び鉄器流通をめぐる社会的緊張を反映させた時代の集落再編を示唆するものと考えられている。本遺跡で確認された集落立地・階段状の集落構造・抉入型石垣丁・絵画文上器・凹線文系上器・タタキ技法をもつ土器・破鏡などは、直接的であれ、間接的であれ、畿内・瀬戸内地方及び北部九州との関連を強く想起させるものである。一方で、集落の盛期と多量の石器を伴う時期が重なるという特有の遺跡構造をも有している。

これらのこと踏まえて総合的に考えると、下那珂遺跡は、畿内・瀬戸内や北部九州を中心とする円の外周にあるという地理的要因もあり、一部の型式やモノそのものの伝播や模倣はあったものの、それら他地域と若干様相が異なる独自の集落を展開していくと考えられる。しかし、下郷遺跡(宮崎市:文献⑪)や石ノ迫第2号遺跡(宮崎市:文献⑫)、塚原遺跡(宮崎市:文献⑬)のように周辺の丘陵上で環濠をもつ遺跡が複数例確認されたことなどから単なる伝播や模倣だけだと考えにくい。程度の差こそあれ、列島弧における社会的緊張や集団再編といった波に連動した社会的変質が宮崎平野部においてもあったことが考えられ、下那珂遺跡もそうした影響下に成立し、展開していった遺跡であるといえよう。

【引用参考文献】

- 文献①：山陽町教育委員会1977『用木山遺跡発掘調査報告』
- 文献②：高根市教育委員会1996「古曾部・芝谷遺跡」『高根市文化財調査報告書第20冊』
- 文献③：宮崎県総合博物館1988「下那珂貝塚」『埋蔵文化財調査研究報告Ⅱ』
- 文献④：石川悦雄1984「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描（Mk. II）」『宮崎考古』第9号
- 文献⑤：新富町教育委員会1992「七又木地区遺跡 八幡上遺跡 七又木遺跡 銀代ヶ迫遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集
- 文献⑥：高鍋町教育委員会1991「大戸ノ口第2遺跡」『高鍋町文化財調査報告書』第5集
- 文献⑦：松永幸寿2001「宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古』第17号
- 文献⑧：石川悦雄1983「日向における外米系の土器の伝播とその地域性(1)－漸戸内・畿内系土器の流入とその展開一」『研究紀要』No.9 宮崎県総合博物館
- 文献⑨：宮崎県総合博物館1983『宮崎県総合博物館収蔵資料目録 考古・歴史資料編』
- 文献⑩：宮崎市教育委員会1999「下郷遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第41集
- 文献⑪：石川恒太郎・栗原文蔵1968「宮崎市外佐土原町下那珂弥生遺跡」『九州考古学』第33・34号
- 文献⑫：田中茂1975「宮崎県下出土の弥生式土器絵画」『宮崎考古』第1号
- 文献⑬：佐原真1980「弥生土器の絵画」『考古学雑誌』第66巻第1号
- 文献⑭：春成秀爾1991「絵画から記号へ－弥生時代における農耕儀礼の盛衰－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集
- 文献⑮：都農町教育委員会1990「新別府下原遺跡」『都農町文化財調査報告書』第3集
- 文献⑯：川南町教育委員会1986「上ノ原遺跡」『川南町文化財調査報告書』第4集
- 文献⑰：宮崎県教育委員会1972「高鍋町牛牧弥生式住居跡調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第16集
- 文献⑱：宮崎県教育委員会1985「浦田遺跡・入料遺跡・堂地西遺跡・平畠遺跡・常地東遺跡・熊原遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集
- 文献⑲：池畠耕一1988「漁戸内系遺物の出土とその背景－1 世紀前半の南九州－」『鎌木義昌先生古稀記念論集 考古学と関連科学』
- 文献⑳：東郷町教育委員会1991「種田遺跡」『県営圃場整備事業（坪谷川地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 文献㉑：宮崎県教育委員会1985「中ノ迫A遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第28集
- 文献㉒：宮崎県教育委員会1979「丸谷第1遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書(3)』
- 文献㉓：岡村秀典 1984「前漢鏡の編年と様式」『史林』67-5号
- 文献㉔：岡村秀典 1997「中国の鏡」『弥生文化の研究』第6巻 雄山閣
- 文献㉕：岡村秀典 1999「三角縁神獸鏡の時代」古川弘文館
- 文献㉖：竹田市教育委員会1992「菅生台地と周辺の遺跡X V」『大分県竹田地区遺跡群発掘調査報告』
- 文献㉗：藤丸詔八郎 1996「鉛同位体比の測定対象となった北九州市近郊から出土した弥生～古墳時代の青銅製造物について」『研究紀要』vol.3 北九州市立考古博物館
- 文献㉘：藤丸詔八郎 1991「高津尾遺跡4」北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
北九州市埋蔵文化財調査報告書第102集
- 文献㉙：宮崎県埋蔵文化財センター 1997「広木野遺跡 神殿遺跡A地区」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第7集
- 文献㉚：宮崎県1989「下那珂遺跡」『宮崎県史』資料編 考古1
- 文献㉛：宮崎市教育委員会1999「石ノ迫第2遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第40集
- 文献㉜：国富町教育委員会1995「塚原遺跡東原A・B・C・D地点」『塚原工業団地開発事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』



下那珂遺跡近景（南方宮崎市街地方向をのぞむ）

写真図版 8



下那珂遺跡全景（A～C地区：一次調査分）



①A区全景



②B区全景